

# 社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町 2-99-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



## 《目 次》

新年互礼会挨拶.....	理事長 前原 勝 樹 (2)
桐生倶楽部新春放談会.....	(3)
フォトサロン.....	(6)
【特集】 歩く会.....	木 島 清 (7)
桐生はファッションタウン・キリウになりうるか.....	書 上 誠之助 (12)
俳 句.....	(11)(14)
社員のページ (樋口、山田、島、山崎).....	(15)
【解説】 千支 (えと)・甲子 (きのえね).....	(17)
秋の美術展散歩・クラブ部屋使用料.....	(18)



# 新年互礼会挨拶



理事長 前 原 勝 樹

新年お日度うございます。本年は稀にみるおだやかな天候で三ヶ日を過すことが出来、有難いきわみでございます。それは本日ご参集の皆様のお顔に現われておりまして御同慶の至りでございます。

しかし四州の状況は引続いて陰鬱であり景気転換も名のみと云う感でございます。特に憂いられますのは桐生市の活力の問題であります。これを身近な数字からみても人口、生産高等については太田に抜かれ、悪くすると伊勢崎の風下に立つ惧れなしとします。これは桐生市民の保守退嬰のためでなく主として都市の立地条件が然らしめるとみられるのであります。即ちそれは山紫水明と裏腹に平地が少なく、山の麓、川の岸まで人家がひしめて工場拡大の余地が全くなくなった点であります。

我々は決して大企業の誘致を考えているのではありません。立派な地場産業を持って不死身に生きのびて来た桐生市であります。この地場産業の活力の振興を願うのであります。しかしそれも昔のまゝの零細産業では生きられません。やはりそれなりの企画や設備が必要でしょう。いまそれをやる即ち時流にのれる設備にする土地がないのであります。それに衣食住と云う三大生活要素の一つである「衣」の繊維産業が成り立たぬと云う筈はないと信じます。そこでまず土地を獲得することが先決問題でしょう。埋立ても取らずしも不可能の地形ですから、町村合併しか考えられません。昔「笠懸野」と云われた赤城山麓、渡良瀬扇状地帯の大間々、笠懸村の合併が望まれるのであります。

これについて終戦直后から動き出しておりますが未だ一步も前進しません。本日市長さん、代議士さんご列席を前にしてこのようなこと申し上げたのは失礼と存じますが、ハッキリ云わなければならない破目になったと存じます。

即ち市長さんは四期、代議士さんは十四期三十数年ご在任でございます。しかも長谷川代議士さんは大間々ご出身で、桐生で立たれていらっしゃる方です。これらの方々のご努力でも出来ないとする、これはもう行政にも政治家にも委かせておけぬ事態と存じます。

聞くとところによると我が桐生倶楽部の前身である桐生懇話会では地域の産業経済文化教育等の推進力となってこの桐生を建設したと伺っております。そこで理事長の名を汚しておる小生としても、ただ、頬かむりでは過ぎせぬと感じ、このような失礼な暴言を吐くに至ったのであります。

しかし桐生倶楽部自身は政治活動は出来ません。それならばこそ小生の如きが理事長に納っているのであります。そこで倶楽部社員、皆様の声を伺って市長さんや代議士さんを刺戟してゆくよりはあります。そのためには趣味の委員会ばかりでなく、桐生市全般の問題について討論する機関をもちたいと思います。例えば定例に「放談会」をもち、ここであらゆる問題を論じ、それを「会報」にのせて広く配布する等の方法であります。この点なに分の配慮をねがう次第であります。

もう一つ悪口ではありませんが私が年末希望している点の一つあります。それは桐生市に文化系人文系の大学がほしいと云うことであります。理科系には立派な群大工学部があり地域の指導者の大半がそのご出身でございます。

しかし理学の方々には「物」を中心として社会を視る傾向がつよく、文学出身者は「人」を基本として世の中を考える面が強いと存じます。私は理学の指導者ばかりでなく広く人間を捕える文学の指導者が必要と思います。

社会の進歩、人類の幸福の根源は実に教育に存することにご異論はないでしょう。桐生に文科系大学を創って一見ムダメシ食いのような哲学科、文学科を講じてもらったなら桐生の風格は上り、民生ゆたかな故郷が生れるのではないのでしょうか。このような運動が桐生倶楽部から産れることを期待する次第であります。妄言多謝。





## 桐生を動かすクラブになれ 新春放談会

司会 小池・書上

1月30日総会終了後、桐生倶楽部新春放談会を二階広間で行なった。時間の関係で、桐生市の将来などについては話が進まず、専らクラブの在り方について活発な発言があった。

桐生市の問題については、会報36号昭和58年8月号座談会記事を参照されたい。

**前原理事長** ロータリーやライオンズも桐生クラブの会員から出発したものです。われわれはこのオリジナルな精神に戻って、桐生発展の原動力になりたいと願っております。

こうした意味で皆さんの御自由な発言をいただきたいと思います。また心を許した遊びの会としてのクラブに対しても活発な御意見を期待致します。

**平野副理事長** クラブの総会はいつも1号室でやっておりますが、今回は参加者が多く、この2階の広間でやることになり力強く感じている次第です。しかし会員の数は桐生の産業の盛衰に関することでありますので、この方の増加についても皆様の御協力によりまして増強して参りたいと考えております。御協力下さい。

今年の新年互礼会はいつになく活発な意見が交わされましたが、平素の会合においても常に皆様の意見が反映されたものでありたいと願っております。又クラブの会報も委員会の努力により内容もよくなって参りましたが、これも皆様の活動の場としますます御利用願います。

近く正門の扉が腐食甚だしく新しくする予定です。経費は22万円の前定ですが御了承願います。

**司会** まず皮切りにどなたか。

**辻** 近ごろ会費が銀行振込み制度になったが、駐車場などの関係で市の中心部まで来るのは大変で

ある。新宿方面にも銀行を指定して貰いたい。

—この件についてはその後担当理事により検討中相生方面も加えて指定する予定である。—

火災保険はその保償額はいくらになっているか。

**平野副理事長** 1億700万円である。現在の建物に大体見合った再取得価格になっている。

**早川** 職員の退職金制度について考えているか。

**平野副理事長** 最近その手続をして加入している。

**早川** クラブは昔は権威があった。会議所も其にノンボリになった。理事長が市長と話し合えるような権威を持って貰いたい。

今年新春互礼会の理事長の発言は意義があると思う。

**斉藤(喜)** 総会報告の最初に部屋の使用料が出ているのはどうか。クラブは貸室業ではない。安くして一般市民にも開放すべきである。足らないところは会員が出せばよい。月次会費などもおかしと思う。

—報告書の順序は改めるべきであろう。しかしこの表は稼ぎ高というより年間の文化活動の実績を示したものと解すべきである。昔は小数有力者の高額負担という時代もあったが、今は誰でも入れるように負担も軽くし、使用者は一部に受益者負担という考えも加味されて来たようである。—

**斉藤(喜)** 東洋軒についてはクラブ40年史に出ているが、設立頭初は独立会計の別会社として出発し当時群馬唯一の洋食レストランであった。



その後面倒がみきれなくなり全株式を無償で中村氏へ一任したものである。

クラブとしては飲食できるところが必要なのではないか。二階広間の中央にロータリーのマーク入りの机がおかれているのはいかがかと思う。

**前原理事長** 御意見の通りで会館の維持ということは重荷ともなっている。ロータリーやライオンズは会館はない。アメリカでは持っている。会館を持つことを誇りとし、貸室もそのため一層努力してゆきたい。

**奈良** 当会館は文化財としても重要であり、市民の誇りとして残してゆきたい。安くしてなるべく多くの利用に供したい。

**曾我(中央信金)** 毎月よい集りに出させていただき感謝しております。ただ集る人が決まっているように思いますので、多くの人々にまず参加することをおすすめしたいと思います。

**島** 齊藤氏より設立当時の話があったが、そのころはかなりの情熱があった。勇気をもって初心にかえることが大切だ。正月は活気のある互礼会だったが、理事会の発言にさらに平素の積上げが必要である。空念仏に終らないようにしたい。

理事長の主唱で20名くらいの委員会を作り、クラブをどうするか毎月討論をしてはどうか。半年ごとに理事会でまとめてゆくようにする。

**前原理事長** 正月の発言については特に計画はない。しかし一般会員からこのことが出ると思ったので今日はカゼをおして出席した。部会組織で市政談話会のようなものをやりたい。しかし政治的には動けないのではないか。

**司会** この件については理事会で検討の上発展させてゆきたい。

時間があと30分くらいしかありませんが、次に桐生市の在り方について少々お伺いさせていただきます。

**早川** クラブは英国流でスタートしていますからなじめない点もあったと思います。

戦後は500円会費で20人ぐらいでしたか、放談会をやったものです。金木屋のおばあちゃんも会員でした。ゲストにはいろいろな人をよんでやりました。当時それなりの影響力を与えました。

これからは為政者に反省を与えるような権威のある集りにしたいものです。桐生にはこんな気分がうちに燃えていると思います。

理事長指令で結構ですから是非こうした集りを計画していただきたい。今回の東洋軒問題にしても40回を超える集りをやり結論に導いたエネルギーがこのクラブにはあるのです。

**米田** 第1部に戻ってしまって恐縮なのですが、1つだけクラブに要望がございます。

現在クラブの行事として毎月2名の理事さんが担当して月次会を行なっておりますが、これは大変民主的で結構なのですが、このような月次会としてローテーションを果すことは不十分な点があると思います。数ヶ月を要する案件の検討などに対処するため、専務理事、常務理事、又は総務担当理事を設けて理事長、副理事長を煩わさず運営する要があると思われま。

**司会** この件につきましては理事会で検討中であります。本日提案がありました討論会の運営、総会の立案など今までの理事会に欠けた部分を補充する意味で立案致しております。

次に市会の方から飯田さんどうぞ。

**飯田** 早川さんのいわれたようにこの種の集りはえてしてノンポリになりやすい。政治はタブーの傾向にあります。しかしこれは間違いだと思っています。これはアメリカの1つのモデルから来ているのでしょうか。アメリカには2つの政党、共和党と民主党しかありません。従って意見をいうとすぐ闘いになりますので会合のときは論争はしない風習があります。

しかし日本は多党化して政策もつかみにくい。何が理念か実態かわからない状態です。どしどし話題を出して結構なのです。

科学技術が発達して来たので、働けば誰でも立派な車を買えます。しかし道をどうするか、これが政治の重要な課題であると思います。

只今桐生市の財政で心配になることは385億に及ぶ起債の発行残高があり、地方交付税もきびしい状況にあります。厚生病院の改築にしても、100億以上かかり大変に困難な問題です。

このような件についても効率的な財政運営について皆様の御討議をいただきたいと思ひます。

今日のような会合は勉強になり大変に有難いことですので今後もいろいろ御意見を聞かせていただきたいと存じます。

**木島** またクラブの問題に帰りますが、先ほど齊藤さんより貸室業ではないというお話でしたが、私は週に2、3回来ておりますのでこの10年間で



2,500回くらい来たことになっております。

クラブをアットホームの場にするにはどうしたらよいかですが、まず飲む設備がないということです。タバコ販売機はないし、クラブ周辺にタバコ屋もなく大変に不便しております。

コーヒーの自動販売機なども設備して貰いたいものです。

つぎにクラブの会員は入会すれば、あとは何でもやってくれるというお気持の人が多いようですが、自分が参加して何かやるというアクティブな面が必要だと思えます。

また政治的、商業的方面には一般に貸さないことになっているが、疑わしい場合もあるようです。この辺の見解を聞きたい。

**平野副理事長** タバコは事務室に常備しておいた時もあったが、小銭がないので後で払うという人が多く、いつのまにかタバコがなくなってしまった。販売機も検討中であるが、一定の売上げがないと設置して貰えないという制約がある。

コーヒーについては具体化できそうで話を進めている。政治・販売活動方面には部屋を借さない方針についてはこれに従うことになっておりますがなかなか判別しにくい場合もあり慎重に対処してゆきたいと考えております。

水道の件で報告しておきますが、過日半月で水道料が2万かかったことがありましたが、クラブの水道管が全般に老朽化して漏れていることがわかりました。只今新しく管を別にひいて処置しております。

またクラブの変革については会員全員の御協力を得まして無事に完了しましたことについて、改めて感謝申し上げます。

今のところ会費は値上げしない方針です。

**園田** 先ほどの火災保険料の保償額ですが、建物が8,700万、什器が2,000万全計1億700万円とになっております。

コーヒー販売は具体化するため検討中です。

**司会** 最後に何か御意見はありませんか。

**金谷** このような会合を2、3ヶ月に一度くらいやりたいものです。問題を1つに絞って実りのあるものにしたいと思います。

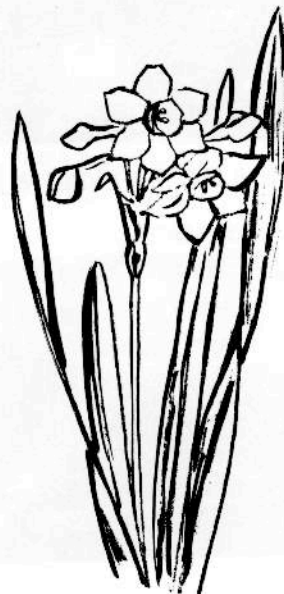
**司会** 今年は干支の始めの甲子の年で、ものいう年です。時々このような企画をしたいと思えます。クラブに関する意見が多かったようですが、今後理事会の方のよい参考にさせていただきます。

本日はまことにありがとうございました。

〔要約〕以上をまとめると次のようになる。

1. 前原理事長の正月発言は賛成である。
2. 会費納入銀行を新宿・相生地区にも指定してもらいたい。
3. クラブは原則として会費でまかなう。貸室業ではない。
4. 例会に会費をとるのはどうか。
5. タバコ、コーヒー、食事ができるようにせよ。
6. 娯楽等昔のように完備したら。
7. 市民に公開無料にしたら。
8. 創立の精神を生かし、市政等に苦言を呈する会であれ。
9. そのために懇談会、市政懇話会、桐生を語る会のようなものを時々やる。
10. こうしたことを管理運営するため担当者を制度としておく。
11. 広間にロータリーのマーク付の机をおくのはどうかと思う。
12. クラブの建物は文化財として永久保存して貰いたい。
13. 各行事に参加者が多くなるよう配慮されたい。
14. 本日の総会が二階でできるようになったのは嬉しいことであった。

(文責在編者 担当藤江、書上)





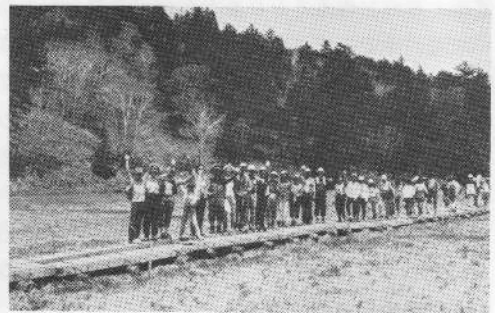
# フォトサロン



昭和58年 6 月 5 日 沼山峠にて  
沼山峠より水芭蕉の花咲く尾瀬ヶ原へ



昭和58年 5 月 8 日新緑の鳴神山頂



大江川湿原にて



昭和58年 9 月 11 日  
日光中禅寺湖畔西岸を歩く





## 〔特集〕 歩く会

## 四季の山歩きによせて

「歩く会」世話人代表 木 島 清

3月も、中旬と云うのに窓越しの庭は雪景色です。今年の冬程、春を待ち遠しく感じることはありません。

4月号に「歩く会」の特集をするので、題目は自由で今年度の行事予定と何か歩く会についての記事を書いて欲しいとの依頼がありました。

この原稿が活字となり、会報が皆様の所に届く頃は春も盛りとなり、野山は花ざかりで厳しかった今年の冬を忘すれる頃でしょう。

その頃「歩く会」も季節に合わせて、4月、5月、6月、7月と各月のテーマを花を訪ねて歩く事にして居ります。

「歩く会」に今迄一度も参加された経験のない方で、いつも心には留めているのだが、なかなか重い腰が上らない人、又一度是非参加してみたいのだが体力、気力に自身がない……。とと思っている方々に「歩く会」の内容の一端を御紹介致します。この特集記事が「歩く」ことへの一つのきっかけになれば幸いです。

## 自然に恵まれた桐生を実感として喜こべる楽しさ

桐生市の周りは山々にかこまれています。日曜日にも、是非一度長崎屋の屋上にでも立って周囲を360°見回して見て下さい。遠く赤城、榛名、浅間を望み、北の最奥に根本山が望めます。その根本山を中心に左右に優美な山なみが伸び大きく半円型に桐生の市街地を抱きかかえて居ります。根本山から向って右方向へ熊鷹、野峰の山稜は、仙人岳、前仙人から白葉峠を経て障子山から浅間山の端で、桐生川に落ち込み、又その反対方向に根本山から左に、三境、残馬山から座間峠を経て鳴山に連なる山稜は吾妻山から青葉台に達し小倉峠で渡良瀬川に達して居ります。

南には茶臼山を中心に八王子丘陵が優美な姿で

毛里田村丸山宿まで達し、東南方面には小俣の信仰の山、石尋山、湯殿山が望めます。

吾々が日々暮す街の中から山々の四季のうつろいを眺めて、自然の素晴らしさを感じるのも結構ですが、もう一步踏みこんで、その自然の懐に入った時、自然は本当の美しさ、素晴らしきとの出会いを吾々に与えてくれます。

現代の酷しい社会の中で生きる人間にとって、自然の中で、自然と対話しながら過す日曜日は、翌週月曜日活力溢れて仕事のスタートをする為の最良のエネルギーを与えてくれます。

仕事が忙しい人程大切な事ではないかと思いません。

## 桐生倶楽部「歩く会」が生まれ5年経ちました。

「歩く会」は昭和55年1月第1回の例会を吾妻山登山で始まりました。

今年で5年目になります。今年の2月例会「大間々要害山から川内長尾根峠」の例会で第40回になり、今年予定通り例会が行なわれると12月には第49回となります。

「歩く会」を設立する時に、吾々同好の志が集って、どのような会にしようか!! と話し合いました。色々な活発な意見が出たものを要約して、世話人の一人である藤井竜人氏が「歩く会の趣意文」を作りました。この趣意文を根幹として、毎月例会の企画を組んで居ります。

5年前この「歩く会」のスタートの折に皆様の御手許に「歩く会の設立趣意書と初年度の年間予定を印刷した一通の封書が届いたと思います。「歩く会」への参加を呼びかけました。

その後、何回か会報及びいろいろな行事の折にPRして居りますが、改めてここで「歩く会」のPRをさせていただきます。



「歩く会」とはどんな会ですか？  
私にも参加出来るかしら？  
どこへ申し込んだら良いのだろうか？

と云う様な質問を良く聴きます。  
お答えします。是非今年から御参加下さい。

先ず

「歩く会」は山登りのエキスパートの集りではありません。山岳会でも登山の集りでもありません。もちろん山にも登りますが、野の道も歩きます。史跡、文化財も訪ねます。

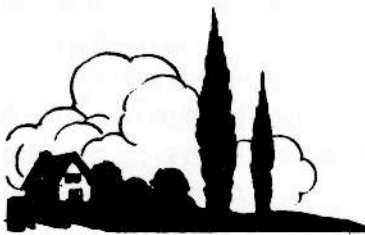
桐生を中心にして恵まれた郷土の美しい自然の中、四季のうつろいを楽しみ、先人の残した史跡文化を訪ねる事と共に仲間同志の語らいの中、自然保護の啓蒙を行う様な事が企画の中に組まれて居ります。

「歩く会」は距離を比べ、時間を競う事はしません。いつの例会でも、初参加の人にペースを合わせて計画し行動して居ります。

体力に自信のない方、高齢の方でも一度是非参加して見て下さい。(但し始めての方は年齢を問わず、必ず医師の健康診断を受けて、医師のアドバイスをを受けて下さい。)

「歩く会」は原則として毎月第2日曜日に月例で行って居ります。市外への遠征以外は大体、桐生倶楽部に午前9時から9時半頃集会、車に分乗して目的地付近まで行きます。昼食を入れて午前2時間、午後2時間、大体午後3時頃には、桐生倶楽部に帰って来る程度の歩き方をして居ります。

今年度も8月以外毎月計画が組まれて居りますので3月までの御報告と4月以后的予定を簡単にお知らせ致します。参考にして下さい。



## 「歩く会」昭和59年度 行事報告と今後の予定

一月初例会 (1月8日、参加人員 26名)

「吾妻山より万が入へ」

一月初例会は毎年、年の始め歩き初めとして、桐生人に一番親しみの深い山、吾妻山に登るのが恒例となりました。その年によって登るコースを変えて、それぞれの趣きを楽しみます。

今年は昭和55年1月27日の第一回例会以来、久しぶりに御嶽山方面から藤井竜人氏の石仏の説明をききながら岩山に汗を流しました。

御嶽山から尾根沿いに歩き、トシビ岩から山頂への道は、日曜日は盛んになって来た市民の吾妻山登山で銀座通りの様な賑わいです。

山頂から尾根を西の方向へ青葉台までの従走路があります。始め急な下りですが二つばかり小さなピークを越えると静かな気持良い雑木林の広い尾根となります。青葉台への中程あたり従走路の足もとに、一基の石宮が目にとまります。

そこから左に尾根道から別れて下ります。斜面についた道は、だんだん広くなり万が入りの谷に入る時は巾1m以上の良い道となります。

桐生市内にこんな静かな所があったのか?と思いたくなる様な素晴らしい谷です。大きく山ひだの、うねりに合わせて右に折れ、左に曲る道が、堤町最奥の住宅が目の前に現れると、この山歩きも終わります。吾妻公園から吾妻山に登り、万が入りの谷に下って堤町に出て、又水道山を越えて、吾妻公園の駐車場まで戻っても、3時間あれば、充分な日曜日に親子連れで歩けるハイキングコースです。

二月例会 (2月12日、参加人員 11名)

「高津戸要害山から川内長尾根峠へ」

2月は上電西桐生駅に集合、上電に乗って、赤城駅まで行きました。普段車社会の中で、アクセク、ブーブー、やっている吾々にとって、電車に乗るだけで何か心がなごみます。

大間々の裏通りは、懐しい家並みが続いて居りました。小学生の頃「ながめ」に友達と行った頃の事が思い出される様な裏通りでした。

高津戸橋畔、要害山に登る道はガードレールと

舗装された車道に圧倒されながら、藪の中を細々と雑木林の中に見えかくれて居ました。

山頂まで、ひと息で登ると眼下に高津戸峡と大間々の街が望めます。赤城は雪雲の中に見えませんでした。山頂は、城跡の名残をとどめる遺構、要害山神社、佐羽淡斎の十山亭の碑、石仏と憩う吾々に盛沢山な見学する所があり、何十年ぶりかの要害山は、なかなか楽しいものとなりました。

山頂から愈々雑木林の中に残雪を踏んで尾根歩きです。その頃から遠く赤城、袈裟丸の雪化粧した峰々が望まれ、福岡村と川内を分ける尾根は、複雑に入り組み、道はなく、かすかな踏み跡も、残雪に消されて、なかなか興味溢れる藪漕ぎの道でした。藪を分け進みながら「アッチダ、コッチダ」とルートを探し、陽だまりの尾根歩きに顔にうっすら汗がにじみ雪山から吹いて来る風が頬に心地好く感じる低山独得な楽しさです。見晴しの良い所を選んで昼食歓談し、福岡から、川内町に通じる長尾根峠に2時近く到着しました。楽しかった山歩きの終り近く長尾根峠から、バス停への下り道は鳴神山から吾妻山への山脈を正面に望みながら川内町に下る静かな峠道でした。

#### 3月例会(3月11日、参加人員17名)

「早春の雑木山と梅を訪ねて」

年間計画をたてた時は、今年こんなに雪の多い事は想像出来ず、3月例会は梅田の残馬山白弊宮を計画しました。この大雪で計画変更して前仙人岳から観音山への稜線を歩く事になりました。

この日頂度中学生の梅田マラソン大会で賑う、県立女子高校の所、小松橋畔から沢に入りました。スグ急登で愛宕様まで10分。つづいて40分の登りは雑木の楽しい道でした。

前仙人岳から観音山への稜線は松林、杉林の中に入ると20cm位の雪があり、桐生に居て高山の春山を歩く楽しさを味わせてくれました。

観音山斜面の梅林は今年は未だ花が咲いていませんでしたが、楽しい山歩きでした。

#### 4月例会(4月8日予定)

「桜が満開の大平山へ」

4月例会は桐生駅集合です。国鉄で大平下の駅まで行き、そこから歩きます。

陸の松島と云われる景観、静かな大平山神社、名物の大平だんご、と近くに来て、あまり行った事

のない人が多いと思います。桜の花の咲いている時期が一番大平山の美しい時期です。

#### 5月例会(5月13日予定)

「赤城黒松山と覚満湖」

桐生倶楽部に集合して、車に分乗して出発します。途中有料道路の下が新緑、途中花ざかり、上が未だ木ノ芽どき、と植物の変化が見られる時期です。赤城黒松山への登りは、約3時間半位の登りですが、時間をかけてゆっくり登りますから、病人でない限り老若男女、どなたでも登れます。

#### 6月例会(6月10日予定)

「山つつじの古峰ヶ原」

前日光高原、信仰の山、古峰ヶ原高原が全山、山つつじの花で紅に染まる頃です。うぐいす、ホトトギスの声がこだまする中、一段と緑が濃くなった山道に心地好い汗を流しましょう。

#### 7月例会(7月22日予定)

「高嶺の花、駒草を訪ねて草津元白根へ」

昨年にも企画して、残念ながら悪天の為中止となりました。今年こそ是非皆様を案内したいと世話人一同張切っています。梅雨が明けると、きわどい所ですが、僅か10日位の花の命です。その花に合わせて例会日の変更をする予定です。

草津一志賀有料道路の白根山駐車場が歩き出しの基点です。弓池の端を通り山道に入りますと、ツガ、シラビソ、白樺の森の中、木道が続きます。ふり返ると白根山の白い独得な山容、その後には横手山が夏の白い雲をバックに望まれるでしょう。30分位で森を抜けると、元白根の旧噴火口群が眼前に広がります。これからは砂礫の道が続きます。その砂礫の中に点々とピンク色の優雅な花が咲いています。この花が草津元白根でしか会う事の出来ない駒草です。今年もきっと皆様が来るのを待っているでしょう。

「8月は恒例で休会です。」

#### 9月例会(9月9日予定)

「根本山」

何時でしたか、平野副理事長が私に言った事があります。「木島君、私は桐生に生まれて、桐生



で産業に従事する人間として、一度根本山は、登りたい山だったよ……。」と。平野副理事長は御元気に一昨年「歩く会」の例会でその宿願であった「根本山登頂」を果たしました。

今年も9月に根本山行きを計画して居ります。今年も是非元氣に行かれる事を期待しています。

根本山は桐生にとって母なる川、桐生川のその源です。桐生川の沢の最奥、沢の詰った所にその雄大な山容を誇り冠状に東西に伸びる山稜は桐生盆地を形成する扇の要とも云える所にあります。遠い昔、江戸からの根本講が盛んだった事を証す丁石、燈籠、石段が苔むし、沢の中、清冽な流れを、右に渡り左に飛んで登ります。緑したたる梢からは、うぐいす、やまがら……野鳥の声をききながら大自然の中に身心共にドブプリ浸れる幸せを感じさせられます。

#### 10月例会（10月14日予定）

「紅葉の鳩待峠から尾瀬ヶ原へ」

昨年は前原理事長、平野副理事長も参加して、福島県側、松枝峠から沼山峠越えて尾瀬沼へ行きました。水芭蕉、みね桜の咲く頃でした。

今年は錦綾なす……秋の尾瀬へ行きましょう。バスで鳩待峠まで登ります。峰から至仏山を左に見ながらの50分のゆるい下り道は、尾瀬でも一番紅葉の美しい所です。

山ノ鼻から、木道を東電小屋、竜宮小屋の分岐まで草紅葉と、青い空流れる白い雲を映す池漕には、オゼコウホネの紅葉が……。尾瀬の秋は筆舌に尽せぬ美しさです。

今から楽しみにして置いて下さい。

#### 11月例会（11月11日予定）

「石尊山から湯殿山へ」

桐生倶楽部「歩く会」では石尊山、湯殿山と別々に例会を企画して実行しました。

しかしこの石尊、湯殿の両山はハイキング・コースとしてツアーをするのに最適です。

しかし、桐生の吾妻山と背比べをする低山ですので登る時期を選ばないと、その山の持味が楽しめません。この両山は「ドウダンツツジ」が紅葉する頃が一番良い季節です。

お隣りの小俣の霊山は、何百年も土地の人達の信仰の山として崇められて来ました。

その登山道はドウダンツツジが植栽され、すばら

しい紅葉と共に、往時を偲ぶ石仏、石碑が点在して居ります。山頂からの眺望は素晴らしく、晩秋の澄み切った天気の際は関東平野が一望されます。

#### 12月例会（12月9日予定）

昨年12月の例会は、懇話会との合同で行いました。桐生氏ゆかりの史跡歩きでした。

桧杓山城跡をふり出しに、梅原館跡まで、初冬の柔かい陽差しの中、日頃車で走りまわっている吾々が、見落していた美しい梅山の風物に触れ、参加した人達と楽しく語り合いながら、時の経つのも忘れて歩きました。今年も懇話会のメンバーと相談して楽しい合同企画を行いますので楽しみにして置いて下さい。

以上1月から3月までは行事報告で4月からはこれからの予定を簡単に申し述べた訳ですが、どうぞ皆々様の参加をお待ちして居ります。

尚、歩く会に参加している方々からの投稿もここに掲載させていただきます。（榎二国 社長）



58年12月11日

懇話会と共同で桐生の史跡歩き  
(桧杓山城跡にて)



# 歩く会に参加して

## 郷土史勉強の手はじめ

村田 豊 樹

金井先輩のお言葉に甘えまして昨年9月以来、  
 ヴィジターとして小学校3年の長男と共に「歩く  
 会」に参加させて頂いて居ります。一昨年の暮に  
 桐生へ転居して来たばかりですので、桐生の地理  
 や歴史については文字通り右も左も判らないので  
 すが、会に参加させて頂いたお蔭で郷土地誌の知  
 識吸収の端緒となって居ります。特に12月の梅田  
 散策では桐生氏の成立から興亡の歴史を知ること  
 が出来大変興味深いものでした。長男も9月に中  
 禅寺湖畔を20キロも歩いたことで大いに自信を付  
 けた様子で毎月の会を大変楽しみにしております。  
 会のあとの数日は5万分の1の地図に、親子で額  
 を寄せての団欒の一時を過ごすことが出来ます。  
 本年も素晴らしい企画が盛り沢山で、楽しみにし  
 ております。

## すばらしき想い出

松 井 信 子

「あれが相馬岳ですよ。」前方に榛名山が見えるそ  
 の中でひとときわ鋭く聳えている山を指してリーダ  
 ーの木島さんが教えて下さった。登山口を登り始  
 めるとまだ11月初旬なのに雪が所々積もっていた。

途中鎖あり、はしごありの変化に富んだ山道を  
 1時間程歩くと比較的簡単に山頂に着いた。

見おろす麓の山々は紅葉がまだあざやかな色を  
 残し箱庭を眺めるようだ。右へと目を向ければ榛  
 名湖が水色に光り、遠くに真白な浅間山がくつき  
 りと見えた。素晴らしい景観である。さっと吹い  
 てくる冷たい風に汗もかわき食べたお弁当のおい  
 しかったこと。皆さんと楽しく語り合い心と心の  
 触れ合いの時でもあった。「来てよかった。」

様々の都合で毎回は参加できない私ですが次回  
 の参加を又楽しみに鼻歌まじりで山を下りてきた。

## 歩く会にご参加を!

小 池 久 雄

今年は、よく雪が降った。

その故の運動不足の身体に、桐生倶楽部歩く会3  
 月例会の、菱の尾根歩きは実に快適であった。

参加者はいつものように20人足らず、馴染みの  
 顔が揃う。倶楽部から上菱までタクシーに分乗、  
 小松橋の東丘上から前仙人との分岐点、中尾根、  
 観音山まで2、3 百米の早春の尾根を歩く。

途中、中食休みも含めて3時間位のコース。

歩く会は、この程度の誰でも家族連れで気楽に  
 歩ける楽しいコースを選んで居る。

世話人は実に綿密にコースを調べあげているし、  
 参加者全員にくばられる資料は、コースの地図か  
 ら、歴史、文化財、植物の説明まで載っていて、  
 これだけでも値打物だ。この楽しい歩く会に社員  
 の皆さんの参加をおすすめしたい。

# 桐生倶楽部句会

(十一月)

大根を	千す軒下に	猫むむる	宮	地
大根引き	運ぶ老婆の	背の丸し	宮	地
あてどなく	時雨の宿を	街に出る	高	木
庭木みな	千大根の	吊られたる	高	木
大根の	すぐり葉青し	今朝の椀	山	田
サルビアの	緋色時雨に	うつろいし	山	田
時雨来し	ダムの一景	旅愁なほ	光	春
此処よりは	徒歩の往診	小夜時雨	光	春
幾度か	時雨にあいし	若狭路	前	原
一僧に	軒をかしけり	初時雨	前	原

(十二月)

雉子鳴いて	ふたたび山の	眠りけり	高	木
動く水	光る水あり	山眠る	清	水
置炬燵	ぬくもる手足	楽しみつ	北	川
杉林	ひだに抱きて	山眠る	宮	地
置炬燵	掛けぶとんには	去年のしみ	伊	藤
古びたる	鉾泉宿の	置炬燵	山	田
置炬燵	女ばかりの	小盃	光	春
湖を	囲み箱根の	山眠る	遠	藤
火祭の	すみて秩父の	山眠る	前	原



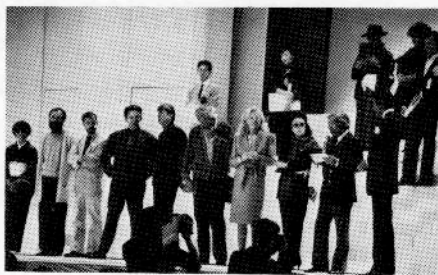
# 桐生はファッションタウン・キリウになりうるか？

書 上 誠之助

## 1. ファッションの世界

日本は今産業経済面では世界に相当大きい影響力を与えるようになった。しかしこれに附随して国際間の貿易摩擦は日本のイメージを必ずしもよいものとはしていないようだ。

しばらく前になるが日本はエコノミックアニマルと呼ばれたことがあるが、最近では顔のない日本といわれている。文化や政治、思想などで世界から日本は大いに恩恵をうけているが、世界の中で日本の特色やリーダーシップについて印象づけられるものは何もないというのである。



1 図 大阪国際ファッションデザインコンテスト  
筆者写す。 前列各国の審査員（森英恵、  
大田順子など）後列は受賞者（30才以下の  
著者）

もっともこうした痛烈な皮肉は国際間では普通の習慣であり、こうしてお互いに進歩してゆけばよいのであるから特に目録を立てることもない。

1983年8月号のTIME誌は日本特集を全ページにわたって出している。

この中でLIVINGの項（内容はすべてファッションである）で、ファッションこそ、日本が（西歐的なものの模倣からいち早く脱して）独自の道をたしかにして成功を収めた、ほとんど唯一の分野である——と書いている。

これは日本の読者には皮肉ばい文であり、アメリカの読者に対するごきげんとりでもある。

しかしファッションが日本の世論の中に大きな地位を占めるようになったのは確かである。

大阪では昨秋大阪城400年祭の行事として、21世紀の大阪を予想して、世界的なファッションコンテストを開催した。

さらに東京や横浜でも行政がファッション問題をとりあげるようになった。

毎日新聞もこれらの動きをふまえて来るべき未来の主要テーマとしてこれを取り上げ、毎日ファッション大賞（通産省後援）を設けた。

昨秋この第1回表彰式が行なわれ、川久保玲氏らと共に素材部門の大賞として、桐生の新井淳一氏が表彰をうけたのは耳新しいことである。

繊維の世界が下流重点指向の時代であるにも拘わらず、桐生の機業家達がなかなかアパレルや、ファッションの世界に踏み切れないのは、この世界で要求されるオリジナリティや人間性の探求という点でいま一歩というところなのであろう。

この点で新井淳一氏やそのグループの数年来の努力は桐生の業界に一つの突破口を開いたものとして注目されよう。

## 2. 東京発ファッション情報

ファッションといえば西歐型のファッションでありパリを中心としたものであった。

これはシルエットやプロポーションを忠実に生かしてゆくテイラードファッションであった。

これは上層階級から次第に下層の市民に流れてゆく、したたりおちの理論(trickle-down theory)によるものであり、オートクチュールに代表されるものである。

しかしこうした伝統的ファッションの世界にも新しい波がおしよせることになった。

一枚の布を着るといふ多分に東洋的な発想から出発している。これは体形はあまり問題にならない。色彩も地味なものが多く個性の表現に邪魔にならないものであり、黒白、ネズ、茶、きなり、藍などが多い。

この先陣をきったものは川久保玲のコムデギャルソンの作品で1982年、パリコレに登場したものである。これはパンクファッションといわれるもので体の自由な動きができると同時に素材の味わいがポイントとされている。

TIME は (shaplessness formlessness

colorlessness) 形もなく、形式もなく、色もない本物(エッセンス)と書いている。

こうした素材は新井淳一氏のアントロジーグループが開発したものでコンピュータ技術を縦横に駆使したものである。三宅一生も作品の主力に新井氏の素材を用いたのである。



コムデギャルソン——1982年パリコレクションの革命的デザイン

図2

タイム誌は現在世界の10人の代表的デザイナーの名を上げているが、森英恵、高田賢三は先達の別格として、現役で三宅一生、川久保玲、山本耀司を上げている。日本のファッションも世界的に主要な地位を占めるようになった。

この中前二者の作品には新井氏の素材が多いということは世界的なファッションの変革期に日本の果たした役割が大きかったことを意味している。

東京発ファッション情報がさらに、桐生発となることを期待したいのである。

世界的なファッション誌ボーグの1984年10月号は日本特集である。ボーグが特定の国を対照に特集を組んだのは日本が初めてのことであり、桐生織協もこのため100万円の広告費を奮発したのである。



テキスタイル・プランナー

図3 新井 淳 一氏

1000万部以上を発行するアメリカのNational

Geographic 誌の本年1月号、有名なアメリカのファッション誌 New Yorker 昨年の12月号などにはファッション素材基地Kiryuの名が出ている。

世界地図では虫めがねがないと見えない桐生だが、ファッションの世界ではようやくその存在が認められようとしているのである。

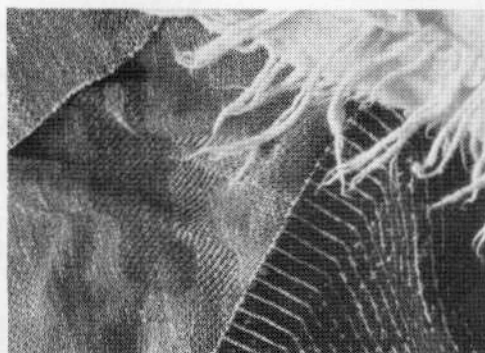
### 3. 反省と展望

読売新聞本年3月10日号は世界のファッションを支える人々の特集として大きな紙面をさいている。この中で日本女性のファッション観を外国と比較したスタイリスト・イナ・デルクールさんの言葉は注目される。



イッセイ・ミヤケのジャカードワークスによる作品

図4



ジャカードワークスによる新素材

図5

「東京の女性は流行に夢中。人気商品や有名ブランドを着ることで、満足しているようですね。

フランスやニューヨークでは、服そのものに興味がありません。自分を変えよう、こう見せよう、という点で努力するんです。人気だから、流行だからといって、いくらでもお金を出すなんてこと



はありません。」

日本のファッションも消費者と共に生成してゆくのであろう。

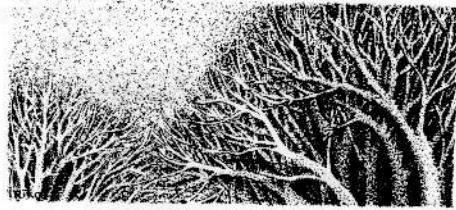
読売紙はTOKYOのところで新井淳一氏を大きくとり上げ、昨年末の東京の個展を高く評価している。それらは今まで誰も見たことのないものばかりであったと書いている。新しい思想の表現ともいえるであろう。

氏はこの4月3日六本木AXISの地階に作品直販店「布」を開店した。桐生織物の新しい方向

を示すテストケースとしてその意義は大きい。

(桐丘短大教授)

〔表紙写真〕 ボーグ誌より。三宅一生作品、素材新井淳一コンピューターワークス。



新井リコ

# 桐生俱樂部句会

## (一月)

スペインの 葡萄にたくす 大晦日 久保田  
 風花や ゴルフボールの みえかくれ 北川  
 風花や 夕焼空の 雲はやし 宮地  
 夫々に 想い新たに 初句会 山田  
 風花の 舞う空見上げ 春想う 森  
 風花や それらしき雲 見あたらさず 高木  
 句仇に まず眼で会釈 初句会 光春  
 風花に 一刷白く 北の尾根 清水  
 風花に 受験子送る 高架駅 前原

## (二月)

うで卵 甘酒の味 梅見茶屋 伊藤  
 庭の辛 落の莖の香 今朝の桜 山田  
 袂より 香りただよう 梅見茶屋 北川  
 落の莖 手にして語る 登さがり 森  
 定宿の 酒肴に所望 落の莖 光春  
 ゆく程に 梅見の径の 細りゆく 高木  
 探梅の 陰しき道も 甲斐ありし 清水  
 山裾を 道なりにゆく 梅見かな 久保田  
 野仏の お顔の陽差し 落の莖 前原

## (三月)

肩よせて 白髪夫婦 雛の市 宮地  
 娘ら集う 街角ここに 雛の市 北川  
 水温む 葦辺を泳ぐ 鮎のむれ 伊藤  
 目隠しの ままの雛あり 店聞き 清水  
 水温む 湖面は静か 小石持つ 森  
 水絶えて ぼんぼり明し 雛の市 山田  
 水嵩の 増しつ利根の 水温む 遠藤  
 旗立てて 雛の市あり 旧街道 久保田  
 天守閣 映して濠の 水温む 光春  
 石割(は)げは 動くものあり 水温む 前原

### 追悼 (株)高野商店社長

葬儀の日折からの雪の斉場にて

飄と逝く 浄土も彼岸の 雪なるか  
 功なりて なほ惜まるる 今朝の雪

本 田 木 楽

# 社員のページ

## 「私の桐生倶楽部観」

樋口 武 弘

倶楽部に入会させていただき5年位が経過しました。20歳迄、本町5丁目に住んでいたのです、小さい頃から、この洋館に形容しがたい感情をもっていた。父母から「桐生の偉い人たちが建てたんだよ」と聞かされていた。子供心ながらいつか僕もあの建物に出入したいと心に描いたものでした。

時が流れ、先輩の勧誘を受けJ.Cに入会させてもらい、子供心に描いた夢が実現したのであった。1号室での会議、2号室での座談等をしてながら、この建物をつくられた先人の意を充分くんで我々は使用させてもらっているのかなと時々自省したものでした。その青年会議所も、この倶楽部の青年部が発展して出来たものだと聞いてますし、桐生商工会議所をつくれる時も、この倶楽部で話し合っつくと聞いてます。

倶楽部の歴史は、桐生の大正、昭和の近世史のなかで、政治、経済、文化等の諸問題に対し、積極的に活動を展開し、以後発生の各団体の原点になっていると思えます。

50年史の中でもふれていますが、芳名録によると、たくさんの著名の方々が出てくるのに驚きました。岸、福田元総理や西式健康法の西氏をはじめ枚挙にいとまがないほど各界の方々に来て部されているのに驚かされます。

青年会議所所在籍中にお招きした先生方の中で、ケンブリッジ大学で教えられてた、東京大学の経済学教授の宇沢弘文先生も倶楽部の建物に大変感心され、倶楽部の創始者達のその精神に感動されておりました。

桐生にはロータリークラブ、ライオンズクラブ、私も在籍した青年会議所等々があり、それぞれ素晴らしい活動を展開いたしてありますが、倶楽部50年史を拝読させてもらいますと、今後の倶楽部活動も21世紀へのダイナミックな活動展開期に入っているよいいのではないかと感じます。

他の地域の方や、世界の方々との交流には、桐生倶楽部では活動しにくい面があるかも知れません(日本的、世界的組織でないから)が、桐生の

事を考え、桐生をより素晴らしい市にしてゆくという点に於ては、この倶楽部は最高なものに思えます。

世界的に相互依存化と地球家族化と言われる、昨今、個は全に通じるの精神で、この倶楽部をより一層活発な行動倶楽部にしてゆく事が先人への恩がえしになるのではないかと思います。それには私自身の反省として、出席率がなくてももっと積極的に会合に出てゆく決意をもつ事が大事なのだと考えます。 合掌 (株樋口商店社長)

## 老齡化社会の第1期生

山 田 豊

昭和9年生れは老齡化社会の第1期生に当るのだそうだ。

いくらマスコミが騒ごうと、社会構造の核として今日の日本を支えているのは我が年代、と自負している。

しかし日本が今だに通った事のない高齢社会は、人口比率に冷徹な数字の事実として私達に迫ってくる。深刻な問題を抱えた家庭は、確かに身近に増えてきている。

先日の寒い日、友人の母堂の葬儀があった。

上場の会社で役員として労使双方から絶対の信頼を持たれていた夫君が、退職後の悠々自適の生活の中で痴呆老人となってしまったのである。

現代医学にすがって何とか元の人格に立戻そうと、幾つかの病院を頼り入院治療を受けられたが、余病を理由に何回か転院させられ、とうとう看病疲れで母堂も共に入院された。そして肺炎を起しあけなく他界されたのである。

友人は、企業の中堅幹部で将来を嘱望されていたが、両親入院の事態に自ら親元の地方勤務を願って看病をした。家には仕事を持つ妻と受験生の息子。

経済的に裕福な上、家族の献身的看護があったにもかかわらず、やはり悲惨であった。病人は治療によって確実に回復をみていたが、転院の度に環境に慣れず後退した。

長期に安定した治療を受けられる体制があれば、必ず社会人として復帰されたであろうと思う。



身内に医師が何人かいて、全て恵まれた立場の友人一家の有様をみるにつけ、家族で対応できる限界を痛感した。

高齢化社会の第 1 期生に背負われた重い課題として考えて行かねばならないのだろう。

(群馬マックス(株)社長)

## 古い話と未来の夢と

### 島 勝 二

前原悠一郎氏の桐生の今昔によると、「桐生町発展のために尽すことが急務」として、桐生懇話会が発足したのが明治33年とある。

そして森宗作氏が筆頭に39名の会員と会費月額1円(現在約2万5千円)でスタートした。

桐生町発展のために政治、経済、織物から鉄道まであらゆる分野について、熱心に勉強されて日本鉄道株式会社に陳情書の提出までされたとある。

大正4年に懇話会から社交的倶楽部に移行がきまり、森宗作氏がそのためにとして5千円(現在約5千万)を寄附して、倶楽部創設に大きな灯をともしられた。更に桐生出身の野間清治氏を介して当時すでに一流の清水巖氏に設計を依頼した。桐生倶楽部は大正時代の代表的スタイルとして、専門誌に掲載されているそうである。

大正8年に完成してその費用は土地代1万円、建築費約4万6千円、現在にあてはめると5億円位かと思われる。

その資金源は寄附金と倶楽部債でまかない、桐生人らしく自立自助でつらぬかれた点、まさに敬服すべき立派さであり、私達の忘れてならない原点ではないかと思われる。

戦後の敗戦のための混乱から、経営不振がつづき、さらにロータリーの発足やライオンズ等各クラブの発展に伴い、桐生クラブの困難な時代が続いたようである。幾多の波をのりこえて現在立派な建物と広大な敷地が、桐生市の中央にあることに、私達社員は先人達に心からの感謝をささげたいとおもう。

そこで第3の波といわれる現代社会の急激な進歩の中で、倶楽部のあるべき姿に想いをめぐらすことがある。平和か戦争かで二者択一の論議がさかんにいわれるが、結論は当事者の人次第とおもうし、政治、経済、すべての事業が人次第だとすれば、21世紀にむけて有能な人材が有つ処、それが桐生倶楽部なのだ、そう思いたい。

一部の人のいわれる社交倶楽部ときめつけて、社会的役割を等閑に付してばかりいては!!、そんな心配を時々してみる。

豊かさが(物質的)身について、余りにも問題の多い現代社会の中で、精神的な豊かさを求めて若い社員が多勢集うところとして、如何に充実した桐生倶楽部になってもらうか多勢の社員の皆さんに、愛社精神を燃焼して貰いたいものである。

おわりに、理事会の諮問機関として、倶楽部の未来像研究委員会でも作っていただけたらなおよいとおもいます。

(有シマ画廊社長)

## “21世紀の歯科医療は”

### 山 崎 一 順

21世紀の歯科医療では、義歯が重要な位置を占めるようになるだろう、と予想する人が多い。なぜかと言えば、高齢化社会が一層進むからである。そこで我々の歯科界では老人が増加するために、義歯の需要が増し、義歯は歯科医療の中で、重要な位置を占めるようになるだろうと言うのが一般的な見方であるらしい。その結果、多くの歯科医師達は、良りよい義歯をつくるために必要な能力を身につけることが、21世紀を生きる歯科医師の姿であるがごとく政府やマスコミは我々を見ている。確かに高齢化が進み、老人の多い社会が出現すれば、その時にはそのような社会に対応する歯科医療が求められることも間違いないことであろう。しかし老人イコール義歯と言うような考え方には私は賛成しかねる。

なぜならば、老人になると歯が抜けて義歯を必要とするようになるという現実、決して自然の摂理ではなく、患者サイド、医者サイドにも問題があったのではないかと思うのである。しかし今後の高齢化社会における我々歯科医師の使命は、よりよい義歯の供給、ではなくて、義歯の供給を必要としない医療の供給、であるべきであろう。その義歯の供給を必要としない医療を目指すべく現在では予防歯科における分野の研究が急速な進歩で行なわれ、かつ実践されており、ゆくゆくは一生義歯の世話にならず自分の歯で過ごすことが出来るようになるであろうし、またそうゆうふうになって欲しいと願うものであります。

(山崎歯科院長)

# 【解説】 干支(えと)・甲子(きのえね)

## —— その読み方と構成 ——

今年(2024年)は干支(えと)の年廻りでいうと甲子であり60年周期の最初の年である。

このような年の数え方は中国から伝来したもので古い歴史があり、推古天皇の時代に暦が始めて行われた時代すでに干支で年を数えたといわれる。

中国では古い殷の時代に10と12を組合せて60の周期で日を数えることが行われていた。これは甲骨文字の断片にも見られる。その後年を数えるようになった。

十干とは甲、乙、丙、丁、戊(ホ)、己(キ)、庚(コウ)、辛、壬(ジン・ニン)、癸(キ)、これに五行説が発生し、十干を陽陰に2つづつに分けて組合せ次表のようにした。

陽は兄(え)、陰は弟(と)と読む。これにより十干は次のように読む。

木 き	甲乙	え兄陽 と弟陰	きのえ きのと
火 ひ	丙丁	え兄陽 と弟陰	ひのえ ひのと
土 つち	戊己	え兄陽 と弟陰	つちのえ つちのと
金 か	庚辛	え兄陽 と弟陰	かのえ かのと
水 みず	壬癸	え兄陽 と弟陰	みずのえ みずのと

これに次の十二支を組合せて60の循環としたのである。

子ね(シ)、丑うし(チュウ)、寅とら(イン)、卯う(ボウ)、辰たつ(シン)、巳み(シ)、午うま(ゴ)、未ひつじ(ビ)、申さる(シン)、酉とり(ユウ)、戌いぬ(シュツ)、亥い(ガイ)。

漢字に動物の名を当てたのは後代のことであって、そのため迷信的暦法が干支に結びついたのである。

干支の組合せは次表の通りである。

さて上記の表には己や巳の文字が出てくる。さらに己が加わると如何とも覚えにくい。そこで次のような覚え歌がある。

「ミは上に オノレ・ツチノト下につき スデ

にヤムのみ中ほどにつく」

さらにくわしくは、

「ミ・シは上 ヤム・イはスデニ中ばなり オノレ・ツチノト・コは下につく」

干支番号表

干支	干支番号	干支	干支番号	干支	干支番号	干支	干支番号	干支	干支番号
甲子	1	甲戌	11	甲申	21	甲午	31	甲辰	41
乙丑	2	乙亥	12	乙酉	22	乙未	32	乙巳	42
丙寅	3	丙子	13	丙戌	23	丙申	33	丙午	43
丁卯	4	丁丑	14	丁亥	24	丁酉	34	丁未	44
戊辰	5	戊寅	15	戊子	25	戊戌	35	戊申	45
己巳	6	己卯	16	己丑	26	己酉	36	己未	46
庚午	7	庚辰	17	庚寅	27	庚子	37	庚戌	47
辛未	8	辛巳	18	辛卯	28	辛丑	38	辛亥	48
壬申	9	壬午	19	壬辰	29	壬寅	39	壬子	49
癸酉	10	癸未	20	癸巳	30	癸卯	40	癸丑	50

この干支の中で、中国、日本では革命の運数説があり、日本では辛酉(かのとり)甲子(きのえね)の年は変事多く、度々改元が行なわれた。

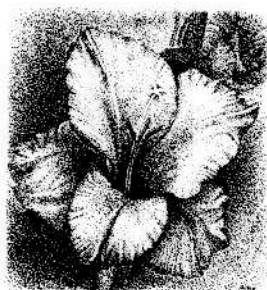
今年の甲子は人工衛星さくら2号に象徴されるごとく通信情報革命の年といわれている。

甲(きのえ)は草木の種子が固い甲皮を破って発芽することを意味し、子(ね)は後でつけたネズミではなく滋り成長することを意味する。

暦法の子の方位は真北、子の刻(九つ)は真夜12時の時刻である。それぞれの出発点を意味している。

何れにしても今年(2024年)は萬を持して再出発し、古い殻を破って新しい生命を生み出す年なのである。

因みに今日用いている曜日(日曜日)は、唐の時代すでにペルシャより伝わり、遣唐使により日本に伝えられた。当時曜日は密と書いた。今日通用する曜日の日付と一致している。



新井リコ



# 秋の美術展散歩

昨年の10月30日、桐生倶楽部美術部の名画観賞会をおこないました。

群馬の森の近代美術館で山種美術所蔵作品による「近代日本画名作展」が催されていましてので行楽をかねて文化活動の行事として参加し、さわやかな秋の一日を親交のうちに過しました。

人気作家達の代表的な作品を中心に、かなりの大作を含めた展示で、日本画の近代史が一目のもとに解かりやすく並べられ、親しみやすい情緒と深い思考を与えてくれる、りっぱな展覧会でした。恒例により全員で昼食を楽しみながら、種々の話に心はずませ。次回からはもっと参加者を広く募ろうと計画をねってみました。

参加者は、伊田・丸山・飯田・須賀・池内・保倉の六名でした。

桐生倶楽部美術グループ 保倉一郎



## 倶 楽 部 だ よ り

### ◎11月

- 理事会 (8日)
- 歩く会 (13日) 「赤城黒松山へ」
- 郷土史研究会 (21日) 第2回「買継商書上家文書とその歴史」

桐生市立点字図書館長 堀越靖久氏

- 俳句会 (21日)
- 囲碁会 (23日) 秋季囲碁大会
- 月次会 (29日) 「水芭蕉の尾瀬を訪ねて」(ビデオ放映)

### ◎12月

- 理事会 (7日)
- クリスマス (8日)
- 歩く会・郷土史研究会 (11日) 「桐生の歴史を尋ねる会」桐生氏ゆかりの梅田地区を尋ねて

### ◎昭和59年1月

- 新年互礼会 (3日)
- 歩く会 (8日) 「吾妻山より万が入迄」
- 理事会 (9日)
- 会計監査 (23日)
- 俳句会 (24日)
- 臨時理事会 (30日)
- 定時社員総会 (30日)

### ◎2月

- 理事会 (9日)
- 歩く会 (12日) 「高津戸要害山から川内長尾根峠へ」
- 俳句会 (21日)
- 懇話会 (27日) 「桐生和紙」講師 星野増太郎氏

## 各室定員数並びに使用料

59. 4. 1 改訂

室名	定員	半日	9時~17時	17時~22時	備考
1号室	30名	3,400円	5,300円	4,500円	
2号室	15名	2,800円	4,300円	3,400円	
5号室	7名	1,300円	1,900円	1,500円	
6号室	15名	2,800円	4,300円	3,400円	
4号室	7名	3,300円	5,300円	4,500円	
二階広間	100名	6,300円	12,000円	7,500円	

テラス	20名	2,300円
あづまや	20名	1,500円
厨房		1,300円
庭園		7,500円
一般社員 定期使用者		6,000円
		4,400円

## 84年新年互礼会

寒さは厳しいが、静かなお正月を迎えた1月3日午後0時30分、恒例の新年互礼会は100名を越す会員の出席を得て盛大に開催されました。

平野副理事長の開会の挨拶、引き続いての前原理事長の挨拶は、近年に無い充実した年頭の挨拶となりました。産業、経済、文化と停滞する桐生の実情に将来を心配し、今こそ桐生倶楽部社員により先人を見習っての勇氣ある発言と活発な行動を期待するとの一言は、参会者の多くに感銘を与えました。

祝詞として、小山市長、長谷川四郎代議士、日野商工会議所会頭よりの挨拶は、昨年一年間各種選挙の余韻覚めやらず、の感じの多いお話しでありました。

峰岸市会議長の乾杯に開宴、社員一同語り合い、歡をつつ、午後2時30分散会しました。

今年もよい年であります様にお祈り致します。

## 83年クリスマス祭

桐生倶楽部恒例のクリスマス祭は、12月8日(午後6時より2階大広間に於て開催されました。総選挙の真只中と週央を心配致しましたが、幸暖かな穏やかな一日だった為100名近くの大勢社員並家族の参加を得て盛大の内に、北川行事委員の司会に依り、賑やかに開会されました。

金谷理事の開会の挨拶に始まり、森寿作社員、小池夫人のリードによる讚美歌が荘厳に響きわたる中、書上理事による聖書の朗読が行われ、クラブ伝統のクリスマス祭の雰囲気の中に、前原理事長の挨拶、乾杯に続いて開宴、南中学三年生の、中島弘幸君の名人芸大型手品に会場はわきにわくやがてジングルベルの軽快なリズムの流れる中、書上理事の扮するサンタクロースの登場、子供達はサンタクロースのおじさんの贈物に目をパチクリ、宴は愈々クライマックスに達し、やがて恒例の福引に会場は近年にない盛り上りを見せた。楽しいクリスマス祭も、会場に響きわたる拍手にホタルの光の流れる中を名残り惜しみつつ、盛大裡に終了しました。

毎年ながら年末多忙の中を会場整備、準備等にご協力を頂いた行事委員の皆さん、又特別のご協力

を頂いた会員の皆さんに深く感謝申し上げます。

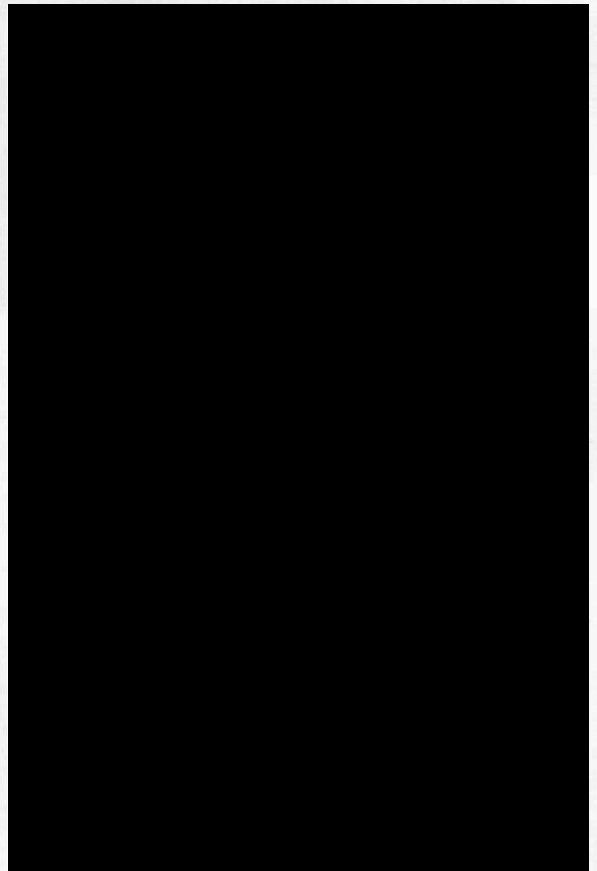
行事委員長 五十嵐健雄



## |||| 新入社員紹介 ||||

桐生電報電話局

桐生市末広町1-26





## 桐生倶楽部文化祭

— 5 月 3 ~ 5 日 —

5 日 (日) 3 時半ガーデンパーティ  
皆様の御参加をお待しております。

### 桐生倶楽部役員構成の変更

2 月 9 日理事会で、役員担当を次の通り新設した。

総務委員会

委員 長 塚越 平人

副委員長 小池 久雄 飯山 清治

任務としては、長期にわたる企画、総会の企画運営、職務人事などを担当する。

兼てからの懸案であり、今次総会の意見を取り入れ立案された。

### ⅢⅢ 編集後記 ⅢⅢ

今年は干支 (えと) で数えた甲子 (きのえね) の年である。干支が新しくスタートする年である。

問題意識を十分把握できる壮年時代に甲子の年を迎えるのは一度しかない。

古来時代の改まる年といわれる。

今年は情報革命の年であり、ニューメディアという新語が、巷に流れる今日この頃である。

果して桐生クラブにおいては、新年互礼会、定時総会と新時代の胎動を感じる熱気が渦まいているように思われます。

記録的な寒さと雪に見舞われた今年の冬。

今年ほど春を待ち遠しく感じた年はありません。

こんな時「歩く会」の本年度計画の発表。

サア出かけましょう。自然のいぶきにとっぷりひたりましょう。 (か)

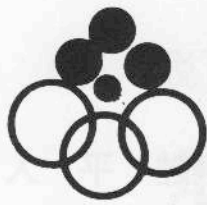
社団法人 桐生倶楽部会報 第 41 号

1984 年 (昭和 59 年) 4 月発行

発行人 前原 勝樹

編集責任者 書上 誠之助

印刷 ツボノ印刷株式会社



# 社 団 法 人 桐 生 倶 楽 部 会 報

〒376 桐生市仲町2-99-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



## < 目 次 >

額紫陽花.....	副理事長 塚越平人(2)
解説 地場産業振興センター.....	(3)
これからの医学の課題.....	百瀬 皓(7)
詩.....	芝山 かおる(9)
倶楽部の伝統的風格を保つために.....	室内環境整備委員会(10)
フォトサロン.....	(11)
社員のページ 曾我悟、奈良彰一、丸山正一、後藤久夫、笠木茂、村田豊樹.....	(12)
俳 句.....	(15)(18)
桐生祇園天王祭礼.....	栗田 豊三郎(16)



# 額紫陽花一（あじさい記）



副理事長 塚 越 平 人

つゆのあがり間近い我が家の庭園の一隅に今年も「額あじさい」が盛んである。今は高さ1.3mの大株であるが、もとは20cmの小さな茎であった。普通のあじさいと異なり地味な花の模様が私には好ましく思える。またこの花には私なりにそこはかとない思い出がある。この花を手に入れたいきさつというかそのルーツは、約10数年前私が桐生市の教育委員をしていた時にさかのぼる。

当時の委員長は森口順四郎氏、委員長職務代理者は森島秀氏、委員は私と岸直枝さん。そして教育長は木村勇氏であった。年一度市を離れての旅は恒例であったが、その年は能登半島一周ということで夜行で金沢迄行き、金沢でレンタカーを借りて内灘、千里浜、巖門、輪島、七尾と能登半島を2泊3日で一周するコースであった。運転は私と森島さんと交代で行った。途中は消略するが、快晴に恵まれて第一日は輪島どまり。翌日は時国家を見学後、最北端の灯台のある禄剛岬（通称のろし）そこの茶店の主人は退職後間もない教師で、わざわざ舟を出して釣りたての魚を料理して食べさせてくれた。さすが日本海の魚は美味でありその味は今でも忘れられない。

のろしの手前、千枚田と曾々木海岸の中間に時国家がある。時国家は上、下とあり双方とも館造りの豪邸で、特に上時国家は立派である。この「時国」は平時忠の息子である。平時忠は平家の最盛期に「平家にあらずんば人に非ず」と言った人で大納言である。壇の浦の海戦で義経に負けて捕虜になり、当然死罪であるべき所その昔、常盤御前が雪の中で三子を抱えてさまよい平家に捕われた時、清盛の命で男の子三人は殺されることになったが、その幼児の命ごいをして助けたのが時忠でこのことから頼朝より死一等を減ぜられて能登

へ流されることになった。しかし頼朝はひそかに刺客を放って時忠を殺そうとした。時忠ももとは平家の武将であるので、これを切り払いながら能登に達し、更に迫り来る追手を逃れて舟で九州に渡ろうとしたが台風により吹き戻されて果たせず海岸より烏川という小さな川をさかのぼること約10軒、山の懐に抱かれた小盆地に隠れ、そこで一生を終えた。主従8人の墓が今でも残っている。

その小さな谷間に代々墓守りをして現代に至っている人がおられる。私共が尋ねていった時に「おいで候え」と言って出迎えて下さり、昔の話を縷々説明して下さいました。この谷間へ降りて行く途中、小道に沿ってそこここにひっそりと咲いていたのがこの額あじさいである。木村教育長が何本か小さい茎を掘り取り大事に持って帰り、その一本を我が家に植えて下さった。爾来、毎年梅雨時になると夕暮れにうっすらと白く浮かんで見える花を見やりつつ、今は亡き森口、森島、木村の各氏を偲ぶよすがとしている。

参考 額紫陽花「があじさい」ユキノシタ科の落陽低木、伊豆地方など暖地の海岸近い山地に生える。茎は根際から叢生し、高さ約2m、葉は長卵形で厚い。紫色の花が密生し周囲に数個の装飾花が並び額縁のように見える。



## 〔解説〕

## 地場産業振興センター

地場産業振興センターは、桐生広域地区の産業興隆の要（かなめ）としてその設立が要望され、各方面で地道な調査研究活動が進められている。桐生市や民間団体からも陳情書が出され、桐生市周辺の市町村が連合して期成同盟会が一昨年発足している。

地方産業振興のため有利な融資条件が整えられており、その成否は業界の熱意と適切なビジョンと実行力にかかっている。

本講は建設資料の一部を紹介し、大方の理解を深め、建設推進のため御支援をお願いする次第である。

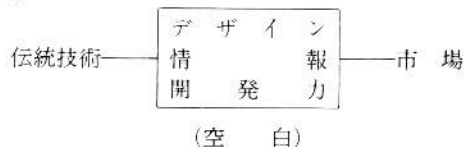
## 地場産業振興センター とは何か

## 〔1〕 ま え が き

関東地方は統計的にみて地場産業といわれる企業は比較的少ない。しかし桐生を中心とする東毛一帯は織物を中心とした地場産業により主として構成されており、この地方に振興センター〔以下略す〕を設立することは意義深い。

このビジョンは振興センター設立の意義を述べて一般の理解を深めようとするものである。

現在中小企業が停滞している最大の原因は伝統技術と市場の間の空白をいかにして埋めるかということである。空白とは次の如きものが考えられる。



この空白を埋める役目をするのが振興センターに外ならない。中小企業はデザインやアイデアを経営資源として管理し組織化する点において欠けている。下請や注文生産の時代からオリジナル商品を生み出す体質改善の時代が来ているのである。これは織物のみならずすべての産業についていえることである。新しいライフスタイルへの無関心

が問題なのである。

国際化、多様化、情報化、エレクトロニクスショッピングと次々と新しい波がおしよせてくる。

振興センターはこれらに対して対応できる柔軟即応の体質を持たねばならないだろう。

開えるセンター、若やいだセンターとしてリーダーシップを持った人材の活躍が期待される。

## 〔2〕 センターの柱

- ① デザイン、創造性の開発ということが全体を通じての主要テーマとなる。大企業に比して地場産業の弱点でもある。
- ② 情報（市況・技術・デザイン）の紹介、入るもの出るもの。
- ③ 技術の保存、整理と開発。
- ④ 機械金属、繊維におけるデザインのコンピューター利用。
- ⑤ 服飾美術館…桐生織物の歴史と現代の代表織物。  
世界衣裳コレクション、現代デザイン集。
- ⑥ 桐生の顔としてのサロンの機能、文化活動の上からもコミュニティ構成の重要な要素。
- ⑦ 流通の研究
- ⑧ 教育研修
- ⑨ 異業種間の交流



## 〔3〕 具体的問題

- ① センターは業界のまとめ役、相談役ではなくて活動の中心であり産地の躍動する心臓部 であるということである。市役所の組織内の一部課でもない。優秀な製品を生み出し産地イメージを作る場である。

楽しいところ  
新しいライフスタイルへの提案  
産業の活性化への刺激

こんな雰囲気を持つスペース（空間）である。建物はこうした目標で設計されねばならない。

- ② 管理運営のためには自主的な方策を構じねばならないから積極的な活動が必要である。格調の高いレストランや即売場を計画に入れたい。昼間人口の吸引力をつけることにより産地のPRにつながるであろう。

運営基金については後述する。

## ③ 愛 称

センターは名称が長すぎるのでその理念（コンセプト）を単的に現わし、呼びやすい名称をつけたいものである。

## 〔4〕 運営について

建設資金については政府の地方産業のテコ入れとして有利な条件で調達することができる。

すなわち、現在の事業としての概算の計画を述べると13億の建設資金として、国と県から計4億補助7億の高度化資金（3年据置、後13年間返済）、自己資金は約2億である。

このような有利な条件は今後期待する機会はないであろう。産地の面目にかけてこれを有効に活用せねばならない。

さて、センターの運営資金であるが、これは運営の衝に当たる法人組織が自前の予算を調達せねばならない。

現在の試算では、施設使用料、売上手数料、入場料などを差引いてなお毎年相当額の資金を必要とする。この調達方法については、基金を設けてその利子によるのも一方法であろう。

## 〔5〕 センター組織の大綱

センターは次のように分けて考えると内容を理解しやすく、運営の面からも適当ではないかと思

われる。

## ① 情報室—(外部指向)—

ニュース、文献整理、宣伝・広報活動、企画、流通の研究（国内・国外）、業界指導、教育研修  
〔産業デザイン振興会〕：

- ・産地と中央（技術と市場）とのパイプ役
- ・デザイナー・事業指導者との交流
- ・織製品に対するプロジェクトチーム（例、アパレルと布、コンピューター応用による新商品など）
- ・異業種提務による共同事業の斡旋

## ② 服飾美術館—(過去・現在・未来指向)—

保管と展示計画、資料保存の研究

内容については〔2〕—⑤参照

## ③ 管理運営室—(内部指向)—

財務運営、県・市との関係、展示室、ホール、プラザの管理。

〔第3セクター〕〔産業デザイン振興会〕の事務。観光的要素も担当する。

## 地場産業振興センター

## 建設事業計画(案)

## 1. 施設 の 名称

桐生地域地場産業振興センター

## 2. 主体団体の名称

(仮称) 財団法人桐生地域地場産業振興センター

## 3. 対象市町村名

桐生市、大間々町、藪塚本町、笠懸村、新里村、黒保根村、東村（7市町村）

## 4. 設 立 者

7市町村並びに当該地域内の業界団体および商工会議所、商工会

## 5. 設 置 箇 所

桐生市織姫町2番5号（産業文化会館敷地内）

## 6. 用地の面積および取得方法

- 1) 面 積 約2,200㎡
- 2) 取得方法 桐生市から無償借受

## 7. 施設 の 規 模

- 1) 構 造 鉄筋コンクリート造地下1階、地上3階建
- 2) 延床面積 4,275㎡

## 8. 施設 の 内 容

- A 研究開発施設 65.0㎡

- 研究開発室 65.0㎡ (2E)
  - B 研修施設 373.0㎡
    - 技術実習室 104.0㎡ (2F)
    - 研修室 152.0㎡ (3F)
    - 和室研修室 117.0㎡ (〃)
  - C 情報処理・提供施設 633.0㎡
    - 資料展示室 416.0㎡ (B,F)
    - 資料保管室(A) 104.0㎡ (〃)
    - 〃 (B) 113.0㎡ (〃)
  - D 情報交流施設 604.0㎡
    - 会議室 468.0㎡ (2F)
    - 地場産業紹介、案内室 136.0㎡ (1F)
  - E 展示実演施設 1019.0㎡
    - 常設展示ホール 416.0㎡ (1F)
    - 大ホール 603.0㎡ (3F)
  - F その他必要な施設 1581.0㎡
    - 事務室(応接室含む) 104.0㎡ (1F)
    - 倉庫(2室) 124.0㎡ (2.3F)
    - 機械室 249.5㎡ (B,F)
    - ロビー、便所等 1103.5㎡
9. 建設事業費 1,274,750,000円

- 1) 建築主体工事
- 2) 電気設備工事
- 3) 給排水衛生設備工事
- 4) 暖冷房空調設備工事
- 5) 外構修景工事
- 6) 設計監理費
- 7) 備品購入費 (補助対象外)

10. 建設資金調達計画
- |       |             |
|-------|-------------|
| 国補助金  | 200,000千円   |
| 県補助金  | 200,000千円   |
| 高度化資金 | 675,800千円   |
| 自己資金  | 198,950千円   |
| 計     | 1,274,750千円 |
11. 高度化資金の償還計画
- 1) 総事業費 1,274,750千円  
資金内訳
 

国、県補助金	400,000千円
高度化資金	675,800千円
自己資金	198,950千円
  - 2) 高度化資金償還計画(3年据置、16年間無利子)

年度	償還金額	年度	償還金額
60	—	69	51,980千円
61	—	70	51,980千円
62	—	71	51,980千円
63	52,040千円	72	51,980千円
64	51,980千円	73	51,980千円
65	51,980千円	74	51,980千円
66	51,980千円	75	51,980千円
67	51,980千円		
68	51,980千円	計	675,800千円

12. 建設年次計画  
昭和60年度から昭和61年度の2ヵ年計画
13. 出 損 金  
群馬県  
桐生市  
桐生市業界  
他町村  
他町村業界

### 管理運営費収支予算

1. 収入支出の予算

1) 収入の部

(単位：千円)

区 分	科 目	予 算 額	摘 要
補助金収入		4,000	
	群馬県補助金	4,000	総合振興事業補助金
負担金		43,620	
	第三セクター負担金	43,620	総支出と総収入との差額不足分
事業収入		11,000	
	施設使用料収入	7,400	会議室・大ホール等
	手数料収入	2,400	常設展示場売上×20%
	入場料収入	1,200	産業資料室入場料
雑 入		600	
	雑 入	600	自販機、公衆電話等収入
合 計		59,220	



## 2) 支 出 の 部 (略す)

## 〔参考〕 1

## 建 設 県 (2年計画)

56 年度 着工		57 年度 着工		58 年度 着工	
新 潟 県	十日町市	静 岡 県	浜 松 市	埼 玉 県	秩 父 市
富 山 県	高 岡 市	愛 知 県	一 宮 市	長 野 県	飯 田 市
兵 庫 県	姫 路 市	石 川 県	金 沢 市	山 梨 県	甲 府 市
岡 山 県	井 原 市	和 歌 山 県	和 歌 山 市	岐 阜 県	高 山 市
福 岡 県	久 留 米 市	徳 島 県	鳴 門 市	奈 良 県	大 和 高 田 市
大 分 県	日 田 市			広 島 県	福 山 市
宮 崎 県	都 城 市			愛 媛 県	今 治 市
鹿 児 島 県	枕 崎 市				
計	8 県	計	5 県	計	7 県

(合計20県)

## 〔参考〕 2

## 桐生市の地場産業の概要

昭和57年度工業統計より

従業員 4 人以下の事業所を除く

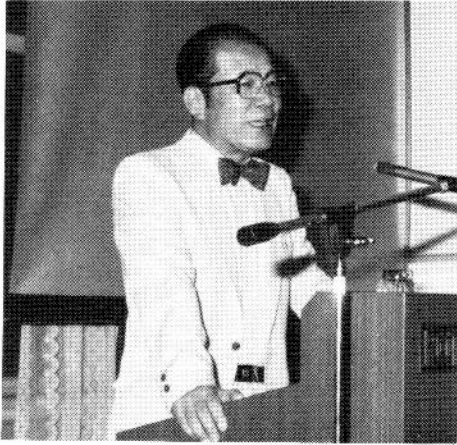
産業小分類	事業所	従業員	山 荷 額 等	占有率	備 考
その他の食料品	20	540人	477,647万円	1.40%	椎茸種駒等
織 物	252	2,282	2,448,320	7.18	
メリヤス	42	447	1,005,371	2.95	
レース・繊維雑品	28	235	431,089	1.26	
外 衣	98	1,247	1,117,264	3.28	婦人子供服等
その他の 繊維製品製造業	126	871	789,400	2.31	刺繍業等
家 具	8	422	1,038,270	3.04	
織 維 機 械	7	53	38,501	0.11	
事務用・サービス用 民生用機械器具	29	1,166	9,370,442	27.47	パチンコ機械等
その他の機械	31	352	294,905	0.86	金型等
プラスチック製品	38	470	488,911	1.43	
暖房装置・配管工事 用付属品	7	316	990,445	2.90	ちゅう房用 器具等
全 産 業 計	1,237	19,773	34,118,475	100	
地 場 産 業 計	686	8,401	18,490,565		
(比 率)	(55.46)%	(42.49)%	(54.19)%		

## ◎ 主な地場産業

絹・人絹織物、綿スフ織物、婚礼衣裳、婦人子供服、レジャー機器、厨房機器、金型、事務機器  
椎茸種駒、漬物、その他

# これからの医学の課題

百瀬 皓



## 百瀬 皓(あきら)先生略歴

昭和25年	大阪大学医学部卒業
昭和26～33年	奈良県立医科大学眼科教室研究生を経て助手
昭和33～53年	桐生厚生病院、眼科医長・部長、副院長など歴任
昭和52年	臨床眼科研究所設立、所長
昭和33年	「視覚の量子生理学」により 医学博士

## 1. 感染症について

原始時代の医学の歴史を振り返ってみると、栄養障害が高かったようである。縄文時代など、雨や洪水で食物が得られず、食うのが精一杯の時代であった。

この時代の病気は栄養障害でした。ところが中世より近世にかけて急激な人口の増加があった。都市が形成され、交通は頻繁となった。長崎や堺には南蛮船が到来した。

人と人との接触が多くなり、外国との交流が進むと、ここに伝染病が登場してくる。

堺には天然痘、長崎にはコレラが発生し、江戸まですぐ伝染しコレラで数万も死んだことがある。

梅毒はコロンブスの遠征の時にアメリカ大陸からヨーロッパに伝えられ、特にスペインに伝わり100年足らずで日本にも伝わったといわれている。

この2つはよく世界中に伝染した。当時のころのコレラは今より悪性だったようである。70～50%の死亡率であった。天然痘も20%の死亡率であった。天然痘はジェンナーが種痘をその子供に行ない予防法が確立され、日本でもそれが50年後早くも江戸末期に種痘が大阪や江戸で行なわれた。

ペニシリンも偉大な発明であり、大戦中チャールを肺炎から救ったのである。

このほかストレプトマイシンや、各種の抗生物質は殆んど細菌を撲滅してしまった。

粒腫(ものもらい)の患者も殆んど見られなくなった。微生物が抗生物質にたたかれていなくな

ったのである。

昔は命とりといわれた顔の中心上部にできる面疔なども極めて少なくなった。

今では病原菌に数えられないような雑菌が空巢のように入ってくる場合があるが、なかなか直りにくい場合がある。

しかし何れにしても、感染症は医学の勝利で遠からず解決されるであろう。

## 2. 今医学の話題

感染症が解決されて次に問題となるのは、遺伝性素因による病気である。

高血圧、糖尿病、悪性腫瘍、がん、肉腫などである。この中がんは20年くらいで、かなり有効な阻止ができると思われる。来世期にはがんが無くなることが期待されている。

つぎは老化の問題である。今日本人の平均寿命は1年間で1年づつのびているので、当分大部分の日本人は死なないことになるわけである。

困るのは脳の老化で、日本人に多い。外国の老人は冗談などいい気分が若い。日本人は40歳を過ぎると、少々ポケットしてくる。平素の日常会話が十分でなくなる。手足は完全である。類人猿でなくて、類猿人である。この対策は大きい問題である。

つぎは駄目になった臓器の交換である。この方面では角膜移植が先駆者であろう。

これは1929年に、ソ連のフィラトフの成功が最初である。5年後アメリカでも成功した。



今スタンフォード大の心臓移植は85%の成功率である。角膜は85%の成功率である。

### 3. 白内障あれこれ

聖徳太子の時代、大宝律令のころ、すでに日本の医学には、内科、外科、産婦人科、眼科が存在した。当時は白内障による失明者が非常に多かったので、大仏開眼（かいげん）の行事もこうして願望が人々の心にこめられたものと思われる。

殆んど角膜が白く濁り、そのため黒い眼鏡でこれをかくしたのである。

発展途上国では角膜による失明者が多い。バングラデシュではめくらの子供の対等が大変なのである。

しかし世界的にみて医学の歴史は有史以前から続いている。ピラミットの中から、白内障治療の器械が出て来た。またインドでは医療集団が古く存在し、白内障の手術の記録がある。

ローマやギリシャには古くから病院が存在していた記録がある。

唐招提寺を創建（759）した高僧鑑真は6回目の航海でやっと日本に到着した時、両眼を失明していたという。日本は中国より名医を招した。

胡医といって西域ベルシャ系の医師である。

当時はエジプトやアラビアの白内障の手術の技術が存在しており、このためのアラビア人の集団が広東にいたということである。

鑑真のころの技術は、水晶体を針で目の奥につき落すもので確率は悪かったようである。

鑑真の手術は失敗したらしい。鑑真は白内障ではなくて緑内障だったという説もある。

しかしこうした技術は日本に残され、今の日本の馬島先生は、平安時代に存在した馬島流医術の20数代目といわれている。

近代医学は最近100年くらいで急速な発展をしたのである。

散髪屋のシンボルマークは、赤（動脈）、青（静脈）、白（包帯）を現わしており、昔は外科を兼ねていたことを示している。

昔は白内障も散髪屋の仕事だったのである。

ドイツの医学者、博物学者であるシーボルトは文政6年に、オランダ商館の医院として来日したのであるが、眼科にも造詣が深かったといわれている。シーボルトはわが国に西洋医者を伝えた最初の人といわれている。彼は瞳を開く薬を伝えた

のだが、瞳を閉じる薬がその前に誰かにより伝わっていたようだ。

こうした医学は江戸中期に発達した。

### 4. 人類を益する医学

小医は人を益し、大医は国を益す、といわれているが医学全体が国を益するものでなければならぬ。今では聴診器1本では駄目で、総合的にやらねばならない。

医療産業は第3か第4次産業として産業界では大きい比重を占めるようになった。

今遺伝性の病気が大きくなり上げられている。血友病は小さい傷が直らず出血多量で死んでしまう病気である。

これを悪用して相手にこの遺伝性のある者と結婚させて滅ぼしてしまう政策が行なわれたこともあった。皆早死してしまうからである。

色盲は男性に遺伝するのであるが、アフリカは色盲が少ない。男で3~4%、女で0.2~0.5%である。

アフリカでは色盲の男子はライオンを見誤るので嫁が来ないので色盲が少ないといわれる。

ヨーロッパでは8%と高い。

最近学校受験では色盲はあまり問題にしないが、色伝票を会社で多く使うようになったので、企業サイドでは色盲を歓迎しない傾向がある。

ある島では糖尿病の人のみの住んでいるところがある。糖尿病の人は血液に糖分が多く飢餓に耐えて残り、後で文化が進んで糖尿病の人のみの島となったのである。

こうした素因を持たない人を残すのである。

新生児の200人に1人は奇形の要因を持ち、50人に1人は小さい奇形である。

今から650年先に50人中49人が奇形になることになる。

こうした社会は成り立たなくなり人類は減びることになるのである。

さらに問題なのは先天的痴呆症である。遺伝子に2つしかない染色体が3つあるのである。

これを操作することは社会的に認められていない。臓器移植はようやく認められるようになった

心臓移植は刑事事件にもなった。遺伝子の問題も次第に認められ、何等か人類の質の向上のために研究が進んでいる。

ソ連では優秀な青年に多くの女性を配して子供

を沢山造った。そしてこれがドイツよりソ連を守ったといっている。

ドイツも優秀な青年のみ戦場から帰郷させた。

シンガポールもこうした政策を積極的に進めており、高学歴の女性には妊娠を勧め、駄目な女性には避妊を勧めるという。

また優秀な男子にはエリート女性をつけて外国へ出張させ一緒にさせる政策をとっているという。

大学卒の者が、3人、5人と子供を生むと、進学について特別な特典が与えられる。

今日の日本の発展は中小企業の犠牲においてなり立っているのではないか。

中小企業ではとりたくても人材がないのである。

### 5. これからの医療はどうなる

医師の過剰がいわれているが、最近保険所長は医師で埋ったが専門医は未だである。

眼科は100年めに4000人であったが、現在は、

6000人である。これは研修生を含んでいる。

今、アメリカは21000人である。

日本の女子の薬剤士は過剰である。

日本では特殊な技師の免許がない。日本では技師が医療に関係して問題になっている。

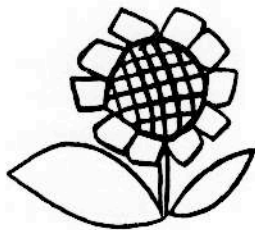
またメディカルエンジニアが必要である。

医療器械も複雑精巧となり、医療途中の修理の問題など担当者が要求されており医師とのコンビが必要となってくる。

多くのスタッフが有機的につながって国民へのサービスを行なうのである。

私の病院は眼科病院ではあるが、英語では、Institute となっている。これは医療以外に研究と教育を含めていることを意味し、これからこのような形態の病院が多くなるだろう。

(講演終了後、ビデオやスライドによって、手術の模様や、先生の海外交流の様子などくわしい説明があった) —7月月次会講演より、文責編者—



### 夏のさよなら

プールサイドに  
夕風吹いた  
誰かがクシユンとくしゃみした  
つかれたひまわり  
お花が重い  
残った宿題気にかかる  
夏のコビとは  
入道雲に  
乗ってさよなら手をふった  
日にやけくろんぼべそかいた

### とび魚

とび魚ジャンプ ジャンプ  
波の上をとんだ  
お船が見たくて  
元氣よくとんだ  
とび魚ジャンプ ジャンプ  
しぶきあげるとんだ  
遠くにくじらの  
しお吹き見えた  
とび魚の夢は  
かもめのようにとべる夢

芝山かおる  
本名 芝崎福三郎  
内地織協・専務



## 倶楽部の伝統的風格を保つために 室内環境整備委員会

理事会の決定を経て、去る4月10日、館内の飾付と整理を行う為に委員9名が集まり、絵や記念額等を中心に飾り直しました。10余年以前、当社の功労者と歴代理事長の肖像画の多くを書いた故牧島要一氏のデザインにより全館の絵画の飾付を決めていただいたときのスタイルにもどして、美しく並べ直しました。

ついでに、今ではほとんど使われなくなった道具類や、各利用者が使用した例会用の古い飾り残しの看板類を整理させてもらい、大掃除の様な作業をいたしました。参加下さった若手の方々には大変な労力をいただきましたが、効果は大きく、皆さんが今ご覧のようにスマートな壁面になりました。

特に牧島画伯の代表作であった、「つづみを持つ芸子」の絵が無事に発見され、状態も良かったので、さっそく1号室の壁の中央に飾りました。(フォートサロン参照)

氏の先生である外光派の岡田三郎助の名作「つづみをもった女」(プリジストン美術館展示作品)の構想を利用して画かれたもので、大変に優美で粹な一面を好んだ作者のやわらかく暖か味のある色調と高齢者に馴染みのある芸妓のあで姿が感心を呼んでいます。未だごぞんじない方は、ぜひ1号室のご利用を!

尚理事会に提案中ですが、館内の装飾に関係する全ての面で当委員会に相談、ないしは申付ただいて、今後の実際的なデザインを受持たせていただきたいと願います。

特に二階の正面部分の飾付は、各利用者のためのサービスを計って、今より便利で品格のある、すっきりとした形に整理しなければと考え、利用団体にも相談しながら魅力あるものにレベルアップして行く予定です。

各団体の例会用の看板や旗のデザインを中心にいずれ入替の必要な、スピーカーボックスやマイククロホン、空調器具・展示用パネル等の設置方法も工夫しなければならず、予算と並んで進行してゆきたいと思います。

すぐにも直したいものに、天上のはがれと4号

室の壁の彩色の不調和と素材の不適さがあり、2号室のクーラーの取付部分の壁面の修理も必要です。各物置の利用方法も問題があります。2階と1号室の机のいたみもひどくなりましたが、いずれ入替えのときは、それらの形や色彩調和を良く考えて選ぶなくてはなりません。

室内を統合的に美化・機能化するのに最っとも大切なこのひとつですから。

伝統的な気品ある部屋を利用者に提供出来ることこそ当館の経済的な期待を安全たらしめるものであり、合せて社員の文化的・親交的な利用に必要で大切な条件ですから。(実はこれこそが一番先に必要で大事なことなのです!)

もし今のままですごしてゆけば、他の貸室業者との競争に負けたり、利用者の心移りにあって、とりかえしのつかない経済的困難にめぐりあうかもしれません。皆さんはどうご心配になっておりますか?。

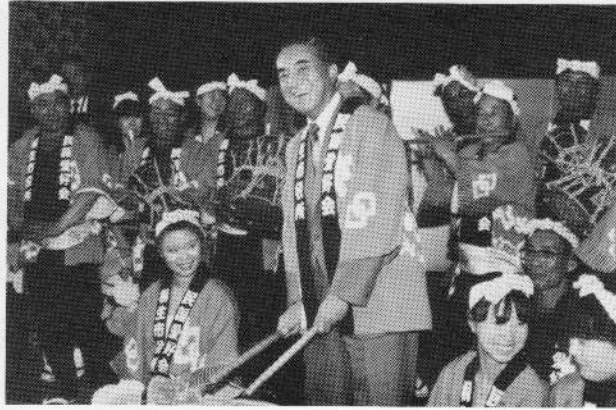
ところで先日から、ホールの正面にジュースとコーヒーの自動販売機が社員の便利を考えて設置されたと思われませんが、来館者の目に鮮かに呼かけるアメリカンスタイルの目をむくあでやかさに思わず立ちつくす方もあると思います。便利と実益と美的調和の三つ巴の問題を提示してくれましたが、考えるに充分な意味があるものです。宣伝を必要とするのでしょからしばらくはこのまま利用しても、いずれは適当なところへ移す工夫をしたいものです。ビールやワインも利用出来たら。特に美しく整頓されて気品高く保たれた館内の部屋で極上の洋酒を安く愛飲しながら友と静かに親しく会話が楽しめるようになれば利用者から一層愛される桐生倶楽部になるのではないのでしょうか。

委員・小池久雄・斉藤喜平・藤井龍人・木村博一・武藤聡文・宮地秀吉・山鹿英助・奈良彰一・保倉一郎。

記 保倉一郎



# フォトサロン



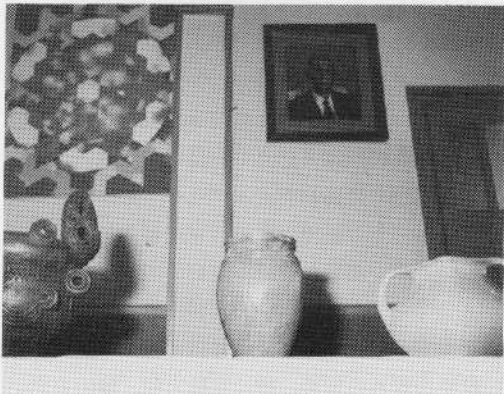
桐生市八木節チーム訪米に先立ち、中曽根首相  
を表敬訪問 (塚越平人写す)



「つづみを持つ芸子」 牧島画伯



## —文化祭から—





# 社 員 の ペ ー ジ

## すばらしい集い

### 曾 我 悟

桐生の人となり桐生倶楽部の皆様の仲間入りをさせて頂いてから、2年余が過ぎました。その集いを本当にすばらしいと思うこの頃です。

小池さんの主催で復活した懇話会も、桐生の野の花、野鳥といった郷土の自然の再発見に始まって、古代文化の発生と桐生織物、千網谷戸遺跡、祇園まつり、岡登用水、書上家古文書など、桐生の歴史をひもとく貴重な研究の成果も知ることができましたし、星野さんの桐生和紙、大曾根さんの小倉焼、川瀬さんの赤城塗と、古い伝統工芸の火を守る一方で新しい郷土工芸を創出しようとする真しな御努力にも接することができました。

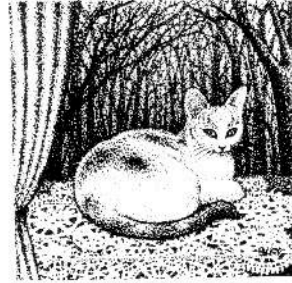
歩く会の山野跋涉をしながらの楽しい語りも毎月その日が来るのが待ち遠しく思われます。木島さんや藤井さんを始め世話人の皆さんの、心をこめての御世話には、頭の下る思いです。

鳴神山、川内、菱などの身近な山にこんないいところがあったのかという驚き、郷土史研究会の皆さんと合同で桐生氏、由良氏の歴史をたずねての、大和にもまさる桐生の「山の辺の道」歩き、そして長老の皆さんも同行されての水芭蕉の尾瀬やれんげつつじの古峯が原等々、毎日が新しい発見でもあります。

今年は、新年互礼会での前原理事長の御発言が契機となって、桐生倶楽部のあり方と桐生市の将来をテーマにした放談会等も始まりました。郷土の発展に向けての歯に衣を着せぬ卒直で自由な話し合いは心強い限りですし、又その衝に当たっておられる方々の例会での御苦心談には、考えさせられるものがあります。

1人でも多くの皆さんが、これらのすばらしい集いに参加されて、そこから桐生倶楽部が郷土の発展のさらに力強い源動力になってゆくことを念願する次第です。

(桐生中央信用金庫理事長)



新井 リコ

## 桐生都市美観会議の議案

### 奈 良 彰 一

都市は誠に厄介なものである。人の愛情と手を加えてやらなければ必ず破滅する…………。

しかし勝手な手の加え方をすればこれ又快適な都市を創ることも不可能となる。経済が優先し人間性をなおざりにしてきたツケが今、回ってきたのではないかと考えている昨今である。多くの友人や知人と語り合う中でその必要性を痛感してきた。この紙面を借りて一つの試案を提出したい。

1. 地域の特性に合わせた風致地区の見直し
2. 都市部及び郊外の広告、看板等屋外広告物の研究
3. 都市部の色彩、デザイン等の研究
4. その他必要な研究

上記は基本的支柱ではあるが細部については尚研究すべき事は多くある。

人々の目に映る巨大な屋外広告物は商業主義の何ものでもない。不快感を抱いても、いい広告物だと感じた物が果たしてあっただろうか。一企業一個人の物であっても、これは公共性の高いものであることを忘れてはならない。

建築物について色彩やデザイン等は建築確認申請提出時に何らかの提案がなされても良いはずである。特に外観は非常に公共性が高い。内部については個人の趣味、思考でも良いだろう、しかし外観は周囲との調和を重んずるべきではないか!

又ある一定の面積以上の駐車場や工場、企業には緑地比率を義務付けても良いのではなかろうか個人住宅については、いわば紳士協定のようなもので合意して推進していけるはずである。

桐生市郊外の田園、特に笠懸方面、梅田方面、

の屋外広告物が異常な乱立が目立つようになってきた。赤や黄のケバケバしい広告が所狭しと並ぶ光景は世界の類を見ないことだろう。一体広告効果ありと見るのだろうか。むしろ、交通対策上もマイナスとなり、危険度も増しかねない。乱立は互いの大きさや色で競争するのみで企業イメージを低下させても、向上させているとはとうてい認めがたいものである。

以上はごく一部の目に映るものであるが、その対策、効果、条例化等々を検討する機関の必要性を広く求めたいものである。

これ以上の美観の悪化を防ぎ、心地よい都市にするために！

いかがなものであろうか、ご意見をお聞かせ願えれば幸甚である。

(奈良書店代表)

## 最後の海軍大将 井上成美 と不肖の弟子 丸山正一

戦時中の2年4ヶ月(17年12月~20年3月)江田島の兵学校で、若き日の情熱をもえたと教育を受けたので、兵学校については数々の思い出がありますが、今回は当時校長であられた井上中將のことを思いつくまに書いて見ます。

井上中將は米内、山本、井上の海軍三羽鳥として三国同盟締結に徹底的に反対したことなどから海軍の合理的自由主義者と称された方で、最後の海軍大将といった表題で雑誌等に書かれたこともあり、ご存知の方もいると思います。我々期の前後の数期は井上校長の薫陶を受けたわけですが、我々の74期は一番長く(約2年)教えを受けたことを自慢にし、幸せだったと思っています。

当時中將の校長は17~18歳の生徒にとっては雲の上の存在で、特に親しく接したわけではありません。時折見かける端正な風ぼうや若い教官から聞かされる話などで畏敬の念をいだいていたと思います。仲間同志で校長は頭が切れ過ぎて、戦いはあまり強くないが、人格、識見抜群の知将などと話し合った記憶があります。

しかし強く感銘を受ける様になったのは、戦后当時のことを本などで読んでからです。

「学上か丁稚か」と普通学を重視し、当時の戦争最中の士官即成教育の風潮の中で、英語教育を戦後迄廃止せず、又修学年限の大巾短縮に一人で

反対し通した識見と勇気は感銘の極みです。又当時校長の書かれた教育漫語(海軍兵学校教育方針を読むと実に適切であり、実に立派な教育者であったと思います。この名校長のお陰で軍の学校であり乍ら、かたよった教育を受けずにすんだことを幸せに思っています。校長の海のジェントルマン教育はすべてが建前でないにしても、一面では敗戦を予測し、戦后国家再建への人材養成にもあった様に思われます。特に18年以降75期76期77期78期と年々我々の期の3~4倍の人員を大量採用したことなどは、国家の費用で海軍が、敗戦后日本再建のために若い人材を教育確保しておく意途があった様に思われます。

又戦后校長は隠棲され、一切公職にもつかず、公の場にも姿を見せず、一言も戦の話しもせず、経済的には極めて貧しい生活に終始され、3年程前に亡くなられました。戦後の風潮を見るにつけ、古武土的校長の姿に一段と畏敬と誇りを覚えます。

誠に不肖の教え子で、当時の校長の年齢を過しながら、何等なすべきこともなく毎日を過ごしており慙愧の念で一杯です。このすぐれた教育者、井上校長のもとで青春の一時期を過ごし得た幸せを胸に、今后共勉強してゆきたいと思っています。

思い出話で意味不明の点はご寛容下さい。

(桐生中小企業福祉事業協同組合事務局長)

## 秩父路

後藤久夫

今年秩父34霊場は開創750年目にあたり、3月1日より11月30日までの長期にわたっての特別開帳で秘仏の観音様が拝見出来る数少ないチャンスとあって過日「歩く会」の藤井、木島両先輩よりお誘いをうけ是非にと参加させて頂き、思いもかけず札所めぐりが出来ることとなりました。

桐生を朝6時30分自家用車に分乗して出発、田園地帯を走り、やがて荒川沿いの秩父路を長瀬、皆野と進むこと約2時間、眼前に武甲の偉大な山なみが迫り、セメント工場の煙突が現われるともうそこは秩父市街地、早朝の快適なドライブです。

日頃は余り信仰心が厚いとは云えない私ですが札所霊場を1番寺2番寺とめぐり何回となく白装束の巡礼者と行交い、山門をくぐり、観音堂に手を合せ、境内の石仏群に接する度毎に身も心も洗われてくる様な気になり本当に来てよかったと思いました。それにも増してすばらしいと思ったの



は、素朴で典型的な秩父の農山村地帯の広がりの中、道すがらのありし日を偲ばせる旧家の佇い、路傍の草花、杉木立に囲まれた坂道、200余段の石段、眺望のすばらしい尾根伝いの山道等々と自然を満喫し変化に富んだハイキングが同時に楽しめた事です。時には御朱印を戴く納経所での「ウメボシ」や湯茶の接待にあずかり地元の人々とのふれ合いを感じ、手打そばを賞味し、青空のもと茶店での昔なつかしい「ダンゴ」をほおぼりながらの楽しい団らん、日頃の喧噪を忘れ心地よい身心の疲れを癒すのも楽しい一時です。札所めぐりは未だ半分程（第1回目4月15日11霊場、第2回目5月27日12霊場、あと2回を予定しています。）ではありますが、あまりにもすばらしく楽しかったので再度訪ねてみたいと思って居る位でお誘い下さった先輩に感謝すると共に、一人でも多くの方々にこの気分を味わっていただき度く、普段ペン等とった事のはい私の拙い文章を解して下さいまして皆さんも是非一度秩父路を訪ねてみては如何でしょうか。

(ごとう文具店)

## 米国ディズニーランドの 『日本祭』に参加 笠 木 茂

米国のディズニーランドではここ数年間毎年春日本祭と云うのを行って居る。これは園内の各催場に於て主として日本の郷土芸術を披露し園内を日本色に彩る催しであるが平日の十数倍の入場者があると言われる程の人気があり今年は3月31日と4月1日にその第8回目が開催された。勿論希望者は誰でも参加出演出来ると云うわけではなく開催委員会の厳格なテストを受け合格せねばならぬので数回申込んでも出演出来ないで遂に断念した団体もあると云う事である。私は関係者からのすすめで3年前の第5回に参加を申込んだのであるが日本古来の芸術でなく向うが本場のバイオリンのそれも小さい子供達の演奏なので結果が案外良かったが幸にも合格し生徒27名をつれ家内と共に参加したのが3年後の今年第8回の日本祭に丁度前回と同数の生徒に家内とピアノ伴奏者それに小さい生徒の附添の母親等総勢44名で参加したのであった。此の前の時は大道具を前以って船積で運んだ団体などあり、また代表者の顔合せの前夜祭では東北の某町の助役さんと同席したが、今回

はあまり派手な出し物は無かった様に思った。でも沖縄の娘さん達の踊りなど全国から十数団体の参加があり、またカルフォルニア在住二世の数団体も加わって大盛会だった。そして警備員も特別に増加されたので演奏終了後9時頃迄夜のディズニーランドで楽しく過す事が出来子供達は大喜びであった。無邪気に騒いで居る子供達がいざ演奏となると真剣そのものとなるのはよほど聴衆の感動を受けた様で、終ると多くの人から握手を求められ、ベリーグッド、サンキューを繰返されたのは



は本当に嬉しくこの仕事をする者の味える唯一の喜びであった。

日本祭終了後ごほうびに子供達をディズニーランドで一日思う存分遊ばせその翌日ロスアンゼルス日系人老人ホームに慰問演奏に行ったが子供達の演奏を見、聞いて眼鏡の奥をふいて居る老人達をステージから見て本当によい事をしたと思ったのであった。

(笠木音楽教室)

## スイングジャズ・イン・ ノスタルジー 村 田 豊 樹

新入社の挨拶替りに何か雑文でもという事務局のご要望なのですが、来制して未だ日も浅く、何を書いて良いのやら見当もつかないので、この処凝って毎晩の様に回している「デイブ・ブルーベック・クアルケット25周年再結成アルバム」というジャズのレコードを1枚紹介致します。

1960年代に一世を風靡した『テイクファイブ』のデイブ・ブルーベックと言えど存じの方も多いいのでは無いかと思ます。そもそもグループ結成が1951年。ビックヒット『テイクファイブ』(1960年)の後1967年突然解散してしまった彼等は1976年、25周年再結成をオリジナルメンバーによっ

て行ない、合衆国25都市25大学のコンサートツアーを行なったのですがこれがその時の実況録音盤です。そしてこの直後グループは再び消滅してしまうのです。メンバーはリーダーのブルーベック(ピアノ)、『テイクファイブ』の作曲者ポール・デズモンド(アルトサクソ)、ジーン・ライト(ベース)、盲目のドラマー、ジョー・モレロの4人で、モレロはこのツアー中に倒れ、又デズモンドもツアーの後にこの世を去って、これはもう歴史に残る名盤なのです。収録曲6曲の内の極め付けは何と言っても『テイクファイブ』で、ミシガン州インターロッチェン芸大でのライブ録音。60年代当時のスイング感賞が多少緩慢になった感も有りますが聴衆の熱気が充分にそれをカバーした好録音です。題名通りの5拍子の不思議なリズム(私はこれ以外に5拍子の曲というとチャイコフスキーの悲愴第2楽章しか知りません)に乗って、デズモンドのいかにもウェストコーストジャズらしい透明なアルトサクソが上品なメロディを唄い上げ、他の如何なるジャズとも異なるD・B・Qの真骨頂を表現しています。この紙面で流麗なスイング感をお伝え出来ないのが残念です。

因みに一昨年D・B・Qはオーレックスジャズフェスティバルで来日しましたがブルーベックの息子のダニーがドラムスを叩いていました。Dブルーベックは1920年の生れですから大変長命な音楽家と言えます。

全くの雑文で失礼しましたが、この処1枚のレコードに心を奪われている中年ジャズファンのレコードレポートです。(ご同好の上にはテープコピーを謹呈致します。)

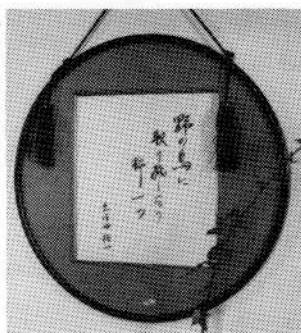
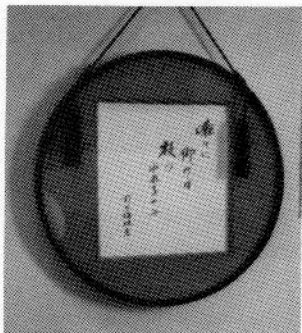
(柳栄精工術)

倶楽部句会 (四月)

花祭り	小なき御仏	人あまた	岩
嘸りや	無縁墓地あり	過疎の村	下
深山に	嘸りききつ	峡歩む	宮地
嘸りに	又立ち止る	散歩道	北川
山の端の	寺の坂道	花祭	久保田
嘸りに	目覚めし宿の	窓眩し	高木
甘茶かけ	孫の柄杓に	手を添えて	清水
嘸りを	浴びて故郷の	門に佇つ	片山
嘸りに	揚げば枝の	ゆれるのみ	光春
前	原		

倶楽部句会 (五月)

出立ちに	心も勇む	武者人形	山
暮ゆきし	花白めきし	牡丹かな	宮地
塔の影	翳りて青し	白牡丹	高木
床の間に	鐘き飾りて	兎ら寄らず	北川
傘をさす	牡丹のしべに	蟻の影	木村
一部屋は	飾りにとられ	初節句	清水
牡丹の白さ	深めて	暮れにけり	片山
牡丹も	姉妹も老いて	寺静か	遠藤
牡丹の客に	古刹の	普茶料理	光春
山寺の	今日の主役の	牡丹かな	久保田
白牡丹	崩れる程の	雨ならず	前原



文化祭より



# 桐生祇園天王祭礼 補遺

栗田 豊三郎

——栗田氏はさきに郷土史に関する貴重な文献、「桐生旧記物語」を刊行されたが、続いて「桐生地方伝承史話・桐影楽事」を發表された。今後郷土史として貴重な資料になるものと思われます。著者の許可を得てその一部を掲載させていただく。編集室——

桐生天王祭礼記は、昭和38年・桐生タイムス紙上に發表し大変好評を得たもので、小生著作桐生旧記物語にも掲載しました。今回、民俗史話・桐影楽事と題し新らしく著作を發表すべく、旧記類を調べ直すうち、天王祭礼記録中に尚多くの未發表調査実記が含まれており、これを遺憾として今回補遺の積りで發表いたします。

桐生年中行事の最大祭礼事であった祇園天王祭を再び偲んでみて下さい。

## 桐生の里ふり

さて其町（桐生）は十余町  
 長きはあさの如く  
 幾丁目とぞいひ伝う  
 末の三日の日（六月廿三日）  
 一丁目毎に舞台てうを出し  
 先づ所の習はしに年毎  
 神の仮宮をたてて  
 廿二日を宵のりといい  
 そは丁毎のこのみにて  
 良と坤とに大道の（北と南）  
 上より六ツにふみわけて  
 とし年の水無月の  
 天王の祭とて狂言さするに  
 幼児に今様を踊らせ祭とう  
 一丁づつ代りて天王丁と名付け  
 神輿をうつし奉り  
 五丁より舞台を出し夜渡りす  
 鬼瓦 懸魚など  
 飛龍舞鶴また亀など  
 虹梁も雲龍獅子に牡丹など  
 黄金五色をもて彩しきし  
 華やか幾れ劣りはあらざりき  
 一様のまユカタ風流にし

さて昼の中は暑さ  
 ほの暮に始まりて夕されば  
 昼にことなり勝りてし  
 物見の人よりつどい  
 とどむる人しあらざれば  
 又断はりなく押し上れば  
 今や今やと待つほども  
 幕明ぬれば待わびし  
 いと興ありげに残りなく  
 後なるは皆立あたれば  
 押し落されるばかりにぞ  
 もの言うとても聞き入れず  
 笑うもあれば悲しみて  
 あるハ用意などせぬは  
 取られやはせんあるハ  
 六丁は一樣ならず  
 怪きまで心を盡し手を盡し  
 金唐紙また模様唐紙など  
 若き者は丁毎に  
 各丁は提灯も一樣に仕立けり  
 こらえやうもあらざれば  
 丁燈掛行燈のともしび  
 よせ太鼓を打つに気はせわ  
 あるは棧敷二階まで  
 これ一人等いうもあり  
 次第に人はイヤまして

いと苦しくぞありけるか  
 ものとは更に思ほえで  
 見つくさんと思ひけん  
 前なる者はせはめられ  
 押しつめられて苦しげに  
 心をそらにあさましく  
 目をふき鼻をかむもあり  
 スリいふ者に髪のもの等  
 幼子など負うて押しもまれ  
 子は驚きて泣きだせば  
 出よ、いでよとののしり言へど  
 又踏みはずして川にはまり  
 志ぼりなどするもあり  
 さてひるの時ごろに  
 まづ鉄棒を両側にひき  
 そのあとに神馬を引にける  
 二丈余りに手綱をつけ  
 紫ちりめんの丸くけしめ  
 左り右りに立並び  
 一丁の内四五十間  
 万どうを子供にもたせ  
 次に神輿白張を着て  
 袍の装束して馬に乗り  
 おとこおんなも子供まで  
 また里よりくる人も  
 いずれ外題と衣裳まで

(注=外題) 書物の表題・芝居狂言の題目。

うない子のする業なれば  
 うち役も良し悪しもあり  
 かたえにはかしましとて  
 トミに出られずまどいあり  
 真裸になりて着るもの  
 (中略す)

天王の御輿を渡し奉つる  
 次に大なる幣を持ち  
 この神馬を引ものは  
 塗笠かぶり白きちばんに  
 同じ色のたすきがけ  
 割竹をもて人をはらい  
 馬を走らせその後を  
 紳を袴にたてかつぎ  
 かき奉つり神主は  
 御供すれば、又町うち  
 おもいおもいにお供す  
 ひとつになりて行かえば  
 大路にすきまはあらざりし(中略)  
 ひいき好みもあるなれど

見どころもありなきもあり  
 又この町はこの幕  
 かの町はかの幕と  
 行きつ戻りつ見あかねど  
 踊り果つれば町ごとに  
 シャンシャンシャンと  
 さも勇ましく聞えけり  
 太平楽の祝う代に  
 猶あめつちといやひさに  
 よろづ世の萬歳と  
 いづれの町もおとりなく  
 あかつき過る頃までは  
 老いも若きも集りて  
 手打して千秋楽という声  
 いとかしこくもかかるこの  
 生れあいにし有難さ  
 千歳やせんざいや  
 共にことほぎ奉つる。

#### 《後書》

「桐生の里ふり」は文化文政年の頃、彦部数馬信有が著したものです。これにより、古来より桐生天王祭礼の様子が詳しく判明し、見聞した祇園祭の賑いをうつし表はした国語詩調の名文で、今日では貴重な民俗文献となっています。

信有は天保三年(1832年)11月67歳で桐生郷広沢村に没しています。



ⅢⅢ 倶 楽 部 だ よ り ⅢⅢ

◎ 3 月

- 理事会 (8日)
- 歩く会 (11日) 「早春の雑木山と梅を訪ねて」
- 懇話会・美術部会合同例会 (20日) 「栃木県立美術館「渡辺華山展」及県立博物館見学
- 俳句会 (22日)
- 囲碁会 (25日) 春季囲碁大会
- 歩く会世話人会 (26日)
- 月次会 (27日) ニューメディアの中心・そして新時代の暮しを支えるキャプテンシステムのお話と実演開催  
講師 日本電信電話公社関東電気通信局企業通信システム部第一システム担当部長 高木克明氏

◎ 4 月

- 文化委員会 (7日) 5月文化祭打合せ
- 歩く会 (8日) 大平山へ
- 理事会 (10日)
- 懇話会 (11日) 放談会
- 行事委員会 (16日) 5月文化祭打合せ
- ゴルフ会 (20日) 文化祭協賛ゴルフコンペ 足利CC多幸コース
- 歩く会世話人会 (23日)
- 俳句会 (24日)
- 月次会 (25日) 「白瀧神社の今昔」  
講師 神官 山田武雄氏
- 麻雀会 (26日) 文化祭協賛麻雀大会 於セブン
- 将棋会 (27日) 文化祭協賛将棋大会 於6号室

◎ 5 月

- 囲碁会 (3日) 文化祭協賛囲碁大会
- 文化祭 (3日・4日・5日)
- 理事会 (8日)
- 歩く会 (13日) 「赤城里絵山へ登ろう」
- 歩く会世話人会 (21日)
- 俳句会 (23日)
- 懇話会 (28日) 「小倉焼について」  
講師 大曾根 直氏

◎ 6 月

- 会報委員会 (2日) 会報第42号編集打合せ
- 理事会 (7日)

- 懇話会 (15日) 「赤城塗について」  
講師 川瀬祐志氏
- 歩く会 (17日) 「レンゲツツジの咲く古峰高原へ」
- 俳句会 (21日)
- 月次会 (26日) 「桐生市の広域圏行政について」  
講師 桐生市企画部長 萩原詢二氏

◎ 7 月

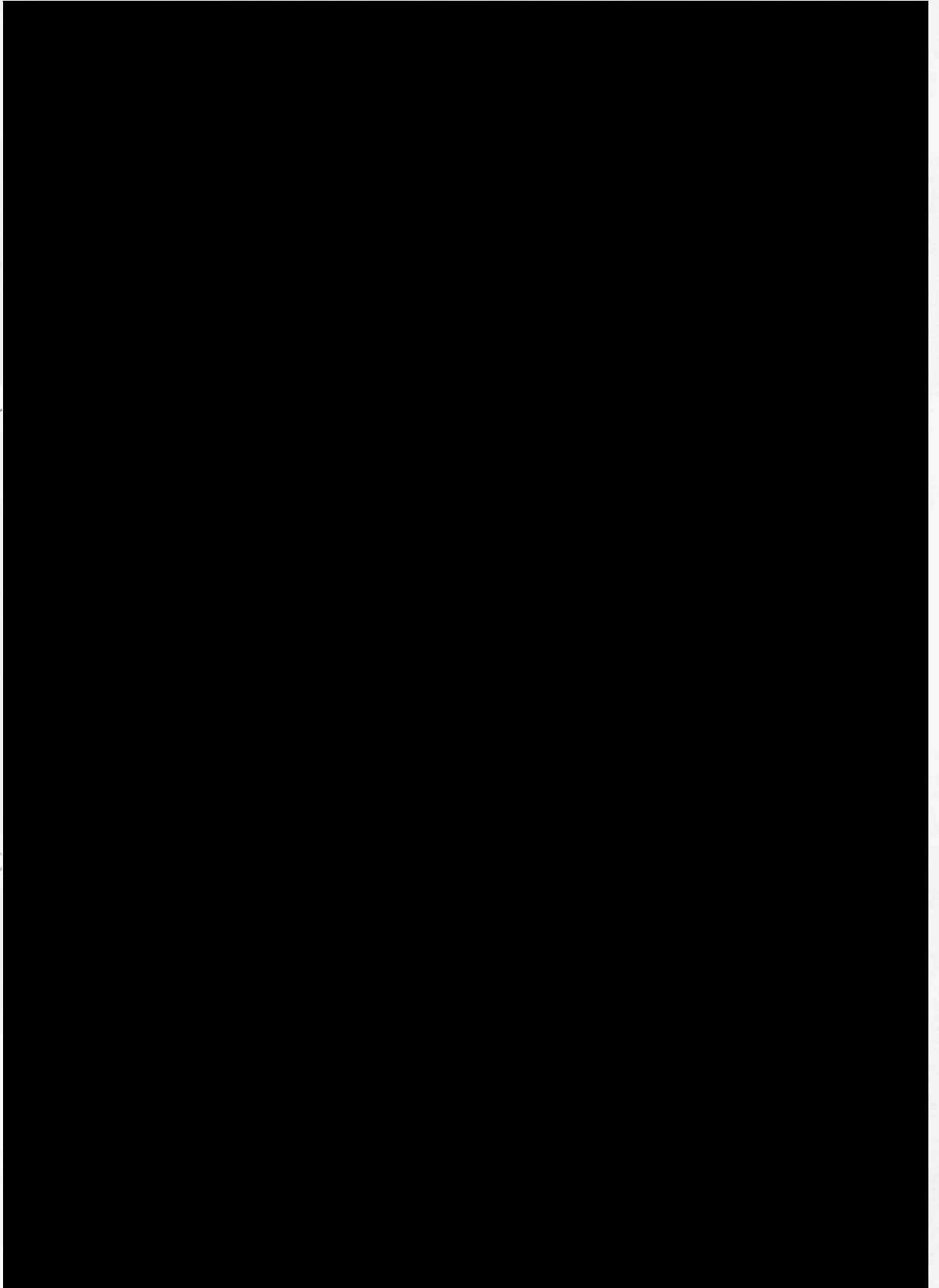
- 歩く会世話人会 (2日)
- 理事会 (7日)
- 俳句会 (24日) 於第一山本
- 月次会 (25日) 「これからの医学の課題」  
講師 臨床眼科研究所 百瀬 皓氏
- 歩く会 (29日) 「コマグサの咲く草津本白根山へ」

**倶 楽 部 句 会 (6月)**

つぶされて	三粒ほど	苺詰め	山裾の	向い合う	母植えし	時忘れ	黙しいて	遠山の
苺ミルクに	苺添えあり	一粒ごとに	かげりは遅く	卓に二つの	苺赤あり	坪庭いじる	こころかよへり	影かさなりぬ
紅を溶き	患者食	愛しむ	夏至近し	苺皿	唯眺む	夏至の宵	苺食む	夏至の宵
前原	光春	片山	北川	遠藤	久保田	山田	高木	宮地

**倶 楽 部 句 会 (7月)**

水打てば	棟上げの	草原に	出航の	打水に	山百合の	打水の	雲の峯	来客の	逆転の	水打ちて	打水も
石蘇る	太玉串や	牛散らばれり	ドラに育ちて	夕餉をさそう	果に続けり	誘いし風に	貸ボート屋の旗並ぶ	時を計りて	ポール高々	縁台将棋	甲斐なし軒の
竜安寺	雲の峯	雲の峯	雲の峯	妻の声	雲の峯	土の香が	水を打つ	水を打つ	雲の峯	はじまれり	土やけて
前原	遠藤	高木	古川	清水	片山	久保田	山田	本田	宮地	北川	





## 三ツ葉が大臣表彰 国際関係に功績

三ツ葉電機製作所（日野貞夫社長）が、長年にわたり外交知識の普及に尽力、わが国の国際化に伴う環境基盤づくりに貢献してきたことを理由に7月7日、東京・霞が関の外務省で昭和59年度外務大臣表彰を受けることになった。

同社では、社団法人外交知識普及会三ツ葉電機製作所支部（日野貞夫支部長）を発足、昭和39年から「産業人として広く国際的な視野を身につける」目的で、防衛・政治・経済・一般社会情勢等国内外の問題研究のための講演会を中央の講師を呼んで開催。地方企業としては例を見ない熱心な国際問題の学習を従業員全般に行ってきた。

（6月30日 桐生タイムス）

### 受 贈 図 書

桐生地方伝承史話・桐影楽事 A5版128P

栗田豊三郎 市内宮前町1丁目3 桐雨堂

TEL 22-5220

自費出版であるが、希望者は上記か奈良書店

TEL22-7967に照会されたい。

### 会報41号訂正

P12 1図の説明、大田→大内、著者→若者

P17 右欄下より2行 当時曜日→当時日曜

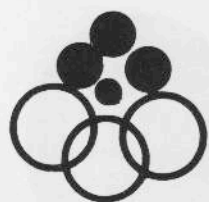
社団法人 桐生倶楽部会報 第 42 号

1984年（昭和59年）9月発行

発行人 前原勝樹

編集責任者 書上誠之助

印刷 ツボノ印刷株式会社



# 社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-99-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



モレシャン来桐 P.17 書上誠之助写す

## ＜目 次＞

倶楽部を文化の中心に.....	理事長 前原勝樹 (2)
新しいお札の顔.....	理事長 前原勝樹 (3)
社員のページ.....	吉成敏郎・小野勝行・坂本能理雄 (7)
丹羽武雄・蓮沼源一	
「前原互瀬と大出東阜の遺作展」開催される.....	(10)
フォトサロン.....	(11)
良書紹介.....	(13)
桐生広域産業デザイン振興会設立される.....	(17)
俳句.....	(18) (19)



## 〔巻 頭 言〕

## 倶楽部を文化の中心に

理 事 長 前 原 勝 樹

桐生倶楽部とは何かと云えば、市民の指導者の集いで、ここに相互の親睦を図り、それにより掘り起された郷土愛のエネルギーによって、地域の発展に役立つ原動力になることといえよう。

それ故にこそ先輩は教育、文化、産業経済の各般に涉って活動されたと傳承されている。

しかし今日は創立当時に比べて各部門に専門的の指導機関が生まれ来ているので組織力の強くないこの倶楽部に昔のような指導力を要求することは無理と言わざるを得ない。

教育や産業経済については成程そうかもしれないが、ただ文化の面では活動の分野が充分に残っていると考えられる。

それは文化と云う分野にはこれを統括指導する機関が整っていないからである。それに教育や産業経済のように専門家を養成する学校も少く、又それを専門にやっても飯が食える世の中でもないからであり、特に桐生には文系大学がないので尚更文化発展の指導力がないと云えよう。

昔の桐生には佐羽淡齋のような文化人が出た。佐羽さんに限らず、桐生の文化人はすべて事業で産をなした人々であった。即ち文化は生活安定の上に咲く華であるからである。その点わが桐生倶楽部会員はそれなりに生活安定を得た方々であるから、ここでは文化が得られても、クダラヌことと云う人はいない。気軽な楽しい集団の所以である。

それについて想うのは小池理事が主催となっている懇話会の繁昌である。その内容は工芸が主体ではあるが主として地域文化に貢献した人々に関する話題である。又月次会等の演題も文化関係が多く、そんな話題には出席が良好である。

これらを見ると倶楽部社員の動向が文化に傾いていると云ってよさそうである。即ち我が桐生倶楽部は民間に於ける文化指導機関の実体を既に備えているのである。

今世の中をみると衣食足り、教育は普及しているのでこの点はまずおいてもよい或は各々専門機関に委せてもよいが、文化についてはまだまだの感がある。小山市政が文化を言い出したのもやはり市民の求むところであろう。

そこで今後の桐生倶楽部の進路として「文化」に重点を指向したらどうだろうか。即ち会員も之を求め、スタッフも概ね揃っている先人の遺志にそう所以でもあると云えよう。当倶楽部には既に文化活動委員会がある。これを一層充実し、工芸の教室になり、絵画創作のアトリエとなり、句会、歌会の席となる等実技を取られる会場にしたい。又地方人ばかりでなく中央の文化を招待して有料公開の講演を開くとか、又往時の倶楽部夏期大学をやる等も考えたい。

桐生文化倶楽部になることを今後の一つの目標にしたいと思う。



## 新しいお札の顔

漱石、稲造、諭吉とは  
どんな人か？

理事長 前原勝樹

新しい紙幣が発行される理由として専らニセ札製造を防ぐためと当局は説明している。従って人物像にはヒゲが必要であると言う。それはヒゲ1本1本を書くのが困難であるからと言う。そのためか新しいお札はみんな有髯男子ばかりである。おっと失礼、諭吉さんには髯がない。さて髯ばかりなら他に人もあろうに今度の3人が選ばれたのはどんな理由だろうか。それは明治、大正を代表する文化人と云うことであろう。

續って従前のお顔はどうか、聖徳太子、伊藤博文のご両人はいづれも日本の進路を定めた大政治家であったのである。太子は憲法17条を定めて大化の改進の推進力となり、日本をはじめて統一国家に仕上げた大政治家である。一方伊藤博文は明治維新を推進しその後帝国憲法を創案して日本にはじめて独立国家の骨組を与えた大政治家である。この二大政治家がお札の顔になったのは敗戦後の日本をどう立直すかにあたって過去の難局を切り開いた徳をしのび、日本に新しい政治的展開を期待した国民の要望に応えたものと云えよう。

そう考えると今回の新紙幣に三文化人が並んだ所以は、やはり今后日本の希望進歩の目標として文化の興隆が挙げられたとみるべきである。そこでこれら三氏の生涯や業績を考察することは意義深いものとして、ここに小評伝を掲げるものである。

### ○ 夏目漱石



この方は文豪の代表詞であるようにその著作は死後70年にもなるがその年々の売上げ一向に衰えず、文字通り不巧の名作揃いであるからである。

特に「坊ちゃん」を知らぬ国民は一人もなく「我輩は猫である」を読まな

い学生は絶無と云ってよい程で、いづれも中・高の教科書にも採択されている。

小生の如きも中学時代にその上巻を読んでヤミツキとなり、青年時代に数回は読みつくし、いまでも作中の人物が躍如として目にうつる。かつて新潟高校受験の折その待望、中巻、下巻を同地区図書館に発見し、狂喜してこれを読み更けり、遂に肝心な入試を失敗してしまった体験がある。

漱石は慶応3年(1867)東京(江戸)牛込馬場下に名主直克の末子として生れ本名夏目金之助である。しかし子沢山の父に嫌われ二度も養子にやられた。はじめは道具屋へ。そこでは箆に入られて夜店に並べられていた。次は塩原という家に貰われたがこの家は夫妻仲が悪くいつもお金のことで喧嘩がたえなかった。そこで実家に帰ったが真の両親は祖父母と称し、塩原夫婦が実父母だと教えられていた。ある時女中のお清から真の出生について教えられ、大人の嘘とお金の欲にあきれて「真実で筋の通った生活」に憧れるようになった。その心況が「我輩は猫」や「坊ちゃん」に表われ、真実を教えたお清が坊ちゃんの中に出る乳母のキヨである。

はじめ漢学を志して二松学舎に入ったが、時世を考えて英語に転じた。やがて大学予備門(一高)に合格したのも英語が抜群であったためと云う。ここで正岡子規と同級生となる。彼は少しも勉強せず、友人漱石のノートを借りて辛うじて進級するが、当の漱石もスポーツに熱中して落第した。その後帝大に進み、子規は国文科、漱石は英文科に進んだ。

二人とも大学の講義にあきたらず、専ら図書館通を、していたが子規はしばしば郷里四国に帰って退学を企てたが漱石は専ら復学を進めた。しかし子規は遂に卒業せず漱石だけが卒業した。しかも関学以来の優秀な成績であったので高等師範教授に推薦された。しかし校長加納治五郎さんにキ



ツチリ勤めるように注意されたので、之を断った。そして田舎の四国松山の単なる中学教師になって赴任した。要するに彼は自由に気軽に勉強したかったのである。

その松山には親友正岡子規がいた。子規宅で一少年を紹介されたが、これが高浜清（虚子）であり、後に「猫」を発表したのがこの虚子編集の「ホトトギス」である。「坊ちゃん」の材料は必ずしも松山の体験ではなく、大学生時代に早稲田の講師としてアルバイトの事件によることが多いと云う。松山中学での講義中一生徒が立上り、「先生の解釈は間違っています。どの辞書にもその解釈はありません」と二冊の字引を差出した。この時先生曰く「辞書の方が間違っている。すぐ辞書の方を直しておきなさい」と。この生徒は後の東大教授真鍋嘉一郎氏で後に漱石の主治医となった。漱石は松山は一年で熊本の第五高等学校教授に栄転し、ここで貴族院書記官長令嬢鏡子さんと結婚したが、この組合せはあまり幸福ではなかった。熊本時代の弟子に科学者寺田寅彦があるが、これが「猫」に出てくる寒月先生のモデルである。

熊本は4年弱でロンドンに留学を命ぜられた。そこでは1ヶ月150円の学資なので貧窮に苦しみ、大学の講義にもあきたらず、食費をケチって本を買い専ら自習した。しかし当初の目的である「文学とは何か」の解明がつかず、国の妻子から音信が絶えて、悶々の末ノイローゼ状態となった。それが文部省に知れて引戻されそうになった。その頃ベルリン帰りの科学者池田蘭苗氏（味の素発明者）に思いがたいに晴れ、本ばかり読んでも「文学とは何か」の答は出ぬことを悟り、もっと人間の生活を知ることが大切であると社会を観察し人の話をきいた。「ロンドン塔」はその頃のフィクションである。（桐生出身の森順二郎さんはロンドン時代の漱石を知っているとか云われた。）

2年の留学が終に近づくと、早く子規に逢いたいとあせり出した。そしてよも山の話をするのを楽しみにしていたが、遂にそれは果せず子規は漱石を待たずに亡くなった。それに帰宅してみると妻子は困窮の極にあり身を切られる想いであつたと云う。

帰朝后東大講師、第一高等学校教授となったが教育者生活が味気なかったので気休めに小説「我輩は猫である」を執筆しホトトギスに載せた。ところがこれが大評判で連載され雑誌は引張だこで

売れて謂ゆる「洛陽の紙価を高からしめ」た。その後「坊ちゃん」「草枕」「二百十日」と書いたがいづれも大好評で漱石もはじめて生甲斐を感じる日を送ったという。

しかし教職にあつては充分には書けないと託っていた折、朝日新聞から誘いがあり年間長編一編を連載する約束で遂に大学をやめて記者生活に入った。

帝大教授がやめて新聞記者になるとは驚いたがその上文部省が呉れるという「文学博士」をもけた。これも大センセーションを起した。朝日入社後の最初の作品が「虞美人草」である。その間満鉄総裁中村是公氏に招かれて満州を旅行し知見をひろめた。中村氏は大学予備門時代のアルバイトの友であつた。

漱石は胃潰瘍に冒されたが執事にかまけて充分の治療が出来ず「明暗」が最後となりしかも完結せず、大正5年12月9日に湯河原で死去した。

漱石の生涯を通じて特筆すべきものは実によい友人を多数に持ったことである。即ち、子規、虚子、寺田寅彦、真鍋嘉一郎、池田蘭苗、中村是公その他である。彼の人生は金と情実をきらって清く正しく生きることに徹した。そして晩年に「我が道をゆきたい」それにはヒトにもその道を歩かせる寛容が必要である」と云っている。

死の床で子供が泣喚いでいる。もう息を引取ったかと思つた漱石はぼつちり眼を開き「もっともとお泣き」と云ってガックリ往つたそうである。

#### ○ 新渡戸 稲 造



新しいお札3人の中で一番馴染の少い方である。その名前さえ読めない人がいる。即ニトベイナゾウである。

盛岡の公園に稲造の記念碑がある。碑文に「我

太平洋のかけ橋とならん」と。この一句こそ彼の全生涯の理想と実践の姿である。

新渡戸家は盛岡藩士であるが農事方で新田開発の指導者の家柄である。担当は今の三女木附近で十和田湖の水を引いて開拓しようとするものである。しかしこの地は南部藩の最北で寒冷のため稲作は絶望視されていたが祖父、巖父の血の出るような努力でやっと米が取れた。これを記念として

生れた三男に稲造の名を与えたと云う。(1962、文久2年)

しかしやがて明治維新となり一家は困窮し祖父も父も亡くなって稲造は母一人の手に委ねられて育った。そしてその母は今や学問で身を立てる外はないとして稲造を東京の叔父にあづけて英語を勉強させた。その甲斐あって大学予備門(一高)に入学が出来て英学に精進することが出来た。やがて卒業が近づいた時将来の進路が問題になった。彼は祖父が農業開拓を使命としたことを想い、且三女木の家には明治天皇の行幸を仰いだ故事も考えて農学を志した。

たまたま札幌農学校開校に際会した。これは明治政府が北海道開発のためアメリカの州立大学の制度にならったもので、マサチューセッツ農科大学長クラーク博士を招聘して校長とした。稲造はこれを聞いて英学とキリスト教に興味があったので忽ちこれに応募し第二期生として札幌に渡った。当時の同志として、内村鑑三、宮部金吾が居て互に切磋琢磨し、卒業時には内村1番、宮部2番、稲造3番で大学予備門出身の3クリスチャンが期せずして上3位を占めることになった。この3人は「2つのJ」即ち日本とキリスト教のために尽くすことを誓った。

お前が偉くなるまで必ず生きて待っている、と涙で別れた母はその暗れ姿を見ずに亡くなったこと、それに過度の勉強のためか稲造は眼痛と神経衰弱状態となり、東京に出て医療を受けることにした。しかし少し軽快すると又勉強の事にとりつかれた。それは東京帝国大学が整備され、農学部が出来、そこに農業経済学部が生れた。これこそ稲造の最も望んだ進路であったので、これに再入学することになった。

この時の面接試験に「自分は農政と英学が学びたい」と述べたので試験官はケゲンな顔で問うた。なぜ英学などやりたいかときいた。彼は居ずまいを正し昂然と云い放った「願わくば、我れ太平洋のかけ橋とならん、と。これはクラーク博士の少年よ大志をいだけ、に応えた彼の夢であり希望であったのである。その真意は日本にも立派な文化があるが英米にはまた別の立派なそれがある。東西の理解と融合こそ人類の福祉増進の途と信じたからである。

農政学はともかくとして英学の授業にはあきたらなかった。彼が既に読破しているカーライルの

「衣装哲学」を教授がまだ知らなかったことである。彼は英学は留学しなければダメだと断って米留学を決意した。

そこで札幌一期生の佐藤昌介(初代北大総長)のツテを得て、渡米を決行した。費用は叔父の洋服屋さんが身代限りをして得た2,000円だけであった。(明治17年、1884)。

はじめペンシルバニアのシートビル大学に入ったが、東大にあきたらぬ人間がこんな駅弁大学に取る筈はなく、先輩佐藤の骨折で、ホルチモアのジョンホブキンス大学に入学し、ここで落ちついて勉強にはげんだ。

通学の途次クエーカー教と云うキリスト教の一派で清楚真摯を特長とする教会を発見し、ここに通うようになった。ここで大富豪の知遇を得て日本の話をする機会を得、この聴衆の1人、メリーエルキントン嬢とめぐり合う。これが後の稲造夫人の満里さんである。ここに在学中に既に札幌農学校長に栄転していた佐藤昌介から朗報がとどいた。それは改めて農学校の教授に任命され3年間のドイツ留学が認められたのである。それまで私費留学生で困窮を重ていたが、それからは公費生となり、しかも帰朝後の職場まで安定したのである。

ドイツ留学の話は略して、その卒業後アメリカを訪れ既に恋仲になっていた満里さんと結婚し、これを伴って帰国して札幌の教壇に立った。

彼の名声は上ったが、生れたばかりの長男が夭折したそのショックで満里さんは病気となり、遂にアメリカに帰って療養することになった。そして彼も校務と男ヤモメの暮しで又々持病が出て神経衰弱になってしまった。

幸に満里さんは約1ヶ年で帰国され、それに多大の父の遺産を持って帰えられた。稲造夫妻はこのお金で兼ねて経営した民衆学校である遠友夜学校を整備し市民の一般教養の向上につとめた。しかし今度は稲造の病気が思しくなくなったので夫妻でカルフォルニアに転地療養する破目になった。

療養中彼は考えたことがある。それは日本の道徳の根元である。西欧ではそれをキリスト教にもとめている。日本にはそれに該当するものがない。外国もみんなこれを不思議にした。稲造は「判った」と膝を打った。それは武士道である。武士道は武士の生活習慣とこれを貫く精神のあり方であるが、指導者である武士の道は自然に民衆に滲み



こんで以心伝心で日本人の道德の基調になったのである」と。そこで英文「武士道」を発行し、大反響を起して文名一挙に上った。これは世界中の図書館、大学に頒布蔵書とされ、日本ではその訳文が広く読まれた。この英文武士道こそはじめて日本の真の姿を世界に紹介し、彼の念願である「太平洋に橋をかけた」のである。

病癒えて帰国すると仕事が待っていた。それは日清戦争で割譲された台湾の開発である。それは郷里の先輩後藤新平民政長官の懇望によるものである。ここではじめて自分の専門である農政学を実践し台湾西部を砂糖の世界三大産地の一つに仕上げたのである。しかし植民地開発には一応成功したが、人民は必ずしも幸せになったとは思えなかった。これに悩んでいた時、京都帝国大学教授の声がかかり、同学で植民政策を講じ、農学博士、法学博士の学位を得た。

稲造は京都が気に入る、ここで永く暮したいと思っていたが、牧野伸顕伯の命令（文相）で第一高等学校々長となった。

その7年間の在職は日露戦後の思想動揺の時にあたり理想主義と人格主義をかかげて青年思想の中核となってその帰す方を示した。時に芦花の講演会を持ち、その進歩的論調が災して文部省から譴責処分をうけたこともある。

その後日米交換教授として渡米し、或時東大法学部教授となり、日本女子大の初代学長をつとめた。

第一次大戦後の視察団として後藤新平に従って欧州巡視中に西国寺侯の平和会議の一団と出会った。平和会議の結論として国際連盟が創設され、日本にはその事務次長が割り振られた。西国寺侯の随員である牧野伯の目にとまり稲造はそのままその職につき7年間も国際連盟事務次長として世界数十ヶ国を相手にしその後の25ヶ年間の平和の礎を築いた。大任を果すとすぐ太平洋会議の主席として渡米する。これは日本移民排斥に関する問題で、ここにも太平洋の橋の役をした。

その後満州事変がおこり又々第5回の太平洋会議に出席し国家の命運をかけた大演説をし「共存共栄」を叫びつづけた。そしてこの旅行中、カナダのバンクーバーで腹痛を起し、昭和8年（1933）急性膵臓エソで急死した。墓地は東京にもあるがバンクーバー大学のキャンパスの森に眠る。

### ○ 福 沢 諭 吉



九州中津藩の下級武士の二男として天保6年（1835）大阪の倉屋敷で生れた。のち中津で育ったが身分制度の不条理と不合理的な生活態度に反感を感じた。長じて蘭学を

志して長崎へ出て苦学したが藩上役の邪魔で居たため江戸に向って出奔した。途中大阪の兄の宅に身を寄せた。そこで緒形洪庵の適塾の名声を知り、ここに入れてもらう。天下の俊秀の集まる日本一の蘭学塾ですが教材の原書は10冊ほどしかなく、グループでこれを借りては写し邦訳した。みな時間も寝食も忘れての猛勉強であった。従ってここから明治時代を開いた指導者が沢山出たことは御承知の通りである。

この頃幕府は外国の圧迫で和親条約から通商条約を強要され開国の止むなきに立ち至った。そして外国事情を知るため蘭学の必要を知った。福沢諭吉の属する中津藩も同様で諭吉が適塾の長をしているのを知り、江戸に呼んで蘭学塾を開かせた。これが現在の慶応義塾の始めである。（1871、慶応4年）

上野の戦争の銃砲の音をききながら講義をつづけたことは有名な話である。諭吉の教学の精神は西洋の学問を通じて、合理的精神と独立精神の高揚であった。

ある時横浜の商館の前に佇んだところ、外人の喋ることばが少しも判らないことに驚き、これはオランダ語ではなく英語であることを知り急遽英語を学び直したことは彼の決断と行動力の賜であろう。

これより前、諭吉は二回外国へ行った。第一回は修好条約調印のための威臨丸でアメリカへ。これは日本人がはじめて太平洋を渡った大冒険航海であった。上陸してみると驚くものばかり、馬車、汽車、鉄工業、もっと驚いたのは上下の区別のないことであった。ダンスパーティーでは、高官もおかみさんが一緒に踊っている。それに「ワシントンの子供」はときどき「並の町人の主婦」になっていると平気で答えられた。

日本なら偉い人の子供はみんな高位高官がお大名の待遇をうけているのにと考えていたからである。

その後同じ使命でヨーロッパにも行った。今度は南廻りでパリへ行った。そこでは国力の差と云うものを身にしみて感じた。

帰朝の第一着手として「西洋事情」と云う本を出版した。それは外国の実状を知ってもらい早く日本を強く豊かにせねばならぬと感じたからである。又明治5年には「学問のすすめ」を出して「天は人の上に人をつくらず、人の下に人をつくら

ず」と説いて官尊民卑の打破につとめ明治の発展期を指導した。又この思想を拡めるために「時事新報」の発刊を取行した。

諭吉は一度も官途につかず爵位も得ず、一市民として日本の文化に貢献し、「福翁自伝」を書きあげ明治34年(1901)66歳で脳出血で亡くなった。  
(理事長・前原医院長)

## 社員のページ

### 桐生倶楽部 青年部の思い出

吉成敏郎

大戦後アメリカ軍の占領下で戦中の余儀ない供出のため、機音も消え果てた織都桐生、私と桐生倶楽部の接触はそんな頃始まっている。

当時慶大に在学中で食糧も乏しい東京と故郷桐生の間を頻りに往復していた頃、列車の中で早稲田の制服を着ていた小池久雄さんに誘われて倶楽部へ顔を出すようになった。これが私がその後ずっと桐生に在住するようになった一つの機縁であったと思う。

当時、たまたま疎開先の桐生に永住をきめて居られた三田文学賞作家の南川潤さん、又その関係で来桐していた坂口安吾さん、桐生在住の鳥井足さんなど文学的雰囲気の中で、その頃の理事長、斎藤長平さんや境野武夫さんなどの肝入で先人が育て上げた桐生倶楽部に青年部が発足した。



敗戦の混乱と不安の中で既成の観念、思想の破壊と将来に対する模索の中で我々青年は何をすべ

きか！意気新な若人の集りであった。

メンバーは前記小池さん、斎藤喜平さん、吉野一郎さん、寺内三郎さん等々、男女30数名が毎日曜日毎に集りを持った。幹事の発送する週報によって懇談会、研究会、討論会、見学会などに時間の過つのを忘れたものだ。南川さん、境野さん、又当時の理事長さん達もよくつきあって戴いた。

その頃は音楽演奏者などの来桐公演も多く鰐淵氏の伴奏をなさった植織織衣さんなども目に浮ぶ。

青年部の一部のメンバーで桐生青年タイムスなる週間紙を一般向に発行し乏しい時代の紙集めなどに小池さん、斎藤さん、増山作次郎さん、黒沢岩雄さん、私など結構忙しい日々でした。

青年部の中でもおめでたいカップルも2組でき現在、お孫さんに囲まれている小池、斎藤夫妻がそうである。

今、散策のみぎり吾妻公園の南川潤記念石の傍にたたずむと、当時附近の梅の花盛りの下で遊んだ思い出が今は老木となった梅の枝に重ってまざまざと思い起される。

南川さん、境野さん、折茂博さんなど今は亡き皆様の御冥福を祈り、又今後の桐生倶楽部の発展を祈願して己まない。

(別掲 当時の写真(お知りあいの方が皆お若いでしょう))  
(両毛倉庫棟) 桐生支店長)

### 失ったものは何か？

小野勝行

大正生まれなのに、何か明治の青春を感じさせる、渡辺ガバナー。

昨日の、桐生インターアクト認証式での爽やか



な風韻のある声で語られた時、酔語が巧まずして詞華を織りなし、一言一句は、聞く者の胸に何かを刻印したようでございます。お話を拝聴しました私は、何年か前に訪れた広島での老妓の話を思い出しておりました。その老妓が、まだ子供のころ広島に浅野長勲候という九十幾つの本ものの殿様が生存していたそうです。旧幕時代、広島藩42万石の当主、この殿様が「近ごろ蚊が食つても、食いついたままにしておくのだ。」とおっしゃったとか。

また、お風呂に入りましても殿様は、ぬるいとか、あついか云わないもので幼少の頃から教えられるんだとのこと。家来のおちどになるんだとのことでした。

江戸幕府は、殊の外儒学を重んじていたので殿様には常に「夫子の道は『忠恕、あるのみ』」というような、思いやりの精神、が大事なものとされておったようです。

私は、この話が妙に印象に残っておりました。と申しますにはそれなりの理由があったのです。『ほら、「忠」という字に「怒る」というような字を書いてチュウジョと言うでしょう。と老妓が云うので私も判ったような顔をして頷いておりましたが、実はよく判らなかつたのであります。私は鼻先を爪で弾かれたような思いでした。そのようなことがありましてつまみぐいですが、少しばかり勉強してみる気になりました。

渡辺ガバナーは、桐丘の校是、「恕」に感銘、『我が意を得たり』と原稿以外の言葉が、まるで電気ドリルのように鋭く現実を、くだけはじめたのであります。

衛霊公篇15に出てくる、一言で人が生涯守っていかねばならない事は何んですか？という子貢の質問に、孔子は、「己の欲せざるところは人に施すことなかれ。」と「これ恕なり」と答えたとおっしゃいました。論語全体の一割以上を孔子は「仁」について語っておりますが、決まった定義はしておらず仲弓や四配の一人、会参にも子貢にもそれぞれ違った表現で幅の広い云い方をしているようであります。「忠」とは誠意懇情を尽くし、事にのぞんで『親切第一』。「恕」の方は、思いやりのこと。つまり先方の境遇、心理をよく考察してやることとなっております。

渡辺ガバナーが感銘された通りさすがに人間性豊かな全人教育と恕の精神を標榜される桐丘校長

高橋博先生、日本古来の醇風美俗いまだに失われていないことを痛感する次第であります。

しかし、それに引換え最近の騒々しい混沌とした世相は、なんとしたことでしょう。

戦後39年間、日本は農業文明から工業文明に急転しました。工業文明は自然を征服する事が善とされております。生産力の急上昇で人間の欲望は解放されてきました。しかし欲望の体系的研究は遅れています。欲望の秩序、心の秩序という様なものが、今後、日茶苦茶になっていくような気がいたします。アメリカには、「時さえたてば、何もかも」という古い歌があるそうですが、それは丁度、大地に早く荷物を降ろす為に階段を億劫がって一気に上の窓から大切な家具を地上へ放り出した様なものです。家具はバラバラ、もうそんなものは時代遅れのガラクタだ。という声につられて人々はプラスチックや人造皮革の見てくれは綺麗で、それでいて安い品物、手造りの心を知らぬ量産品へと群がっていった。便利で手軽でそれでいて一見豪華なものが誰の手にも平等に入るような結構な戦後の時代はそれなりに私達を喜ばせてきました。しかし、果して、それが人々の生活や日本の社会にとって本当によかったことだったのでしょうか。

私達が、放り出してこわしたものは、実は、かけがえない高価で価値のあるものだったのではないのでしょうか。 (小野眼めがね店主)

## 入会に際し思うこと

坂 本 能 理 雄

此の度、当倶楽部への入会が認められ大変嬉しく思っています。私自身、機会があつて昭和48年に青年会議所に入会以来、約11年の間、会議などに利用させて戴きました。桐生市の誇るこの建物が、先覚者の深い理解から、桐生の産業、教育、文化、政治等の向上発展について話し合う場として建設され、今なお文化の香りを高く放っていることは、大変すばらしく、他にも類を見ないのではないかと思います。

さて、私事になりますが、5年位前に当クラブで「コミュニティーと市民」と題した篠原一東大教授による講演を聞き、大変感銘を受けたことがあります。先生は、桐生倶楽部の素晴らしさにも触れながら“桐生に住む市民の皆さんが、民主主義

の基盤としてのコミュニティー（個性的で豊かな街）の実現をめざして市民運動を推進する為には、一人でも多くの自主性、自律性のある市民をふやさなければなりません。”と述べられ、又“しかし現実はきびしく、現代の様に、高度に情報化され管理化された社会状況の下では、市民運動の参加の輪を拓げることは誠に難しく、たえず厚い障害物に阻まれています。”と説明されました。しかしながら、この様な状況に対する復元力としての役割を果たす各種のゼクテの存在も忘れてはならないと主張されました。ゼクテの本来の意味は、宗教的官僚制に支えられたキルヘ（教会）に対して、そうでないゼクテ（小会派）のことであり、このゼクテが世俗化された形がクラブという小集団として現われるとの事。この様にゼクテの考え方が拡大されると、組織化された社会に対して、人間が自己を取り戻し得る為のサロンやサークルがつくられ、その中で情報収集をしながら、自己主張してゆく必要があること。その結果、政治組織に対する市民クラブ、タテ割り社会に対するサラリーマンのサークルや仲間集団、大学での大講義に対するゼミナール等、様々の形態をとることもあるという。まさに、桐生倶楽部やロータリーライオンズクラブ、そしてJC他桐生の様々なボランティア団体もゼクテの一形態であると考えられる。そしてさらに、各地で波及している花いっぱい運動、川を美しくする会、歩こう会等の市民運動の多くも行動的ゼクテの一種であると言及することができるのではないのでしょうか。最後に、これらのゼクテが行動する際の最小限の原則が第一に単独ではなく、複数にしかも多数存在するところに意味があり、多様性、異質性に対しても寛容であること。第二に、ゼクテが発言力をもつためには、常に一致しうる点を求めて横に連なり連合するという事。但し連合は一つである必要はなく、連合の連合という積み上げ方式もとれる。このような、市民的連合の実践こそ、現代にふさわしい行動様式ではないかと思えます。

以上のように、管理社会、情報社会に対する一つの歯止めとしても、今一度ゼクテの思想に立ちかえり、ゼクテの一形態としての桐生倶楽部での活動に自分自身も参加することができ、これからの街づくりに一メンバーとして、役に立つことができたら、大変幸せだと思います。

(大幸商事有)

## 桃栗3年柿8年 面壁9年人間一生

丹羽 武雄

昨年11月秋たけなわの京都へ紅葉の名所高雄の山中にある神護寺を訪れました。人生には山あり谷ありとか云われておりますが正にその通りで車を降りて高台から錦織りなす紅葉の間を縫って清滝川の渓谷までしばらく降り美しい眺めの中を川づたいに歩き又対岸の紅葉の中の石段を登ること約30分急勾配を精一杯登りつめた所に神護寺の山門がありました。一息入れようと立ち上ってふと山門の右側を見ますと立派な造作の掲示がありました。桃栗3年柿8年面壁9年人間一生 これです。桃栗3年柿8年は云うまでもありませんが面壁9年、印度の高僧達磨さまが6世紀の初めに中国にわたり河南省の少林寺で9年間壁に向って座禅をし続けてようやくさとりを開いたと云われております。凡人の私たち人間は一生修業をしていかなければならないと云うことだそうです。

私も一社会人として日常生活に又企業の中において避けては通ることの出来ない大なり小なりの壁に突きあたるがよくあります。又必ず越さなければならぬ山もあり谷もある様に思われます。この時こそ全力を発揮しよりよい方向に突き進んでいかなければならないと思えます。これが人生であると考えております。

どうか桐生倶楽部の諸先輩の社員の皆様方の大きな力によりよりよいご指導ご協力により社員共々の幸はせと企業の発展により社会に貢献したいと願うものでございます。(丹羽石油社長)

## 足尾線廃止問題に思う

蓮 沼 源 一

昭和46年、国鉄再建法によって、全国の地方赤字線の中、特に営業収支の悪い路線が廃止の対象になっている事は、既に衆知の事である。我が足尾線も第2次廃止対象路線となった。私が疑問に思うのは、国鉄が何故この様な形の足切りを行うかである。勿論、赤字国鉄の建て直し、財政再建は急務である事は充分承知している。政府、国鉄は云うまでもなく、国民の真剣に考えなくてはならない問題である。しかし、財政再建の為であるとすると、1次40線、2次27線の赤字ローカル線の廃止は、どれ程の効果があるのか。何かの記事



には、僅か数パーセントの解消にしかならないとあった。明治、大正、昭和へと営々として築いてきた鉄道である、地域の生活と、これほど密着している現在、住民の強い反対を押し切ってまで実施する事は、得策とは云えないのではないか。仮りに、今廃止をしたとする。将来、改めてその必要が叫ばれ、新たに敷設をすると、多大な費用を要する事は明白である。

鉄道発祥の地、イギリスでは、近年、既に廃止をされた地方鉄道が国民から見直され、幸いに鉄道敷は残されてあったので、民間団体や、一部篤志家の手によって復活されていると聞いている。

その理由としては、生活の足と云うより、鉄道に対する国民の郷愁が、そうさせているのである。鉄道には、他の交通機関には無いロマンがあり、それに愛着を覚る人達も少なくないと思う。

しかし、現実には、国で法を制定したのだから、我々はあくまでも、それをしっかりとふまえ、足尾線の場合、今後対応してゆかねばならない。現在考えられる道は、国鉄による存続か、地域の我々の手による再出発の2つに1つである。前者の手による事がベストである事は勿論だが、将来に向かって、後顧の憂いを無くす意味でも、鉄道と云う形での存続は、絶対に必要である (質商)

## — 戦 後 初 公 開 —

### 「前原<sup>こうらい</sup>互瀬と大出<sup>とうこう</sup>東皐の遺作展」

### 開催される!

去る12月7～9日までの3日間、桐生市文化センターに於いて「前原互瀬と大出東皐の遺作展」が開催され市民の多数の入場者でにぎわった。

ここで少々この2人について知って頂くためにご説明させて頂きたいと思う。

**前原互瀬 (まえはら・こうらい) 1817～1870**

諱は勝任と云い、もとは前橋藩主江尻即兵衛の次男で、幼名は松五郎である。文政12年、桐生天満宮の祠官、前原勝温の養嗣となり改姓する。嘉永年間には宮司となり従五位下に叙せられた。時に32歳である。(大内蔵太夫と称した)。この頃より島村の金井烏洲に師事し、花鳥画や山水画を精力的に描いている。

嘉永5年、36歳の折りには桐生天満宮の御開帳が行なわれ、互瀬は「流鏑馬神之図」を製作し、これを奉納した。この絵馬は本殿に掲げられているもので、今回の展覧会のために下ろし市民の目の前で観賞する機会を得た事は喜ばしい限りでもあった。確かな筆法が互瀬の画人としての一端をのぞかしている。

足利の田崎草雲も互瀬に指導を受けたという記録があり、その交友を示すものとして「漁夫之図」を草雲が「樵夫之図」を互瀬が描き対幅の型式をとっていることで証明される。共によく似た作品ではあるが顔の表情が正反対に見えるのは面白い。又その弟子に別記する、大出東皐がいる。

互瀬の妻は照子で田村梶子に書を学び、後に梅

堂書塾の主となった方である。

晩年54歳には、天満宮の祭り屋台唐紙12枚組を制作している。これも今回所蔵者本町1丁目からお借りした大作で戦後初めて見られたものである。御開帳の際には表の鶴の図が正面になるため、裏面の大胆な光琳風の作品には恐らく気がついていない人が多かったであろうと思う。時に明治3年である。そしてこの年10月8日にこの世を去っている。互瀬の絶筆と云っても過言ではない程、精力を傾けていたのかも知れない。

そして翌年、妻照子も後を追うように別れを告げた。

互瀬の作風は多方面にわたり好奇心旺盛な人であったように思われる。文人画、大和絵風、土佐風、かと思うと俳画風というように余りジャンルにこだわっていないようである。別図にのせた「柳下童子遊戯図」「四季山水図」等は傑作と云っても良いであろう。

**大出東皐 (おおいで・とうこう) 1841～1908**

天保12年、江戸神田にて出生し、幼名を愛次郎と命名された。3歳の時父五郎兵衛光雄の帰住にしたがって桐生新町5丁目石田重兵衛の屋敷に居住することになる。すでに9歳の頃より絵を互瀬に学び雅号愛梅を授かる。基礎的絵画法を互瀬から学んだ東皐は19歳の頃より紋工(画工)の石田九野に師事し特に花紋については多くの影響を受

# フォトサロン

## 前原互瀬と 大出東皐の遺作展

(主催 全上実行委員会、後援 桐生倶楽部)



柳下童子遊戯図 互瀬の作品中の傑作



達磨の図 互瀬筆 額のハチ 面白い表情



東皐の絵付による枕香壺



四季山水図 互瀬筆 初公開 (冬・秋・夏・春)



けたものと思われる。翌年石田九野と共に北海道移住の計画に参加しようとしたが失敗し九野は帰桐、東臯はそのまま江戸に止まり再び画道に精進し書道、花鳥の研鑽をしている。そしてかたわら藤堂凌雲にも師事しその意欲は大であった。

その後明治維新の動乱期には官軍の部隊に入隊したが負傷し隊長の三浦俊介は絵画の才能の非凡さを知り戦渦から脱出させることになる。

明治初年は洋画の勃興期で日本画は衰退するがその内、尾張の瀬戸に招かれ、下絵や絵付の指導をし流行の先端をゆく。その後フェノロサが東洋美術を賞讃したこともあって再び日本画壇も活気づき、東臯も世に迎えられることになった。そして各地の展覧会に出品し多くの受賞をしている。

天満宮に残る「紗綾市之図」は桐生にとって歴史的にも高く評価されているが、今回の展覧会に出品された花鳥画などその才は余すところなく再評価するにふさわしいものがある。

先代森山芳平の製織した「紋緞子織テーブルクロス」は東臯の下絵でコロンブス博覧会(明治23年)に出品された名品であることはよく知られている。明治38年3月14日、桐生での画会を終了後、この世を去っている。

ともに幕末・明治に活躍した画人2人(師弟)の展覧会は史上初めてのことであり桐生の近代史を飾るにふさわしい催しといえる。同時代を生きた人々で忘れてはならない人物が他に多く存在し

ている。例えば、黒川真瀬、石田九野、田村梶子等々、今后この歴史を埋めていかねばならないことは云うまでもない。

しかし桐生の現状をみると、それらの展覧をする場所がない。(設備等の不十分さから)。その必要性を今回も訴えたかったのである。博物館は建造物をつくってから多くが失敗する運営を行っているが、これらの実績を以って答えられるものと考え。展示作品等が市民の眼の前に現われて初めて実感がわくものである。

この度の遺作展は前原勝樹氏、前原貞勝氏の所蔵品を中心に16名の方々から借用したものである。このご好意に対し深く感謝申し上げ、大切に保存されておられたことに敬意を表したいと思う。又これらの資料収集及び考証を山鹿美助氏が担当したことにその成功の力があつたことも記しておきたいと思う。実行委員長の小池久雄氏は総括的責任を果たして頂き感謝申し上げます。

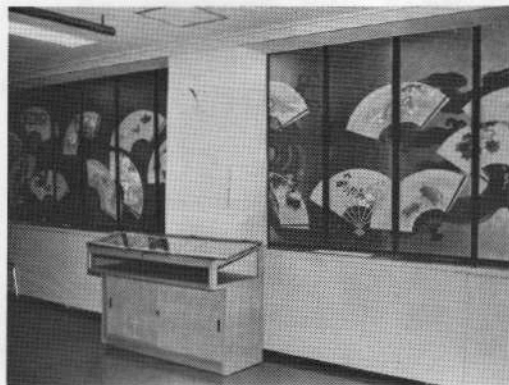
改めて桐生に於ける、近世近代の文化的向上が今日の歴史の重みを感じざるを得ない。

しかしその歴史の背景を忘れ去り目先ばかりの利益、非文化的行政をすすめるなど、桐生は何の魅力もない単なる町にしか過ぎないことを知ることになるかも知れない。

(実行委員 奈良彰一)



会場風景



祭り屋台唐紙 12枚 本町1丁目蔵

## 良書紹介



最近各地で個人出版はもとより、本格的出版が多く出て来て、出版は地方の時代といわれている。

桐生でもクラブ会員に限らず、また桐生で出版されたものばかりではないが、桐生関係者の出版が多く見られるので一通り紹介させていただく。

### ◎ 桐生の歩みの中で 木村 一蔵

桐生タイムス社 ￥1,000

著者は桐生商工会議所常任議員、繊維部長、金融税務委員会委員長の要職にある。政治、経済に関する出来事を克明に記録し、これを一連の随筆として桐生タイムスに発表したものを今回まとめたものである。桐生の歴史の一コマ一コマを回想し興味深いものがある。一文を引用させていただく。

#### 〈菱村の合併と桐生〉

菱村と桐生市との合併問題は長い懸案で、菱村は桐生川を境として南北に細長く、桐生市に接し桐生市との交流が深く、産業面で特に繊維業界においては、全く桐生市と同一歩調をとっていた。また桐生川に架けられた桐生市と境の橋の数も17の多きを数え、その交流の激しさを物語っている。しかし桐生市と菱村とは群馬県と栃木県に分かれているため、行政区域の違いから行政指導面でも相違があつてお互いに不便を感じる事が多かった。

昭和28年8月11日栃木県、群馬県両知事に対して合併の諮問を行ったが、栃木県側が難色を示したので合併を果たせなかった。桐生市は翌昭和29年10月1日梅田、相生、川内3村と合併しているので成功していれば菱村も同時に合併していたのではなかったろうか。その後、菱村側においても合併に対する財産処理上の問題等検討されていたが、昭和32年11月25日に合併する協定が成立し財産処分協議が成立したので桐生市議会も菱村議会も全員一致で合併を決定した。同時に総理府、自治省等に対して陳情、中央審議会委員よりの調査等行われた結果、昭和33年9月30日内閣総理府より菱村を桐生市に編入の件が告示され正式に決定をみた。同年11月17日に、桐生市菱村合併促進協議会が開催され、昭和34年1月1日より合併が施行されることになった。

それに先立って昭和33年12月31日に菱地区を桐生市第17区として区政委員の任命式が施行され、私も区長会長として参列し新区長には、前菱村村議会議長、飛鳥義三郎氏が任命され桐生市行政に参画することになった。合併後昭和35年に広見橋次に幸橋、稲荷橋等次々と永久橋に改められ菱地区は大きく飛躍していったのである。

桐生市と近隣との合併は菱村との合併で一応幕を閉じた。しかし今桐生市を取りまく環境は桐生市を含め大間々町、藪塚本町、笠懸村、新里村、東村、黒保根村の1市2町4ヶ村の広域圏の経済運営にかかっている。

わが国の財政は莫大な借金をかかえ、その利払いだけでも年間7兆円に及ぶ膨大な金額であつて景気が悪いから、貿易摩擦だからといって、税収が落ち込み、歳入欠陥が生じたから借金をする。また増税によって賄うという安易な計算で辻褄(つま)を合わせることに頼れば、増税にも借入にも限度があつて国民経済の破綻につながる恐ろしい事はない。

わが国の体質を変えない以上円安基調は続くだろうし、円の海外における信用はとり返せないのではないだろうか。国を挙げて国家機関の整備を行い、行政整理による増税なき財政再建を図るべきである。

私が全国法人会総連合において税制委員の1人として税制問題に取り組んでみても、いつでも不公平税制の是正ということに当面するが、それには増税なるものや減税なるもの等、またそれぞれは是正によって生ずる歪も多く、毎年やっているが満足点には達しないものである。グリーンカードの問題、直接税、間接税の比率の問題、所得減税最近となえられている非課税貯蓄の見直し論等、皆問題の多い現状である。地方においても総論賛成各論反対でなく、自治体の統合強化等を検討し行政の簡素化を行う時がきていると思う。

今の時代は自分の身を切らねば生きられない時代に当面していることを自覚すべきではないだろうか。昭和34年以来途絶えていた桐生市の市町村問題もここで再検討すべき時期に当面してきていると見えるのである。

### ◎ 道祖神百選 日本石仏協会群馬県支部篇

あさを社 ￥2,500

本会報32号ですすでにおなじみの社員藤井龍人氏



はまえがきでつぎのように語っている。

群馬は石仏の宝庫と言われている。これは数が多いと同時に、種類が豊富で、姿態の変化に富み表情の豊かさや、彫りの秀れていることなどを含めた表現であると思う。

その代表が道祖神と言っても過言ではないであろう。3000近くあると思われる長野県に数の上では及ばないが、推定数2000を数える群馬の双体道祖神は、碑形・姿態・持物・服装など、実に千変万化の感あり、四季の素晴らしい自然を背景に、人々をひきつけてとりこにする魔力にも似たものを持っている。

最近は多くの人々により、群馬の道祖神の写真集などが出版されて一般の関心も高まり、各市町村の石仏調査なども進んで、その全貌も明らかになりつつあるが、この書の出版に当り、私なりに群馬の道祖神の位置付けを、簡単ながら紹介して今後の研究資料の一端に供したいと思う。

#### ◎ 独澄庵西田博太郎伝

群馬大学工業会編集委員会 第一法規出版(株)

西田校長は桐生の町でも名物校長として大きい影響力を与えた人である。英才の教育は勿論であるが、接する者に大いなる感化力を及ぼした例は少ない。編集責任者83歳の周東隆一氏の労に敬意を表したい。

〈恩師西田先生の追想〉 商工大13紡 松井善作

西田先生が桐生高等工業学校長であられたころ、桐生の織物業は世界大戦後の長い不況や人造絹糸の出現等により産地として転換期にあった。その転換の重要期を見通されて業界の発展に寄与するためには本校の施設を利用して変動する織物業界にすぐ役立つ人物の育成が急務であることに着目され、織物関係に勤める者を対象として、大正10年に付属工業補習学校を設立し、色染、紡織機械、応用化学の4科目をもって開校した。入学資格は中学3年修業又は高等小学校卒業の者で入学試験に合格した者と定められていた。私は大正11年の第2回目の入学だが働きながら専門知識を勉強できるというので評判がよく色染科、紡織科、機械科は募集予定の50名を越える応募だったと記憶している。入学した年齢は14歳から30歳近い人まであって私などは最年少の14歳だった。紡織課目として1年生の授業は修身1時間、数学2時間、英語2時間、原料組織など紡織の初歩学科3時間

合計週12時間であった。その他に日曜日には工場で実習を行う強行な時間割だった。現今のような勤務時間であればこの時間割は少しも苦にならぬが、労働基準法もなく朝5時から夜9時、10時迄でも働かされる時代、その中で勉強するのだから大変な努力をしなければならなかった。授業中に日中の仕事の疲れで居眠りをするものが多かった。その居眠りに先生方はあまり厳しい注意もなかったが西田校長は絶対にゆるさなかった。真剣さが無いから眠くなるのだ、人間は1日3時間眠れば体には心配ない。気持ちの上に余裕があるから眠くなるのだ。自分は每晚3時間寝るだけだ。夕べは東京の帰りが東武電車の最終だったので足利止りだったから歩いて来た(バスもタクシーもない時代、足利桐生を歩くには3時間半は要した)。また或時は東京で乗り遅れて上野の靴磨きの椅子で寝て一番列車で帰り朝の講義にきちんと出ていた。人間は気力だ。君達は朝早くから働き夜の勉強の大変な苦労はわかるが機業の中堅幹部になるためには真剣でやりなさい。やる気があればかならず成果はあがる。努力だ。桐生の織物業のためにやってくれ、と強く励まされたことは生涯忘れることの出来ない私の座右の銘となっている。

西田先生の講義の受持時間は定っていなかった。修身の時間とか受持講師が休んだ時に代理に講義をされるのだが、生徒は西田校長の講義は楽しみだった。それはホットな時局の話題が多く、広い視野からの雄弁は時間のたつのも忘れさせた。そして君等は桐生のために働く重要な人間になることを期待しているのだ、と力づけられた。

またあるとき、本校講堂で有名な人の講演会が催された。西田先生は講師の紹介をされて降壇して来られ私の隣の席がいたのでそこに掛けられて、小さい声で「ええ」と何回言うか数えて見ろと言われる。なるほど数えてみると実に多い。話術の難かしさをこんな機会を利用して教えて下さった。講演会は勿論のこと講義のときでも、先生の雄弁は定評があり、このように多くの学生達に何時でも何処でも指導されていた。

或時、授業が終って帰ろうとしたとき、2、3人で武道館の隣りの談話室に来るように言われた。何事かと待っていると両脇に酒瓶を抱えて、今日は珍しいものが入ったから御馳走してやるぞとおっしゃり、お燗をしておけと言われまた自室に戻られた。今度は大きな鯛を持って来られた。まず



酒だが、たしか白鷹だった。大正の時代に田舎町では灘の酒など珍しいもので、白鷹とか白鹿など見たことも無く正宗ぐらゐは聞いていたが、地酒だけしか知らぬ者が多かった。その珍しい酒と頭付の大鯛に見るだけで手も出せぬ。さあ飲め、これは鯛の塩蒸しと言ひこうして食べるのだと箸で鱗皮を剥ぎとり身をつまんで見せる。身は程良く味付いた美味なもので先生も減多に食えぬ珍味なものだぞと教えられる。今でも桐生あたりでは口に入らぬものだがその当時塩蒸しを造るとあとの塩が生臭くなるので厳禁されていた。その中を禁を犯して教え子が播州から先生に食べて貰おうと送って来たものだった。今でこそ岡山駅で連製の土産品として売っているが、その時代の塩蒸しはびんびん跳ねている鯛を炎天下の製塩の山の中へ内緒で突込み完全な天日焼したものだと言われ、それ返して恩師に送り届ける者もいた。また酒も先生の好物故に灘の生一本がいつも届けられているらしかった。また或る時は真黒い鮭を持って来られて今日の魚はこれだとご馳走して下さい。今でこそ燻製を知らぬものは無いと思うが大正時代は桐生では珍品であった。この様に夜学の小僧までも暖かい心遣いで励ましと人間味を指導下されたことは忘れることの出来ぬ感激であった。お世話になった2年間には前述のように昼間働き夜の勉強はまことに厳しいものだった。紡織科の50名も途中で落伍するものが多く、1年過ぎる頃には30名足らずになり、大正12年9月1日の大震災第の経済的影響などもあったが、卒業時には19名しか残らなかった。

第2回紡織科卒の私どもは十九会と名付けてしばしば会合を持ち、西田先生の期待に答えて皆職場では責任のある立場にあった。会合のときには西田先生をお招きし、いつも喜んで参加して下さったことは幸だった。

これも忘れる事のできない話だが、卒業した翌々年大正15年12月25日天皇陛下が崩御され翌年御大葬があった。その前夜に貴顕高官は宮中に参内お通夜をされるのだった。西田校長も御大葬をおすませになり帰校された時に何にかの用事で私は学校に伺った。ところが西田校長が一寸来いと言われるのでついて行くと、白い立派な箱入の16の菊花紋章のお菓子を取り出されこれを持って行けとおっしゃる。当時の我々民草は恐れおおって頂けるところか見ることも出来ぬ品物だった。先生に

誠に有難いことですがお宅へお持ちになられるようにと申上げると、実はな、お通夜の時間を間違えて早く行ってしまったが席があったので次の自分の番と二人分やって来たのだ。だから余分に頂いたのだから遠慮なく持って行けといわれる。こうした暖かい思い出のかずかずがあった。

これも昭和も10年近くのことであった。全国の高等工業学校長が満州の開発情況視察に行かれたことがあった。勿論今のように飛行機など使えぬ時代なので汽車で九州迄行きそれから船で朝鮮経由で行かれた。その急行列車が停るどの駅にも多勢の人が出迎えた。そしてその人達が酒肴弁当を西田先生に贈られる。嬉しいのと他の先生達に気兼ねもあって複雑な気持ちだったと述懐された。それ程に卒業しても先生を慕う同窓のことを思うにつけ、今さらながら先生の偉大な人徳に敬慕の念を新たにするのである。

#### ◎ 花曼陀羅—川端康成の心— 小林一郎

アート・プロデュース株式会社 発行 18,000

社員小林一郎氏の最近の労作である。川端康成の作品に出てくる花の意味を知ることにより、その文章の深い味わいが出てくる。

文例を引用して解説してあるので理解しやすい。以下まえがきを紹介して著者の意図するところを知っていただきたい。本書は倶楽部図書室にも備えてある。

#### 花曼陀羅 —川端康成の心—

川端康成が「花」に対して強い関心を常に怠っていたことは、生涯を通じて変らなかったし、晩年になるとその考えがますます深くなって行ったようである。

新感覚派の作家として文壇に顔を出した大正13年頃、心靈学を重視し、生死の問題をその基底において、万物一如、輪廻転生の融合を計ろうとした時期、既に、物と自己、植物や花と人間との一体感を考えていたのである。

そうしたものが、もう少しはっきりとした形をとったのは、何と言っても『抒情歌』あたりである。『抒情歌』では、「植物の運命と人間の運命との似通ひを感じる事が、すべての抒情詩の久遠の題目である。」と言って、植物と人間との一体感を書きあらわすことが文学の仕事だと言っている。この命題を果すことに芸術というも



のに携わる使命があると言い切っているのである。早咲きの紅梅を見ても、異国の名も知らぬ花に向っても、そうした花はまぎれもなく何ものかの生れかわりであると感じ、そこに、1つのお伽話の世界をこの世の中につくり出してみせることが作家の仕事なのだ川端は言っている。

そうした「花」に対する心が晩年になっては、1木1草あるいは「落花流水」という考え方を生み出して行ったのであるし、『美しい日本の心』で、「一輪の花は百輪の花よりも花やかさを思わせるのです。」と言っているのも「花」というものへ深い関心を示しているあかしである。また、いろいろの作品の中で、様々なかぐわしい「花」をいれた枕をしつらえて寝る姿を描き出しているのであるし、「落花流水」的な心を「花」に示す川端康成でもある。『古都』や『美しさと哀しみ』などに流れている「落花流水」は、衰敗零落の中にただよう「哀愁」と、男に女を慕う心があれば女も男を思う情を生じて来るという「純粋性」との交錯の中ににじみ出て来る虚実皮膜、生死超脱の境を見つめることによって「花」を仲立ちにして作を成して行こうとしているのである。

川端康成のつくり出す文学の世界には、大抵の作が、筋の難しさや高踏的な知識や思想を表に、きらびやかに出して、惑乱させるようなやり方をしている作は極めてすくない。言葉も若干の作を除けば分りやすい。しかし、その作に深く接してみようとすると、1つ1つの言葉に、様々な意味をもたせていることにすぐ気づくはずである。其処から川端文学の魔訶不思議な世界が開けて行くのである。

「花」も全くその1つと言ってよい。勿論、様々な花が、様々な形で散りばめられているし、それは、それなりに済ましてしまってもよい、単なる「景」の一部の場合もあるが、よく注意して見ると、作品全体にかかわり、作品を大きく支えていると考えられる「花」が多い。特に、女性を描く時、川端は、その作の極めて重要な場面や場面の転換、あるいは登場している主要な女主人公の心理の変化の必要な箇所適確に挿入し、働かせているのである。この場合、その「花」の持つ時間的な伝統的な流れ、空間的なグローバルな広がりを持たしている。ギリシャ・ローマは勿論、各国の伝説や神話や旧約聖書の世界、あるいは、日本の古典や仏典の中に流れているものを意識の底

において、「花」の意味するものを集約して、なにげない形で投げ出しているのである。そこに川端文学の深淵と難しさが横わっている。したがって、ここに取り出し、説きあかそうとした事柄ですべてを尽しているとは思えないが、川端康成が日ざした久遠の題目への限りないアプローチが生み出して見せた「花曼陀羅」の世界がおぼろげながら見えているのではないかということを感じている。

昭和59年5月5日 菖蒲の日に

◎ 桐生の歴史 桐生文化史談会

あきの印刷 (非売品)

かねてから「わかりやすい桐生の歴史」の本が望まれていたが「あかぎ国体」を機会に完成した。桐生市史にもない貴重な資料も含まれている。

◎ 愛は死を越えて 大貫 一雄

脳出血で倒れた奥さんの1年間に及ぶ闘病の記録である。或る日突然起るこうした病気は本人のみならず家族の者達の奮闘努力は大変である。

多忙な市会議員としていかに対処されたか、写真入りの記録は同病者のよい参考になりはげましくなる。

◎ 毛野 (もうや) 複製版

2月刊行 予約受付中

全七分冊 ¥43,000 奈良書店

郷土史研究の先駆者岩沢正作翁主幹になる毛野誌 (昭和6~19年、61冊) の複製版、考古学博物学、民俗学、歴史学に及ぶ貴重な文献として待望の書。

三千院	籠に倚りし残り菊	括られて	彩寄せ合えり	残り菊	前山	原田	田田	木木	高保	遠藤	森地	宮光	清水	清山	川千
大学の	キャンパス静か	文化の日	吹きやまず北	吟	大学の	風	文化の日	とて	吹きやまず北	吟	大学の	面引立て	菊残る	暮れにける	片山
残菊の	蚊虻まつわりて	暮れにける	片山	残菊の	史跡めぐりや	文化の日	山折の	陽に残菊の	影細し	文化の日	残折を	括りて今日の	暮れにける	残菊	たどり来し
祝いごと	重なりあいぬ	文化の日	高保	遠藤	残菊を	括りて今日の	暮れにける	残菊	高保	遠藤	森地	宮光	清水	清山	川千

倶楽部句会 (十一月)

# 桐生広域産業デザイン振興会設立される

## (サンデシン)

桐生地方の産業の活性化を計るため、民間において数年間各種の活動が行われて来た。織物資料展、シンポジウム、民族衣裳展など業界や一般市民の歓心を得てきた。

こうした動きをデザインを中心テーマとしてさらに具体化するため昭和59年8月11日標記振興会設立準備会が市勤労福祉会館で開かれた。

繊維のみならず、機械金属や流通関係など各種の業種50名以上が集合し熱心に議論が交わされた。このような異業種間の交流の中に新しい創造性が生れることが期待された。

### モレシャンらを迎えてシンポジウム

パネラーには、産業振興、都市開発、服飾評論家など、その道の実力者を集めて意見を聞き新しい路線を確立しようとするものである。

パネラーにはテレビでおなじみの服飾評論家、フアンソワーズ・モレシャン、総合デザイン・プロジェクターの浜野安宏、評論家の三島彰氏の三氏を迎え、司会を文化女子大教授の北畠耀、地元テキスタイル・プランナー新井淳一氏の両氏が担当した。

テーマは「明日の産業デザインを考える」と題して各パネラーの創意に満ちた発言に一同感銘を受けた。

終って広間におけるパーティでは市長を始め、各界の市民の大集合となり、今さらながら桐生の人達のパワーに接し、新しい夜明けを迎えるような思いであった。

### 桐生広域産業デザイン振興会設立趣意書

デザインというテーマが、産業界にかかわるようになって、30数年たちました。

いまや、デザインは、物の附加価値としての立場から、創造の主体としての位置にまで達したといえるでしょう。

物質欲の充足という生産システムが産業を動かす時代は終焉を告げ、新鮮な欲求をかきたてる提案としてのデザインが明日の経済活力の源泉となりつつあります。

国は地方の時代を提唱しておりますが、その実現のためには、街づくりや、地方自治にいたるま

で、その都市の特性に習った市民生活すべてにかかわる、デザインレベルの向上が必須条件であるといえましょう。

桐生地方は昔から、新しい時代への対応は迅速でありました。デザインの時代を迎えたいま、それぞれの地方、それぞれの地場産業にあって、それを闘いとる以外に明日への道は無いのです。

デザインの時代における地方の時代とは、雛形(ひいながた)のない創作の時代です。お仕着せでない、自らの衣裳をまとうこと、己れの翼ではばたくこと、シティ・アイデンティティ(街の独自性)の確立こそが、従来の地方都市というイメージを払拭し、真の地方の時代への活路となりましょう。

「伝統と革新」という二面性を意味するラジカルな都市こそ、桐生の特性ではなかったかと思えます。

「地場産業の興隆は、デザインの振興から」という合言葉は通産省の「地場産業デザイン開発推進事業」における基本思想となりました。この事業は、昭和50年度より開始されたもので、今日までに、1道25県にデザイン振興組織が設立されています。

本会も、この一環として設立されたものであり講演会・研究会・展示会など各種の事業を通じてこの目的を達成させる計画であります。

さきに、シンポジウム「明日の産業デザインを考える」を開催し、多数の方々の御理解と御賛同をいただきました。お蔭をもちまして、この度「桐生広域デザイン振興会設立総会」を別紙の通り実施致す運びとなりました。

一般市民の方々を含め、各方面より多数の方々の御参加、御入会をいただきますよう、ここに御案内申し上げます。

おわりに、本会が市民の団体としてデザインを機軸とし、地場産業振興のため、活発な活動ができますよう、各方面の御支援と御指導を御願い申し上げます。

### サンデシン 168会員で力強い発足

12月14日、設立総会は文化センターホールで120名ほどの賛同者参加により行なわれた。



地域ぐみみで各業種の専門家が一同に会し、デザインの名のもとに研究、開発を試み、産地の活性化を計ろうとする試みは、桐生の歴史の上からも始めてのことと思われる。

会員数は個人 124、企業体41、団体3であった短期間の準備としては予想以上の賛同者であった。別記の通り役員を選任し、記念講演に移った。

講師 共立女子大教授 工業デザイナー

秋岡 芳夫氏

「インター・デザインの時代へ」

[役員] 名誉顧問 桐生市長 小山利雄

顧問 日野貞夫 塚越平人 白石太市郎

金子匡男 木村一蔵

会長 書上誠之助

副会長 小林 松 西場利夫 増田禎三

常任理事 武藤和夫 新井淳一 新井 実

柘植洋二 樋口武弘 山口正夫 小松借介

赤石玉枝 田中米子 荒島スミ子 野沢孝博

奈良彰一 森 隆、村田陽一郎

監事 三田 章 大槻円次 評議員 略。



桐生倶楽部句会

(八月)

引売の 箆に三つ四つ 南瓜あり  
南瓜食う 敗戦の頃 想いつつ  
七夕に にぎあう街や 友と会う  
俄雨 七夕まつり 散りにけり  
七夕の 小さな飾り 母子家族  
もぎたての 南瓜の底の 真白くて  
ほろ苦き 思出のみの南瓜かな  
這い上り 土手に安住の くり南瓜  
引売の 南瓜も日毎に 色ずきし  
戦中の 南瓜畑を 今になお  
実篤が 称えし南瓜の たたずまい

宮地 高木 北川 片山 本田 久保田 山田 清水 光春 前原

桐生倶楽部句会

(九月)

コスモスの 丈より低し 母の老い  
まだ秋は 遙かと思う 初秋刀魚  
秋ざくら 蝶の重さに たわみけり  
風そよぐ コスモスの怪 たずねける  
群なして 帰る鳥や 秋刀魚焼く  
コスモスと 待つこと久し 無人駅  
閑山の 社宅にコスモス 咲き競う  
風を呼び 風と呼ばれて 秋桜  
コスモスや 牧舎へ牛の 群帰る  
雑草に コスモス交る 分譲地

宮地 清水 高木 北川 遠藤 山田 片山 光春 久保田 前原

桐生倶楽部句会

(十月)

犬騒ぎ 夜寒の庭に 出でてみる  
みちのくの 林檎の香り 持ち帰り  
うたたねを 妻とがめける 夜寒かな  
会津路や バスの窓より 林檎売り  
縁談の まどまる気配 林檎割く  
終点に 降る人なき 夜寒かな  
新しき かいまきうれし 夜寒かな

宮地 北川 久保田 山田 光春 片山 前原



## 表彰・消息

### ●星野氏に黄綬褒章

さまざまな分野で社会に貢献した人に贈られる秋の褒章で、桐生広域圏からただ一人、星野精助氏が黄綬褒章を受章した。

これは製粉業の業務精励功績を認められたもので、星野氏は学卒後家業に従事、昭和23年星野物産社長に就任。45年から協同組合全国製粉工業会理事、昨年から東日本製粉協理理事長の職にある。

### ●日野貞夫氏文部大臣表彰

文部省の産業教育は100年を迎えその功労者が表彰された、日野氏は県産業教育審議会々長としてその功績多大なるものがあつた。

### ●増田禎三氏国税局長より表彰される

多年にわたり常に卒先して申告納税制度の業及育成に努め納税思想の向上に顕著な功績をあげ一般の納税道義の高揚に寄与し、関東信越国税局長より10月15日表彰された。桐生では日野貞夫氏、木村一蔵氏について三人目。

### ●芝崎福三郎氏勤労青少年福祉功労者労働大臣表彰をうける。

氏は桐生内地織協専務の要職に就くかわら県勤労青年福祉委員として15年間の長期にわたり組合内の若年青年層の指導にあたってきた。

クラブ会報42号にはペンネーム、芝山かおるで詩が掲載されている。

### クラブの主(ぬし) 永井アキジさん逝く



戦前、戦後を通じて倶楽部の維持管理になくてならない人、永井アキジさんはしばらく脳結栓のため療養中のところ10月12日、倶楽部敷地内の自宅で惜しまれつつ逝去された。

14日自宅で告別式が行われた。大正8年永井源平氏が倶楽部初代書記に就任されたが、その長男嘉平次氏が後をついだ。アキジさんは氏に嫁ぎ、氏が昭和36年歿後も引続いて職員として50有余年倶楽部のために尽した。前原勝樹理事長は霊前に弔辞を読み、生前の功績をたたえた。

### ●群馬県功労者表彰に塚越、小池氏

#### 商工功労 塚越平人氏

昭和23年、桐生瓦斯に入社。以来35年間、重役、社長として保安管理に努め、企業の発展と地域住民の福祉向上に寄与した。

一方、企業外においても、県および市の教育委員として教育行政に尽力したほか、県経営者協会常任理事、県中小企業団体中央会などの要職を歴任して、商工業の振興に貢献した。

#### 商工功労 小池久雄氏

小池氏は昭和39年、40歳の若さで桐生織物協同組合常務理事に就任し、同組合の円滑な運営に尽くした。特に昭和46年には、同組合の副理事長を経て理事長の要職につき、対米輸出規制、ドルショック、オイルショックの難局に対処し、海外見本市の開催地区の拡大、新商品開発、人材の養成等に全力を傾注した功績は大きい。

### ●正田泰央氏環境事務次官に就任

氏は旧制桐生中学、第一高等学校を経て、東京大学法学部を卒業し、厚生省、富山県、環境庁などの役職を歴任し、昭和59年9月環境事務次官に就任された。事務官として最高の地位である。桐中の同窓生や市関係者が集まり東群馬ロイヤルプラザで盛大な祝賀会が行われた。

席上氏は桐生市の発展のためお役に立ちたいとあいさつした。

### ●前原理事長チャリティー油彩展

開発途上国に本や学用品を贈る教育援助活動を展開しているユネスコ運動のために前原勝樹理事長は11月5・6日の倶楽部階上でチャリティー油彩展を開催した。氏が3年間に描きためた作品60点が出品された。

### ●保倉一郎氏個展開催

氏は高校時代画家オノサト・トシノブ氏に師事し、絵画の道に入り紋織図案の専門家として産地の活躍は見ざましい。読売アンデパンダン展、モダンアート展、汎美展などに出品し、今回品川のオノサト・ギャラリーで10月22日～11月2日まで個展を開催し注目された。



《 寄 贈 図 書 》

◎上州路 道祖神百選

日本石仏協会群馬県支部編 あさお社  
寄贈者 藤井龍人氏

◎桐生の歩みの中で 木村一蔵著

桐生タイムス社  
寄贈者 著者

◎独澄庵西田博太郎先生伝 全編集委員会

寄贈者 群馬大学工業会

||||| 倶 楽 部 だ よ り |||||

◎ 8 月

理事会 (10日)  
俳句会 (21日)

◎ 9 月

歩く会 (9日) 根本山登山 (神社迄)  
理事会 (10日)  
俳句会 (18日)  
月次会 (21日) 「姉妹都市米国コロンバス市  
訪門記」  
講師 桐生市建設部長 糸井徳三郎氏  
歩く会世話人会 (22日)  
懇話会 (23日) 第3回桐生工藝 「藍染工  
房の見学」 大川仁氏宅

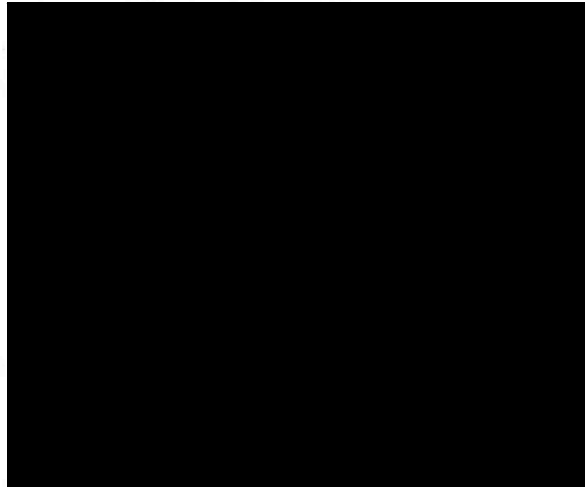
◎10月

理事会 (8日)  
歩く会 (14日) 「秋の尾瀬を訪ねて」  
会報委員会 (15日)  
歩く会世話人会 (16日)  
俳句会 (19日)  
月次会 (25日) 「ロスアンゼルスオリンピ  
ック視察談」  
講師 県体育協会専務理事 藤口末光氏

◎11月

歩く会 (3日) 第1回ウォークラリー参加  
理事会 (8日)  
俳句会 (20日)  
歩く会世話人会 (20日)  
行事委員会 (22日)  
囲碁会 (25日) 秋季囲碁大会  
月次会 (27日) 「新札3人の素顔」  
講師 前原勝樹理事長

▷ 新 入 社 員 紹 介 ◁



▷ 編 集 後 記 ◁

前原理事長のお札の話は改めてお札の重みを感じさせられる。聖徳太子、伊藤博文、から漱石、稲造、論吉への移行は建国の政治家より、文化の時代への移行とみておられる。

この三文化人は理事長の文にある通り、伝記としても興味深い時代に生きた人達である。

新札に三人の登場は画一的な人間形成の傾向にある現代において、古きよき時代の個性的な人格主義への郷愁ともとれる。

兎に角USドルがまだ建国の父ワシントンなのに日本は一足お先に三文化人へと新顔の登場、日本の文化国家としての象徴になればよいのだが。

それにしても12月開催の「前原互瀬と大出東卓の遺作展」はあれだけの文化遺産が桐生地方に存在したことを知り驚きであった。

これを陳列公開して下さった関係者の方々の並々ならぬ御努力に敬意と感謝を申し上げたい。

互瀬と東卓とお札の3人の中で互瀬が一番早く生れて一番早く亡くなった(1870歿)。一番おそい漱石が生れたのが1867年であるからこの5人は4年間同時代に生きたことになる。

何れも激動の時代に生きた人達である。(か)

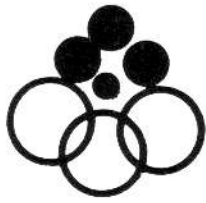
社団法人 桐生倶楽部会報 第 43 号

1984年(昭和59年) 12月発行

発行人 前原勝樹

編集責任者 書上誠之助

印刷 ツボノ印刷株式会社



# 社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL45-2755



## 三度理事長に 選ばれて

理事長 前原 勝 樹

再び、いや三度理事長に互選され光栄に存じます。さりながら総会の席上役員の新陳代謝がハッキリと提案されたことはご尤とは存じながら、老齡の張本人であってみればいささか慄然、いや憤然たるものがなかった訳ではありません。

惟うに私は理論派で実行型とはいえません。しかし自節をまげずただ理想に向って邁進して来たことは自らの慰めとしています。

それは戦后混乱期に当り市に移管が論ぜられたときに倶楽部は民間のもつ民主的に運営さるべき旨主張して今日に至っています。それから結婚式場として改装すべしとの説もありましたが、それは倶楽部は貸室業ではないとの見地から賛成しませんでした。次に女子社員の話が出ました。男女平等が唱えられ、女子会員を入れるのが民主的と考える向がありました。これにも断固反対して来ました。それは差別したのではなく、区別を立てただけであります。あらゆる集団、会合がみんな男女合同では、世の中に男女の別のある意味がなくなります。倶楽部に女性社員をいれるのなら俺を婦人会に入れてくれ、と云いたいところです。

倶楽部に入ってもサッパリ、メリットがないと云う理由で退会を申し出る人が時々あります。それは会合に出席されない方であって、いわば自らメリットを放棄している方々であると思います。

ここに改めてそのメリットなるものを挙げてみましょう。

(1) 社員になることは桐生地域に於ける紳士のライセンスであると信じています。それは入会には

理事会に於て厳重に審査され投票によって決定しています。従って理事は代表的桐生人であることを自覚し行動している積りであります。この意味で理事会は、いろいろな職業や階層から選ばれ若い人も老人もあってよい筈です。

(2) 広く友人が出てきて情報に恵まれ、人間の開発に役立つて行くことであります。福沢諭吉は百冊の本を読むより百人の人に遇ってみる、と云っております。「人の振り見て我が振り直せ」とも云われ、また、人に遇うことは生涯教育の最たるものであります。

(3) 趣味を培うことが出来る。独では出来ぬ趣味もあり、同好会があってこそ励み、進歩もするものであります。

(4) 桐生倶楽部は桐生地域の参議院であると思えます。政治、教育、経済等に直接介入はいたしません。モニターとしてその進路を正す役割を果しております。これは、間接的には地域に奉仕することになります。

しかしこのメリットを実現するには社員が挙って倶楽部を利用し、行事に参加してもらう必要があります。

又理事会は、その受け皿として設備を整え機能を充実させるだけの企画をたてる義務があります。

三任にあたり老骨に鞭打ってご期待にそような努力を誓うものであります。





# 定期社員総会

社団法人桐生倶楽部定期社員総会は、1月28日午後6時30分から、倶楽部会館2階広間で開催され下記の全議案が可決されました。

議案第1号 昭和59年度事業概況

議案第2号 昭和59年度決算

議案第3号 昭和60年度事業計画及収支予算案

次いで役員改選が行われ右記のように全役員が再選されました。

理事長 前原勝樹

副理事長長 平野元吉、塚越平人

理事 園田 昇、矢野 昭、藤江敏雄、飯山清治、金谷善介、清水信次、野田友次郎、五十嵐健雄、佐藤富三、書上誠之助、岸田英作、小池久雄

監事 吉野一郎、北川 洋

なお、総会終了後出席者全員で「これからの桐生倶楽部のあり方」について自由に意見を聞かせてもらう放談会を行い、倶楽部の運営について貴重な意見が数多く出た。

## 委員会構成

昭和60~61年度

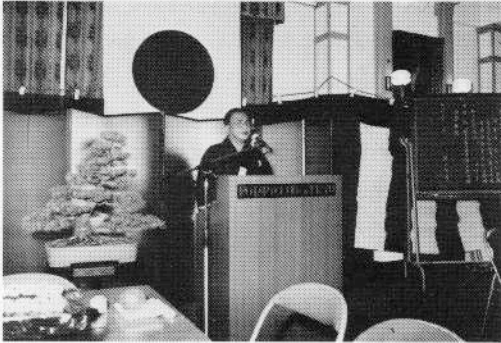
社団法人 桐生倶楽部

委員会名	委員長	副委員長	委 員		
行 事	五十嵐	野 田	米田、田島(英)、阿部(光)、阿部(高)、田中(英)、田中(暉)、北川(洋)、宮地(秀)、蛭間(利)、坪野(恵)、吉原、八木橋、川口(幸)、中里、池田、加藤(明)、村田(幸)、片柳、森島、山本、肥塚、樋口、土沢、森(寿)、石関、安達、岩間、尾沢、大塚、金子(篤)、金子(博)、木村(俊)、平野(武)、小堀、斎藤(貞)、坂本(能)、多田、能沢、船津、武藤、紋谷、吉田(博)、森口		
文化活動	金谷(善)	藤江(敏)	美術製作 美術観賞 写 真 郷 史 戀 話 俳 句 麻雀 囲 碁 ゴルフ 将 棋 歩 く 会 ビ デ オ	保 倉 松島(武) 塚越(平) 小 池 高 木 北川(洋) 野 田 田中(暉) 園 田 木 島 金 井	須賀、伊田、松島(武)、田島(英)、古川丸山(貞)、須賀、保倉、江原田中(暉)、書上、斎藤(貞)、山鹿、奈良、藤井、木島宮地(秀)、古川、森(寿)、松枝、吉野、飯山、吉成、吉成、山根、武藤、土沢、関口(全)、八木橋、平野(元)、芝崎、野田、平野(平)、木村(俊)、藤井、森口、小堀、肥塚、金井、村田(豊)、斎藤(貞)、五十嵐、金谷(善)
会 報	小 池	岸 田	書上、奈良、芝崎、佐羽、大森(貞)、山鹿、坪野(恵)、田中(暉)、土沢		
管 理	平野(元)	清水(信)	宮地(秀)、山鹿、奈良、斎藤(喜)、藤井、保倉、木島、村田(豊)		
総 務	塚越(平)	佐 藤	飯山、小池		
会 計	園 田	矢 野	関口(全)、八木橋		

## フォートサロン

## 新年互礼会

桐生倶楽部恒例の新年互礼会が、本年も1月4日12時半より開かれた。年々出席者が増え賑やかな楽しい集りであった。





## 社員のページ



どうぞ  
よろしく

樽川 潤

1983年4月1日、私は家族を伴い鳥取から当地へ移ってまいりました。私の属する日本キリスト教団の人事によるもので、桐生東部教会牧師並に附属高砂保育園の園長に就任いたしました。日本キリスト教団は日本におけるプロテスタント教会の中では最大の組織です。私共の教会は安中出身で同志社の創始者新島襄と深い関わりをもち歴代の牧師は同志社出身者が務めております。

教会もキリスト者も社会の中におかれ生かされておりますから、社会の動きと無関係に信仰だけを守っておればよいという訳にはまいりません。むしろ私共の周囲の事柄に積極的に関わり、正義と公平が行われるよう願いつつ、市民としての義務を果そうと努めております。

私共の教会は、伝統的にこうした考えにたって特に人間に関わる全ての問題に意欲的に取組み、キリストの教えの伝道を第1に、教育、福祉、文化などの領域において正義と公平が行われることをモットーに励んでおります。

今の時代、この正義と公平という考え方をもう1度新たに想うこと大切ではないでしょうか。私共はこの正義と公平を損うが如き動きにはいちはやく反応し行動をもってその回復と確立を求めることに身を張ることもいたします。

今、思想、信条の自由という面で日本は世界の範たるものがありますが、何やら怪し気な動きも感じられ緊張し始めています。

伝統を誇る桐生倶楽部へ加えさしていただき光栄に存じております。私なりに努力し、倶楽部の発展を妨げないようにいたしますのでよろしくお願い申し上げます。



いも焼酎

尾沢 弘一

全国的に焼酎ブームだそうである。私も好きだが近頃の、チューハイというのは、どうも飲む気にならない。あれは水っぽくていけない。飲むならウメ割りに限る。

飲み方も、大分変わった。ウイスキーにしても、水割りばかりである。昔は西部劇の影響か、グラスを一気でおるのが、粹に見えたり、バーでハイボールを飲むのが、当時のナウイ、スタイルであった様に思い出される。

焼酎は①の飲み物であった。焼きとりやの小さな丸椅子に掛けて、飲んだものである。八角形の重い、ふ厚いコップと受け皿は今も同じであるが皿の絵が変わった。あの頃は二匹のカニであった。近頃は、白無地が多い様だが、カニの行方が気になり、淋しいこの頃である。

私は末弟が鹿児島に居る。例のいも焼酎の国である。市内の一流処でも、焼酎がないと商売にならないと聞いて、驚いたことがあるが、酒屋で清酒と断わらないと、焼酎を出される土地柄ゆえ何の不思議もない様である。よく土産に持って来たが、あの臭いでとても飲めたものではない。しかし鹿児島へ行くと、獲れたてのキビナゴと、とんこつ等を肴に飲むと、うまいのである。それ以来すっかり、あの臭いのファンになった。

理屈っぽく考えると、鹿児島の空気と、醤油に大いに関係がありそうな気がする。この辺ではどう底考えられない。黒砂糖が入った様な、甘ったるい醤油と、桜島の焼酎のくきみにうまく溶け込んで、その独特のムードを作り出している様な気がする。

私はかねがね、名物はその土地まで行って食うのが一番、という考えを持っていたが、まさに我が意を得たり、という感じである。弟も最近では持って来なくなった。今度来る時は、土産にと云ってやるつもりである。



## 今年も元気で 歩いています

歩く会世話人代表  
木島 清

歩く会も社員皆さまのご協力のおかげで、もう6年目を迎えるようになりました。

これからも世話人一同、皆さまのご希望にそうべく、いろいろな角度から研究し、より楽しい例会になるよう努力してまいります。

### 今後の例会予定

#### 5月例会「浅間隠山」5月12日

烏川の源流、倉淵村は道祖神の宝庫です。村を通り北軽への二度上峠から登ります。新緑が最高です。

#### 6月例会「赤城鈴ヶ岳」6月9日

レンゲツツジの花盛り、新坂平の牧場の傍からレンゲツツジの花の中や白樺の林の中を登ります。沼田、敷島方面が足もとに見える静かな山です。

#### 7月例会「日光戦場ヶ原」7月28日

奥日光湯川沿いの道、戦場ヶ原の真中を湯の湖まで続く細い道、男体山、白根山を仰ぐ花の道を歩きます。

#### 8月例会「秩父に残る習俗を訪ねて」

8月16日、吾々が忘れかけていた懐かしい習俗

### 《2月例会》

2月10日(日)赤城不動の滝……………参加18名  
寒中の不動の滝は氷瀑となり圧巻でした。夏と違った趣みがあります。



赤城大滝の氷壁

### 《3月例会》

3月10日(日)穴切峠から伝説の山赤雪山へ。  
参加21名でした。3月の例会を知らせる葉書に、

昭和60年度の子供については、すでに皆さまの所へご案内してありますが、その中の4回の例会は消化済み、この会報の発行される頃には5月例会も終わっていることと存じます。

今年度の企画の特色は、どなたでもズック履きで気軽に参加できて、しかも楽しい例会を数多く作ったことです。どうか沢山の会員の方々にご参加をお願いします。

紙面の都合で簡単になりましたが、以下今後の例会予定の説明と、いままでの例会報告をさせていただきます。

が秩父には生きて残っています。虫送り、百八灯は見た人の目にやきついて、いつまでも残るいい思い出となることでしょう。

#### 9月例会「軽井沢から旧街道を下る」

9月9日、信越線で軽井沢まで、峠まではタクシー、熊野権現に参詣、ダンゴをたべましょう。蟬時雨の中峠を下る楽しさは「旅」を感じます。

#### 10月例会「梅田十二山から……」

10月13日、十二山から熊鷹山まで千米のスカイラインは、くま笹のさわやかな道で、すばらしい展望です。

#### 11月例会「足利大小山へ」11月10日

国鉄富田駅で降ります。晩秋の雑木林は格別です。大小山で展望を楽しみ、帰途栗田美術館へ。

12月例会は懇話会と合同で行います。

「今頃は早春一番に咲くマンサクの花が満開」と書きましたが、見事穴切峠のマンサクの花を今年も満喫しました。その後峠から赤雪山までの雑木の尾根歩きは日光白根、鳥海、袈裟丸、鳴神を望むすばらしい山歩きでした。

### 《4月例会》

4月14日(日)かたくりの里を訪ねて。参加21名  
梅雨の様に毎日雨が降り続き世話人一同お天気を心配していました。しかしこの日はピカピカの上天気マイクロバス1台、乗用車2台に分乗して栃木市郊外、花の里星野を訪ね、帰り道阪東三十三番札所の内十七番満願寺と「いずるそば」を楽しみました。





## 楽しかったクリスマス祭

桐生倶楽部恒例の「クリスマス祭」は、12月8日の第二土曜日に開催されました。開会の合図のドラの音の響きわたる6時頃には、社員並その家族は70名を越え、行事委員の皆様により美しく飾られた2階大広間の会場は、華やいだ家族によりその席は賑やかに埋め尽されました。

森口行事委員の司会により、平野副理事の開会のことばに始まり、前原理事長のご挨拶で、愈々クリスマス祭の開催の幕は切って落されました。日本基督教団桐生東部教会の樽川牧師のリードによる讃美歌がエレクトーンの音楽と共に壮厳に響きわたり、聖書朗読と講話、クラブ伝統のクリスマス祭は、いやが上にも盛り上りました。

社員とその家族は、束の間とは云え、クリスチャンになることが出来ました。

飯山理事による乾杯で今迄の緊張は一瞬に解れ団欒のムードに一変致しました。

ジングルベルのリズムに乗り小池理事の扮するサンタクロースのお爺さんの現れる頃は、小さい子供達は夢かとはばかり目を見張っておりました。キャンディーをもらい大喜び。

余興に入るや、平野平四郎社員による、マジック教室、大人も子供も真剣に、その手先を見守るがどうしてもわからない。いくつかの種明かしや、手ほどきに、爆笑やら、感心やら、時のたつのを忘れさせて頂きました。

その頃になると宴もクライマックスに達し、数家族ののど自慢も飛び出し、会場も益々盛り上り、興奮の坩堝と化しました。やがて恒例の福引に移り、福袋を抱きかかえ、幸福を喜んでいる姿を多く見られました。

楽しいクリスマス祭も塚越副理事長の閉会の挨拶で会場に響きわたる拍手と、ホテルの光のメロディーの流れる中を名残りを惜みつつ盛大裡に終了致しました。

年末多忙の中を時間を都合して会場の準備と運営にご協力を頂いた行事委員の皆さんに、又特別にご協力を頂いた社員の皆さんに感謝申しあげご報告と致します。

行事委員長 五十嵐健雄

## 「ニューヨーク・ニューヨーク」

### 3 月 月 次 会



桐生織物にとって大切な市場であるアメリカ。そのアメリカ、特にニューヨークに2ヶ月にわたって長期出張の形で桐生織物の売込

みや、市場調査をされた、桐生織物協同組合事業部長の生方修一氏をゲストに迎え、最近のニューヨークの様子をお聞きした。以下はお話の概要。

桐生織物協同組合では毎年、世界の主要市場の3～4地区で見本市を開催しているが、特に世界最大の消費国アメリカに対して、もっと力を入れるべきだとして、とりあえず長期出張の形で職員を派遣、近い将来には駐在員を常駐させる構想をもっている。

ニューヨークに一人で長期滞在ということになると、語学のハンデキャップ、治安の悪さ、物価の高さ等々の悪条件になやまされる。

しかし、語学力が不足していても、誠実さで訴えればバイヤーと必ず意思が通じ合うものである。桐生織物はこの10年ほど、対米輸出の実績がのびなかったが、確実なマーケットリサーチ、ニーズに合わせた商品開発、新しい販売ルート作りを進めて行けば、まだまだ十分に桐生織物の対米輸出を増やすことが可能である。

今回持参したサンプルの評判は総じて良好であり、桐生産地に期待をするバイヤーも多い。

ファッションの傾向としては、一時のようにカジュアル物一辺倒でなく、可成りドレスリーな服装が多くなって来ている。またラメ（金銀系）使いのものも増えて来っており、いよいよ桐生織物の出番になって来たように感じた。



# 桐生俱樂部句會

## 【三月】

節分の 篝火映ゆる 大銀杏 高木  
 湯上りの 肌着にふれて 春寒し 北川  
 手の入りし 松の枝振り 春寒し 森  
 節分の 鬼の役買う 子等のなし 山田  
 節分会 ゆうべと同じ 夜半の月 清水  
 出航の 銅鑼甲高く 春寒し 光春  
 春寒し 祈願の絵馬の 十重二十重 久保田  
 風風ぎて 上州の野面 春寒し 前原

## 【十二月】

ねぎ青き 深谷の径の 幾まがり 高木  
 そりまがる 手作の葱 いとほしむ 山田  
 下仁田の 葱青々と 畑暮れる 北川  
 花壇には 今年も葱の 仮植かな 森  
 葱を提げ 家路へ急ぐ バイト妻 本田  
 暖房に 鉢の花あり 誕生日 久保田  
 暖房を つけてはつぼつ 集まりし 遠藤  
 葱匂ふ 別離の鍋に まだ酔えず 光春  
 スチームに 机近づけ 賀状書く 清水  
 建前の 家二軒あり 葱畑 官地  
 牛鍋の 葱煮る間の 一談議 前原

## 【三月】

さらさらと 傘に音きく 春の雪 宮地  
 遠き日の 味かみしめる 目刺かな 高木  
 ひび割れの 手のぎこちなく 目刺焼く 北川  
 甘口の 酒にほどよき 目刺かな 清水  
 造成地 まだ売れ残る 春の雪 本田  
 声高に 学童通る 春の雪 久保田  
 送る人 送らるる人に 春の雪 遠藤  
 春雪の 消ゆる速きよ 舟下る 光春  
 日曜の 今朝くつろぎの 春の雪 前原

## 【二月】

水仙花 岬は荒れる 日となりし 宮地  
 三日目の 雑煮いささかたじろぎし 北川  
 水仙の 東は芯まで 凍りおり 高木  
 水仙の 供華ふさわしき 刀自なりし 光春  
 水仙を 置きかえてみる 日向窓 久保田  
 子等巣立ち テーブル広し 初雑煮 山田  
 小松菜の 青さに春を 雑煮椀 前原

## 囲碁の会

毎週土曜午後は桐生俱樂部6号室で、囲碁の会を開いております。いつでもご自由にご参加下さい。





## 倶楽部だより

### ◎12月

クリスマス祭(8日)  
 歩く会(9日) 吾妻公園から吾妻山へ  
 理事会(13日)  
 俳句会(20日)

昭和60年度

### ◎1月

新年互礼会(4日)  
 理事会(9日)  
 歩く会(13日) 石尊山から鶏足寺まで  
 会計監査(21日)  
 俳句会(24日)  
 歩く会世話人会(25日)  
 理事会(28日)  
 定時総会(28日)

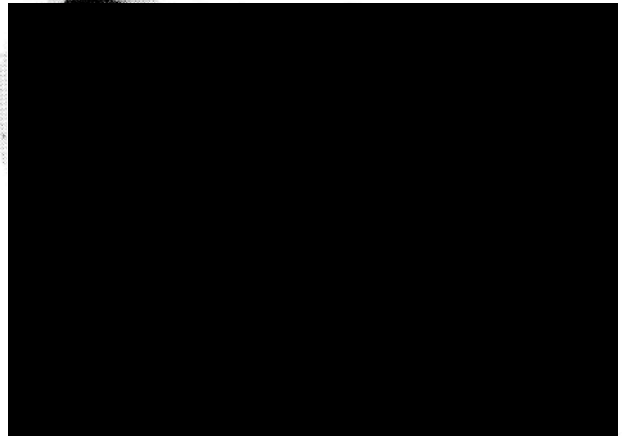
### ◎2月

会報委員会(5日)  
 理事会(8日)  
 歩く会(10日) 水瀑赤城大滝を訪ねて  
 俳句会(19日)  
 臨時理事会(26日)

### ◎3月

理事会(8日)  
 歩く会(10日) マンサクの咲く穴切峠から  
 赤雪山へ  
 管理委員会(11日)  
 春季囲碁大会(21日)  
 俳句会(22日)  
 歩く会世話人会(26日)  
 月次会(29日) ニューヨーク・ニューヨ  
 ーク、  
 講師 桐生織物協同組合事業部長  
 生方 修一氏

## ▷ 新入社員紹介 ◁



## ▷ 編集後記 ◁

〈終日の雨めづらしき弥生かな 信徳〉

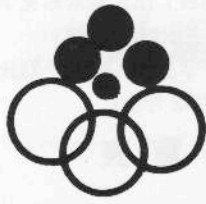
陰暦3月も陽暦3月も、まことに雨の日の多い春である。

「今年の花は——」と気にかかったが、季節は正直なもの。4月9日の理事会の時は、倶楽部の庭の桜は満開であった。

第一面、前原理事長の言の如く理事長以下役員一同再選となったが、今後一層、社員の期待に沿うべく覚悟を新たにしている。

委員会構成も新しくなった。委員の皆さんは大変ご苦勞さまだが委員として活動することが社員としての喜びでもある。自分達の倶楽部だと思えることでもある。お互いに楽しくやりましょう。

社団法人 桐生倶楽部会報 第44号  
 1985年(昭和60年)4月発行  
 発行人 前原勝樹  
 編集責任者 小池久雄  
 印刷 ツボノ印刷株式会社



# 社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL45-2755

## 桐生のあゆみ

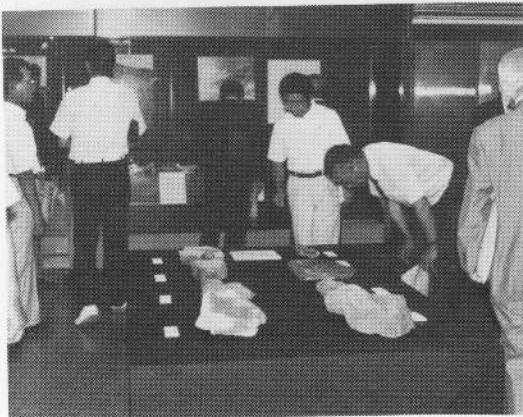
桐生市郷土資料展示ホールが、市内本町5丁目の中央ビルの5階に8月1日よりオープンされました。

オープンを記念して9月末日までは特別企画「桐生のあゆみ展」が開かれます。

同展では、古生代から江戸時代末期までの郷土のさまざまな文化財や貴重な資料が、時代を追って3つのコーナーで紹介をされています。

特に国指定重要文化財の千網谷戸遺跡出土品、室町時代の彦部家仁田山紬注文書等々は注目を集めるものであります。

この郷土資料展示ホールのオープンにちなんで今後桐生倶楽部会報の表紙を当分の間「桐生のあゆみ」というテーマで、年代を追って貴重な文化財や興味深い資料の紹介をしてゆくつもりであります。ご期待下さるようお願いします。



郷土資料展示ホールは、わたくしたち市民が前から要望していたものには、ほど遠いようですが、とも角これだけのものでもできたのは大変嬉しいことです。

社員の皆さまに一見をおすすめいたします。

この展示ホールの設置により、更に市民の声がたかまり本格的な郷土資料館建設の日の近くなることを期待したいものです。



# 第11回 桐生倶楽部文化祭

桐生倶楽部文化祭も今年で11回目になる。  
4月19日の俳句会を皮切りに、5月17日のゴルフ大会まで、多彩なスケジュールが組まれた。

中でも4月27日から29日までの3日間は、華道絵画・俳句の色紙・写真・歩く会記録など社員の作品の展示があって、社員や関係者など多数の参観者があった。

文化祭の諸行事並に協賛行事、各種競技入賞者は以下の通りであり、入賞者には4月28日のガーデンパーティーの席上、前原理事長から賞品を手渡された。

## 文化祭行事催物一覧

俳句会	4月19日午後7時30分～	於2号室	
囲碁大会	4月21日午後1時～	於6号室	
将棋大会	4月24日午後5時～	於6号室	
麻雀大会	4月26日午後6時～	於麻雀KM	
華道展	4月27～29日午前10時～午後5時	於広間	田沼宗喜社中協賛
絵画展	4月27～29日午前10時～午後5時	於広間	
俳句色紙展	4月27～29日午前10時～午後5時	於広間	
写真展	4月27～29日午前10時～午後5時	於1号室	
歩く会記録展	4月27～29日午前10時～午後5時	於1号室	
ガーデンパーティー	4月28日午後3時30分～午後5時30分	於庭園	委員会入賞者表彰 アトラクション等
ビデオ鑑賞会	4月28日午後1時～午後3時30分	於ロビー	歩く会、ビデオ部会 協賛制作「なたくの の里を訪ねて」他
ゴルフ大会	5月17日午後8時30分～	於足利CC	

## 文化祭協賛行事

- ◎5月12日 歩く会「古峰ヶ原」(山つつじの花盛り)
- ◎4月20日 美術部「美術鑑賞会」「中国陶俑の美」東京国立美術館、「点描の画家たち」国立

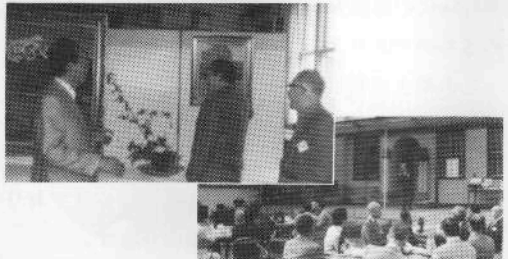
西洋美術館、「トルコ文明展」出光美術館見学  
◎4月27日 懇話会「美術・文化・博物館」  
群馬県立近代美術館主任学芸員 山田 烈氏  
(午後7時 場所 クラブ2号室)

## 入賞者一覧表

- ◎**囲碁部** (4月21日)  
優勝 野田友次郎 準優勝 島 勝二  
1位 斎藤 喜平 2位 吉成 敏郎  
3位 金井 利雄
- ◎**将棋部** (4月24日)  
優勝 芝崎福三郎 準優勝 腰塚 治男  
1位 平野平四郎 2位 蓮沼 源一
- ◎**麻雀部** (4月26日)  
優勝 石井 省三 準優勝 寺本(朝日火災)  
1位 飯山 清治 2位 合月(朝日火災)  
3位 松枝良太郎
- ◎**ゴルフ部** (5月17日)  
優勝 八木橋祥介 2位 福田 一郎  
3位 土沢 弘

## 文化祭ガーデンパーティー

文化祭のメインの行事、ガーデンパーティーは4月28日午後3時半から新緑の美しい倶楽部庭園において開かれ、各種競技の入賞者表彰やアトラクション、社員のカラオケなどで大変楽しく過した。



清水理事ののど自慢



マーキュリーレコード専属歌手の橋本ゆみ子嬢 さすが本職



平野(平)社員の手品は本職顔負けの堂に入ったもの



# 地場産業振興センター

## 昭和60年度建設開始

政府は地域経済の主要な担い手である地場産業の自主的發展を図るため、中長期的かつ地域的観点に立って、その進むべき方向を明示した地場産業総合振興ビジョン策定を進めることとした。

群馬県では全県を6地区に分けてこの振興ビジョンを策定し昭和56年9月より施行した。

これと平行して中小企業庁では地場産業振興センター構想を打ち出し要望のある各県に1ヵ所づつ建設することとなった。

桐生市でも早くから建設の陳情を行なったが、場所、予算の未定、地域社会とのコンセンサスのおくれなどから延引しようやく昭和60年度着工の運びとなった。

振興センターはその地域に500以上の小企業が存在していることが条件であるが、桐生は繊維関係だけで1200以上ありその条件を十分に満たしている。

振興センターは地域産業に活力を与えるため、新商品の開発、異業種間の交流、人材の養成などの機能を持つと同時に中小企業の弱点とされる情報や流通のシステム化はセンターの主要な役目である。また製品の展示や、世界中から集めた民族衣裳などアイデアの源泉として、また産地の特色を発揮し、そのイメージアップに有効な働きをなすものと考えられる。

### 建設、運営の予算について

振興センターはすでに56年度着工8県、57年度5県、58年度7県、59年度6県、本年度は群馬（桐生地区）、山形（長井市）、大阪（堺市）の3ヵ所合計29県に建設されることとなった。

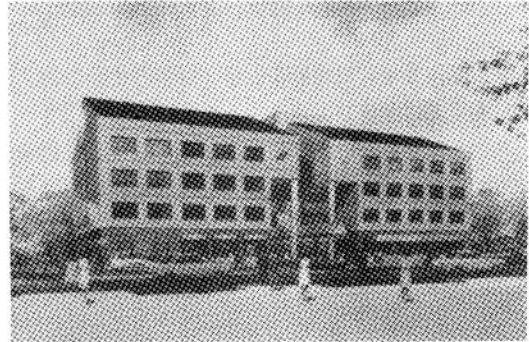
予算は5億～30億円で桐生市の場合は約10億円というところに落付いた。地上4階建約4000㎡である。本年中に設計完了し直ちに着工、昭和62年4月オープンの手筈である。

因みに隣りの足利は3620㎡、15億円の予算、昭和61年4月オープンの手筈である。予算には土地代も含まれるものと思われる。

桐生市10億円の建設資金調達計画は次の通りで

地方産業のための施設としては極めて有利な条件である。

国庫補助金	200,000千円
県費補助金	200,000千円



来年4月オープンとなる足利の地場センター完成予想図

高度化資金	480,000千円
16年償還（内3年据置）、無利子	
自己資金	120,000千円
	（桐生負担）
計	1,000,000千円

振興センターは特定法人で運営され、その構成員は、群馬県、桐生市、大間々町、藪塚本町、笠懸村、新里村、黒保根村、東村及びそれぞれの商工会議所、商工会、その他民間38団体である。

この出資又は出損金は、23,000千円で群馬県1千万円、桐生市1千万円、その他団体300万円。

このほか運営基金3億2千万円は、群馬県、桐生市でそれぞれ1億円宛、機械金属業界と繊維関連業界がそれぞれ5千万円宛、残り2千万がその他の負担となっている。

以上、紙面の都合で要点のみの説明に終わったが積極的に資金の供出に協力される方や、貴重な資料の提供の申し出など振興センターの建設はここへきて急ピッチに動いている。

地場産業活性化の拠点として振興センター完成の日が待たれるのである。

（同建設推進委員 書上誠之助）



## 社員のページ



終戦記念日に  
あたって

関崎 仁

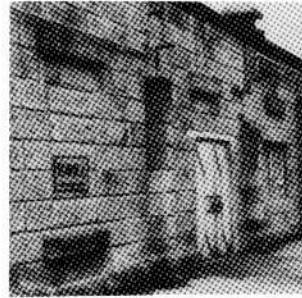
広島、長崎に原爆投下以来、40回目の終戦記念日を迎えようとしている。

この間、社会の急激な発展と変化の中で、国民の生活意識は現状の生活に満足し、中流家庭以上の志向を求める傾向にある。世の中の変遷は歳月を忘れ、若者の間では戦争そのものの記憶を形骸化させ、戦闘服に身を固めモデルガンを撃ち合う「サバイバルゲーム」がストレス解消の手段として盛んになっている。

科学技術が進歩し、豊かな社会を迎へても、また、いかなる社会体制のもとでも先達の犠牲のもとに現在の生活が存在するという事実を、戦争をゲームとしてとらえてほしくないものである。社会の変革・進歩は常に若者達の創造的な破壊の上に成就されるものと考えている。したがってシラケやモラトリアムから脱皮して今の社会をひっくり返し、自分の理想社会を創造する気概をもってほしいものである。

臨教審が教育改革について議論を重ねてから久しいが、その中で個性主義あるいは尊重が主要素として答申されている。このことは高等教育機関更に又一般企業の企業内教育においても「生きがい」教育として問題提起がなされている。

今後人々は増々多様化する高度情報化社会の中で、人生の目標、目的をマスメディアの中に埋没させ個性も画一化して行く傾向にあるものと想定される。ましてや国際化社会を迎えるに当って民族間の交流も盛んになるであろう。このことも考慮してシラケたりスネたりしないで、先達の過去の経験と心を十分把握して日本を背負う気概をもってもらいたいと終戦記念日に当って痛感するものである。

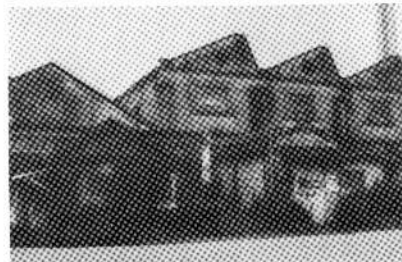


日本の誇る建材  
大谷石の工場を  
保存し両毛の  
産業博物館に  
して見ませんか

大川 仁

桐生市から足利市に入ると競馬場がある。渡良瀬川の堤を走ると、左手に足利公園の山波がありそのすそに、大谷石造りのノコギリ屋根の工場がある。明治18年に同地に足利織物講習所が設立され、現在の足利工業高校発祥の地である。明治44年山保織物工場が設立され、セルの毛織物が生れた工場である。昭和17年大日本紡績となり、その後経済の変換に伴い、ニチポー、ユニチカ、ユニーストと変遷して来た。今回、同工場が閉鎖されることとなり、足利市がここを買収し、大谷石の工場は、取り壊されようとしている。この計画に対し、市民の中から「元ユニースト工場と跡地の利用を考える会」が結成され、「二度と造ることの出来ない大谷石の工場を保存し、その建物をそのまま両毛の産業博物館として利用し、且つ多くのイベントを行う会場として活用し、活性化を計るべきである。」と市に要請し、9月末日までに結論を得るべく市と協議中である。

先日大谷石材協同組合の一行が同工場を調査し「米国のフランク・ライト設計の元帝国ホテルの石材よりも良質の石材であり、現在は、入手することの出来ない石質である。建物も何の異常もなく、その規模も大谷石として日本一の建物である。是非再利用して欲しい。」と要望された。この大谷石造りの工場と、その跡地を、両毛地区全体の「産業考古学」の見地からもその保存を計り、「両毛の産業博物館」として活用するばかりでなく、すばらしいイベント会場として活性化を計るなら



ば、両毛経済圏の象徴的建造物となるのではないのでしょうか。

一度ご見学下さい。



## 一月次会報告

### イスラエルを訪ねて (5月例会)

5月の月次会は小島弘一さん(株)パンファン、末広堂代表取締役)に、イスラエルの旅行話を聞かせていただいた。

小島さんは桐丘高校で英語の講師もされて、語学に堪能であり、海外旅行も数多くされている。冒頭、小島さんから苦心して持って帰られたガラス瓶に入った「死海の水」を提供され、集まった社員の方々がゴワゴワ嘗めてみる一幕があった。死海の水は塩分37%、ちょっとなめてみてもびっくりするような辛さであった。

この死海は、イスラエルの東南にあり、対岸はヨルダンになる。1947年、死海の北西岸の洞穴で発見された「死海写本」は、聖書にも登場するもので、原始キリスト教研究の資料として有名なものである。

イスラエルは1948年建設されたユダヤ人の国であるが、350万のユダヤ人以外に50万のアラブ人が住む。

首都エルサレムはユダヤ教にとっても、キリスト教にとっても、回教にとっても聖地である。このあたりを所が旧約聖書に出てくる所でありイエス・キリストが十字架にかけられたと云われるゴルゴダの丘もエルサレムの郊外にある。

政治的にもアメリカとの結びつきが強く、アラブ諸国との戦争をくり返しながらも内政は比較的安定していると云われるが、経済的には大変なインフレで、3年間で物価上昇率3千パーセントという。滞在中でも毎日のように物価があがった。

国の財政は全く容易でない状況だが国民は金持ちである。



この写真は小島さん。死海に入ると、どうしても水の中にしずめないのので、こんな恰好になってしまふのだそうです。

### 地場産業振興センターの 設立とその周辺 (6月例会)

桐生市に地場産業振興センターが建設されることになり、市民の強い関心を集めている。6月の月次会では、この問題の最適任の講師である桐生倶楽部理事、地場産業建設推進委員の書上誠之助先生を迎えてお話しを願った。くわしい内容は4頁をみていただきたい。

### 桐生の古代…遺跡は語る (7月例会)

桐生市文化財調査委員の大里仁一先生をお招きして、スライドを使い、古代の桐生人がどのような生活を営んでいたか、わかりやすく興味深いお話しをいただきました。

## 懇話会報告

### 《4月》 「美術・文化・博物館」

群馬県近代美術館主任学芸員、山田烈さんは、桐生に在住で、今までも桐生市内にある美術品のことでは、その該博な知識を生かして色々ご指導をいただいている人である。

今回は桐生倶楽部文化祭にちなみ、上記のテーマでお話をうかがった。地方の美術館、博物館のあり方について、本質をついた論旨であった。

### 《5月》 「美和神社と

#### 加茂神社について」

ご存知のように桐生には、県内の式内社12社の中でも特に由緒の深い美和神社・加茂神社がある。これは大変珍しいことであり、中世におけ



究の一端をおうかがいすることができた。

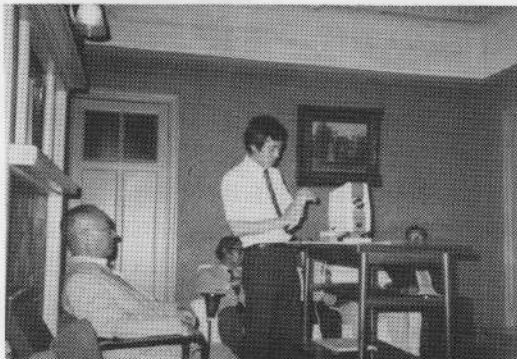


## 7 月 の 懇 話 会

### 絵 画 と 社 会

(美術の東西比較あれこれ)

4月に引続き、群馬県近代美術館主任学芸員の山田烈さんをお願いをして美術の話。特に豊富なスライドを用意していただき、同じ風景画でも西洋・中国・日本と夫々の比較、印象派の画家達と浮世絵との相互の影響など興味深いお話でした。



## 歩 く 会 7 月 例 会

### 梅雨明けの 奥日光戦ヶ原へ

梅雨明け十日と言いますが、7月28日はその言葉通り絶好のハイキング日和。サロンバスを借りて日光竜頭の滝まで。そこから歩き出して湯川沿いにホザキシモツケやニッコウアザミの咲く戦ヶ原、小田代ヶ原を歩き湯の湖まで、約5時間の楽しい散策でした。(参加者27名)



## 美術鑑賞に 充実した一日

昭和60年4月20日、桐生倶楽部美術部は東京で美術鑑賞会を催した。参加者は斎藤喜平夫妻、保倉一郎夫妻、藤井龍人、丸山正一夫人、松島武雄の7名であった。

当日は朝から雨がそぼ降り、昼近く春雷を聞くほどであったが、午後は青空も見えて来て、私たちの心も晴れやかであった。

### 点描の画家たち展 国立西洋美術館

この展覧会は後期印象派の一翼を担った「新印象主義」の饗宴である。自然をただ肉眼で見るとは、精神の目で詩の心をとおして見ようとした画家たち。

ピアノのように広い音階を持った油彩による「点描」技法がそれを可能にした。ここから大きく開かれていった現代の美術。「点描」の技法を創案したスーラ、シニャックなどの新印象派の画家、ここからさまざまな可能性をひき出した同世代や後続の世代の画家たちの作品、更には「前点描」的なモネ、ルノワールの作品からキュビズムに至る40余人の画家による100点近い作品は、見る者の心に美術の重要な転換期の美を充満させてくれるのである。

### 中国陶俑の美展 東京国立博物館

陶俑は死者に代えて埋納した明器であり、その出土品は紀元前5千年紀の新石器時代から秦、漢、唐、宋、元の各時代に及んでいる。その種類は、兵馬俑、騎馬武士、騎馬女子、侍者、侍女、楽舞俑、家畜、神獣、さては幻想的な鎮墓獣あり、さまざまのロマンを秘めた陶俑が何千年の昔に私たちを引き入れるのである。

生けるが如く軍鼓がとどろき、いまにも行進に入ろうとするかに見える始皇帝の地下軍団、スラリとした姿態で衣服もびったりしている初唐時代の三彩女俑、ゆったりとした衣服をまとい、ふくよかな表情をもっている盛唐時代の女俑、いずれも絶世の美女でありその眼は澄んで生きているようである。

私たちは、巨大ともいべき中国の歴史の重みと文化的遺産の芸術的価値に深々とこうべを下げるのである。

### トルコ文明展 出光美術館

アナトリアと呼ばれるトルコは、古くから東西文明が交錯する「回廊」であった。人類の文明史上初めて鉄器を作ったヒッタイト族が、それを武器に大帝国をつくったのがアナトリアである。

アナトリアにおける人間の最初の足跡は旧石器



時代に始まったが、新石器時代のハジュラルに既に芽生えていた彩文土器は、アナトリアの銅石器時代を特徴づけるものとして展開する。焼成粘土の彩文壺、碗、双耳壺、鉢、女神像がそれだ。

前期青銅器時代アナトリアは、金の女人双偶像水注、手付杯、小壺、王冠、髪飾、頭飾等、銀の女人像、青銅の女人授乳像、雄鹿像等いずれの冶金技術や金属細工技術の高度発展の所産である。中期青銅器時代を経て鉄器時代を迎える。

玄武岩の倚坐夫婦浮彫墓石、象牙獅子像、青銅獅子像、くつわ等はこの時代のものである。ヘレニズム時代、ローマ時代等に至る400点に及ぶトルコの貴重な文化遺産は、何か東洋的なものも浮ばせ、私たちが1万年前の世界へと夢をはこぶ。

後記

○古代美術の魅力にコンクリート畳を歩き続ける

- 疲れも忘れ、一同参加した喜びを語り合った
- 東京都立美術館内レストランで歓談しながらの昼食もまた思い出に残るであろう。保倉氏にご馳走になったビールの味はまた格別であった。
- 斎藤喜平氏のご案内で拝見した氏の女婿土田副正氏(日影展会員、日展特選2回)の立体造形彫刻「少女の像」は見事で、その表情は清純で月にかおる花のような美しさがあった。
- 最後に経費負担の問題に触れて恐縮であるが、美術鑑賞会としては食事代「会」負担、観覧料「個人」負担でなく、逆に食事代「個人」、観覧料「会」負担とすることが適正であろうと考え、一同合意の上そうさせて頂いた。なお、1人分の会費は3展示場の入場観覧料合計が3900円であった。

(担当 松島武雄記)

# 桐生倶楽部句会

【四月】

山頂に 雪をのこして 蝶の舞う  
花冷えや ほつほつ減りし 通夜の客  
垣根越え 来たりし蝶に 花乏し  
花冷えや 人まばらなり 街画廊  
熱燭の 所望もありて 花の冷え  
入相の 鐘に花冷え つのり来し  
蝶飛びて 一寺の庭の ひろがりし  
花吹雪 坂上りくる 車椅子  
蝶わたる 河広ければ 高々と  
羽休む よすがもなく びるの蝶

【五月】

旅二日 今日帰らん 端午の日  
青春の 色鮮烈に 雨あがる  
麦穂ゆれ 妙なる色に 我忘る  
吹き晴れて 池にも泳ぐ 鯉幟  
麦笛に 岸離れゆく 渡し舟  
煌めける 矢車鳴りて 富士仰ぐ  
叱られて 独り麦の穂 抜いており  
麦の丈 三寸伸びし 今朝の雨

【六月】

つかの間に 水田生れぬ 夏木立  
雲垂れて 単衣羽織の 決めかねし  
伝え聞く 陣屋の跡や 夏木立  
単衣着て そぞろ歩きや 宵の街  
月の池 日の池暗し 夏木立

宮地 山田 久保田 清藤 光春 遠藤 本木 高木 前原  
宮地 山田 久保田 清藤 光春 遠藤 本木 高木 前原

## 逝く夏の一 秩父の習俗を訪ねて 《歩く会 8月特別例会》

秩父には他では見られなくなってしまった古いなつかしい習俗の数々が残されている。特に盆送りの行事を中心にそうした習俗を尋ねようというのが今回の企画である。

門平、立沢の虫送り、小川の百八灯をはじめ民俗博物館、秩父神社、まつり会館等、朝から夜まで、楽しい一日の旅行であった。

(参加者 15名)



門平(かどだら)の虫送り



## |||| 倶楽部だより ||||

### ◎ 4 月

- 行事委員会 (1日)
- 文化委員会 (2日)
- 理 事 会 (9日)
- 会報委員会 (9日)
- 歩 く 会 (14日) 「かたくりの花と手打そば、  
そして札所詣で」
- 俳 句 会 (19日)
- 美 術 部 (20日) 美術鑑賞会「中国陶俑の美」  
東京国立博物館、「点描の画家たち展」国立  
西洋美術館、「トルコ文明展」出光美術館見学
- 囲 碁 部 (21日) 文化祭協賛囲碁大会
- 歩く会世話人会 (22日)
- 将 棋 部 (24日) 文化祭協賛将棋大会
- 麻 雀 部 (26日) 文化祭協賛麻雀大会
- 懇 話 会 (27日) 「美術・文化・博物館」群馬  
県立近代美術館学芸員 山田 烈氏
- 文化祭 (27日～29日)

### ◎ 5 月

- 理 事 会 (8日)
- 歩 く 会 (12日) 「上州のチベット倉淵村から  
二度上峠、360度大展望の浅間隠山へ」
- 懇 話 会 (15日) 「美和神社と加茂神社につい  
て」日本考古学協会々員 周東隆一氏
- ゴルフ会 (17日) 於 足利 C C 多幸コース
- 俳 句 会 (21日)
- 月 次 会 (24日) 「イスラエル旅行記」  
小島 弘一氏

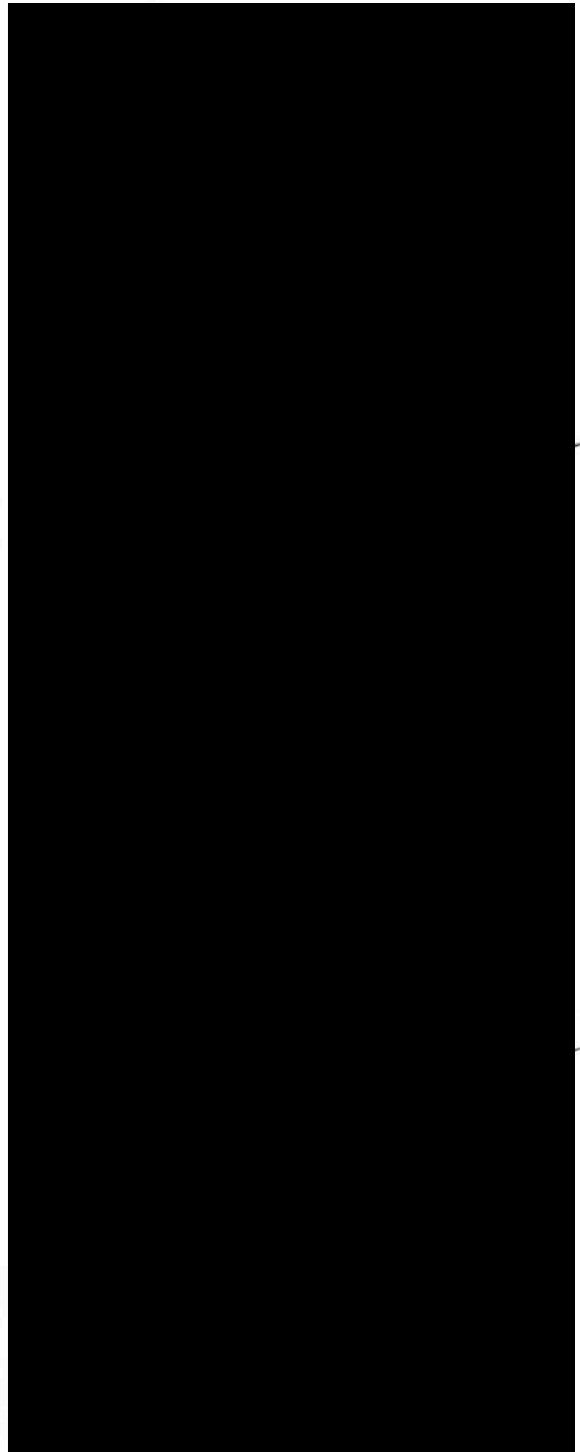
### ◎ 6 月

- 理 事 会 (8日)
- 俳 句 会 (18日)
- 月 次 会 (25日) 「地場産業振興センターの設  
立とその周辺」地場産業建設推進委員会委  
員 書上誠之助氏

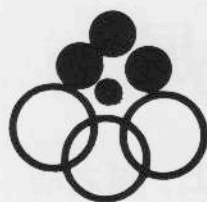
### ◎ 7 月

- 歩く会世話人会 (3日)
- 懇 話 会 (5日) スライドによる「絵画と社会  
美術の東西比較あれこれ」群馬県近代美術  
館学芸員 山田 烈氏
- 理 事 会 (9日)
- 管理委員会 (19日)
- 俳 句 会 (23日)
- 会報委員会 (25日)
- 懇話会委員会 (25日)
- 月 次 会 (26日) スライドによる「桐生の古代  
遺跡は語る」桐生市教育研究所々長補佐、  
桐生市文化財調査委員 大里 仁一氏
- 歩く会 (28日)「梅雨明けの奥日光戦場ヶ原へ」

## ▷ 新入社員紹介 ◁



社団法人	桐生倶楽部会報	第 45 号
	1985年 (昭和60年)	9月発行
発行人	前原勝樹	
編集責任者	小池久雄	
印刷	ツボノ印刷株式会社	



社団法人  
**桐生倶楽部会報**

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL45-2755

**桐生のあゆみ**

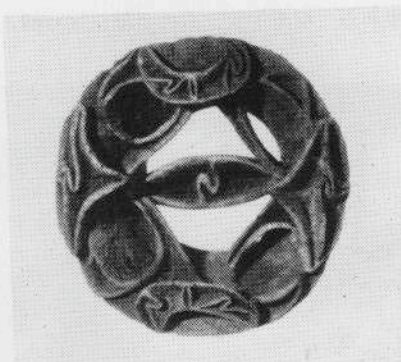
**縄文時代**

相沢忠洋氏が、岩宿の赤土の崖の中から旧石器を発見し、日本の歴史の第一頁を書き換えたことは余りにも有名である。

岩宿のような旧石器の遺跡は当然桐生市内にもあると思われるが、残念ながら発掘調査をして確認されたものはない。

したがって、桐生のあゆみも旧石器時代をカットして縄文期（1万2千年前から3千年前）からスタートすることにする。

桐生市内には81ヶ所の縄文時代の遺跡が確認されているが、特に著名なものは川内の千網谷戸（ちあみがいど）であり、その出土品は大変学術的価値が高く、一部は国の重要文化財に昨年指定された。千網谷戸遺跡は縄文晩期（約3千年前）であり、縄文前期（約6千年前）の遺跡としては金竜台、縄文中期（約4～5千年前）の遺跡としては川内の三島台などが代表的なものである。



千網谷戸遺跡出土品 耳飾り



千網谷戸遺跡出土品 人面付き土器



金竜台遺跡出土品深鉢形土器



三島台遺跡出土品深鉢形土器



千網谷戸遺跡出土品土偶



# 新風を巻き起した藍染展

書上 誠之助

昭和60年10月25日～27日、織物会館には秋空高く藍染の大的ぼりがへんぽんとひるがえった。民族衣裳と染織展「世界の藍染」が桐生広域産業デザイン振興会（桐産デシン）の主催により開かれた。



長崎屋ロビーを飾る大幔幕

入場 数は3日間で5,000名になんなんとする盛況で織物会館始まっているの集客数らしいということである。来客の分布も北は山形より南は北九州にわたる広範なものであった。

浜松市からは若手グループが団体として訪れた。東京からは女子美や多摩美からバスを仕立て参加した。各地の工芸作家や、第3日の日曜には近県の一般の方々が、多分NHKのテレビ紹介によるものか多数訪れた。



熱心に見入る観客

選ばれた500有余の展示品は質の高いものだけに、参加者は釘づけされたように一步一步熱心に藍染のだいご味を味わった。即売場の盛況も予想外のことであった。

この度の企画の成功については、関係諸団体の強力な御支援のもとに、全国のコレクターの御協力や県織工試の技術的御援助、桐産デシンメンバーの奉仕的活動が相乗的効果を発揮したものである。



人気を集めた藍染の創作デザイン

いま戦い終って1年以内にわたる計画を省みて「やればできる」ということが関係者の実感であろう。伝統ある当地の繊維産業に創造性ある豊かな未来を築くため、この藍染展が何等かのインパクトとなれば幸いである。

(桐産デシン会長)

## 桐生の藍染の歴史

織物と藍染めは古代より深いかわりがある。「延喜式」には上野国より献上した布に、紺布、縹布の記述が見え、藍染めが古来より行われていたことがわかる。

天正19年今泉村（桐生市東4丁目）に紺かき（藍染屋）が開業したときの記録がある。また同書には、この地に紺屋の信仰厚い愛染明王（あいぜんみょうおう）の祠があったらしいことも記してあり、すでに多数の紺屋があったようである。

それ以降、桐生では織物の発達と共に紺屋も数を増し組織化していった。寛政7年、桐生新町には36軒の紺屋があり、藍がめ1個につき200文の運上金（紺屋税）をとられていたという。



## 社員のページ

### これでいいのか!! 厚生病院について

飯田 隆雄

われわれは歴史の中で犯した過ちを二度と繰返してはいけない。

国力の差は歴然としていても、本当の姿を知らされなかった為に国民は火の玉となって戦ったがその結果われわれは大きな犠牲を払って、わが国は敗戦国となった。

古くなった設備を、新しくすることに躊躇する経営者はいないが、それはあくまで返済可能な計画でなければならない。いくら重役会で決議されて始めた事業でも、景気の変化に気がつかず強行すればやがては倒産してしまう。

桐生でもそんな心配がされる計画がスタートされた。厚生病院改築は今後30年にわたって、統計で209億円の負担を背負い、毎年7～13億円の支払が必要となる。桐生市にとっては今迄にない大事業であり、勢い慎重にならざるを得ない。

私は桐生市議会の特別委員として、この問題を研究すればする程、こんなにふくらんでしまった計画を安易な気持ちで賛成できないと考えている。

その問題については「私はこう考える」と云う自分の主張を述べることは誰でも大切なことだが、私の主張と違った方向に進みつつあるこの計画が私だけの取越苦労なのか、皆さんの御批判をいただきたいと思う。なぜなら桐生市は市民のためにあり、厚生病院もまた広域圏のものである。

私は、場所については現在地(13,000平方m)よりも商業高校の裏にある陸上競技場(34,000平方m)につくるべきだと考えている。

陸上競技場もやがて建替えの時がくるので、この二度とないチャンスに、桐生の中神跡地に立派なものを作るべきだと思う。あの辺はスポーツのメッカであり、スポーツの中心は陸上競技場であるべきと考える。今進んでいるゆーゆー広場を何故に、急に着工するかは知らないが、これを包含した計画が出来るはずである。これによるメリットは実に大きい。第一に競技場も新しくなりしかも厚生病院は、広い新地に建設できるので駐車場は広くとれるし、工事は楽になり、コストは安く、工期も2～3年で出来るので、最大のメリ

ットは病院建築が大変促進されることである。

現在の計画では壊したり造ったりを3回も繰返し、患者は5年間も埃と騒音に悩まされる訳である。又他の面から考えてもメリットはある。

近い内に産文敷地内に地場産業振興センターが建設されるが、今でも狭い駐車場がさらに少なくなってしまふ。それでも産文が出来た時は広い駐車場であった。なぜなら昭和33年に産文が建設された時は桐生に乗用車が38台しかなかった。ところが現在は32,816台の乗用車がある訳で、10億円以上のセンターが出来るのに駐車場が現在より少くなること自体、ナンセンスと云わざるを得ない。従って、厚生病院が予定している弓道場跡地の駐車場は地場産業振興センターの駐車場として使用するべきであると思う。

いずれにせよ補助金は、わずか1億円で200億以上の病院を建設するのが現在の計画だが、発想の転換で、緊急時には屋上からヘリコプターの発着が出来る位の立派な病院を、早く、しかも市民負担を少く造る方向で、大きな市民運動を展開したいものである。

\*\*\*\*\*

### 今一番熱中している事

金子 博

此の度伝統ある桐生倶楽部へ入会させて頂きました。何分とも若輩者ですが私なりに倶楽部社員の名を汚がさぬようがんばって行くつもりです。さて私が今最も熱中している事は山歩です。四季折々にその姿を変えて見せてくれる山は実に美しく日頃、店から出る機会が少い為に心の中にたまったモヤモヤを一変してくれます。当倶楽部にも「歩く会」という立派な山の会がありますが日曜が休みでないで仲々参加する事が残念ながら出来ません。私が山歩を始めたのは店の休日の時親しい先輩たちに連れて鳴神山へ登った時からです。それから毎年月に一回先輩たちの山の会へ入って数々のすばらしい登山をさせて頂きました。なぜこんなに山が好きになったのか時々貧しい頭で考えます。ひたすら頂上へ向って無心に歩き山の上へ立った時のすがすがしき一つの目標をなした充実感これが答えだと私なりに思っています。今年ももうわずか、もうじき山の会の先輩たちと楽しい忘年会があります。一年間登った山の話や来年行く山の計画を立てます。来年の計画の中には以前からあこがれの山足尾山系の盟主、皇海山へ登って見たいと思って、いまからワクワクした気持ちでいる今日此の頃です。



## — 月 次 会 報 告 —

## きのこの話 (9月例会)

きのこはすばらしい  
自然食品

財団法人 日本きのこ研究所々長  
農学博士 森 寛一

## ○現代人にぴったりのダイエット・フード

シイタケなどきのこ類は、季節のおいしい味や香りで料理を引き立てるが、それ自体は低カロリー、高タンパクの自然食品で、食物繊維、ビタミン、ミネラル、エリタデニンなどを含み、中国やわが国でも昔から不老長寿の食べ物として珍重されてきた。

また最近の研究では、シイタケには血清コレステロールを下げ、血圧を安定させる働きがあり、さらにガンに有効な物質も含まれていることなどが次々に明らかにされている。

またシイタケの中には、腸内細菌（ビフィズス菌）を活性化させる物質があることもわかった。腸内細菌には、消化を助けて腸内をよい状態に保つ働きがある。

きのこ類は、おいしく、しかもたくさん食べても太らないという、まさに現代人の要求にぴったりの食品といえよう。

## ○1日1枚食べるだけで骨を強くするシイタケ

骨を丈夫にするにはカルシウムやリンが必要。そのカルシウムやリンを骨に沈着させる活性物質がビタミンDである。

シイタケには、ビタミンDの前駆物質としてのエルゴステールが存在するので、シイタケに紫外

9月の月次会は、森先生をお招きして、きのこについてのお話をいただいた。

世界で一番ポピュラーなきのこであるマッシュルームの栽培法、高級フランス料理フォワグラ（がちょうの肝臓）になくはないトリュフは、100グラム2万円もするし、その採集には、犬や豚の嗅覚を利用するとか珍しいお話を聞かせていただいた。

お話の中で、特に血圧、コレステロール、癌など、きのこ健康についてのことに参会者の関心が強かったようである。

そこでこの問題について先生からいただいた資料を以下に要約する。

線を当て、この前駆物質をビタミンDに変えてから食べるのがよい。

生シイタケや干しシイタケの傘を裏返し、ひだの方に日光を30分位あてれば充分。保健上のビタミンDの必要量は、こうしたシイタケを1日1枚食べればよい。

## ○余分なコレステロールを体外に排出する

コレステロールは決して悪い働きばかりでなく細胞膜の成分としてなくてはならないものであるし、脂肪の消化に重要な働きをし、副腎皮質ホルモンや性ホルモンを作るなど大事な働きをする。また善玉のコレステロールと悪玉のコレステロールがある。

余分なコレステロールは血管障害をおこし高血圧、動脈硬化を起す原因となる。きのこの中でもシイタケはこうした余分のコレステロールを排出する効果がある。

## ○コップ1杯のシイタケ水が血圧を下げる

国立栄養研究所の鈴木博士が高血圧ネズミを用いて、シイタケのエキスによる実験を行い確実に血圧降下の効果を証明している。

家庭ではドンコの小ぶりのものを数個コップ1杯の水の中に一晩つけておいてもどし汁を用いるのが簡単。

## ○きのこに含まれる制ガン物質

シイタケや数種のきのこの制ガン効果は動物実験で明らかになっており、注射薬が作られ、現在群大その他の大学病院で臨床研究が行われている。近い将来の実用化が期待されている。



## — 月次会報告 —

## 当面の経済見通し(10月例会)

日本勸業角丸証券株式会社  
桐生支店長 藤川 昌良

最近の経済界は、円相場や債券相場の動きを見ても分るように、驚くほどの速さで変化をしている。

10月例会は、日本勸業角丸証券の藤川支店長さんをお招きして、変化をする日本経済、そして当面の見通しなどについてお話を願った。

藤川支店長は豊富な資料を基に、明快な論調で色々な面から話をされた。以下はその要点。

アメリカの経済動向を抜きにしては日本経済は語れない。

レーガンの今までの経済政策(減税、ドル高、高金利)が高い経済成長につながったが、反面輸入増、資本流入、財政赤字にもなった。

1980年の貿易赤字は255億、84年の赤字は1,233億ドル、4年で赤字額は4倍になっていて、その3分の1は日本からのものである。

その為に、貿易摩擦が日米間の最重要課題となり、円高への誘導をせざるを得なくなっている。

円は20~30パーセント高、時により1ドル200円を突破するかも知れない。

現在円高で黒字は石油、電力、ガス、赤字はタイヤ、造船、鉄鋼、合繊。1ドル200円ともなれば各種機械、半導体、家電、プラントなどにも一時的に悪影響がでる。

株価は、資本流出がとまり過剰流動性という現象(金余り)で、むしろ堅調ではないか。



講演をされる藤川昌良氏

## — 懇話会報告 —

## 《9月》 「増田さんの窯場を訪ねて」

増田晋さんは、梅田町4丁目の忍山川のほとりて陶芸創作をされています。

9月7日(土)の午後、増田さんの窯場を訪ねました。増田さんは梅田の自然に感動をしてここに住みついたそうですが、本当に素晴らしい自然に包まれた風雅なお住いでした。

作品をみせていただいたり、手をとって教えていただきながら泥ひねりをしたり、清流をくんでお茶(自家製の)をいただいたりした楽しい半日でした。

増田さん宅に、第2回梅田アートフェスティバルのポスターがありました。これは桐生市を中心に、絵画、陶芸、和紙、音楽などあらゆるジャンルで創作活動をする人達が、ここを会場に作品を発表する試みだそうです。今夏2回日のフェスティバルが8月4日から11日まで開かれたとのこと。来夏は私達も是非参加したいものです。



## 《10月》 「桐生市の文化行政について」

10月の懇話会は、萩原教育長から文化行政についてのお話を聞きました。そのあとは出席者全員で気楽な懇談会となり、桐生市の文化全般について大変活発な意見が出て時間切れとなり、11月ももう一度このつづきをする事となりました。





### 歩 く 会 《9月例会》

#### 初秋の碓氷峠、 旧中山道を行く

軽井沢まで国鉄、軽井沢駅から碓氷峠まではタクシー、熊野権現に参拝、門前で名物の力餅を食べ、旧中山道を歩き出した。

坂本宿に出るまで約13km 4時間の道は、ハイキングコースとは言いながら案内板も少く、道の整備もお粗末で、往來の旅人の苦勞をしのぼせるに充分であった。

坂本宿で旧脇本陣永井家、旧旅籠武井家、横川では有名な碓氷関所跡など、どれも昔の中山道のゆかりの所を訪ねながら散策。

横川駅から国鉄で桐生へ帰着、楽しい初秋の一日でした。(参加者 24名)



### 歩 く 会 《10月例会》

#### 紅葉に彩られる 赤城鈴ヶ岳

6月例会で企画したコースだったが、その時は残念ながら雨で中止になったので、再度の計画となった。

新坂平まで各自乗用車に分乗。新坂平からは姥子峠、鍬柄山を経て鈴丘山頂まで約2時間、ナナカマド、ウルシの紅葉を楽しみながらのハイキングだった。

赤城は休火山で、黒檜山・駒ヶ岳・鍬柄山が外輪山、長七郎山、地藏岳が中央火口丘であり、鈴ヶ岳も外輪山。

鈴ヶ岳は信仰の山でもあり、写真にある山頂の石碑は修験道の神達である。(参加者 10名)



## 桐 生 俱 楽 部 句 会

〔九 月〕

〔十 月〕

- |                        |                        |                        |                      |                        |                      |                      |                     |                     |    |    |    |     |    |    |    |    |    |
|------------------------|------------------------|------------------------|----------------------|------------------------|----------------------|----------------------|---------------------|---------------------|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|
| いわれなく<br>野菊を摘みし<br>帰り道 | 野菊咲く<br>廃止まらかな<br>路線かな | 後の月<br>野天の出湯<br>巨峰たつ   | 草深く<br>夫婦ばかりの<br>十三夜 | ふたたびの<br>墓に野菊の<br>変りなく | 到来の<br>茶菓子に集う<br>十三夜 | 雲水の<br>かざす小手先<br>後の月 | 栗芒<br>もらいて今宵<br>十三夜 | 寄合の<br>終りて仰ぐ<br>後の月 | 清水 | 高木 | 古川 | 久保田 | 遠藤 | 山田 | 本田 | 宮地 | 前原 |
| ひとすじの<br>香風に乗り<br>秋彼岸  | 朝露に<br>秋茄子の色<br>きわまれり  | ふと思う<br>わが家のことを<br>秋彼岸 | 秋彼岸<br>朝市の花<br>買い足しぬ | 落慶の<br>祝もありて<br>秋彼岸    | あの暑さ<br>語り草なる<br>秋彼岸 | 前原                   | 光春                  | 久保田                 | 山田 | 高木 | 宮地 |     |    |    |    |    |    |



桐生少女少女合唱団の花のコーラス



大会終了後、産文前庭で

花いっぱいの便りをのせた風船をあげる。



産文前にはみどりと花の会各支部が

育てた花が飾られた。

## 全日本花いっぱい 桐生大会

花いっぱい運動は、昭和27年、長野県松本市に生れた。敗戦から間もないこの頃は、自然が廃虚と化し、人心もまた荒廃していた。

だまって花を植える、種子をまく、地域社会を花でいっぱいにする、この運動はたちまち全国にひろがっていった。

戦後の自然保護運動史に一頁を開いたものであり、日本の精神史の上でも画期的な役割を果たしたものである。

この花いっぱい運動の全国の同志の集いが、全日本花いっぱい大会であり、第28回の大会を桐生で開催できたことはまことに嬉しいことであった。

10月17日の大会には、北は北海道から南は九州までの全国からの参加者、県内、市内の参加者合わせて1,700人が産業文化会館の会場にあふれた。

大会々長の小山利雄市長は「今日の日、10月17日を市の花の日と定め、花いっぱい運動の推進をはかりたい」とあいさつ、そのあと「花いっぱい連盟」降旗会長の挨拶、次期開催地姫路市や前回開催地浜松市と桐生市が苗木の交換、最後に「花いっぱい運動の輪を広げ、世界平和に寄与しましょう」の大会宣言をした。

会場前には「桐生市みどりと花の会」の各支部が育てた花々、市内には梅田のコスモス、新川バラ園など至る所に花が咲き、他地区からの参会者から一様に賛辞をおくられた。

## 第2回ウォークラリー開催 桐生倶楽部歩く会も参加

11月3日、織物発祥の地川内地区で第2回の桐生の歴史と文化を考えるウォークラリーが開催された。

昨年の第1回日は、桐生氏や由良氏にゆかりのふかい梅田で行われ、800名をこえる参加者があったが、今回は好天にもめぐまれ参加者1,500人をこえる盛況で主催者を喜ばせた。

ウォークラリーは、桐生市のめぐまれた自然や、古い歴史と文化を市民（特に次代を担う子ども達）に知っていただき、リクリエーションだけでなく、

よりよい桐生のまちづくりにも役立てたいという趣旨ではじめたもの。

青年会議所をはじめ、社会教育関係35団体の共催となっており、桐生倶楽部歩く会（代表木島清）も積極的に参加している。



川内南小校庭から出発



秋の叙勲と県功労者表彰

- 勲五等双光旭日章 遠藤 俊一
- 群馬県功労者表彰 赤堀 貞治
- 〃 増山作次郎
- 〃 園田 昇

以上の社員に心からお祝いを申し上げます。

ⅢⅢⅢ 倶楽部だより ⅢⅢⅢ

◎8月

- 理 事 会 (8日)
- 歩 く 会 (16日) 秩父に残る習俗を訪ねて

◎9月

- 懇 話 会 (7日) 湯本窯増田晋氏宅窯場訪問
- 歩 く 会 (8日) 初秋の碓氷峠、旧中仙道に行く
- 理 事 会 (10日)
- 会計委員会 (18日)
- 俳 句 会 (19日)
- 歩く会世話人会 (24日)
- 月 次 会 (25日) 〃きのこの四方山話・その効用、  
講師 財)日本きのこ研究所々長 森寛一氏

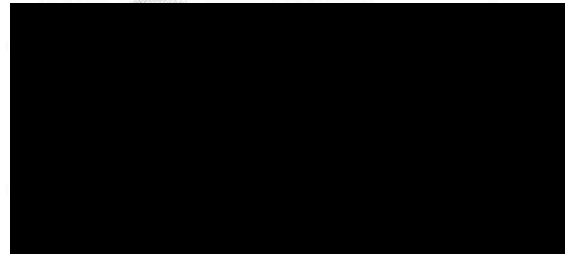
◎10月

- 理 事 会 (8日)
- 懇 話 会 (9日) 〃郷土の文化財について、  
講師 萩原教育長
- 歩 く 会 (13日) 紅葉の赤城鈴ヶ岳へ
- 歩く会世話人会 (22日)
- 会報委員会 (25日)
- 俳 句 会 (25日)
- 月 次 会 (29日) 〃当面の経済見通し、  
講師 日本勧業角丸証券株桐生支店長  
藤川昌良氏

◎11月

- 理 事 会 (7日)
- 歩 く 会 (10日) 晩秋の足尾路船石峠から備前楯  
山へ
- 行事委員会 (11日)
- 管理委員会 (12日)
- 懇 話 会 (15日) 〃文化行政について、講師  
萩原教育長
- 囲・碁 会 (17日) 秋季囲碁大会
- 美術鑑賞会 (27日) 〃ゴッホ展・法隆寺展、見学
- 月 次 会 (28日) 〃東南アジアの染織について、  
講師 群馬県繊維工業試験場 武藤和夫氏

▷ 新入社員紹介 ◁



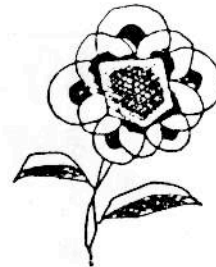
編 集 後 記

全日本花いっぱい大会、桐生の歴史と文化を考  
えるウォークラリーは、桐生としては大きな、そ  
して意義深い行事であり、桐生倶楽部社員も多数  
関係しているの、特に会報にとり上げさせてい  
ただいた次第である。

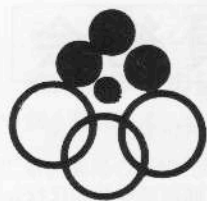
花いっぱい大会では、市民植木市、物産展など  
協賛行事もいろいろあったが、特に星野富弘さん  
の「花の詩画展」は来観者に強い感動をよんだよ  
うであった。

ご存知のように星野富弘さんは、勢多東村の方  
で、桐生高校、群馬大学を卒業し、倉賀野中学校  
で体育教師として赴任、クラブ活動で指導中ま  
ちがって頸髄損傷をうけ、首から下は不随とな  
った方だが、口に筆をくわえて詩画の創作活動  
をされている。その詩の一つ。

花は自分の美しさを知らないから  
美しいのだろうか  
知っているから 美しく咲けるのだろうか



社団法人 桐生倶楽部会報 第 46 号  
1985年(昭和60年)11月発行  
発行人 前原 勝 樹  
編集責任者 小池 久 雄  
印刷 ツボノ印刷株式会社



# 社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL45-2755

## 桐生のあゆみ

### 古墳時代

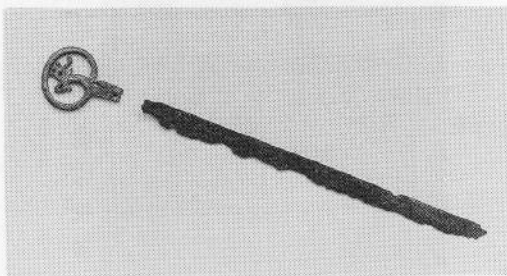
古墳文化時代の群馬は、上毛野（かみつけぬ）国と呼ばれ、東国文化の中心地であった。従って県内には、全長210m、東日本最大の前方後円墳（ぜんぼうこうえんふん）の太田天神山古墳をはじめとして、概略1万基をこえる古墳があるものと推定されている。

しかし桐生地方は周囲を山でかこまれ農耕地が狭いため有力な氏族が居住していなかった故か、古墳が少く、確認できるものは24基、それも小さな円墳である。

これらの古墳は、主に渡良瀬川の両岸にあたる新宿地区と、広沢地区のうち間の島（あいノしま）方面に立地している。

市役所通り大和病院の前には十日塚（稲荷塚）

古墳があり、わずかに遺構をしのばせるものが残っている。



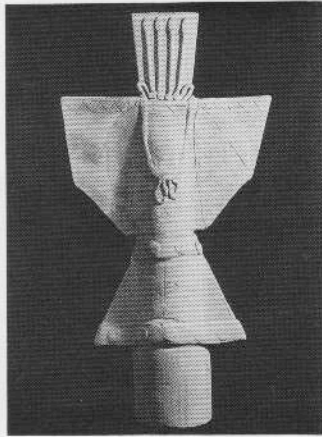
加茂神社塚出土（境野町） 環頭の太刀



加茂神社塚出土（境野町） 環頭



加茂神社出土  
埴輪（はにわ）女子像



不二山古墳（相生）出土  
埴輪（はにわ）鞆（ゆぎ）



不二山古墳（相生）出土  
円筒埴輪



# 年々盛大になる 新年互礼会

倶楽部恒例の新年互礼会は、今年も1月4日の12時半から開かれた。年々参加する社員の数もふえて大変賑やかな互礼会であった。

残念なことに、前原理事長が体調をくずして欠席されたが、平野副理事長の年頭の挨拶にはじまり、小山市長、峯岸議長、日野商工会議所会頭などの社員代表の祝辞と続き、川村名誉社員の乾盃で祝宴に入った。



社員代表の祝辞



平野副理事長の挨拶



新年を祝って乾盃

# 定期社員総会

昭和61年度の定期社員総会は、1月30日6時から開催された。

前原理事長欠席のため、平野副理事長が代行して議長となり、以下の議案を審議し全議案異議なく議決をされた。

- 第1号 昭和60年度事業概況報告
- 第2号 昭和60年度決算諸表報告及会計監査報告
- 第3号 昭和61年度事業計画及収支予算案

総会終了後、出席した社員のフリートーキングで、21世紀にむけて今後桐生倶楽部はどうあるべきか等をテーマに意見を出していただいた。

\*\*\*\*\*

## 「歩く会」の 本年度計画

- 4月13日(日) 小幡の桜と妙義石門めぐり  
古い遺構を残す小幡の家並みと、並木の桜がすばらしい春を演出します。
- 5月11日(日) 熊鷹山直登  
桐生川源流の山々の最奥、根本山の隣の山。展望が抜群です。
- 6月8日(日) つつじ咲く湯の丸山から角門峠へ。信州小諸への峠道。つつじ咲く湯の丸山の帰りは旧鹿沢の湯で汗を流そう。
- 7月27日(日) 天神尾根から谷川岳  
快速ロープウェイで天神峠へ。3時間の尾根登りで谷川山頂。高山植物が楽しみ。
- 8月 休 会
- 9月14日(日) 那須高原  
夏も終り那須高原は早くも秋の気配。ロープウェイで茶臼岳へ。帰りは大丸温泉で一休み
- 10月5日(日) 秩父地方吉田町の竜勢  
これは特別例会として広く全社員に案内を差上げる予定。何しろ江戸時代から続く奇祭で、現代でいえばロケットの打上げのようなもの。
- 11月9日(日) 吾妻溪谷の紅葉と岩櫃山  
テレビ真田太平記に出てくる山城です。
- 12月14日(日) 鳴神山と秘池を訪ねて  
初冬の鳴神山と、人の知らない静かな池。



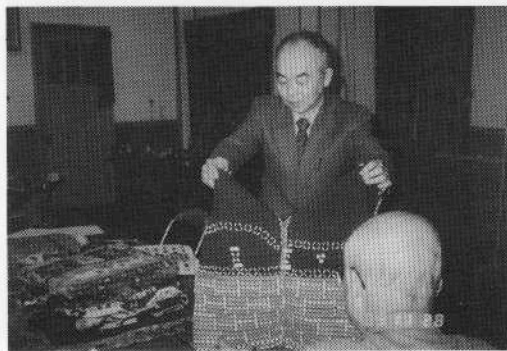
## ＝ 月次会報告 ＝

### 東南アジアの染織 <<11月例会>>

講師の武藤和夫氏は、桐生にある群馬県繊維工業試験場の色染化学部長であるが、桐生染織研究会や桐生広域産業デザイン振興会の主要メンバーでもあり、広く地域の繊維産業振興に活躍されている人である。

先日、染織研究のためインドネシア各地を歴訪されたので、このお話をうかがうことにした。

当日は沢山の珍しい染織品を持参して下さり一つ一つ説明していただきながらの、楽しい例会であった。



染織品の説明をする武藤和夫講師

## 歩 く 会 <<11月例会>>

### 晩秋の足尾路

#### 船石峠から 備前楯山へ

紅葉の足尾溪谷を賞でながら、足尾線に乗って通洞まで——。 駅からはタクシーに分乗して銀山平へ。

猿田彦神社から旧道を船石峠まで、紅葉の尾根を備前楯山へ、山頂からの展望は、冠雪の日光白根・男体をはじめ足尾山系の山々を存分に楽しむことができた。

### <<12月例会>> 懇話会との 合同例会

#### 赤城神社櫃石と南面史跡の旅

12月の例会は、懇話会との合同例会とし、三夜沢の赤城神社と、その裏山、赤城山の荒山から張り出した尾根上にある櫃石（ひついし）をたずねた。

ひつ石は、豊城人彦命がここから四方を見渡したという伝説さえ残る、古代祭祀遺跡で赤城の神の磐座（いわくら）である。



赤城神社ひつ石

そのほか赤城南面には、武井廃寺塔跡（国史跡）、中塚古墳（県史跡）、関の磨崖仏（県重文）山上多重塔（国重文）、阿久沢家（国重文）等があり、更に双体道祖神の珍しい形のものなど、沢山の見るべきものがあり、これらを全部廻ることができて、誠に収穫の多い一日であった。



山上多重塔（塔姿）

## << 1 月例会 >>

### 金沢峠から大形山を経て吾妻山へ

61年の初例会。金沢峠から大形山を経て、桐生のシンボル吾妻山へ登った。

## << 2 月例会 >>

### 一等三角点峰唐沢山から賀茂神社へ

唐沢山と云っても、佐野ではなくて広沢にある唐沢山です。古い山城の跡が残っている。



# インドネシアの 染織について

群馬県繊維工業試験場 武藤 和夫

## ものづくりの楽しさ

夏の暑い日、蜂がせっせと巣をつくっている。巣のまわりには何十匹もの蜂がたかり、見るまに六角形の数がふえていく。足長蜂もすずめ蜂も実に美しい巣をつくる。

人間にはいくつかの本能がある。生命や種の維持をはかるため生れながらにもっている能力である。これは動物すべてがもつ本能であるが、人間にはものを作るという本能が特別にあるのではないかと工業デザイナーの秋岡芳夫氏はいう。生活するためのものをつくるということが本能になってきているというべきかも知れない。これは人間だけが持っているもので、先にのべた蜂もまたや魚も巣をつくるが、これは卵を産み育て子孫維持のためのもので子が巣立つと巣はカラになってしまう。生活のための家ではない。

人間がものをつくったのは道具や家でも生活の必需品であった。これが次第に機能性をもった道具を使い、できたものも機能と同時に美しさがあり使う楽しみと作る楽しみを合わせもつものづくりになった。

なかでも織物や衣裳をつくる楽しみは他のものに比べて最も古くからあり、身につける喜びは、非常に大きかったであろう。

我々が日常使っている文字は漢字であるが、この漢字は殷の時代の甲骨文の象形文字に始まり、秦の始皇帝が文字を統一し、漢代にはいつ今日標準字体ができあがった。2000年以上昔のことである。この漢字の90%以上が形声文字といわれ、偏(へん)と旁(つくり)をもって意味と発音をあらわしている。この漢字の左側の偏には木偏、金偏、手偏のように自然界のものが多く使われているがなかには人間のつくったものが含まれている。糸、衣、車、舟などである。我国の有史以前に作られた漢字に人の手によったものの代表をそこに見る。なかでも糸と衣はその字数からいっても圧倒的です。ちなみに広辞林には糸編漢字が277字おさめられており、衣編—171字、車—98字、舟—36字であり、多いと思わ

れた金偏の253字より糸偏の方が多いのです。

これはその時代から糸にかかわるものが如何に多いか、またそれをつくり出す技術の進歩や、つくり出されるものが多様化するにしたがい字数がふえていったものである。

糸や織物、衣裳にはそれを使い、作り、用いる楽しみが必需とともにあったものと思われる。

## ヨーロッパの衣裳とアジアの衣裳

中世ヨーロッパの絵画を見ると人物の衣裳は非常にきらびやかなものが多い。一般的にコスチュームが大切にされ、衣裳が立体的である。これは生地を裁断し、デコレーションがつけられて縫製され一着の衣裳ができあがる。この方法は衣裳デザインが重要で個々の素材は比較的平凡なものが使われている。

一方、アジアの衣裳は一枚の平面的な布を身体に巻きつける方法がとられている。インドのサリーはその典型的なものである。タイ、マレーシアインドネシアの腰巻や腰衣(サロン)や貫頭衣なども同じである。これらの衣裳は長方形の布をそのまま用いるか、加工されていても筒状になるか直線的な縫製を行う程度である。(日本のきものも同類)このため素材そのものが衣裳にいかされるため素材に表現されるデザインや技法が重要な役目をはたす。また一枚の布であるからこそ自由に表現できる布づくりのテクニックがあり、西欧には見られない技法の発達がうながされたように思う。例えば一枚の布の中に緋、紋織、綴の織物技術とともに編物、組物の技術が加えられてきているものもある。機械が専門化された今日では作り得ないものが多い。

## インドネシアの染織

インドネシアは数千の島からなつた国です。その島々には部族や宗教の違いからそれぞれに異つた文化が形成されている。インドネシアに行くと織物イコール文化だなどという感じがする。ジャワ島にはジャワ更紗で観まれたパチックがあり、スマトラのパレンバンには金糸を使って柄を出した見事な衣裳がある。特にインドネシアでは緋織物がすばらしい。各部族により緋の技術も異なりデザインも特長があり、それを生かした衣裳は見



事である。この国では古くは殆んど部族に階級制度がみられ、王侯、貴族、平民のあいだでの禁色や象徴紋様、織物組織の違いなどであった。またその紋様はアニミズムの動物信仰からワニ、トカゲ、牛、馬、鳥や空想動物の竜などをはじめ、首狩りの遺風を残す首架文、インドの影響がある花文、幾何文などがある。

これら多彩な染織品が機械文明に犯されることなく、手と道具の文化でつくられ、自分達の衣裳として使われているところに魅せられるのです。

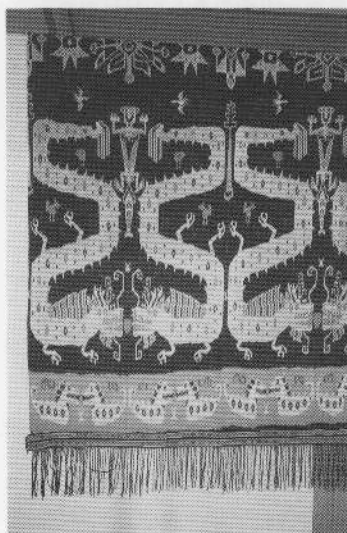
インドネシアでも染織は女性の仕事です。簡単な手織機で織っているがとても楽しそうです。

ものづくりの楽しさを彼女らが一番良く知っているのでしょう。



インドネシア・サウ島・サウ族  
女性用経紡腰衣(サロン)

このサロンは王侯階級のもので赤茶色を主体とした家柄を表わす紋様と白糸による浮織のボーダーが特長である



インドネシア・スンバ島・スンバ族  
男性用経紡腰巻

これはヒンギコンプ(赤い腰巻)といわれ支配階級のものである。デザインは力の象徴である竜にかこまれた人物文が子孫の繁栄を願った姿で表わされている

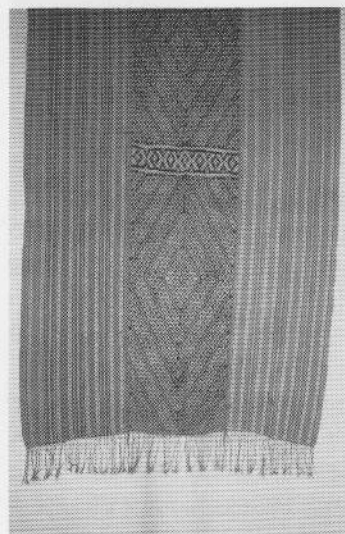


インドネシア女性のはたおり(パレンバンにて)



インドネシア・スラウェシ島・トラジャ族  
経紡壁飾り布

トラジャ・コーヒーで知られているトラジャ族の支配階級が祭儀のときに壁飾りとして用いるものである。鉤型の幾何模様力が強く表現されている。



インドネシア・チモール島  
男性用経紡腰巻

中央部の経紡は鉤文を菱形に積み重ねたもので、生命を象徴する水牛の角をあらわしている。



# 社員のページ



## レッツ ダンス

辻 勇蔵

最近熟年、老年層に静かなダンスブームがおきていることを御存じでしょうか？去年NHK教育テレビが趣味講座で、レッツダンス（ダンスをやりましょう）を半年放映した処、評判がよすぎて再放送することになり、結局一年間続けました。尚今年の11月には、世界ダンス選手権大会が東京で行われます。

皆さんは社交ダンスと言う言葉はよく聞かれても、競技ダンスと言うとハテナと思われる方が多いと存じます。本物の競技ダンスになると老年は勿論、熟年でもなかなか歯がたちませんが、野球で草野球と言う様に技術的に桁が違います。

そんなわけでダンスは芸能的要素を持った立派なスポーツになっているのです。よく似ているのがスケートです。ただスケートは普通シングルでやりますが、最近の競技会では男女がペアを組んだり、アイスダンスを競っているのを、テレビで御覧になる方も多いと思います。フロアでやる競技ダンスも同じで、共に西洋音楽をベースにしてそれを芸術的に舞踊として表現するものです。老年の方はダンスは勿論、音楽にも弱い方も多いと思いますが、ダンスをやると、ある程度音楽もわかってくるのも楽しみの一つです。そんなわけでこの道に一度足を入れ、やみつきになった方は珍しくありません。明治の初期、元勲達が鹿鳴館でダンスを楽しんだ話は有名ですが、不平等条約改正等の大義名分はあったにせよ、やはり連中といえども、それなりに面白かったのに違いありません。

さあそこで、桐生クラブの社員諸君、今からでもおそくありません、乾坤一てきやってみませんか？面白いはずです。そう言はれても戸惑うだけだと思いますが、とりあえずレッスンの見学に来てみては如何です。百聞一見に如かずです。やりたければその日からお始めになるのもよいでしょう。

料金ですか？社員諸君は勿論無料です。

（私の自宅でダンスをやっております。ご希望の方はどうぞ） 辻勇蔵 電44-1600

# 晩酌のすすめ

奥村栄一郎

2千年前から「酒は百薬の長」という言葉があり、江戸時代には、貝原益軒が「酒を少し飲めば甚だ益あり」と言ったように、適度の飲酒が健康に良いことは、古くから知られています。

ところで、近年、アメリカ、イギリス、ハワイ（日系住民）、ユーゴスラビアなどの住民多数について研究した、10以上の論文が一致して「適量のアルコールを日常飲む者は、飲まない人達より長生きする」という統計が発表されております。これ等の統計は、数千人から数万人を何年間も観察して、日常の飲酒習慣を調べ、死亡者が出れば、その死因を確かめて死亡率を出したもので、医学的に文句のつけようがない確実なデータだと言われています。

代表的な、イギリスのマーモット博士の研究をみると、40～64歳までの男子10年間の観察で、少量か中量の酒を日常飲んでいる者の平均死亡率は大酒を飲む者より低いのはもちろん、全く飲まない人たちよりも低い結果が出ています。図に示されているように、死亡率と飲酒との関係はU字型（なべ底型）曲線を示し、適量のアルコール常用者は、大酒家より長生きするだけでなく、禁酒家よりも平均して長生きできることを示しています。タバコ愛用者の死亡率は禁煙者に比べて著しく高く、それでも酒を少し飲めば死亡率が下がるようです。最も悪いのは、酒も飲まずにタバコだけむやみに吸う人と、酒もタバコも制限なくやるような、大酒家兼愛煙家では、長寿を望むのは無理なようです。どちらか一方やめるとすれば、文句なくタバコの方をやめるべきだと思います。

郷上の祝酒 福栄 上州路の銘酒 上州っ子  
錦織の美酒 起龍 を製造しております奥村です。どうぞよろしく。

注) 少量のアルコールがどうして死亡率を下げるかは、又、のちほど。

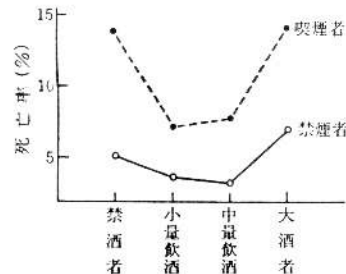


図 飲酒量と死亡率との関係 (U字型曲線)

# 美術散歩の一日

松島 武雄

昭和60年11月27日は桐生倶楽部美術部の東京における美術散歩の一日であった。固い床の長時間の歩みに足はいささか疲れたが、心は青空のようにさわやかであった。

## ◎ゴッホ展 国立西洋美術館

「炎の人」「悲劇の画家」とされた一面を持つこの画家は、彼の作品の中で力強く呼吸し、その眼はららんと輝いていた。

本展は、ゴッホが造形的あるいは精神的に影響を受けたと考えられる諸要素を国別に大別して、全体がイギリス、オランダ、フランス、日本、総合の五つのセクションに区分されて陳列されていた。ゴッホほどの天才も過去の芸術的遺産や同時代の動向から何をどのように吸収したか興味深く、また、その作業は同時に、彼の独自性、真の偉大さがどこにあったかを見極めることになるのです。

### ○イギリスの要素

その第一のものは、労働、貧困、慈善のイメージを伴った、都市生活に対するゴッホの観察である。最初の重要な構成図に「袋を運ぶ鉱夫の妻たち」がある。

### ○オランダの要素

オランダの古びた農村の環境の中に生を享けた彼は、典型的なオランダ的要素として農民画と風景画の二つを取扱っている。それは生涯を通じて、彼の準拠する座標軸であった。そして、モデルの美化を拒絶した。そのような行為は「馬鈴薯を食べる人々」の絵に見られる。

### ○フランスの要素

ゴッホはパリにやって来て、「農村の画家」から「都会の画家」へと変った。特に印象派の仲間たちや、パリを舞台とした文学作品から大きな影響を受けた。ゴッホの生涯を二つの時期に分けるとすれば、1886年頃を境目として、それ以前の「暗い時代」とそれ以後の「明るい時代」とに分けられる。パリ時代のゴッホの作品は明るい輝きを持った画面を生み出している。「開かれた聖書、蠟燭、本のある静物画」-(1885年)と「小さな石膏像と本のある静物画」-(1887年)と比較してみれば、その変化がはっきりするのである。

### ○日本の要素

1639年の鎖国から1854年の開国まで、オランダは日本にとって西洋諸国中唯一の交易国であった。オランダで生まれ育ったゴッホは、日本の品々を容易に目にすることのできる環境の中で、ゴッホもまた、芸術好きの青年のひとりとして浮世絵を買いもとめ、壁に飾った。ゴッホの浮世絵の模写の代表的なものに、広重の「名所江戸百景」「花咲く梅の木」がある。彼が画中画に浮世絵を用いたのは、一種独特に親密なふん囲気を表わすためであったろう。

### ○総合の要素

イギリス、オランダ、フランス、日本「各国」の影響は、特定の表現に、はっきり対応している。こうした影響にはそれぞれ一定の頂点があり、これらの頂点は年代順に並んでいる。しかし、どの時期を取ってみても、他の三者の影響は排除されていない。四者の影響が継続して現われることでゴッホの様式はさらに豊かな、変化に富んだものとなっている。

## ◎朝鮮文化使節展 国立博物館

これは、素晴らしい絵巻物である。朝鮮文化使節の一行は、長崎から江戸そしてある時は日光まで、先導、正使、後続と数百人の行列である。朝鮮民族衣裳は優雅であり、お供の荷かつぎまで日本の旅を楽しんでいるようである。背景には街道から見える各地の山水、名所が画かれている。鎖国の時代に日本はこうして朝鮮の文化を吸収したのである。

## ◎現代日本40年展 東京都立美術館

これは戦後の美術史である。敗戦から立ち上がり、荒廃の日本に芸術の種子を蒔き、これを育てていった人々の苦闘史でもある。それだけに、素晴らしいものがあり、40年の時の流れに深い感銘を覚える。

○以上美術散歩の一日の点描であるが、誠に意義ある一日であった。残念ながら参加者が少なく、一抹の寂しさは禁じ得ない。

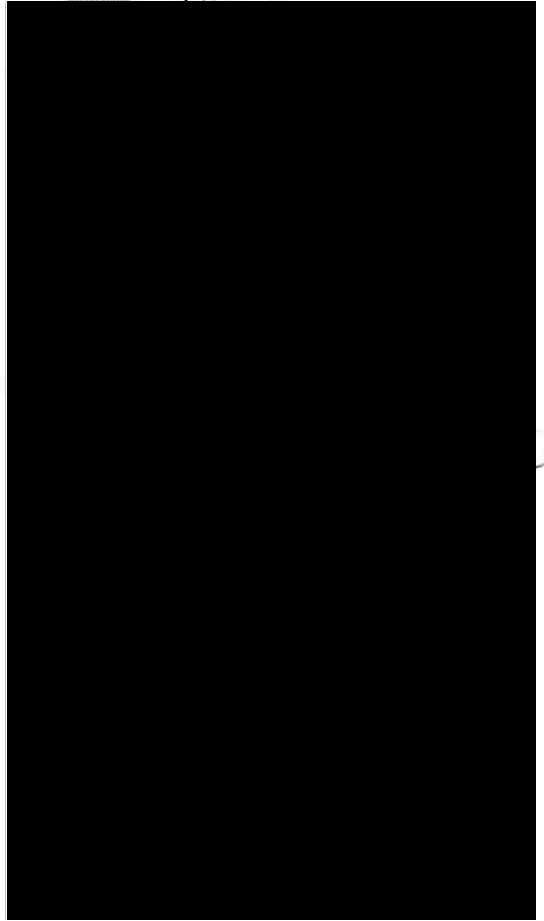
今回は、大勢の方々のご都合を伺い、その公約数で企画し楽しい一日を共有したいと思っておりますのでその節はよろしくお願い申し上げます。

### 桐生倶楽部美術部会について

桐生倶楽部文化活動委員会の中に、美術部会があり、制作、観賞両面で活動しておりますので多数の社員の参加を希望します。



▷ 新入社員紹介 ◁



**桐生倶楽部句会**  
〔三月〕

猫柳 利根の水かさ 日毎増し	猫柳 昔もありし 船着場	猫柳 駅伝抜きつ 抜かれつつ	若ぶりて 大声あげる 鬼やらい	小さき鬼 豆撒く闇に ひそみをり
清 水	遠 藤	本 田	久 保 田	光 春

ⅢⅢⅢ 倶楽部だより ⅢⅢⅢ

◎12月

歩く会・懇話会合同例会（8日）  
「赤城の伝説を訪ねて」

理事会（10日）  
クリスマス（14日）  
歩く会世話人会（17日）

昭和61年度

◎1月

新年互礼会（4日）  
理事会（10日）  
歩く会（12日） 「金沢峠から大形山を経て  
吾妻山迄」  
会計監査（20日）  
歩く会世話人会（24日）  
俳句会（25日）  
正副委員長会議（30日）  
臨時理事会（30日）  
定時社員総会（30日）

◎2月

理事会（6日）  
歩く会（9日） 「一等三角点の山唐沢山」  
会報委員会（20日） 会報第47号編集について  
懇話会世話人会（20日）  
歩く会世話人会（21日）  
俳句会（26日）

▷ 編集後記 ◁

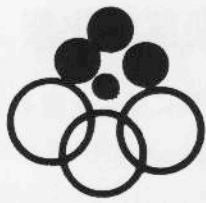
この冬の寒さは格別であった。風邪をひかれた社員が多かったのではないか。前原理事長も風邪をこじらせて暫くお休みになっている。一日も早く全快されるよう社員一同のっています。

2月2日、「桐生文化遺産保存会議」が発足した。桐生の歴史的文化遺産の保護及び継承を積極的に推進しようとする、純粋な市民団体であり、代表者は桐倶社員の藤井竜人氏である。

社員の皆さんにもご理解・ご協力を望みたい。

社団法人 桐生倶楽部会報 第 47 号  
1986年（昭和61年）4月発行

発行人 前原勝樹  
編集責任者 小池久雄  
印刷 ツボノ印刷株式会社

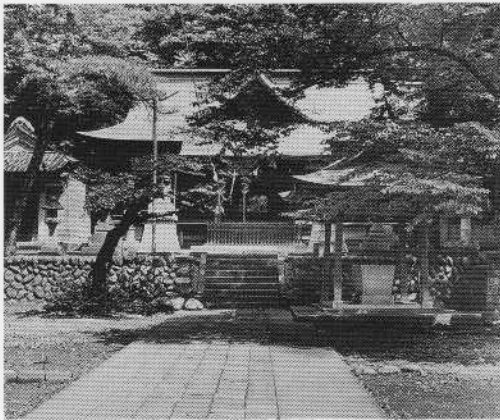


# 社団法人 桐生倶楽部会報

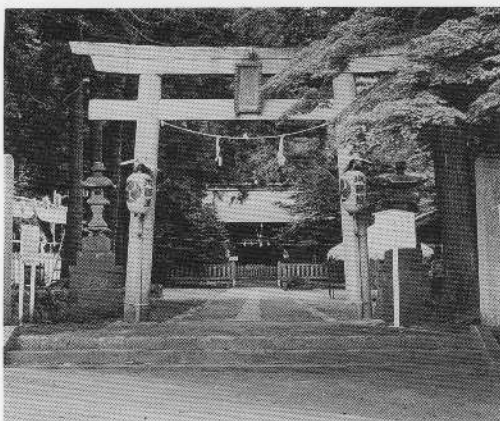
〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL45-2755

## 桐生のあゆみ

### 平安時代



▲ 美和神社



▲ 賀茂神社

「桐生のあゆみ」は、縄文時代、古墳時代を前2回で紹介した。そのあと飛鳥時代、奈良時代につながるわけだが、残念ながら両時代を代表するようなものが桐生では見当たらないので、今回から平安時代に入る。

群馬県には「上野十二社（こうづけじゅうにしや）」とよばれる神社がある。これは、「延喜式神名帳（えんぎしきしんめいちょう）」に記載された上野の国にある十二の格式の高い神社をよぶわけである。（延喜年間には醍醐天皇の治世で西暦901～922年）

富岡の貫前（ぬきさき）神社をはじめとする十二社の中で、二社まで桐生市にあり、しかもそれぞれが大和朝廷にとって極めて重要な美和神社、賀茂神社であるというのは当地方の古代史にとって極めて注目すべきことである。

美和神社（三輪神社）は、宮本町の岡公園下に鎮座する。祭神は大物主神（オオモノヌシノカミ）と建速須佐之男神（タケスサノオノミコト）の二神。

賀茂神社は、広沢町6丁目に鎮座し、祭神は別電神（ワケイカズチノカミ）。云いつたえによると、寛治元年、出羽国の清原武衡・家衡の反乱を平定のため源義家は往復2度にわたって当社に詣でて祈願したという。

現在の桐生市域は、平安時代では上野国山田郡、その中の大野郷にあたるという説がある。大野郷は上毛野氏の名族大野氏と関係があり、大野郷の北限に美和神社、南限に賀茂神社を大野氏が祀ったという推定も有力である。どちらにしても大和王権の東国進出や上毛野氏と深い関係があったものと思う。

（写真は桐生郷土資料展示ホールの提供）





# 第12回桐生倶楽部文化祭

## 遠藤俊一・田中愛雄社員に銀盃を贈る

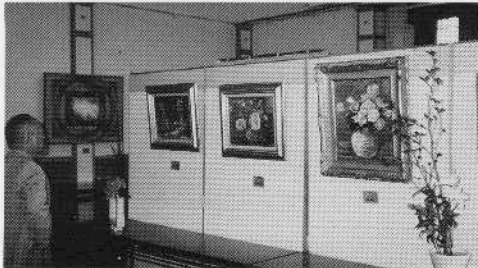
桐生倶楽部の文化祭も12回を迎えた。  
社員の皆さんがそれぞれの趣味や特技を生かして活躍をされ、例年にもまして充実した文化祭になったようである。

また5月11日のガーデンパーティの席上では、多年にわたるご功勞で、国から勲五等の栄ある叙勲をされた遠藤俊一先生、田中愛雄先生に対して、桐生倶楽部から銀盃が贈られた。

\*\*\*\*\*

## 文化祭行事催物一覧

将棋大会	4月25日 午後5時~	於 6号室	
俳句会	4月25日 午後7時30分~	於 2号室	
囲碁大会	4月27日 午前10時~	於 6号室	
麻雀大会	5月1日 午後6時~	於 麻雀KM	
書道展	5月9~11日 午前10時~午後5時	於 広間	田沼宗喜社中協賛
絵画展	5月9~11日 午前10時~午後5時	於 広間	陶器展示
俳句色紙展	5月9~11日 午前10時~午後5時	於 広間	
写真展	5月9~11日 午前10時~午後5時	於 1号室	
歩く会記録展	5月9~11日 午前10時~午後5時	於 1号室	
ガーデンパーティ	5月11日 午後5時~	於 庭園	委員会表彰 アトラクション等
ビデオ観賞会	5月11日 午後1時~	於 ロビー	
ゴルフ大会	5月16日 午前9時~	於 太田双葉CC	



## ▷各競技の成績表◁

### 将棋大会

(昭61 / 4 / 25)

- 優勝 芝崎福三郎
- 準優勝 蓮沼 源一
- 1 位 腰塚 治男
- 2 位 野田友次郎
- 3 位 平野 元吉
- 3 位 平野平四郎

### 麻雀大会

(昭61 / 5 / 1)

- 優勝 遠藤 俊一
- 準優勝 八木橋祥介
- 1 位 北川 洋
- 2 位 飯山 清治
- 3 位 白石太市郎
- B・B 藤江 敏雄
- メーカー 石井 省三

### 囲碁大会

(昭61 / 4 / 27)

- 優勝 吉成 敏郎
- 準優勝 蓮沼 源一
- 1 位 金井 利雄
- 2 位 倉林 俊雄
- 3 位 野田友次郎

### ゴルフ大会

(昭61 / 5 / 16)

- 優勝 五十嵐健雄
- 準優勝 福田 博重
- 3 位 八木橋祥介
- 4 位 金井 利雄
- 5 位 土沢 弘



## 敦煌(とんこう)の美と歴史

(6月例会)

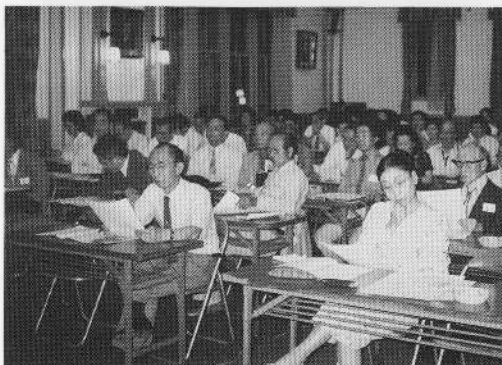
6月の月次会は新しい試みとして、桐生倶楽部懇話会が担当する特別例会とした。

講師は鄧(とう)健吾先生。先生は成城大学教授で、東京芸術大学在学中に北京に留学、中央芸術学院美術研究所の研究員をされたご経歴があり、敦煌石窟(とんこうせきくつ)の研究では日本の第一人者である。

また郷土の偉大な学者であった岩沢正作翁(毛野の著者)は先生の祖父にあられるというご縁もあって、桐生倶楽部でお話しをしていただけることになった次第である。

今回は、貴重なお話であり、成可く沢山の方に聞いていただきたいという趣旨から、「桐生文化遺産保存会議」に後援をお願いしたり、社員にもそのご家族、友人もお誘い下さるよう案内したため、参加者は80名をこえ、倶楽部例会としては大変盛況であった。

また先生のお話をもとよりであるが、用意されたスライドも素晴らしいものであり、敦煌の美の一端をうかがうに充分であった。



### —鄧健吾(本名東山健吾)

#### 先生のお話より—

私が初めてシルクロードの要衝の地・敦煌に第一歩を踏みしめたのは1957年の7月であった。

もう二十九年前のことである。

蘭州から列車で玉門市まで行き、そこからバスで2日間、走りつづけて敦煌の街に到着、木賃宿で眠れぬ一夜を明かした後、敦煌から大八車に荷物に乗せて莫高窟(ばつこうくつ)に向かった。

やがて前方に鳴沙山の断崖と緑に輝くオアシスが見えた時、そこに夢にまで見た仏教美術の宝庫があると思うと、いやでも心は高まらざるを得なかった。以来、私の敦煌行は十数回にも及ぶが、いつも思うことは、多くの人びとに敦煌の美の素晴らしさを知ってもらいたいということである。

敦煌は中国の行政区分でいえば甘粛省酒泉地区の西部に位置し、新疆ウイグル自治区と境を接している。海拔1,100米の高原で降水量が少く極めて乾燥している。この自然条件が貴重な文物や美術を今に残すことになる。

敦煌には早くから仏教が伝えられたが、莫高窟が創建されたのは東晋の永和9年(西暦353年)と云われる。以後、7百年にわたって仏教都市敦煌には沢山の僧が集り沢山の石窟をつくることになる。

莫高窟の全長は1.6km、石窟492、塑像1400個、壁画は5mの高さで延べ25kmに及ぶ。特に第17洞からは、総数5万巻におよぶ古字本等が発見され仏画・経典・古文書などいわゆる「敦煌学」の貴重な研究資料となっている。



## 管理委員会のこと

委員長 藤 井 龍 人

永年に亘り、平野副理事長が陣頭指揮をして、歴史ある桐生倶楽部の営繕に勤められ、老朽化しつつある諸設備を支えられ、社員並びに多くの利用者のために、支障なく維持されて来られましたことに、この仕事をバトンタッチされました管理委員会の委員長として、先ずその労苦に衷心より感謝いたし、御礼申し上げます。

御承知のように、今年度よりシステムがvari、管理委員会という新しい名の、独立した制度が生まれ、桐生倶楽部の「物」に関する一切を管理し、諸設備などの改善に努めることになりました。

担当理事の清水(信)氏を中心に、木島・保倉両氏を副委員長に、斎藤(壽)・宮地(秀)・山鹿・奈良・村田(豊)の精鋭各氏をメンバーとして、3月10日・3月25日の二回の会合を重ね、正式に発足しました。

発足に到るまでも、管理委員会の職掌分野をどの範囲とするか、活発な意見の交換がなされました。桐生倶楽部の管理といっても、運営との関連が深く、理事会で検討されるべき事項に踏み込まぬよう、「物」のみを扱うことに落着いたわけです。

そして、営繕に徹するにしても、「桐生倶楽部の少くとも五年・十年後の将来を展望した、しっかりしたマスタープランを立て、常にこの基本に添って考えてゆくべきである」という管理委員の一致した目標が、これからの行動の指針となりました。

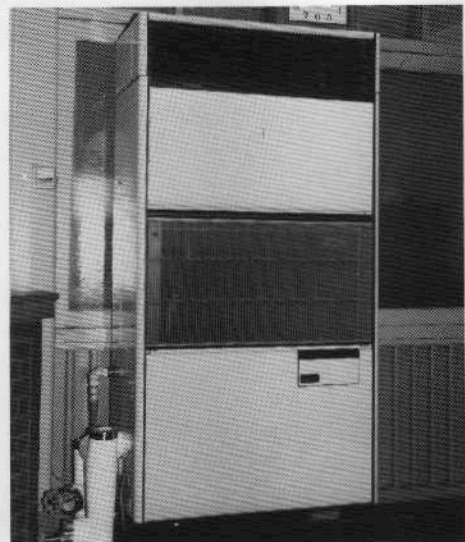
マスタープランの根本をなすものは、先人達によって創建され受け継がれて来た桐生倶楽部の原初の歴史ある建物を、景観を含めて、そのまゝの姿で維持してゆくということに異論はないと思います。

ただ現実には種々の集會等に活用されつゝある状態ですので、資料館の入れもののように、現状で保存すればよいのではなく、利用する人達が快適に会合出来ますような、現代的な機能や環境を備えることも考慮せねばならず、この調和が今後の大きな課題であると思います。

また、マスタープランの作成には、建築等に全く素人の我々としては、専門家の意見を聞くなど一から勉強しなければならぬ事が多くあり、相当の時間を要することは必須です。従って早急に処理すべき問題を抱えた現実と照らし合せて、差し

当り平行して進むことを迫られております。

そのスタートの仕事は、夏を控えて既に耐用年数をとくに過ぎた冷暖房機器の入れ換えでした。かねてより桐生ガス(株)に提出依頼してありました見積書の、具体的数字の検討を、6月19日の委員会では大枠で決め、6月25日の委員会に桐生ガスより担当の方二名をお迎えして、細かい説明を伺い、ガス吸収式冷温水機方式の採用を決定しました。最初の設備は高くつくが、ランニングコストが最も安く、10年余の長い目でみて、トータルで安上りであるこの機種が選択の理由です。更につけ加えさせて頂ければ、桐生倶楽部の乏しい財政をよく理解して居られる塚越副理事長の会社であり、価格の我侭ばかりでなく支払条件等においても、相当に面倒をみて頂けるなども大きな要因です。そして突貫工事よろしく猛暑に間に合せて頂くことが出来ました。種々の点で非常にお世話になりましたことを、委員会として塚越副理事長に感謝申し上げ、社員の方々の会社でも極力桐生ガス(株)を御利用いただけますよう、PRを兼ねて御報告させていただきます。



▲ 1号室の新しい冷暖房機

これからも委員会総力を挙げて、予算の許す限り改善に努めたいと思いますので、社員の方々でお気付きの点がありましたら、管理委員会又は事務局に御意見をお寄せ下さい。皆さんと共により親しみ易く、気軽に御利用出来る桐生倶楽部にしていこうではありませんか。



## ビデオ部発足

80年代後半を、音と映像の時代と呼んで、昨年のつくば博ではこの音と映像がメインテーマの一つでありました。私達が個人で気軽に創れる映像の世界はカメラによる静的映像からビデオカメラを通じての立体的動態的映像に変化して来ています。

桐生倶楽部のビデオ部は、社員の同好の士で個人的に活動していましたが、今年度は文化活動委員会会で予算も付けていただき、一応の認知を受けた訳であります。しかしながら、倶楽部の文化活動として相応しいビデオ部の活動は如何にあるべきか？ 又、倶楽部の各種行事や文化活動の記録を映像で残す仕事まで発展させるべきかどうか？ に社員の皆様のご意見を頂きたいと思えます。

さて、本年度は先ず第1回のビデオ部会を3月27日に開催いたしました。金谷善介氏の撮影した「群馬県選抜民俗芸能大会」を上映し観賞会といたしました。多数の皆様のご参加をいただきまずまずのスタートでした。次回は倶楽部の文化活動の中にテーマを置き、撮影と編集の研究会を開催する予定です。社員の皆様のご参加を歓迎します。

(ビデオ部 金井利雄)

\*\*\*\*\*

## ＜ 4 月 例 会 ＞

▷ 桐生の地名について ◁

今迄桐生の地名については、種々の説があり、はっきりと解明されていない。そこで今回郷土史家の天利秀雄先生にこの問題について伺った。

先生は日本地名学の研究法を応用し日本各地の大字名に残る「キリ○○」なる地名を七六例集めて、地理的・歴史的検討を加え説明を行った。

「キリ○○」の地名の称呼のはじめられた時期を中世に発現したとみる。(地名辞典の資料の推定による)次に「キリ○○」の地名を漢字で書いている場合「切」と「桐」の字を用いた地名の比率が高く、特に桐の字を使用の多い理由として「桐」の字はめでたい意味があり、居住地に「切」の字は縁起が良くなくさけられたとする。さらに「キリ○○」の地名のついている地方は山岳地帯河岸台地、山峡峡谷状の地形や山城、館址に多く約半数に近い場所にその存在が明らかにされたという。地名の所在地は新らしく伐り開かれた土地で、また中世に開かれた地を意味することばとして使われ、「開墾された、盆地か平野に近い、峡谷の地」という意味になるのではないかと思うと力説された。

(山鹿)

## — 懇話会報告 —

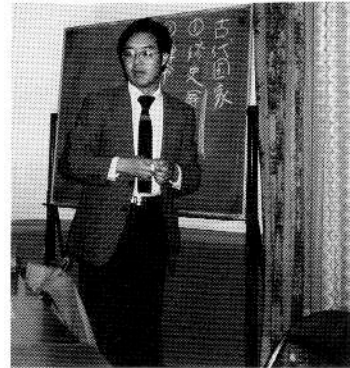
【3月】 〳東国古代史の魅力、

古代東国の王者——上毛野氏の研究

講師の茜(あかね)史朗氏は、財団法人高崎哲学堂設立の会常務理事事務局長で、古代史の研究でも知られ、「古代東国の謎に挑む」その他著書多数。

茜氏の説く古代東国の王者上毛野氏の研究は、単なる郷土史でなく東アジアの歴史との関連に及ぶ大変広い視野からの研究である。

桐生地方との関係は、上毛野氏関係の氏族・東国六朝臣の一つ、大野君の所領山田郡大野郷が桐生ではないかと云われて来た点を指摘、色々な角度からの検討をされた。

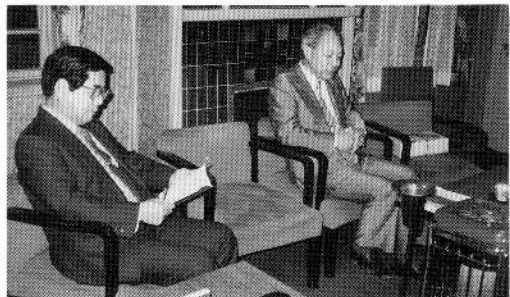


【4月】 桐生市で自然保護を考える

4日の懇話会は歩く会と合同企画で、桐生草木の会の佐鳥英雄先生を講師とし、先生の著書「桐生市で自然保護を考える」をテキストに自然保護について勉強しました。

先生は「桐生市みどりと花の会」自然保護部会の部会長であり、年来自然保護の重要性を説かれて来た。その提案である自然保護センターの要望が、行政を動かし、いま川内2丁目に「自然観察の森」として実現しようとしている。

先生は自然とは何か、自然をどう守るかを究明する学問—自然保護学という新しい学問をご自分で樹立したいと云っておられる。自然破壊が人類にとって大きな危機的状况を生んでいるという。





## 歩 く 会 <<3月例会>>

### マンサクの咲く早春の仙人ヶ岳へ

余寒が続く早春、万花にさきがけて咲くマンサクは山の春のおとずれを教えてくれる。

花卉のちぢれた珍しい形の黄色の花は、何となく人の心を開かせる趣きがあり、忘れ難いものである。

3月例会は、そのマンサクの花をたずねて菱の奥、仙人ヶ岳から朝日沢を経て梅田瀬場橋まで歩いた。



マンサクの花、「まず咲く」という意味で、春一番に咲くのでこの名になったとのこと



「歩く会」では、こうした案内板をあちこちにつけて、ハイカーに喜ばれている

## <<4月例会>>

### 梅田奥十二山から熊鷹山

根本山は歩く会として何度も登っているが、隣接する十二山、熊鷹山は登る機会がなかった。

4月例会はその十二山と熊鷹山を歩いた。三境林道入口に車を置いて不死熊橋（根本山登山口）から右に入り、十二沢の林道を十二山頂まで。

山頂には十二山根本神社があり平な開かれた場所である。昔、ここでバクチ場が開かれ、集る客を相手に店が並び、女郎まで出張したという話があるそうである。

また昭和の初めまで「ツグミりょう」で知られその場で料理して食べさせてもいたとのこと。

十二山から南に40分ほどで熊鷹山頂につく。熊

鷹から更に南に下ると丸岩に行く。この丸岩、熊鷹、十二とつながる道は、古くは佐野、田沼方面から根本山神社への参拜路であったとか。今も江戸時代信者の寄進した灯籠・丁杭などが残っている。

## <<5月例会>> 文化祭協賛行事

### 三峰山・石仏と花の山歩き

川内の大崩から林道を歩いて、烏天狗・三十六童子の石仏のある谷へ。更に新緑の美しい三峯山から妙見の石宮を通して梅田観音橋まで。

早めに帰り着いて、全員桐生倶楽部文化祭のメイン行事、ガーデンパーティに出席した。



## <<6月例会>>

### 湯の丸山と鹿沢の湯

桐生から鹿沢温泉までバス。徒歩50分で百観音の石仏のある地蔵峠へ。峠から湯の丸山まで約1時間の道はつつじには早かったが美しい新緑。

角間峠から鹿沢に戻って温泉で汗を流すなど、まことに楽しい例会であった。



桐生倶楽部句会

〔五月〕

妻もはや母の袷の似合ふとし	遠藤
寺の屋根迫る大樹の若葉萌え	山田
目前を鳥翔つ音や峽若葉	宮地
初袷気品帯にも及ぶ刀自	光春
新屋の二階若葉の風をいれ	前原

桐生倶楽部句会

〔三月〕

木の芽雨傘の内なる京言葉	本田
陽炎の土手を上下し子等遊ぶ	森
新らしき茶店の簾木の芽山	清水
飛び交える鶺鴒が木の芽をきらめかす	高木
文豪の碑のかげろいて信州路	久保田
木の芽吹き癒へし師を待つ句の集い	山田
木の芽風茶筌を撫づる野点てかな	光春

桐生倶楽部句会

〔六月〕

短夜やすでに讀経の流れいて	宮地
潮騒の夢にかよえり明易き	高木
海山は招くボスター夏帽子	山田
短夜の嫁ぐ娘にあり母にあり	遠藤
今もなほ旧師端正夏帽子	光春
法話聴く乙女の膝に夏帽子	本田
明易し追分宿や馬の声	前原

桐生倶楽部句会

〔四月〕

春眠や旅を忘れし山の宿	清水
分校の茶摘の児童嬉々として	宮地
春眠し重き目蓋の子等朝餉	山田
せせらぎの眩しくなりし茶を摘めり	高木
挨拶も摘む手休めぬ茶垣かな	久保田
磴一步下る毎句ふ茶摘籠	光春

倶楽部だより

◎3月

- 理事会 (7日)
- 歩く会 (9日) 「マンサクの咲く仙人ヶ岳へ」
- 管理委員会 (10日)
- 懇話会 (12日) 「東国古代史の魅力」講師西史郎氏
- 囲碁会 (23日) 春季囲碁大会
- 歩く会世話人会 (24日)
- 管理委員会 (25日)
- 俳句会 (26日)
- 月次会 (27日) ビデオ観賞会(文化活動委員会ビデオ部制作)

◎4月

- 理事会 (10日)
- 行事委員会 (12日)
- 歩く会 (13日) 「梅田奥十二山から熊鷹山」
- 歩く会世話人会 (18日)
- 文化活動委員会 (23日)
- 月次会 (24日) 「桐生の地名について」講師天利秀雄氏

- 将棋大会 (25日) 文化祭協賛
- 俳句会 (25日)
- 囲碁大会 (27日) 文化祭協賛
- 懇話会 (28日) 「桐生市で自然保護を考える」講師佐鳥英雄氏

5月

- 麻雀大会 (1日) 文化祭協賛 於麻雀KM
- 理事会 (7日)
- 文化祭 (9日)
- 文化祭 (10日)
- 文化祭 (11日) ガーデンパーティー
- 歩く会 (11日) 「新緑の三十六童子から三峯山」
- ゴルフ大会 (16日) 文化祭協賛
- 俳句部 (23日)
- 歩く会世話人会 (24日)
- 臨時理事会 (27日)

◎6月

- 歩く会 (8日) 「全山つつじ咲く湯の丸山と鹿沢の湯」
- 理事会 (9日)
- 月次会 (14日) 「敦煌の美と歴史」講師成城大学教授登野健吾氏



管理委員会 (19日)  
歩く会世話人会 (23日)  
管理委員会 (26日)  
俳句会 (27日)

◎ 7 月

理事会 (8日)  
会報委員会 (15日)  
俳句会 (24日)  
月次会 (25日) 「我が郷土の偉人剣聖土泉信綱を語る」  
講師 諸田政治氏  
歩く会 (27日) 「ロープウェーで梅雨明けの谷川岳へ」

▷ 新 入 社 員 紹 介 ◁

笹川堯氏衆議院議員に当選

社員の笹川堯氏は6月7日の衆議院選に群馬2区で第2位の好成績で堂々初当選をかざった。桐生倶楽部社員一同心からお祝いを申し上げますと同時に、今後のご活躍を祈りたい。

▷ 編 集 後 記 ◁

社員の遠藤俊一・田中愛雄両先生の叙勲、笹川堯氏の代議士当選と、嬉しいことが続いた。さらに倶楽部社員総数が近く三百名をこえることになった。これまた大変嬉しいことであり、心強いことである。

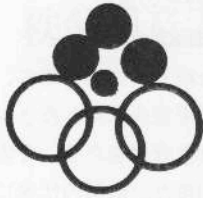
社団法人 桐生倶楽部会報 第 48 号

1986年(昭和61年)8月発行

発行人 前原勝樹

編集責任者 小池久雄

印刷 ツボノ印刷株式会社



# 社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町 2 - 9 - 36 社団法人 桐生倶楽部 TEL45-2755

## 桐生のあゆみ

### 桐生織物の発祥

(奈良時代末期～平安時代初期)

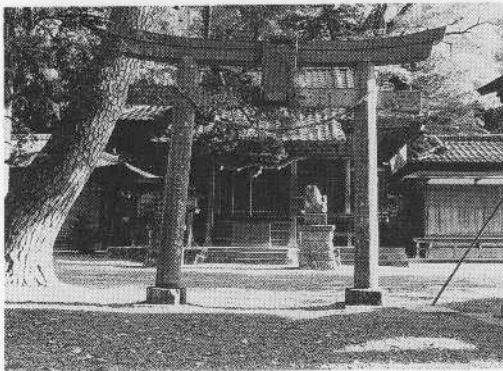
桐生は西陣と並ぶ古くからの絹織物の産地である。しかしその発祥を語るものはただ一つ、白滝姫(仁田山機神)伝説があるのみで、それも史料の価値は遺憾ながら低いと云わざるを得ないよう

である。

ただ、白滝神社(古くは絹織天神または機神天神と云った)に伝わるこの伝説の内容を分析、検討し、さらにその結果を上代における上野国および桐生近辺の絹織物に関する文献に照合すれば、伝説の発祥も桐生織物の発祥も奈良朝末期または平安朝初期と推断してもよいのではないかと云われている。

(以上の説明は桐生市史における八木昌平先生による。写真は桐生市立郷土資料展示ホール提供。)

白滝神社  
(桐生市川内5丁目)



白滝姫御神影  
(白滝神社所蔵)





## 秩父路の奇祭 文化財をたずねて

桐生倶楽部特別例会(10月5日)

桐生倶楽部の例会(月次会)は、当番理事が設営して、倶楽部を会場とし講師をお招きして卓話などを聞かせていただくのが通常となっています。

今回は従来と趣向を変えて、文化活動委員会に担当していただく特別例会と致しました。

企画運営は文化活動委員会の中の歩く会で、大変お骨折りいただきました。それだけに素晴らしい例会で参加者35名の社員及び家族は大喜びでした。

コースは、桐生——秩父吉田町椋神社(竜勢見物)——23番札所音楽寺(昼食)——秩父まつり会館・秩父神社——皆野町金崎神社(獅子舞)——桐生。

桐生倶楽部をバスで朝7時に出発。大変順調に予定を消化して桐生倶楽部帰着は夕刻7時でした。



椋 神 社



見 物 の 人 達

## 吉田町椋(むく)神社の竜勢 (埼玉県選択無形民俗文化財)

日本武尊が光の飛ぶあとを追って当地に来て、猿田彦命の助力を得て、東国平定を成就したといわれるのになら、祭礼のとき大火をたき、その燃えさしを空に投げたのに始まり、火薬の伝来によって現在の竜勢に至ったといわれる。古書によると、現在のような竜勢が始めて打上げられたのは、天正3年(1575年)2月27日の大祭であったとされており、現在は10月5日の秋の大祭に打上げられている。

この竜勢とは、松の筒に竹たがをかけ、火薬を詰め、青竹にしばりつけたものをやぐらから打上げるもので、白煙を噴いて上昇する様子が竜の昇天を思わせることからこの名がついたといわれている。長さ5mの青竹が煙をふいて青空に飛ぶのは正にロケットの打上げそのものであり豪壮な見ものである。

当日は朝9時から夕5時まで30本の竜勢が色々な工夫をこらして打ち上げられた。



竜 勢 の 打 上 げ



## 秩父観音霊場23番音楽寺

音楽寺は、秩父市の展望台といわれるほど見晴らしの良い高台にある。本尊は室町時代の作、聖観音立像、御堂は江戸中期の建造物。

ここの梵鐘は六観音が鑄出されており、その音の美しいことで有名、境内には秩父困民党（こんみんとう）の犠牲者の墓碑が建っている。



## 金崎神社の獅子舞

慶安3年（1650年）、越後蒲原の人、藤兵衛なる者より伝授を受けたと云われ、古くから伝わる獅子舞で、金崎神社の秋祭り（10月5日）に奉納されるもの。

演ずる人も、見物の人も皆地元の人ばかり、桐生からわざわざ見に来てくれたというので大変歓迎を受けた。



参加者の記念写真





## 時代の先駆者

島 霞谷(かこく)・  
隆(りゅう)  
山 鹿 英 助

島霞谷は文政10年(1827年)下野国栃木町の豪商角屋仁三郎の子として生れた。始め玉之助、父の死後仁三郎を襲名。諱を熙、秀利と名乗り号を梅林のちに霞谷と号した。幼いときから画に親しみ父英林(号)と共に南画を学んだ。

20歳の弘化4年(1847年)江戸小石川の椿椿山の画塾琢華堂に入門した。

父の英林はこれ以前から椿山とは親交があり、島家には現在でも英林宛の椿山の書簡2通が所蔵されている。その書簡の中に初めて見た梅林の絵を椿山は「尋常の御筆墨に無之」と激賞している。

このことから早くからその才能は認められていたようだ。

椿椿山の琢華堂門籍人名帳(文政7年～嘉永6年)に30年間椿山が指導した373名の姓名の中に梅林(霞谷)の名がみえる。

弘化4年5月19日 下野国栃木町角屋仁三郎梅林島玉之助 水石介 とある。水石は紹介者

其の後も霞谷は画家を志し、家を棄て画業に専念した。

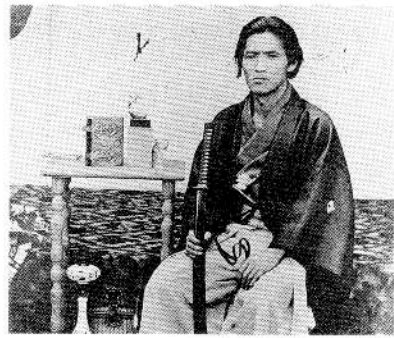
偶々ある酒樓で西洋人に会い、写真術を習うことができた。安政～文久年間の頃と思われる。

この西洋人が誰だったのか、このことが判明できれば霞谷が写真術を手懸けた年代が判り、日本の写真史を変える大変な問題となる。

安政2年(1855年)2月、岡田隆と結婚。隆は霞谷より4歳年上で文政6年(1823年)上野国桐生町上久方村の岡田吉右衛門の長女として生れ幼名かく、初め里宇、隆宇、隆さらに隆子、玉粒遷史と号した。

隆は幼少より下久方村の田村梶子の松声堂塾で和歌、書道、作法、読書等を学び、その才能も早くから認められた。師匠の田村梶子が幕府の御祐筆に採用されたように、隆も一橋家の御祐筆に採用され、天保13年(1842年)20歳の頃江戸へ出た。

霞谷は隆との結婚後、番所調所へ勤め、翻訳と洋学研究に没頭、写真術を隆に教え、隆は写真師となり、元治元年(1864年)霞谷を撮影(湿板写真)この霞谷のポートレートが、このほど女性写



島 霞 谷



島 隆 (島勝二社員の祖母)

真師の第1号を決定付けるものとなった。

番所調所は洋画研究を行い、物産学、精錬学や数学など強大な西洋の経済力や軍事力に対抗する為の実用学を幕府は重要視した。

番所調所が開成所と変化する中で霞谷は油絵を手懸けた。

慶応4年戊辰の年(1868年)5月15日上野戦争が勃発、三橋先や松坂屋辺りから撃つ官軍の大砲は下谷の不忍池近くの霞谷の邸内近辺に落下、身の危険を感じ、小石川丸山町の岩橋教章(銅版、石版画家。明治6年ウィーンへ留学、帰国後印刷局へ入り銅版、石版の製版を行う。)の屋敷へ避難し、ここで岩橋に写真術を教えた。

明治元年11月開成学校の中写学生、明治2年地岡御用掛、二等画師、大学東校中写学生と相次いで昇進する中で、活字出版に着眼し、独自の方法で活字を製造し、學術書の出版を手懸けたが、途中で病に臥し、明治3年11月1日療養の効なく、43歳の壮令で世を去った。

明治5年島霞谷発明の東校活版による石黒忠直訳述「化学訓蒙」足立寛訳述「検尿要訣」が出版され、このことにより死後大学大写学生の称号が与えられた。

島霞谷、隆共に西洋文化摂取期の先覚者としての業績は評価されるべきである。

# 美術の秋をのぞく

## 美術鑑賞会

桐生倶楽部美術鑑賞会は、保倉一郎さんのお世話で61年9月23日行なわれた。

車窓から見る空は青く、鱗雲が波のように漂い、さわやかな朝であった。

この日の研修対象は「ターナー展」と「日本美術名宝展」であり、他は各人の選択に任せることとした。

### 1. ターナー展

○秋分の日の国立西洋美術館は、早朝から人でうずまり、その人気のほどにまず驚かされた。

一行は現地参加の2名の方を入れて12名であった。解散は午後2時ごろとし「日本美術名宝展」の出口と、おむねの行動は一応話合ったものの、この予定は群集によってかき消され、一行は三々五々となった。私は何とかして前面に出て作品を観察することにしたが、丸山貞夫氏は前に出られず、絵画の空の部分しか見られなかったと苦笑していた。この点保倉さんは有利であった。

○さて、この展覧会の主人公ターナーは、1775年ロンドンに生れ、1851年に76歳で他界していたが、英国の生んだ最大の風景画家として知られている。ヨーロッパ各地を旅行して、自然のただ中に身をおき、自らの中に湧き起こる詩情と感動を発酵させ、昇華させ、それに形を与えるという表現法であることが作品に現われている。また自然のふん囲気を色彩のコントラストと筆触の勢いや方向性によって表現する方法、そして、特に後年の水彩画のように東洋の水墨画にも似た抽象的な描法は、近代絵画を先取りしたものと言える。特にスイスを主題として描かれた、晩年の完成された水彩画連作は自信と力を備えている。

1841年、彼が66歳の作品に「リギ山の庭明」がある。山と湖の光景を描いた、この水彩画は、微妙と透明な美しさを持っている。

○私が油彩で最も感銘を受けた作品は、1844年の「雨、蒸気、速度—グレート・ウェスタン鉄道」である。



美術館前にて

ここでターナーは、時速50マイルの速度で見る者を圧倒する鉄道の蒸気機関車と列車を、実際に絵を見る者の前に据えることに成功している。周囲の暗さと蒸気機関車からもれる炎、それにもくもくとした煙が、まことに驚くべき組合せとなり、しばし、私の眼を凝視させた。

○面白い絵だと思ったのは、1842年の「戦争—流刑者とあお貝」である。

夕日の色から血が連想される。

ばら色、深紅色、橙色などの混色の岸辺にナポレオンが大きく描かれている。よく見ると水中にあお貝が平然と呼吸しているのだ。

見る者によって、この絵の表現する意味の解釈はまちまちであろう。

○ターナーの風景画には海や河の風景が多い。それは彼がテムズの河口に出入りする船や、刻々と変化する海や河の風景を眺めて育った環境からだという。しかもそれは単なる風景描写ではなく、自然と人間の葛藤を劇的に表現している。いずれにせよ70点を越えるこの展覧会を充分消化するには、おそらく1日を要するであろう。

### 2. 日本美術名宝展

○天皇陛下の御在位60年を記念して、開催されたこの「名宝展」の規模の大きさには驚くほかはない。同行の方々の中には山鹿さん、須賀さん、藤井さん、岡田さんなどのこの道の権威者がおり、充分堪能された1日であったと思う。

残念ながら、私はこの道に暗く、一巡するのにかなりの時間を要した。

先史時代から、奈良、平安、鎌倉、桃山を経て江戸時代に至るまで、それぞれの時代を代表する名宝に接して、私は改めて日本文化の深さ、また仏像に見るように私たちの先祖がインド—



中国—朝鮮半島の文化をよくも吸収してわがものとしたことに深く敬意を表したい。

○私の眼をひいたものの一つに「吉祥天像」があった。左手に如意球を載せ、ゆったりと宙を歩む姿は、絶世の美人である。頬のふくらみ、鬢のほずれ、胸の盛りあがりなど妖艶でさえある。奈良時代の本格的な仏画であるという。陳列品は書画、絵画、屏風、蒔絵手箱、壺、衣裳、埴輪、刀剣、銅鐸等多種多彩であり、勉強させられた貴重な時間を持ったのである。

注、今回参加された方は、

岡田一男、須賀武次、田中一男、藤井龍人、保倉一郎夫妻、のりこ、丸山貞夫、丸山正一夫人、山鹿英助夫妻の各氏と私の12名である。

松島武治 記す

## — 懇 話 会 報 告 —

### 【9月】 島 霞谷について

山鹿 英助



## — 月 次 会 報 告 —

### 【7月】 我が郷土の偉人 剣聖上泉信綱を語る

講師 諸田 政治先生

先生は、旧陸軍々医学校を卒業された軍医さんですが、戦後は著述家となり上毛の剣豪の生きざまをライフワークとして執筆活動を続けておられる。前橋在住。

(当番理事 藤江、園田)

### 【9月】 婦人科医から 見た世相

講師 久保田裕一先生

久保田先生は沢山の資料を用意して下さい、分りやすく楽しいお話をきかせていただきました。

特に「がん予防十二条」は社員の皆様に関心の深いことであろうと思いますので、次に記載しておきます。

1. 偏食をしないでバランスのとれた栄養をとる。
2. 同じ食品を繰り返して食べない。
3. 食べ過ぎを避け脂肪をとりすぎない。
4. 深酒をしない。
5. タバコを少なくする。
6. 適量の タミンA・C・Dと繊維質のものを多くとる。
7. 塩辛いものを多量に食べない。余り熱いものはとらない。
8. ひどく焦げた部分は食べない。
9. カビの生えたものは食べない。
10. 過度に日光にあたらぬ。
11. 過労を避け適度に運動する。
12. 体を清潔にする。



## 秋の叙勲と褒章

秋の叙勲・褒章を下記3人の社員が受けられました。夫々、さまざまな分野で長年地道な努力を積み重ねて地域、社会に貢献をされた方々です。

桐生倶楽部社員一同心からお祝いを申し上げ、今後、ますますご健勝で、ご活躍下さるようお祈りいたします。

なお、3人の方々に対する桐生倶楽部としての記念品の贈呈は、恒例にない来春の受章者とともに5月の文化祭のパーティーの席上で行われることとなりますので、ご諒承願います。

勲五等双光旭日章

藤江 敏雄氏

勲五等瑞宝章

白石太市郎氏

黄綬褒章

石井 省三氏

## 歩く会 <7月例会>

### 花の楽園谷川岳山頂へ

7月の例会は、梅雨明けを待って、谷川岳へ登った。桐生倶楽部からバスで土合口まで、そこからロープウェイで天神平へ。

天神平—熊穴沢避難小屋—肩の小屋—山頂(トマの耳) 桐生を朝5時に出発して、山頂で丁度昼食の時間。

絶好の天気恵まれ、ニッコウキスゲやシモツケソウ、アカショウマなどの花を見ながらのハイキングに皆さん大喜びであった。

魔の山と恐れられている谷川岳も、時期とコースを選べば、こんなにも容易なものかとびっくりする程であったが、これも歩く会のリーダー達の練りに練った計画であったからです。

(参加者 30名)



### 桐生倶楽部句会

〔七月〕

潮の香をまとひ中元届けきけり	清水
梅を千す母と娘の假住居	遠藤
持ち呉れし中元シヤネルの香を残し	久保田
梅干にかゝる雨雲ざるしまい	山田
中元に添ふる一筆鮮やかに	本田
梅干して平凡望む老夫婦	光春

### 桐生倶楽部句会

〔九月〕

ナマコ張る音餅して秋暑し	久保田
赤子泣く隣は留守か秋暑し	宮地
人声も遠のく假寝秋暑し	森
朝の雨止みて俄かに秋暑し	高木
道案内薄れし記憶秋暑し	光春
師を葬ふる広沢山に秋暑し	前原

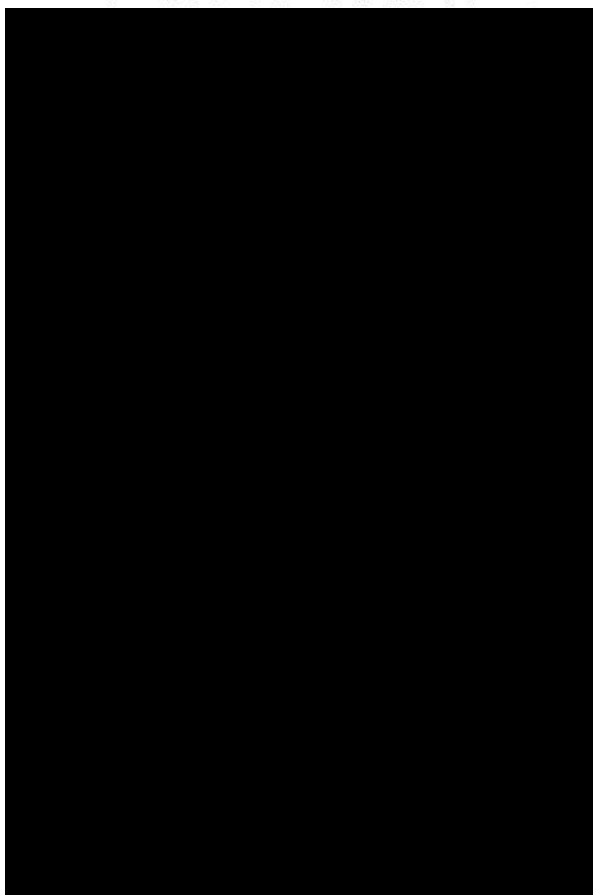
### 桐生倶楽部句会

〔十月〕

椎茸の椀で夕餉の始まりし	森
山宿に椎茸あぶり酌む寝酒	光春
草別ける音の行き交う茸狩り	久保田
夜長しパートの未だ帰らざる	本田
晩学のルーベにたよる夜長かな	前原



# ▷ 新 入 社 員 紹 介 ◁



## |||| 倶 楽 部 だ よ り ||||

- ◎ 8 月
  - 歩く会世話人会 (4日)
  - 理事会 (8日)
  - 俳句会 (27日)
- ◎ 9 月
  - 理事会 (8日)
  - 懇話会 (18日) 「島霞谷先生について」講師 山鹿英助氏
  - 美術鑑賞会 (23日) 国立西洋美術館(ターナー展)  
東京国立博物館(日本美術名宝展)
  - 俳句会 (25日)
  - 月次会 (26日) 「婦人科医から見た世相」講師 久保田裕一先生
- ◎ 10 月
  - 月次会 (歩く会担当) (5日) 「秩父の奇祭・  
民俗芸能・文化財を尋ねて」
  - 理事会 (8日)
  - 歩く会世話人会 (20日)
  - 俳句会 (29日)
- ◎ 11 月



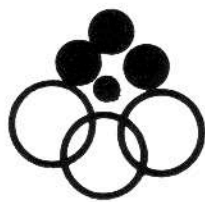
## ◁ 退 会 ▷

赤 堀 貞 治 氏

公認会計士、赤堀貞治事務所々長の赤堀貞治氏が、10月6日ご病気で急逝されました。前日の桐生倶楽部特別例会には奥様ともどもお元気で参加されていたので全くびっくりいたしました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

- 会報委員会 (5日)
- 行事委員会 (6日)
- 理事会 (10日)
- 秋季囲碁大会 (16日)
- 懇話会 (17日) 「秘境の王国ブータン」講師 新井リコ氏
- 月次会 (27日) 「桐生の小型映画の歴史と貴重なフィルム」

社団法人 桐生倶楽部会報 第 49 号  
 1986年(昭和61年)12月発行  
 発行人 前原勝樹  
 編集責任者 小池久雄  
 印刷 ツボノ印刷株式会社



# 社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-99-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



## 就任の御挨拶

理事長 平野 元吉

桐生倶楽部社員の皆様に御挨拶申し上げます。私は去る1月29日の社員総会に於て、前理事長前原勝樹先生の後を引継ぎ第9代の理事長に就任致しました。

誠に僭越の至りで、浅学非才の私など到底お引き受け出来る仕事ではありませんと再三御辞退を申上げましたが、種々の事情で御承認いただけずやむなく就任致すことになりました。何卒、皆様様の格別なる御指導と御後援の程をお願い申し上げます。

私が倶楽部へ御世話になったのは昭和29年9月であります。当時の理事長は境野武夫氏でありまして、私は現在のグンポーの前身である群馬縫製株式会社の代表取締役でありましたが、境野氏の再三の要請で入会させていただいた次第です。

入会以来、本年で33年6ヶ月になります。その間、理事4期、副理事長7期を務め、5代の理事長に任へて色々御指導をいただきました。

昭和31年8月15日、境野氏の永眠によってその後の理事長に桐丘学園長、長沢義雄校長が就任され、同時に私が経理及び建物の営繕担当理事を命ぜられました。

当時の桐生倶楽部は非常な財政難時代でありま

して、桐葉軒に未払金が7万円とか、遠田酒店にも5万円とか、その他細かい未払金があって、倶楽部が必要なものを出入りの商店にお願いしても仲々届けていただけないような時代でした。

全般の経営も苦勞が多く、倶楽部の土地を高く売って安い土地の所へ移転するとか、或は思い切って倶楽部を改築し地上7階地下2階位のビルを建てて貸しビルをしたら……というような案まで出ました。しかし結局は、現状維持で倶楽部の繁栄を計ることになった次第です。

長沢理事長は財政の建て直しをはじめ、倶楽部全般の経営に敏腕を揮われ、今日の繁栄の基礎を築かれました。長沢理事長の施策の主なもの、(1)館内の整備、(2)貸室規定の明確化(政治色の強い会合には貸さないなど)、(3)社員の増強、(4)月次会の開催、などでありました。

庭園の整備や、ロビーの新設など桐生倶楽部会館内外の改装には、相当の借入金が必要としたわけですが、長沢理事長の積極策が功を奏して、社員数も段々に増え、経営も順調になって行きました。

顧みれば、長沢理事長には就任以来5期10ヶ年にわたり、誠に多難であった倶楽部の危機を救い経営を完全に軌道に乗せた功績は、倶楽部史上永遠に特記すべき事と存じます。

また、川村佐助元理事長並びに前原勝樹前理事長の偉大なる御功績も忘れてはならないところであります。中国の言葉に「三人行なえば必ず我が師あり」と申されておりますが、私も又、歴代の理事長の意志を継いで、出来る限りの力をつくす決意でありますので、何卒社員諸氏の変らざる御指導と御後援の程を切に御願ひ申上げまして御挨拶と致します。







## 退任のことば

名誉社員 前原 勝樹

昭和29年以来理事、副理事長、理事長と33年も倶楽部役員を勤めさせていただいたので辞めることはまことに残念であったが、体力気力とも弱って、もはやその任でないと悟ったので辞めさせて戴いた。

付き合いの悪い、変人に近い私をこのように永く支持して戴いたのは倶楽部であればこそで、社員の友情の賜と感謝の気持を新にしている次第である。

私の親父は町長、市長をしていたので倶楽部創立当時は役職の関係で理事の席にはあったが、あまり熱心ではなかったと当時の常務理事的な前原準一郎さんが話してくれた。私が親父より偉くなったのは倶楽部の理事長になったことだけと女房とも話していた。なにしろ桐生倶楽部社員になることは「紳士のライセンス」と唱えているのだから、理事長ともなれば桐生を代表する紳士と云うことになり名誉この上もないことであった。

私が学業を了えて桐生に帰ってくるとすぐ、当時の斎藤理事長から入社のお奨めがあったが、時機尚早とみて一応お断りした。その時、親父名義の倶楽部への貸金は全部献納してしまった。

兵隊から帰って少し時勢も落ちついてきた昭和26年、私の患者であった理事南川潤氏のおすすめで入社した。

その頃は境野理事長時代で、労働者風の人が多々靴で出入りして相当荒れていた。反面、桐生倶楽部主催の夏季大学を一般市民に公開するようなこともやり、戦後の文化の拠点となった時代でもあった。

しかし財政的にはやや乱脈になって、一時は市

へ移管の話まで出たが長沢理事長、平野理事（現理事長）が建て直した。特に今のロビーの新設は画期的なことであった。そこには一つ部屋があったのを取払って現在のロビーとなったのである。

長沢理事長は経営家であり、平野さんは営繕に詳しいので、ややもすれば部屋貸し中心に傾くおそれがあった。そして当時の情勢では結婚式場が不足（いや、無かった）していたので、それに利用してもらおう議が起り、現に倶楽部で挙式した紳士も多数現存している。

私はこれに反対した。そして倶楽部の本来のあり方に何よりも努力した。それは社員が集り話し合う場所となることで、倶楽部の前身である桐生懇話会の昔に帰ることであった。それには少しでも多く社員の集まる機会を増やすために「土曜懇話会」を毎月1回5年間ぐらいつづけた。講師が見つからぬ時には自分がそれをやり、時には来会者がゼロ名のことさえあった。現在これは（木曜）懇話会として小池副理事長がついでいる。

それから趣味の会合を統合して桐生倶楽部文化祭としたのは私の発案であった。

長沢理事長は5階建のビルを作り、テナントを入れての合理的経営を提唱したが、旧館をそのまま保全する説が主流をしめて立消えになった。

その後、前原一治前市長が理事長になったが私は派が合わぬところあり、副理事長から平理事に落され土曜懇話会も一時中絶となった。彼は私を「生意気だ」とののしったので大喧嘩となり、玄関先で取組み合いにまでなったことがある。

その次の川村理事長は「倶楽部を文化財」として保持することに全力を挙げ、平野さんとの協力で今日の偉容を保っている次第である。

川村さんの任期の終る頃から、駐車場拡張の議が起り、私がこれを引きつづぐこととなった。それには桐葉軒立退き問題があった。これはお金や単なる事務的なことでは片付かぬ点があった。

およそクラブにはレストランが付きもので、開館当時、これを桐生料理店組合に委託し、松島富三会長、森島金四郎副会長（二丁目大金）の斡旋で上野精養軒からコックとマネージャーをつれて来て開業したものである。これは本式のレストランで子供の私などはオドオドして食べたものである。

この撤去移転についてはいろいろの困難があったが、当時の理事島勝二君の努力は大変なものであった。

(3面にづく)



## 川村名誉社員が 桐生市の名誉市民に――

桐生倶楽部7代目の理事長であり、名誉社員の川村佐助氏は昭和12月、桐生市で6人目の名誉市民に推挙されました。

川村佐助氏は岐阜県郡上八幡町の出身。明治45年に京都の糸問屋川村佐兵衛商店に入社、大正12年に同商店が桐生に支店を開設、支店長として来桐してから桐生の人となりました。昭和12年には川佐商店から独立して川村佐助商店を創立し、爾来50年、糸商としての事業を通して桐生の繊維産業発展のため大きな貢献をされました。

また、「吾唯知足（われただを知る）」の精神で常に「報恩感謝」を説かれる。その川村哲学から発した行為が、多額な各方面への寄付であり、「川村奨学資金」や養護老人ホームなどの施設慰問等々、数々の徳行であります。

これは枚挙にいとまがありませんし、市民がよく知り抜いているところでもあります。昭和34年には「つねに公共福祉の増進に、社会文化の興隆に貢献せられ、その功績は卓絶で町民は郷土の誇りとして、ひとしく尊敬している」として、郡上八幡町第一号の名誉町民の称号を贈られてもおります。

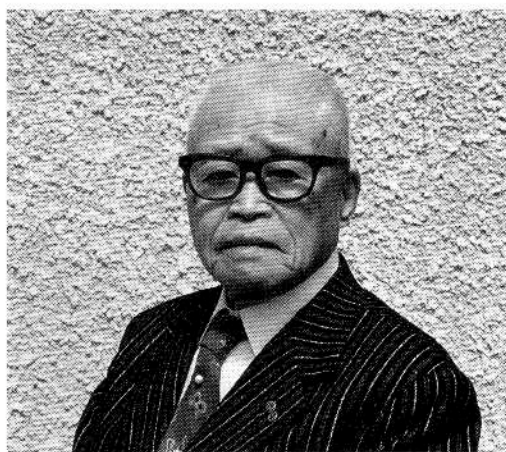
桐生倶楽部理事長になられたのは昭和43年2月でありました。その年の秋には倶楽部創立五十周年のため各種の事業を計画していて、それらがようやく緒についたばかりの1月15日に前原一治理事長が急逝され、理事一同呆然となりました。次の理事長は大変な重荷を背負うこととなるので、「川村理事以外にこの難局を引受けられる人はいない」と衆議一決して川村さんを推しました。

(2面よりつづき)

尚、追加するが倶楽部に女性会員をという説があったが、これは「倶楽部は本来、男の逃げ場である」との米英流を振り廻して、これを撃退したこともある。

以上の経緯で判るように桐生倶楽部は市の文化の拠点でありたい。教育・文化・経済・政治のモニターでありたい。それに現倶楽部会館は文化財として保存したい、というのが私の倶楽部への抱負であった。

世の中は激変してゆく、しかし立派な後継者がいる。私は安心して退任が出来たことを社員各位に感謝するものである。



ところが川村さんは「私は自分を良く知っている。浅学非才到底その器ではないので辞退したい」と云われ頑として受けられず、当時の理事連中は川村さんをくどきおとすのに大変な苦勞をしたことがあります。

しかし、ひとたび理事長を受けるとなると全力を傾注し誠意をつくして事に当り、五十周年事業が立派に遂行されたことは大方の社員の皆さんがよく知っておられる通りです。

川村さんは祖先を崇敬し、郷土を愛する心が強く、桐生倶楽部についても「郷土の先輩の残された貴重な遺産であるから、何としましてもこのまま護り通さなければならない」という強い信念で11年の間、理事長の職を立派に果され、退任後は直に名誉社員に推薦されました。

川村名誉社員は明治31年のお生れで、今秋は満89歳になられますが、毎日会社へも出勤され、びっくりするほどのお元氣さです。

これからも益々お元氣で私達の範となってお活躍されるよう社員一同祈りたいと思います。

### 名誉社員について

桐生倶楽部の定款には古くから名誉社員という規定があります。桐生倶楽部は社団法人なので、一般に会員というべきものを社員とよびます。名誉社員については下記のような条文があります。

#### 第5章 社員

第9条 本倶楽部の社員の種類次の如し

正社員

名誉社員

第13条 名誉社員は学識名望あるもの若しくは本倶楽部の為特に尽力せられたるものより理事会に於て之を推薦す

川村・前原両名誉社員は、この条項にぴったりの方々だと思ひます。



# 委員会構成

昭和62~63年度

(社) 桐生倶楽部

委員会名	担当理事	委員長	副委員長	委 員				
行 事	野 田 五十嵐 飯 山 佐 藤	野 田	五十嵐	福島、高橋貞、富永、米田、田島英、阿部光、田中暉、北川洋、宮地秀、蛭間利、坪野徳、吉原、八木橋、川口、中里、池田、加藤明、片柳、山本、樋口、森寿、岩間、木村俊、尾沢、小堀、森口、平野武、坂本能、飯山暉、川島康、森田、福田博、養田、山口、田村、竹内晴、清水邦、坪井、船田、出口、江原、丹羽滂				
文化活動	金谷善  藤江敏	金谷善	藤江敏	部 会 名	担当理事	部 会 長	副部会長	部 員
				美 術	古 川 岸 田	保 倉	須 賀	伊田、松島武、丸山(貞田島英、田中一、藤井山鹿、宮地秀)
				懇 話	小 池 木 島	藤 井	山 鹿	奈良、五十嵐、森口
				俳 句	古 川 清 水	高 木	宮地秀	森寿、本多、遠藤勝、有阪
				麻 雀	岸 田 飯 山	北川洋	松 枝	吉野、吉成、小林昭、岩田
				囲 碁	野 田 古 川	野 田	吉 成	山根、島、金井利、倉林
				ゴ ル フ	五十嵐 関口(金)	田中暉	片 柳	八木橋、松島巖、片山竹内晴、養田
				将 棋	平野(元) 野 田	芝 崎	平野(元)	木村俊、園田、石原、野田
				歩 く 会	小 池 木 島	木 島	藤 井	村田豊、森口、小堀、肥塚、金井利
				ビ デ オ	金 谷 塚越平	五十嵐	金井利	斎藤貞、白石、平野(元)有阪
写 真	岸 田 古 川	塚越平	書 上	赤石、多田、菊地、坪井、河原井、田中愛)				
会 報		小 池	岸 田	丸山(貞)、書上、坪野(恵)				
総 務		塚越平		小池、飯山				
会 計	矢野、関口(金)							
営 繕		清水(信)	佐藤(富)	平野(元)、木島、宮地(秀)、保倉				
会員増強		塚越平	清水(信)					
企 画		小 池	木 島					

# クリスマス祭

恒例の家族クリスマス祭は12月12日に賑やかに  
行われた。楽しい雰囲気写真を写真から味わって下  
さい。



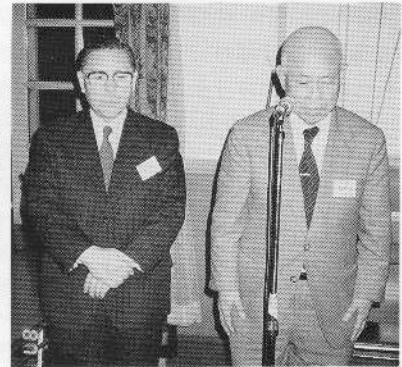
# 社員総会

1月29日、定時社員総会が開かれ、前年度の事  
業報告、決算報告、新年度の事業計画、予算案が  
全員一致で承認をされた。続いて役員の変更につ  
り新役員が選出された。



◀前原前理事長のご退任の挨拶

▶書上、園田両理事も  
ご都合で退任された



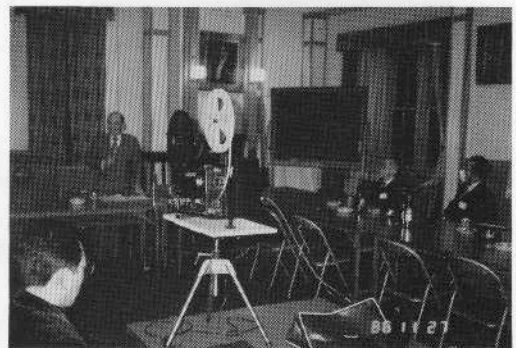
## ＝ 月次会報告 ＝ 桐生の小型映画の 歴史と貴重なフィルム

11月の月次会は、昭和9年に発足して現在に至  
る桐生小型映画の長い歴史を、金子三千雄氏（桐  
生小型映画研究会々長）より聞かさせていただき、  
更に貴重なフィルム「彦部駒雄氏の銅像建立の記  
録」「文化織都桐生」「梅田皆沢の民俗」などを  
映写していただいた。

大正8年にフランスのフィルム9.5ミリのもの  
を使用したのがアマチュア映画のはしりで、大正  
13年にはイーストマン、コダックの16ミリが、昭  
和7年にはじめてコダックの8ミリが発売され、  
その頃から桐生の小型映画がはじまった。初代会  
長の木村健司氏は大変機械好きで色々の工夫をし  
て全国でも注目を集めた。

桐生小型映画研究会の活動は大変活発で、昭和  
58年には社会教育功労章、60年には文化功労章を

県から受けている。



お話しをさせていただいているのは金子会長





# ＝ 3 月 特 別 例 会 ＝

早春の奥多摩、霊山武蔵御嶽神社参拝と  
梅香る玉堂美術館、吉川英治記念館を訪ねて

3月の月次会は昨年10月と同様、歩く会担当の特別例会としました。

桐生倶楽部からバスで早朝6時の出発、東松山入間を経て青梅線御岳駅近くの滝本まで行き、ケーブルを使い御岳山駅まで、あとは徒歩30分で御嶽（みたけ）神社へ。参道には今でもかやぶき屋根の立派な構えの御師（おし）の家が並んでいるのが大変珍しい。

山を下りて、川合玉堂の作品や遺品を集めた玉堂美術館を見学、そして中食、ここから吉野梅郷は近い。

吉野梅郷の2万本の梅は丁度見頃、梅をめながら吉川英治記念館をじっくり見学。

まずまずの天気恵まれ、一年中で一番いい季節でありながら時間帯の関係で、さほどの混雑にもあわず、全部のスケジュールを無事に消化して桐生倶楽部帰着は夕方6時半、参加者39名の皆さん大変ご満悦でした。



御 嶽 神 社



御師（おし）の家



吉川英治記念館

## — 懇 話 会 報 告 —

◁11月＞ 秘境の王国  
ブータン



ブータンの民族衣裳

桐生在住の画家、新井リコさんがブータンを旅行されたというので、11月17日懇話会としてお話を聞かせていただきました。

ブータンはヒマラヤの深い山並みに囲まれ、最近まで厳しい鎖国政策をとっていましたので、文字通り「秘境」なのです。

九州をひと回り大きくした国土に120万人の人口、正式の国名はドルック・ユルといい「龍の国」という意味です。

ここに住む人々は誠実で勤勉、独自の生活文化を持ちます。中でも染織工芸は世界中で最も複雑で想像力に溢れていると云われています。リコさんの持参された染織品はまことに素晴らしいものでした。



# 桐生倶楽部 句会

## 〔十一月〕

千大根 くぐりて家を 尋ねけり  
 縁側に 折れし大根 並べ干す  
 千歳館 親に持たせて 七五三  
 駐在の 物干台や 千大根  
 大根の 干したる軒の 傾きて  
 久々に 宮居賑ふ 七五三  
 前 森 原

## 〔十二月〕 忘年句会

湯豆腐に 一決 淡交 五十年  
 外套を 着ぬ学童の たくましき  
 湯豆腐に ガラスくもりし 四畳半  
 外套の 外出に降り来し 小糠雨  
 外套の 襟立て渡る 隅田川  
 湯豆腐を つつきわが眉 濡れにけり  
 新婚の 湯豆腐はさみ 京の寺  
 外套を 脱ぎ葬列の 長かりし  
 湯豆腐の 煮えずぎぬ間の 一談義  
 古川 清水 森 宮地 遠藤 高木 山田 久保田 前原

## 〔新年〕

業牡丹を 一つ飾りし 新居かな  
 業牡丹の 残りし蠟 雨に去る  
 紋服を 基仇として 三ヶ日  
 三ヶ日 明けてごはんの 香ばしき  
 三ヶ日 蒔絵の椀で 始まりぬ  
 三ヶ日 上州なれば 風の日も  
 女形らの 妙技貧る 三ヶ日  
 久保田 高木 清水 山田 森 遠藤 光春

## 「歩く会」

### 昭和62年度 行事予定が決まる

歩く会は、世話人一同昨年  
 から何回も会合を重ね新年度  
 のスケジュールを下記のように  
 作りしました。  
 桐生倶楽部にふさわしい、  
 唯「歩くだけ」「登るだけ」  
 ではない、その土地の文化、  
 習俗をたずねる一味違う行事  
 予定です。多数の社員のご参  
 加をお待ちしております。

## 〔二月〕

廃屋に 枯るると見えし 梅咲けり  
 衰えし 野火に三日月 輝けり  
 野を焼ける 火足に追はる すすけ顔  
 長屋門 くぐりし梅に 機之音  
 野焼く 火の 掘り見ゆる 雨到る  
 野火走り 人走りける 原広し  
 梅が香や 後姿の 顔見たや  
 高木 清水 山田 遠藤 森 久保田 光春

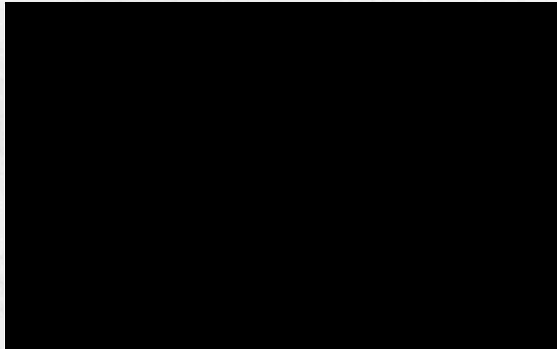
## 〔三月〕

雨上る 部屋に主なし 春炬燵  
 列車待つ ホームの端も 陽炎へる  
 サッカーの 群遙かなり 陽炎へる  
 孫に唄 教へてもらふ 春炬燵  
 客なくて 立つ陽炎の 停留所  
 竹の風 ゆるやかなりし 春炬燵  
 かげろふの 中の別れや 無人駅  
 かげろひて 去る友の背に 願ふこと  
 森 本田 高木 清水 山田 遠藤 久保田 光春

五月十日(第二日曜) 新緑の西上州、荒船山、貸切バスで行き、バスを迂回させて、我々は荒船山を縦走します。  
 六月七日(第一日曜) 石楠花(しやくなげ)の大群落を後袈裟丸山へたずねます。  
 これは、自家用車で山麓まで行きます。  
 七月二十六日(第四日曜) しらねあおいの見どころ「日光奥白根山」へ梅雨明けを待つて菅沼から登ります。  
 八月 例会は休会ですが、希望者のみは、八月十七日朝、皆沢部落の珍らしい行事「廻り念仏」をご案内します。  
 九月十三日(第二日曜) 桐生川源流、根本山の沢登り。年に一度は必ず登りたい故里の山です。  
 桐生川源流林は、森林浴の森として日本百選に入りました。  
 十月十一日(第二日曜) 紅葉の芳ヶ平と草津の湯。草津白根山から芳ヶ平へ下り、草津温泉まで紅葉を楽しみ、最後は草津町営の温泉で汗を流します。  
 十一月八日(第二日曜) 中ノ条の奇山・観音霊場の高山(たけやま)へ。  
 十二月十三日(第二日曜) 詩情溢れる巴波川畔散策(栃木市)



▷ 新 入 社 員 紹 介 ◁



|||| 倶 楽 部 だ よ り ||||

◎12月

- 理事会 (9日)
- クリスマス祭 (12日)
- 歩く会 (14日) 「鳴神山の秘池`箕輪の池、を尋ねて」

◎62年 1月

- 新年互礼会 (4日)
- 理事会 (10日)
- 歩く会 (11日) 初詣「太田七福神めぐり」
- 監査会 (13日)
- 臨時理事会 (19日)
- 歩く会世話人会 (23日)
- 俳句会 (26日)
- 臨時理事会 (29日)
- 定時総会 (29日)

◎ 2月

- 歩く会 (8日)
- 理事会 (10日)
- 歩く会世話人会 (16日)
- 俳句会 (26日)

◎ 3月

- 会報委員会 (10日)
- 理事会 (10日)
- 月次会 (15日) 歩く会協力「早春の奥多摩美術館めぐり」
- 囲碁会 (22日) 春季囲碁大会
- 歩く会世話人会 (23日)
- 文化活動委員会 (25日)
- 行事委員会 (27日)
- 俳句会 (30日)

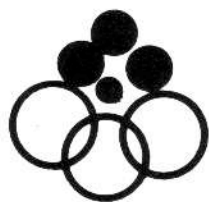
社団法人 桐生倶楽部会報 第 50 号

1987年(昭和62年)4月発行

発行人 平野元吉

編集責任者 小池久雄

印刷 ツボノ印刷株式会社



# 社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町 2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL45-2755

## 桐生のあゆみ

### 前桐生氏の興亡

(平安時代末期)

平安末期のころ、桐生六郎という人物が桐生川沿岸の地を開拓しつつ農地を拡げ小領主となってその土地を桐生と名づけ自らもこの地名を以て苗字としたという。

彼はまた一方では北関東第一の豪族と称された足利俊綱・忠綱父子に郎党として仕えていた。そのため六郎は、一方では足利氏に仕える武士であり、一方では桐生の土地を開墾している農民の代表でもあった。

治承四年(1180年)には京都で源三位頼政による源氏の旗上げがあり、平氏打倒の進撃がはじまったが、この時足利俊綱は平氏に味方していたので、子息忠綱が父に代って家の子郎党を率いて源氏の討伐に参加した。この時六郎も参加し、若い忠綱を助けて戦功をあらわした。

その後、頼朝の勢力が強くなってくるわけだが足利俊綱は相変わらず平氏に味方しつつあったため、治承5年9月、頼朝は、和田次郎義茂に命じて足利俊綱を追討せしめることになった。ところが和田義茂が足利に到着してみると、足利俊綱の首は郎党の桐生六郎のためにとられていた。六郎はその首級をもって鎌倉に上ったが、頼朝はかえって六郎の不忠を責め処刑してしまった。

この桐生六郎を前桐生氏と呼び、後の南北朝に出現する桐生氏を後桐生氏と呼び区別されるが、両者に関係があるかどうかは明白ではない。

(「桐生の歴史」桐生文化史談会発行一による)



市指定史跡 梅原館跡

桐生市梅田町1丁目1-25

右手に見えるのは薬師堂

梅原館跡(うめはらやかたあと)は、桐生六郎の館跡であったと推定されている。

後世、桐生国綱(後桐生氏)によって桧杣山城(ひしゃくやまじょう)が築かれ、領主の居住地は山麓の居館に移ることとなり、この館跡は後桐生氏の下屋敷として利用されるようになったことであろう。そしてここを基点に町屋づくりが行なわれた。

今も西側、南側の一部、北側の大部分に土塁が存在し、その外側に濠跡がみられる。さらに南方500メートルにわたり、川を中央にした両側に古い町割りが残っている。これが町屋跡である。この館跡は鎌倉期から室町期にかけての堀の内式居館と考えられる。

(以上の説明は「桐生市の文化財」一教育委員会発行一による。写真は郷土資料展示ホール提供。)



# 第13回桐生倶楽部文化祭

## 今年の銀盃は5人の社員に――。

文化祭は第13回を数える。本年は下記のようなスケジュールで賑やかに行われた。華道・絵画・俳句色紙・写真・歩く会記録等々の展示は4月30日から5月2日までの3日間、2階広間と階下の1号室を飾り観る人を楽しませた。

ガーデンパーティは5月2日5時から庭園で開催され、席上恒例となった国家褒章、叙勲を受けた社員（昨年秋と本年春）、下記の5人の方々に銀盃が贈られた。

**藤 江 敏 雄 社 員**

(勲五等双光旭日章、保健衛生功労)

**白 石 太 市 郎 社 員**

(勲五等瑞宝章、中小企業振興功労)

**村 井 信 一 郎 社 員**

(勲五等瑞宝章、林業振興功労)

**石 井 省 三 社 員**

(黄綬褒章、業務精励――税理関係)

**塚 越 平 人 社 員**

(藍綬褒章、業界振興――ガス事業)

\*\*\*\*\*

## 文化祭協賛行事及催物一覧

俳句会	4月21日 午後7時30分～	於 2号室	
囲碁大会	4月26日 午前10時～	於 6号室	
華道展	4月30日～5月2日 午前10時～午後5時	於 広間	田沼宗喜社中協賛
絵画展	4月30日～5月2日 午前10時～午後5時	於 広間	陶器展示
俳句色紙展	4月30日～5月2日 午前10時～午後5時	於 広間	
写真展	4月30日～5月2日 午前10時～午後5時	於 1号室	
歩く会記録展	4月30日～5月2日 午前10時～午後5時	於 1号室	
麻雀大会	5月1日 午後6時30分～	於 麻雀KM	
ビデオ観賞会	5月2日 午後1時	於 ロビー	
ガーデンパーティ	5月2日 午後5時	於 庭園	各種表彰 アトラクション等
歩く会	5月17日(第3日曜) 午前6時～	桐生倶楽部集合 資料バス	新緑の西上州荒船山

## ▷ 各競技の成績表 ◁

### 第13回文化祭協賛

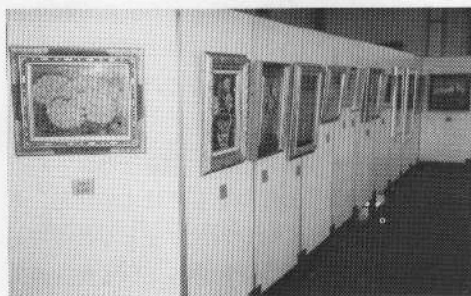
囲碁大会	昭和62/4/26	麻雀大会	昭和62/5/1
優勝	倉林 俊雄	優勝	石井 省三
準優勝	蓮沼 源一	準優勝	村田 豊樹
1 位	島 勝二	1 位	森川(東洋証券)
2 位	金井 利雄	2 位	岸田 英作
3 位	岡田 光弘	3 位	八木橋祥介
		B・B	石原 丈吉



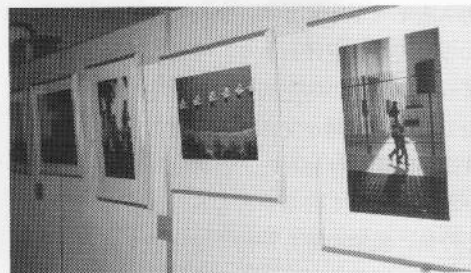
平野理事長から銀盃を受ける



ガーデンパーティー



絵画



写真



陶芸



# 佐倉歴史散歩の旅

## 歴史民俗博物館と城下町

桐生倶楽部特別例会（7月5日）

7月の例会は、文化活動委員会(特に美術部会)の協力を得て、千葉県佐倉市の国立歴史民俗博物館と、附近の史跡を訪ねる旅といたしました。

当日の報告は美術部会の田中一男社員にお願いしました。

その治水に苦難の歴史を秘めた印旛沼のほりと歴史と水と緑の街佐倉に我が国の歴史、考古学、民族資料を収集して東洋一の規模を誇る、国立歴史民俗博物館があります。一行が到着した頃は雨もあがり佐倉城址の古木が深い緑をたたえ、めぐらされた堀には大きな鯉の姿がみられ、我々を静かに迎えてくれました。この佐倉はまた3月の特別例会で訪れた奥多摩の吉川英治記念館で、英治の母がここの生れであることを知りました。歌碑に「萱屋は 母のむねにも似たるかな たかきをわすれ ただぬくもれり」とあります。

さてこの博物館常設展示の特徴は日本の歴史、文化の流れの中から、現代よりみて重要なテーマを選び、それらを生活史に重点をおいて構成され縄文人の生活、稲作の系譜、中世の技術革新による社会と生活の変化、江戸や京の町並み、公家や武士の生活、近世に入って御朱印船や北前船など貿易による生活の拡大のようす、幕末期の民衆の表情など、実物資料はもちろん、複製や模型、ビデオなどビジュアルな展示は、わかりやすく語りかけてくれます。第一展示室から第三展示室までは、原始、古代から近世まで時代順に展示され、第四展示室は日本人の民族世界となっています。一つの展示室だけで群馬の森の県立博物館ほどもあるかと思われるほどで、四時間の滞館時間もあっというまに過ぎ第二展示室までしかみられませんでした。とぼしてみるにはあまりにも惜しく、第三、第四展示室は次回を期しております。

佐倉城址であるこのあたりは、公園としても整備され、建物もそれにふさわしくすばらしいもので、中央には中庭がとられ、白いテーブルとコーヒーマシンが疲れをいやしてくれます。食堂も緑の庭園を前景にもうけられ、雨あがりの景色をみながらのビールと食事、同好の士との雑談に時のたつ



博物館の前で記念写真

を忘れておりました。館員も公立にありがちな冷たさもなく、時折おくになまりもまじる応待で、訪れた我々の気持をほぐしてくれます。館内には書籍や各地の民俗をしのばせる土産なども売られ楽しみも倍加するようです。

やがて午後2時、一行のタイムスケジュールのため後ろ髪をひかれる思いで次なる佐倉順天堂へ向かいました。車窓から起伏の多い佐倉の街を眺めているうち、佐倉高校の明治建築の校舎を過ぎる頃、城下町特有のT字路の多い市街地の狭い通りの一つ、蘭学通りに佐倉順天堂はありました。

藩主堀田正睦に招かれ江戸から来た蘭医、佐藤泰然(1804~1872)がここに日本最初の私立病院ともいべき佐倉順天堂と塾舎を開きました。パンフレットによりますと彼は西洋医学の本質を蘭書により教え、塾生を当時先端医療であった卵巣開腹手術などに立合わせるなどして、日本医学の近代化に尽くした多くの人材を育て、後の東大医学部の設立につながったと記されております。

一行はやがてそこを辞し、旧堀田邸である佐倉厚生園に到着。ここは最後の藩主、堀田正倫が明治22~23年に造営した二万坪の広大な別邸で、佐倉の街を見おろす地にたてられております。冠木門の奥に大広間、客室、書斎、茶室が配されています。現在は日産厚生園という病院が管理し、患者の散策の姿もみられ、時代の流れを感じさせるものがあります。

やがて帰路、歴史の街佐倉をしのばせる順天堂厚生園、そして佐倉の新しいシンボル、国立歴史民俗博物館をあとにしました。同好の士一行は我がふる里桐生と佐倉、人口もほぼ同じとか聞いておりますが、これからの桐生のあるべき姿を思いうかべながら車中の人となったかたもおられたのではないのでしょうか。



## ＝月次会報告＝

### 〔6月〕 エイズの基礎知識

講師 古川 三雄先生

6月の月次会は、いま世界中で最も大きな話題となっている「エイズ」について、その発病の原因から末期に至るまでの症状、並びに現在までに分っている治療法について、当倶楽部の社員であり、理事である古川三雄先生をお招きして、臨床的立場から最新のお話を伺いました。

「エイズ」については、先ず何よりも正しい知識をもつということが重要であることがよく分かりました。以下紙面の許すかぎり先生のお話のエッセンスを紹介いたします。



講師 古川三雄先生

エイズは1981年6月に初めてアメリカで発見され報告された最も新しい疾患である。

アメリカではその後、増加を続け、患者の50.4%は死亡という大変高い死亡率を示す。ヨーロッパでも患者は既に千名をこえている。

わが国ではエイズ患者は36名で、死亡は24名である。(1987年3月31日現在) 1月17日神戸でわが国はじめての女性エイズ患者(29歳)が確認され、同月20日に死亡した症例は地元は勿論、都市住民に大きな不安をよび社会問題となっている。

今回の患者のリスクファクターは異性間性交であり、この異性間性交による感染事例も初めてであり、新たな対応が必要となった。

エイズは先ずアメリカのニューヨークとロサンゼルスで発見され、その患者はすべて男性同性愛者(いわゆるホモ)であった。

現在でもアメリカのエイズ患者の73%は男性同性愛者であり、次いで17%は薬物静注常習者であるが、これらはしばしば男性同性愛者でもある。そのほか輸血または血液製剤の注射を受けた者が1%、血友病患者が1%、異性性交者が1%、危険因子不明の者が7%となっている。

男性同性愛者は大都会に住み、一夜に数十人の相手と性交するという。そして多数の相手と頻回に性交したもの、また女役、すなわち肛門を提供した方が主にかかるという。困ったことに男性同性愛者は、しばしば両性愛者(バイセクシュアル)といって女性とも性交するのである。その結果、男性同性愛者から女性、特に売春婦にうつり、そのような女性より出産した小児に発病する例がみられるようになった。

アメリカでは13歳以下の小児エイズが127例(1%)を占めるに至っている。以上でわかるようにエイズは性病の一種と考えられ、性的接触を通じてうつる。その際、肛門性交のような出血を伴う場合はうつりやすいことから、血液を介して感染する疾患と考えられる。これは輸血、血液製剤、麻薬の静注でもうつることから分かる。そのほか精液、唾液などを通してうつることも考えられる。わが国の状況はアメリカのそれと異っており、アメリカより輸入された血液製剤が血友病患者に用いられていることによる。

エイズという病名は後天性免疫不全症候群の略である。免疫機能のうちでも細胞性免疫が低下し特にリンパ球の機能が低下する。細胞性免疫は、感染症、悪性腫瘍の発生を防御する。そこで、その機能が低下すると感染症、悪性腫瘍が起きやすくなり、そのため死に至るのである。

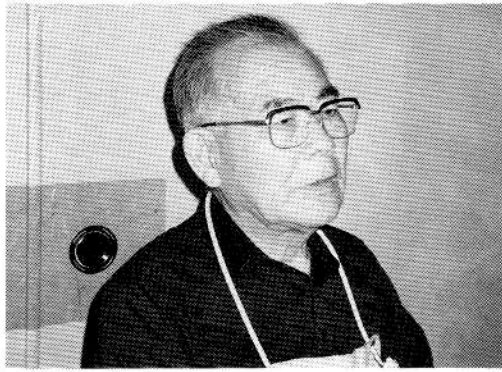
エイズはいったんかかったら治らない。しかも死亡率は著しく高い。(50%以上)しかし、今のところ画期的治療法は確立していないのである。なんといっても感染しないように予防するしかない。血友病の患者については、加熱した濃縮製剤を投与することになったこと、献血された血液については抗体検査を行うようになったことから、今後の感染の心配はなくなったと考えられる。

本年4月の世界保健機構(WHO)の発表では、世界の患者は131ヶ国45,000人、第1位のアメリカが31,036人に達している。但し推定感染者は、150万人にもなるだろうという。(読売新聞の記事)

# 社員のページ

## 美術部会の今昔

丸山 貞夫



絵をかくときの私

第2回桐生クラブ絵画展は、昭和41年10月22日23日の両日に開かれた。

この頃から文化活動委員会が、活発になり、委員長に前原勝樹先生、美術の委員長に齊藤喜平氏委員に古川三雄氏、須賀武次氏であった。

この外、俳句に森口順四郎氏、岩下才一郎氏、小玉澄男氏、娯楽に森島秀氏、岸田英作氏、栗原博恭氏、木村博一氏、大森貞夫氏等であった。

広報委員長はタイムスの前社長木村貞一氏、管理委員長に川村佐助氏、行事委員長に平野元吉氏。既に物故された人々も多い。

絵画展出品者の顔ぶれを見ると、日本画に齊藤長平氏、大川英三氏、山川忠雄氏、田代定四郎氏。

油絵は落合喜一郎氏、前原勝樹氏、菊地晤氏、古川三雄氏、須賀武次氏、小出善三郎氏、カトリックの宗教画に、森正雄氏があり、江原庄兵衛氏、齊藤喜平氏、服部修君の水彩画、私は油絵を三点出品した。

昭和42年2月25日第1回のスケッチ行が行われ、前原勝樹氏、落合喜一郎の両先輩を陣頭に、総数10人、谷川岳を日ざして出かけた。雪中の上牧で美しい雪山をスケッチ。私はウイスキーの小瓶をポケットにしよばせて、寒さをしのいだ。

昭和42年5月20日21日第3回の絵画展、第4回の絵画展は11月4日5日に開かれた。

出品者の顔は第2回と殆ど同じだった。ただ野田幸悦氏が加わっている。

それから20年の歳月が流れ、社員の顔も変り今日に至って居る。

桐生クラブ文化祭を提唱し、自ら先頭に立たれた前原先生は、今日尚矍鑠たるものがあり、先般の出版祝には、夫妻揃ってお元気な姿を見せた。

クラブ会報も昭和42年6号と7号が出ている。木村貞一氏、北川好雄氏等の随筆も見えている。この頃は4ページであるが、今は8ページと内容も豊かだ。

大川栄二氏(63歳)が64年の春を目ざして、美術館を開設したいという。大変すばらしい話である。

桐生市民が1人100円づつ毎月出すと、毎月、1300万円となり、1年の終りには、1億5千万円になる。市民運動として、是非協力して実現したい。

美術展も今や多くの方が絵を描くようになり、年々盛になりつつある。誠に頼もしい次第。しかし美術館があれば、先人の絵を觀賞し、勉強出来る。県立の美術館は遠くて、たやすく見にゆけない。桐生に美術館があれば、之を目ざして、多くの方が来るであろう。

来年は桐生倶楽部の創立70周年を迎える。記念事業として、何をなすべきか。老朽化した建物の保存もさることながら、新時代に即応した対策を考えるべきであろう。

### 前原先生 出版記念会

七言絶句 陽韻

今宵慶祝意揚々

今宵慶祝意揚々

賓客欣然會一堂

賓客欣然一堂に會す

群響弦々如裂帛

群響弦々裂帛の如し

著書推獎挹杯觴

著書推獎杯觴を把る

### 題桐生倶楽部

七言絶句 虞韻

先人偉業有清娛

先人偉業清娛有り

不朽桐生照一隅

不朽の桐生に一隅を照らす

紳士社交無比類

紳士の社交比類無し

将来持續賞心俱

将来持續して賞心を俱にせん

◎以上の七言絶句も丸山さんの作です。



## 歩く会 <4月例会>

### 花を求めて栃木太平山へ

4月例会は12日(日)に行いました。

その素晴らしい眺望から「陸の松島」とよばれさらに桜の名所としても有名な栃木の太平山へのハイキング。両毛線で太平下駅まで行きます。

先ず、太平山登山口の客人神社を参拝。見晴台太平山神社へ。花も団子も、おまけに名物玉子焼までたんのうしました。

帰途は、「雨月物語」の中の青頭巾の話で有名であり、七不思議で広く知られた大中寺へ詣でました。



太平山神社



大中寺

## <5月例会>

### 碓氷旧道を下る



熊野権現前の力餅は有名

5月例会は荒船山を予定していましたが、あいにくの雨、コースを変更して軽井沢から熊野権現までマイクロバスを廻し、そこから徒歩となって碓氷旧道を坂本宿まで下りました。



小雨ぐらいいは何のその

## <6月例会>

### しゃくなげ 石南花咲く後袈裟へ

6月7日、早朝6時に桐生倶楽部集合。各自白台かの自家用車に分乗して国道122号を足尾方面へ。小中から林道に入り本沢登山口まで行き、そこより徒歩。

後袈裟山頂(1910米)まで3時間余の登り、可成りきつい行程でしたが、目的の石南花(しゃくなげ)の美しさが疲れをいやしてくれました。



## 歩く会これからの予定

- [9月] 根本山の沢登り、森林浴日本百選に入った桐生川源流林です。
- [10月] 草津白根山から芳ヶ平へ下り、草津温泉まで紅葉を楽しみます。
- [11月] 中の條の奇山、観音霊場でも知られる嵩山(タケヤマ)へ登ります。
- [12月] 栃木市の詩情溢れる巴波(ウズマ)川畔を散策、両岸に続く白壁土蔵は見事です。







## ▷ 新入社員紹介 ◁



## |||| 倶楽部だより ||||

## ◎ 4 月

- 理事会 (8日)
- 歩く会 (12日) 「陸の松島、桜満開の大平山」
- 俳句会 (21日)
- 囲碁会 (26日) 文化祭協賛囲碁大会

文化祭 (30日～5月2日) 文化祭

歩く会世話人会 (30日)

## ◎ 5 月

- 麻雀会 (1日) 文化祭協賛麻雀大会
- 理事会 (8日)
- 歩く会 (17日) 「新緑の中、風光る西上州国定公園荒船山へ」
- 俳句会 (25日)

## ◎ 6 月

- 歩く会 (7日) 「石南花の咲く後袈裟へ」
- 理事会 (8日)
- 月次会 (16日) 「エイズの基礎知識」  
講師 古川三雄先生
- 歩く会世話人会 (23日)
- 俳句会 (25日)

## ◎ 7 月

- 月次会 (5日) 文化部協力「佐倉歴史民俗博物館へ」
- 理事会 (8日)
- 会報委員会 (15日)
- 俳句会 (27日)

## ▷ 編集後記 ◁

丸山貞夫社員も本号に書いておられたが、大川栄二氏の美術館の件は、桐生市民にとって大変素晴らしいニュースである。

大川栄二氏 (ご夫妻ともども桐生出身) は、40年もかけて集めた1,200点もの貴重な絵画のコレクションを寄附し、建物の建設から運営まですべて独力でやると云われた。

しかし市民の間から、「せめて運営費ぐらい桐生市と市民でお手伝いしよう」という声があがり、8月3日、市内の各種団体を集めて「財団法人大川美術館設立準備会」が発足した。

桐生倶楽部もその構成メンバーであり、平野理事長が常任理事となられた。

64年4月末にオープンを予定している。

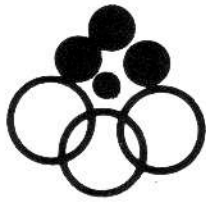
社団法人 桐生倶楽部会報 第 51 号

1987年 (昭和62年) 8月発行

発行人 平野元吉

編集責任者 小池久雄

印刷 ツボノ印刷株式会社



# 社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL45-2755

## 桐生のあゆみ

### 後桐生氏の興亡 (鎌倉・室町時代)

後桐生氏は桐生国綱にはじまる。

国綱は佐野氏(今の栃木県佐野市の一带を領した有力な豪族)の一族で、北朝観応元年(1350年)に、梅田町1丁目桧杓山城に山城を築いて実城とし、山麓に居館(いだて)を置き、通常はそこで生活した。

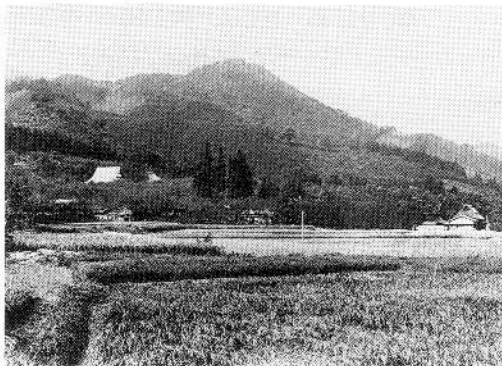
後桐生氏は、観応元年から天正元年(1573年)まで10代223年程つづいた。

桐生氏の主な記録を桐生市史よりぬき書きしてみる。

3代豊綱は佐野本家から養子に來た時、上菱より下菱まで300貫文の地を持参し桐生領とした。これ以後桐生領は130騎の家となった。

9代祐綱、祐綱は助綱とも書き桐生氏歴代の中で、最高の英主といわれる。戦国末期の混乱の中で領地を拡げ、人の心をよく掌握した。

越後から入国してきた公家の近衛亮山公を居館に迎えて、数ヶ月以上も世話をした。関白左大臣の身をもって、関東北辺の一豪族に過ぎない桐生



桐生城のあった桧杓山(ひしゃくやま)山麓に桐生氏の菩提寺西方寺が見える

氏に何故來たのか不思議であるが、これは越後の上杉(もとは長尾氏であったが、のちに関東管領となり上杉を名のった)の要請だという。

上杉景虎にそれだけ信任されていた祐綱は余程優れた人であったのであろう。

菱の細川内膳を滅亡させたのも祐綱である。

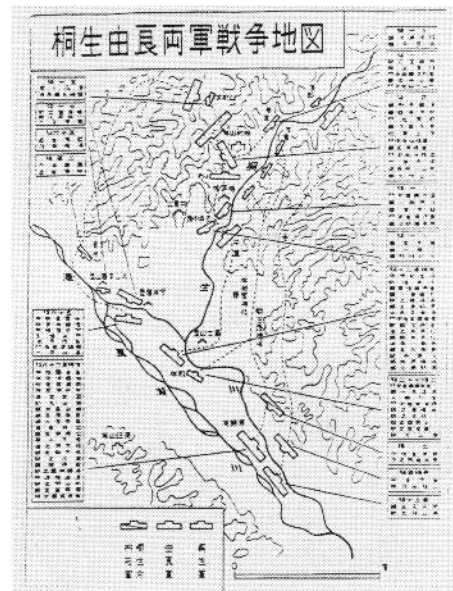
後桐生氏の最後の人は、祐綱の養子として佐野から入った親綱であった。

天正元年3月、太田金山城主由良成繁によって桐生城は落城し、桐生氏223年の歴史が終る。

桐生氏累代の墓は、菩提寺である西方寺に残っている。

なお、桧杓山は桐生城のあった所で、堀割りのあとが残り、頂上に桐生城跡の碑が建っているが後世の天守閣を持つような華麗な城があったわけではない。ただ戦さに備えた砦(とりで)のような山城があったわけである。

(写真は郷土資料展示ホール提供)



地図の上方は桧杓山城の攻防、真中辺が菱の宇都宮神社、下方は境野近辺の両軍の布陣



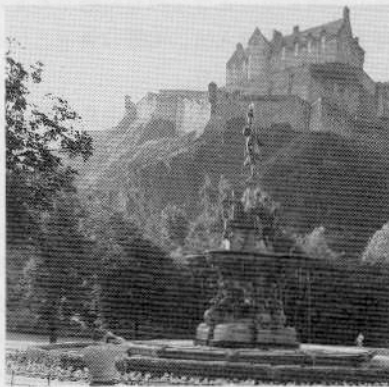
# ＝ 月 次 会 報 告 ＝

## 〔9月〕 英国の城

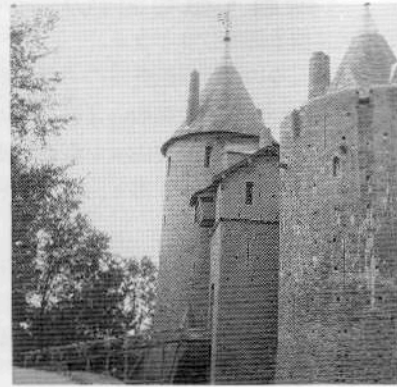
講師 塚越 平人

桐倶塚越副理事長は、お仕事の関係で頻りに海外へ出張されます。去る7月には、英国ガス水道事業親察のため渡英され、ウエルズ地方・スコットランド地方を歩かれました。その折、各地に残る美しい城をたずねられたというので、9月25日、塚越副理事長にご自分で写された美しい写真をもとにお話しをうかがいました。

(当番理事 金谷・飯山)



ウィンザー城 (スコットランド)



赤い城 カージフ・ウェールズ：イングランド



ウィンザー城で出会った  
アイスランドから来た家族



眠れる巨人の城  
カージフ・ウェールズ：イングランド



スコットランドとイングランドの州境  
バッグパイプに併せて孫娘と踊る



セントマイルズマウント教会 城のような教会である。  
ウェールズ西南端：イングランド



＝ 月 次 会 報 告 ＝

〔10月〕 固定資産税の  
評価等について

講師 峯岸 信次氏

(桐生市資産税課長)



峯 岸 課 長

10月の月次会は10月27日、桐生市資産税課長 峯岸信次氏をお招きして固定資産税についての説明、最近の資料、それに関する色々のお話などをお伺いしました。

固い話題でしたが現在大都市の地価の急騰の問題や身近に最も関係の深い題材であり出席された20数名メモをとりながらの月次会でした。

内容は、

1. 固定資産税の創立
2. 固定資産税とは
3. 固定資産税の評価及び価格等の決定
4. 土地に対する課税
5. 家屋に対する課税
6. 都市計画法

上記各項目について峯岸氏の専門的角度から又永年の御経験から縷々丁寧に説明がございましたが数字の問題が多くなりますので紙上割愛させていただきます。

さて、本題が終り氏が調べになった桐生市の今昔の評価額の比較(昭和25年度と昭和62年度の倍率等)とか桐生倶楽部の諸税の問題とか、種々興味あるお話を承り終会になりました。

その内、桐生市の今昔の評価額の比較 昭和63年度群馬県各市の評価額(前回比) 昭和63年全国県庁所在地の評価額等下記表にて御紹介いたします。

桐生市の今昔

土地坪当り評価額比較 (S25年～S62年)

	S25年	S62年	倍率
本町2(書 上)	2,970	123,400	42
本町5(トリセン)	4,860	647,900	133
広沢5(公 民 館)	108	56,200	520

群馬県主要市の基準地価額(宅地)(@㎡)

市	基 準 地	S63年評価額	60年比上昇率
前 橋	千代田町2	510,000	2.0%
高 崎	連雀町7	553,000	3.2%
桐 生	本町5	200,000	2.0%
伊勢崎	本町11	149,000	2.8%
太 田	飯田町	168,000	2.4%

全国県庁所在市S63年度土地評価額(千円)

市	基準地所在地	63年度	上昇率
札 幌	中央区南一条西3	1,750	33.6%
仙 台	中央1	1,390	28.7%
水 戸	宮町1	650	6.6%
宇都宮	馬場通2	905	7.1%
前 橋	千代田町2	510	2.0%
特別区	銀座5	5,670	50.0%
横 浜	西区南幸1	2,556	34.3%
金 沢	片町2	915	17.3%
名古屋	中区栄3	1,910	33.6%
京 都	下京区御旅町	1,915	32.1%
大 阪	北区角田町	3,250	37.1%
松 山	湊町4	895	5.9%
大 分	中央町1	765	15.9%

(当番理事 清水・関口)

\*\*\*\*\*

郷土の文人画展

桐生市立郷土資料展示ホールでは、秋の特別企画として、「郷土の文人画展」を開催している。

その中に、桐生倶楽部設立当時の功勞者、福田宗空氏の作品が5点出品されている。

福田宗空氏の人物については編集後記に書かれているが、産業、文化あらゆる面で卓越した人物であり、この作品をみるだけでも、その一面が窺えるようである。(文人画展は12月6日まで)



# 社員のページ

## 「絵の会」の話あれこれ

丸 山 貞 夫

昭和38年伊田義郎さん、平岩勝三郎さんら有志が話合って、絵を描くことを楽しむ会を、作るのではないかと、中村善一先生を中心に会を作った。会計には故人となった三俣さんを頼み、会費 500 円でスタートした。

伊田さんの庭で作品を持ちよって、中村先生の批評を仰いだ。17~18人が集った。

中村先生は南小学校や浄蓮寺で子供達に絵を教えていた。

昭和39年第 1 回の写生会を榛名湖で開いた。展示会は織物会館で開き、みんなで看板を書いたりポスターを作ったりするのは、凡て夜の仕事であった。若い人達を中心に、故人になられた遠坂さん、平野さん、今尚元気の秋元英郎さんなどが活躍した。

昭和41年 6 月には、東京から女性モデルを招いて、デッサン会を開いた。裸体のデッサンに、心を躍らせて、15人の人達は真剣に取組んだ。

ゴッホもセザンヌも、独学であれだけの絵をかいたのだ。武者小路実篤や中川一政も、独学で自分の絵を描いたのだ。うまい絵ではない。ゴツゴツした絵だが、味のある絵だ。

昭和49年には10周年展示会を、昭和59年には20周年を迎えた。このときは、独自の絵に新しい額縁をはめて、市の社会教育課へ寄贈した。

市からは奨励金を戴いた御礼である。会員の大半

は織物業に関係ある人であった。

年毎に平均年齢が上り、今では米寿の牧島喜一郎さん始め、喜寿、古稀を越した方々もある。

最近では第37回の展示会を長崎屋で、今年 5 月に開いた。長崎屋では 5 回目である。

桐生倶楽部の社員でこの会の人は、金谷善介、伊田文男、海老沼利八、古川三雄医師、坂本嘉雄医師、田島英二、丸山貞夫の各氏。

写生会は今年 4 月には、信州方面に一泊で出かけた。9 月には横浜市に大挙した。総勢26人、御婦人も 8 人、熱心な人は 3 日間~5 日間も、滞在した。

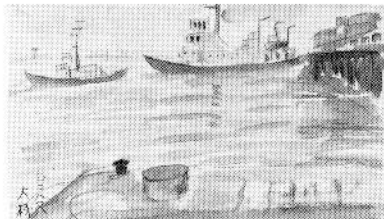
去る 9 月23日~25日の 3 日間、文化センターで作品展を開いた。第38回目の展示会である。

春秋 2 回のスケッチ旅行と展示会が共に楽しい。会長はいない。数名の世話人がいて、会の運営をやって下さる。会員の中には、二科展その他中央展にも出品される方も居る。足利、伊勢崎、前橋太田等の他市の人も居る。総勢54人。

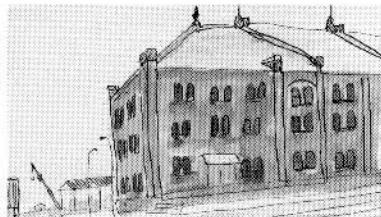
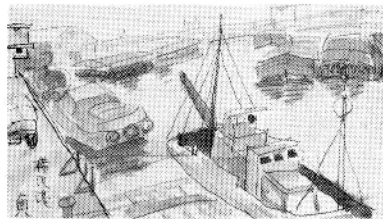
裸婦のデッサン会もある。古川先生も裸婦の習作をよく物する。俳人でもある。

忙しい時程絵を描くとよい。絵をかくとストレスが雲散霧消する。既成概念を払拭して、新しい創造意欲を狩りたてる上に、大いに役に立つ。桐生の実業家は絵をかくことによって、新しい分野を開拓できる。桐生倶楽部の会員は、おべからく絵をかくべきであろう。新しいアイデアを生む為にも。

中曽根康弘氏も首相の多忙の中で、絵を描いて居られた。チャーチル氏の絵は有名である。私も独学で絵をかいて40年。昔の仲間は二科や創元会二紀等の会員として活躍中である。私だけが相変わらず底辺をうろついている。



横浜港の  
スケッチ



# 飛べなかった予科練の 特攻兵器“人間魚雷” の思い出の記

川村和久

第14期海軍甲種飛行予科練習生、海軍二等飛行兵曹、横志飛、帝国海軍が私に下さった呼称であり、階級である、どれにも「飛」の字がありながら、私はとうとう終戦の日まで、一度も飛行機に乗ったことのない、いわゆる「飛べなかった予科練」だった、飛行機の塔乗員となり、大空で戦うこと日本男子の生きがいと考え、予科練を志願し合格通知に希望に胸を膨らませたのだが、とうとう帝国海軍は私に飛行機に乗せてくれなかった、だからこれは飛行機への憧れと怨念の思い出の記である。土浦から防府通信学校へ派遣され電信術練習生を終える頃、特攻隊募集があり海中に潜ると聞いて志願しなかったが、お前達の乗る飛行機はもう無い、新兵器が出来たからと第2回目に応募させられた。

それより前、横須賀海軍工廠造兵部設計に配属され、甲標的「特殊潜航艇」丸秘図面の「まる改」トレース作業が休みなしに毎日15時間位続けられ従来のS金物「可潜航魚雷艇」がSS金物「水中有翼潜水艇・乗員2名」に変更された、式魚雷2本抱いて、尚且つ艇首に爆薬を装着し目標艦船に魚雷発射し命中させた時は婦投、不首尾の時は敵艦と刺し違える体当たり方式のものであった。戦後「海龍」と命名された事を知った。造兵部機械工場企画室に転属、SS金物の艇速機械部品、潜望鏡揚げ部品、その他、諸種の部品の試作実験を繰り返し、魚雷実験部へよく走った、そして19年初秋量産態勢にはいったが、物資不足から適材入手が難しく、鍛造工場へ走り、有る材料を転用すべく、治具設計から旋盤加工、フライス仕上げ迄、慣れぬ手つきでの徹夜の作業が続いた。

そうした中でも、宮城県白石高女の挺身報国隊との机を並べての製図は、ほのぼのとした一時期であった。菊水の幟旗、嵐部隊、横須賀突撃隊の猛訓練を二階の企画室から見ながら、飛行機に乗る悲願を絶って、特攻兵器要員として先輩13期生

の面々を断ち難い思いで帽振る「散る桜、残る桜も、散る桜」歌詞そのものの想いは誰しも同じだったに違いない。南無八幡大菩薩「身命ささげるの意」の幟旗が今もはっきりと脳裏に焼き付いている。20年春、光海軍工廠の警備派遣があり⑥金物「回天、乗員1名頭部炸薬1.6t」人間魚雷そのものが量産されており、SS金物よりも更に非人間的な特攻兵器であった。徳山大津島へ派遣され回天乗員訓練基地での整備点検雑用作業中に終戦となった、海軍の諸学校で学び激しい訓練の明け暮れ、すべて米艦に体当たりするための日々だった。今にして20歳前の若者とはいえ、よくやったなどと思う。訓練とはいえ死と隣り合わせである、突入して戦死するも時間の問題だった、生きていることが不思議なくらいである青春の血をたぎらせ、生への別離行為を自らとったことに対する悔いは全くない、ただ、社会的背景のもたらす、その時代の「空気」の恐さを今更の様に思うだけである。

## 倶楽部句会入会のおすすめ

森 寿 作

倶楽部の句会に入って、まもなく4年になります。山田 豊さんに「先輩の話が素晴らしい。俳句なんてなんとかなるから、兎に角入りなさいよ。」と半ば強制的に誘われたのが切掛けで入会。以来、月いちハイカーとして倶楽部の2号室へ通うことになったわけですが、初めのうちは、俳句のことは右も左も判らず、冷汗の連続でとても楽しいなどと云える句会ではありませんでした。そんなわけでいつ脱落しても可笑しくなかったのですが、幸いにも、偶々もうひとりの新人のX先生が居りましたので、同期の仲間として互いに励まし合い(?)ながら、なんとかその脱落の危機を乗り越えることが出来ました。もちろん、メンバーを減らすまいとの諸先輩からの暖かい思いやりのある励ましに勇気づけられもしました。そして、回を重ねていくうちに、いつの間にやら句会が楽しみとなり、又、句会のメンバーとしての自覚を持つようになって行きました。

17音を並べて遊ぶ楽しさ、事物の微妙な観察や語彙数の増加の楽しさ、諸先輩のお話しの面白さ、自から選句する(民主的?)句会運営の素晴らし

(次ページへ続く)



さ等々、この4年余、句会に入って多くのことを発見し学ぶことが出来ました。特に諸先輩と親しく交流が出来たことは本当に良かったと思います。倶楽部の句会へ入会を誘ってくれた山田さん、脱落の危機を救ってくれたX先生、そして諸先輩の方々へ心より感謝申し上げます。

俳句ブームと云われる昨今、多くの方々の入会をお勧めします。「先輩の話が素晴らしい。俳句なんてなんとかなるから、兎に角入りなさいよ。」

## 歩 く 会

### 〈7 月 例 会〉

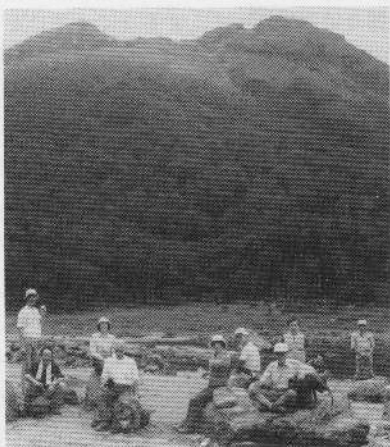
#### 関東以北の最高峰、日光白根山へ

7月26日、午前6時、倶楽部集合、自家用車に分乗してスタート。

菅沼、白根登山口より白根の頂上をめざしました。弥陀ヶ池を経て白根山頂にて昼食。

青空を背景に北方に会津駒ヶ岳、ヒウチ、シブツ、上州穂高山、又、赤城山、庚申山も美しく本日、の圧巻でした。

五色沼を経て下山、沼田経由にて帰桐しました。



日光白根  
みんなで楽しく

### 〈9 月 例 会〉

#### 森林浴の桐生川源流と根本山

桐生に住んでいれば一度は登ってみたい根本山特に最近では森林浴の適地として桐生川源流地域は脚光を浴びています。

9月13日、午前7時、倶楽部集合。各自分乗して梅田を北に登山口まで。

数日來の雨で沢の水が思ったより増えており沢登りを断念、十二山經由に予定を変更しました。

イヌブナ、ケヤキなどの混った杉、松の山道をエッチラオッチラ。自然がよく残されている山頂附近へ。十二神社より根本山頂を経て下山につきました。途中、草木花を賞で又、直径50センチ、ひとかえもあるマイタケの収穫もありました。

薄日のもれる好天にも恵まれ、行程、約5時間万歩計によれば山道1万4千歩を歩いたことでした。



天然のマイタケです！

### 〈10 月 例 会〉

#### 紅葉の草津白根芳が平へ

10月18日、午前6時、桐生倶楽部を大型バスでスタート。岩井洞ドライブイン休憩、草津を経て波峠へ到着。

雲一つない青空に胸とどろかせて全員一致、横手山のリフトに乗ることになりました。

横手山山頂、(海拔2,300有余メートル)から望んだ雪を戴いたアルプス連峰の山波はその規模の雄大さ、美しさ、本当に心を打つ、たとえようのない圧巻でした。徒歩で下山、芳が平で昼食。三つ池とよばれる池塘と湿原の小径を白根山麓へ歩む。草木の紅葉、特に真青の空を背景にしたナカマドの赤。本当に印象的でした。

白根レストハウスよりバスで草津大滝の湯へ。

温泉で汗を流し一杯のビールのうまさを満喫して帰路につきました。



横手山頂(海拔2,300m)よりアルプスを望む

# 桐生倶楽部句会

〔七 月〕

潮の香を乗せて中元届きけり  
雲の峰少年の日の夢遠く

山田 久保田

夏座敷今朝の野の花一、二輪

本田

添寝して母も一時夏座敷

清水

囃子の音聞きつつ憩ふ夏座敷

有阪

大の字になりて一人の夏座敷

森

国境の山を踏まえぬ雲の峰

小池

大漁旗ひらめく上に雲の峰

光春

〔九 月〕

荒れ予報聞きしに何時か松の月

前原

語る間の絶えし間を鳴くちらる虫

小池

虫の声侘びし病棟灯の消えて

山田

木の間洩る月光径(みち)の果までも

吉成

書に倦みて鈴虫を聴く篋寄せて

本田

恵家まで児の案内や月の道

久保田

月光の波に碎ける岬に釣る

光春

〔八 月〕

蛸(ひぐらし)や帰僧を迎へ門に鳴く

清水

朝顔や虚空さぐりて咲きにけり

久保田

宴会をぬけ来し峡の星月夜

高木

蛸や帰京の孫の忘れもの

小池

麩鉦の森に蛸聴く老ら

光春

〔十 月〕

筑波嶺や献上柿の里もあり

小池

兵馬備(いばよう)日本の秋に佇めり久保田

久保田

故郷に久しき蓼参曼珠沙華

清水

子守唄とぎれて清し寝待月

吉成

吹かれてもなお柿一つ青空に

森

掃き寄せる落葉の中に石榴あり

斎藤

大庫裡に住持振る舞ふ栗の飯

光春

## 第4回 桐生の歴史と文化を考えるウォークラリー



スタートの風景(菱小学校)

第4回の「桐生の歴史と文化を考えるウォークラリー」が、11月3日の文化の日に菱地区で行わ

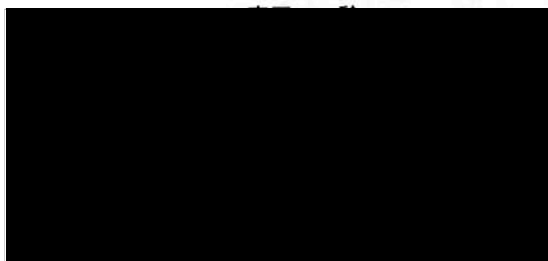
れた。

このウォークラリーは、山紫水明のまち、桐生を再発見するため、先人の残してくれた文化財と歴史をたずねて歩く催し、回を重ねる毎に参加者が増え、今回は、2,300人という大変な人数。親子で友人で、グループを作って楽しく語らいながら半日を歩いた。

はじめの企画は青年会議所が提唱したものだが桐生倶楽部(歩く会)をはじめ、市内40団体が賛同し、共催の形をとっている。実行委員会の会合の場所も桐生倶楽部であり、倶楽部にも関係の深い行事となっている。



## ▷ 新 入 社 員 紹 介 ◁



## ▷ 編 集 後 記 ◁

◎ 蓮君急逝。一切、世界に生まるるものは皆死に帰す。と思ひながらも、「ただかなしきは、君さりとて、われらが身辺、とみに肅条たるをいかにせん」

◎ 福田宗空氏について。

桐生倶楽部創立当時の功労者である。

福田宗空氏は本名常吉と云い、文久元年(1861年)3月、桐生新宿に生れた。父は庄蔵、その第3子であったが、15歳の時、別に一家を創った。

幼少から秀才の誉れ高く、8歳で岩瀬如淵の門に学び、17歳で長野三郎、小山健三、山岡次郎について染色化学を学び、20歳で叔父黒川真頼について、織物、美術、漆器等の鑑定を学んだ。

21歳の時、境野村、新井弥和三郎の妹を妻に迎え、織物業を経営、分福堂と称した。その後、機業で成功を収め、桐生物産同業組合長となった。

また、足尾鉄道の敷設、渡良瀬水力電気の経営等に尽力された。芸術、文化面でも、俳諧、近古文学、音曲等をたしなみ、「桐生の四季」と題する新曲を作り好評を得た。

花道・香道・絵画・建築などの造詣深く、その茶室「狸洞庵」は数寄を極めたものだったという。茶道は千玄宗に学び奥義を極め、東京に於ても名の知られた茶人であった。

桐生倶楽部に対しては設立当初の調査にはじまり、第1回の社員総会で理事となり、翌年には専任(事務ではない)理事となった。

桐生倶楽部構内の附属食堂であった桐葉軒についても、その食器、什器にいたるまで福田氏がととのえたものであったという。

## ◁ 退 会 ▷

### 蓮 幸 男 氏

社員、蓮幸男(はす・よしお)氏が、11月18日出張先の東京で急逝されました。53歳。

氏は、元青年会議所理事長、市教育委員会の委員長職務代理者でもあり、これからのご活躍を期待されていただけにまことに残念なことです。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

## |||| 倶 楽 部 だ よ り ||||

### ◎ 8 月

- 理事会 (11日)
- 歩く会世話人会 (21日)
- 俳句会 (25日)

### ◎ 9 月

- 懇話会委員会 (1日)
- 営繕委員会 (2日)
- 理事会 (8日)
- 歩く会 (13日)「桐生川源流を訪ねて森林浴を根本山沢登り」
- 月次会 (25日)「イギリス紀行」講師 塚越平人氏
- 俳句会 (29日)
- 歩く会世話人会 (30日)

### ◎ 10 月

- 理事会 (15日)
- 歩く会 (18日)「紅葉の草津白根から芳が平へ」
- 会報委員会 (26日)
- 俳句会 (26日)
- 月次会 (27日)「固定資産税の評価等について」
- 講師 桐生市資産税課長 峯岸 信次氏
- 歩く会世話人会 (28日)

### ◎ 11 月

- 行事委員会 (6日)
- 歩く会 (8日)「高山一三十三観音の霊場と城跡」
- 理事会 (17日)
- ゴルフコンペ (18日) 於足利カントリークラブ
- 懇話会 (19日) 自然保護と開発の調和を求めて「堤町～宮本町間の道路建設」等について
- 講師 桐生市 高橋土木課長
- 歩く会世話人会 (20日)
- 俳句会 (26日)
- 月次会 (27日)「B型肝炎とその周辺」
- 講師 古川三雄先生
- 囲碁会 (29日) 秋季囲碁大会

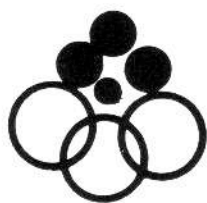
社団法人 桐生倶楽部会報 第 52 号

1987年(昭和62年)12月発行

発行人 平野元吉

編集責任者 小池久雄

印刷 ツボノ印刷株式会社



# 社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町 2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL45-2755

## 桐生のあゆみ

### 彦部家について (室町時代)

前号に、関白左大臣近衛竜山公が桐生城に滞在したことを書いたが、その折竜山公に同行した人物に彦部信勝なる者がいた。

彦部氏は、尊氏の頃から歴代の足利将軍に任えた重臣であった。信勝は足利将軍義晴の側近、彦部雅楽頭晴直の次男であり、自由な身であったので近衛竜山公が去った後も桐生に残り、広沢に居館をかまえ、金山城主由良成繁に仕えた。

その四年後、永禄八年(1565年)に、京都に於て、将軍義輝が三好・松永の徒によって殺害され、彦部信勝の兄輝信は義輝に殉じた。よって信勝は輝信の遺児信直を養って嗣としたという。

彦部家の屋敷は、国道50号、広沢五丁目地点から南西へ入った所、土壘(どるい)をめぐるせ、すぐ西にそびえる手臼山の砦と一体となった単郭平城(たんかくひらじろ)で、東西130m、南北120mもある。写真は長屋門であるが、この長屋門及び母屋は江戸初期の建物であり、全体と



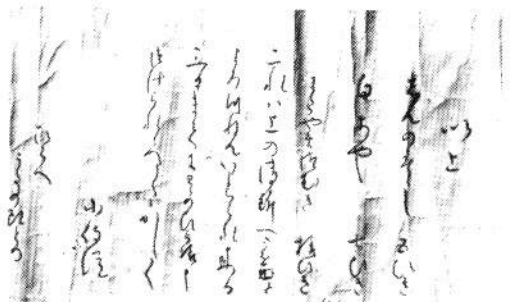
彦部家屋敷  
(県指定史跡)

して、戦国期豪族の屋敷構えがどんなものかがよく分る貴重なもので、県指定の史跡となっている。

また彦部家には、市指定重要文化財の仁田山紬(つむぎ)注文書が残っている。これは、足利将軍義輝の侍女小侍従から、彦部雅楽頭晴直に於てた桐生織物の注文書である。

この古文書に日付は記されていないが、小侍従も義輝もともに永禄八年に殺されているので、室町中期の頃のものであることは間違いない。これにより、室町期にはすでに桐生地方で綾・紬など的高级織物を生産し、それが商品として京都に出廻っていたとも推定できる。

○仁田山(にたやま)は桐生市川内町。



ひ	つ	三	よ	に	白	志	以
こ	け	日	れ	た	あ	ん	上
う	へ	ら	ま	ハ	や	の	
た	れ	で	ね	上	ま	す	
の	候	に	ん	の	つ	し	
頭	へ	と	い	御	む		
と	く	と	れ	所	ぎ		
小	候	の	ら	へ			
侍	か	ひ	れ	進			
従	し	候	来	物	拾	七	五
	く	様	る	に	ひ	ひ	ひ
				申	候	き	き

仁田山紬注文書  
(市指定重要文化財)



# 定 時 社 員 総 会

昭和62年度、社団法人桐生倶楽部定時総会は1月29日(金)午後6時40分から桐生倶楽部2階大広間に於て開会され、下記の議案を審議、全議案とも原案通り可決承認された。

出席者 34名、委任状 173名。

## 議 案

### 1. 昭和62年度事業概況報告

- (1)社員総数 316名(内訳 名誉社員 2名、個人社員 283名、法人社員 31名)
- (2)年度中の入社15名、退社7名
- (3)行事・集会 総会・月次会・理事会その他 合計72回
- (4)会報 年3回発行

### 昭和62年度収支計算書

科 目	予 算 額	決 算 額
<b>I 収入の部</b>	円	円
会 費	11,568,000	11,454,000
月次会々費	100,000	215,000
会館使用料	2,000,000	2,232,700
設備使用料	250,000	302,250
電話使用料	30,000	30,030
収入利息	40,000	39,994
雑収入	100,000	448,760
人 会 金	300,000	450,000
当期収入合計	14,388,000	15,172,734
当期繰越収支差額	2,579,358	2,579,358
当期収入合計	16,967,358	17,752,092
<b>II 支出の部</b>		
給料及手当	4,750,000	4,779,100
特退共済金	72,000	72,000
租 税 公 課	1,200,000	1,287,620
火災保険料	262,000	261,150
通 信 費	650,000	716,981
修繕費	200,000	1,218,047
光熱費	1,300,000	797,560
事業費	2,200,000	2,785,660
会議費	200,000	152,928
消耗品費	100,000	84,183
雑品費	400,000	710,185
備 品 費	300,000	245,700
冷暖房装置未払金	2,500,000	2,000,000
当期支出合計	14,134,000	15,111,114
当期収支差額	254,000	61,620
次期繰越収支差額	2,833,358	2,640,978

## 貸 借 対 照 表

資 産 の 部		負債及び正味財産の部	
資 産 の 部	円	負 債 の 部	円
現 金	184,743	未 払 金	1,500,000
預 金	2,456,235	(正味財産の部)	52,576,794
有 価 証 券	50,000	基 本 金	50,069,474
設 備	5,000,000	当期正味財産増加額	2,307,320
什 器 備 品	3,646,910		
建 物	7,066,343		
駐 車 場 造 成 費	3,290,000		
土 地(従来土地)	14,920		
*(借地借家権)	32,167,643		
資 産 合 計	53,876,794	負債及び正味財産合計	53,876,794

## 昭 和 63 年 収 支 予 算

収 入 の 部		
科 目	金 額	摘 要
1. 会 費	1,488,000	法人 4,000円×31社×12ヶ月
	10,350,000	個人 / 3,000円×280名×12ヶ月 \ 3,000円× 15名×6ヶ月
小 計	11,838,000	
2. 月次会々費	200,000	実績基準
3. 会館使用料	2,200,000	〃
4. 設備使用料	3,000,000	〃
5. 電話使用料	30,000	〃
6. 収入利息	30,000	〃
7. 人 会 費	450,000	30,000円×15名見込
8. 雑収入	100,000	実績基準
前期繰越収支差額	2,640,978	
合 計	17,788,978	
支 出 の 部		
科 目	金 額	摘 要
1. 給料及手当	4,900,000	
2. 特退共済金	72,000	実績基準
3. 租 税 公 課	1,300,000	〃
4. 火災保険料	262,000	〃
5. 通 信 費	750,000	〃
6. 修繕費	3,200,000	〃
7. 光熱費	850,000	〃
8. 事業費	2,500,000	〃
9. 会議費	200,000	〃
10. 消耗品費	100,000	〃
11. 雑品費	720,000	〃
12. 備 品 費	300,000	〃
13. 冷暖房装置未払金	1,500,000	
14. 子 備 費	430,000	
次期繰越収支差額	704,978	
合 計	17,788,978	

## 新 年 互 礼 会

新年互礼会は、今年も1月4日12時半から、名の社員の参加を得て賑やかに行われた。平野理事長の年頭の挨拶にはじまり、社員を代表して大沢市長、笹川衆議院議員、日野商工会議所会頭の祝辞があった。



## ＝ 月次会報告 ＝

### 〔11月〕 B型肝炎と その周辺

講師 古川 三雄先生

11月の月次会は11月27日、当倶楽部理事の古川三雄先生に御足労をおかけして、新聞紙上でも最近特に話題を提供している劇症肝炎を含む肝炎、特にB型肝炎の周辺についてのお話を伺いました。

先生は27ページに渡る桐生L.C.、保健衛生委員会による資料を用意されて最近の臨床的見地からのお話をされ我々も、肝炎ウイルスの恐しさを実感致しました。

先生のお話の内容をそのエキスだけでも紹介させて戴きます。

昨年7月下旬、三重大学病院で小児科の医師と看護婦がB型肝炎に感染し二人が死亡するという痛ましい事故が表面化したのをきっかけに各地の病院でもB型肝炎から劇症肝炎による死亡事例が発表されて医療従事者や一般の間に不安が広がった。これら医療関係者の場合、病院での手術や看

護で不注意に患者の血液などに触れて肝炎ウイルスに感染しその後、運悪く劇症化するケースが多いとのこと。死亡率8割といわれるこの恐しい劇症肝炎はやはりウイルスによる急性肝炎の約1～2%が劇症化する。特にB型肝炎が劇症化する率が高いといわれている。

このB型肝炎は決して目新しい感染症ではなく古くから輸血によって感染する血清肝炎として注目され、現在では原因のウイルスも良くわかっている。輸血以外では母親から新生児への垂直感染や男女間の性行為を通じての水平感染がありハネムーン肝炎という言葉のあるくらいである。

1ccの1億分の1の量でも体内に入れば感染するというから感染力は強いものらしい。

ただ大人がB型肝炎ウイルスに感染した場合、約10%位の慢性への移行を除いては数ヶ月で治ってしまうケースが多い。ワクチンもまだ高価なもので一般化はされていないようだ。

症状は身体がだるい、熱があるなどから始まり劇症化する場合は急に黄だんが強くなりおう吐をくり返す。

その他A型等各種の肝炎又治療法等についてはこのつたない紹介は割愛させていただく。

古来「肝腎なこと」という頭にある肝臓のこと故十分気をつけて健康に留意いたしましょう。

## 桐生倶楽部クリスマス祭

旧臘12日(土)は、桐生倶楽部クリスマス祭、小さいお客様をふくめて80名の出席があり、大変賑やかであった。平野平四郎社員の素人ばなれした手品や、サンククロースの登場、沢山の賞品を用意した福引などで参加者は大喜びであった。



平野さんの手品



サンタからよい子へプレゼント



福引の大当り



— 懇 話 会 — <11月例会>

自然保護と開発の調和を求めて

「堤町～宮本町間の道路建設」等について

講師 桐生市役所 高橋土木課長

11月19日、標記の件について桐生市役所、高橋土木課長をお招きしていろいろお話をお伺いしました。

桐生市堤町1丁目より吾妻山の麓を経て宮本町4丁目へ抜ける観光道路は昭和55年より用地買収がはじめられ、当初10年計画で工事が進められている。全長、約1キロメートルのこの道路は既に宮本町側についてはかなりの進捗を示しており用地買収についても90%近くが済んでいるといわれています。

下掲載の予定道路図面を参照してみるとおわかりと思うが、桐生を故郷として愛する市民にとって、又吾妻山を見て育った山を愛する人々にとって重大な意味をもつこの観光道路工事の明細は何故か、一般の人達はあまり知られていない。

勿論、市側も環境問題に配慮し吾妻山登山道路部分はトンネル工法を採用し自然保護につとめたいとの意向は示している。

開発と環境破壊は或る程度表裏をなすものだろうが、開発のメリット、計画の適性、それに伴う膨大な経費の問題等について論議百出しました。

皆さん、下の略図をよく御覧になって如何お考えでしょうか。今後もよく見守ってゆかねばならない問題だと思われます。

文化活動委員会

事業計画と予算配分が決まる

2月27日、金谷委員長、藤江副委員長、各部会の責任者10名が集り、文化活動委員会の各部会の事業計画、予算について下記のように決定された。

美術(創作・鑑賞) ￥30,000

写真 ￥10,000

懇話会 ￥40,000

(文化祭協賛として、5月に「桐生の自然を考える」というテーマで開催)

俳句(年間12回) ￥10,000

麻雀 ￥20,000

囲碁 ￥50,000

(文化祭参加の大会と春秋2回の大会)

ゴルフ ￥40,000

(4月に文化祭参加のコンペをやる)

将棋 ￥30,000

歩く会 ￥100,000

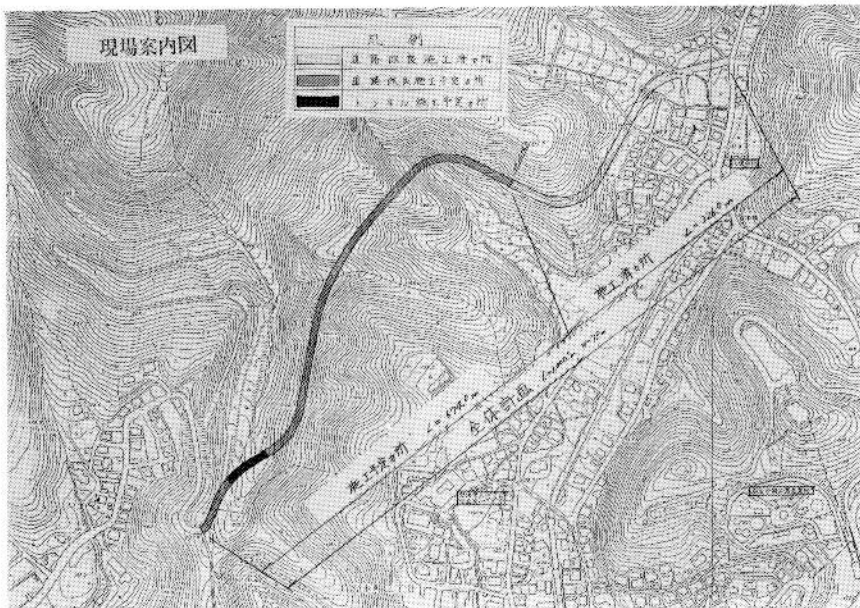
(毎月の例会、特に7月は桐俱月次会を兼ねて「志賀高原四十八池とグルメの旅」、12月は懇話会と合同で「遠山美術館と蔵の町川越」)

ビデオ ￥20,000

(桐生倶楽部の歴史をビデオで残す)

予備費 ￥50,000

以上のように年間40万円の予算で、各種事業を活発に行うこととなった。





## 社員のページ

### アトランティス探訪の旅 (一夜にして海中に没した理想国家)

小島 弘一

陽光さんざめくヒレウスの港より、ギリシャ船籍のコンステレーション号 15000トンの船に簡単な税関審査を済ませて乗船した私は期待と興奮で一杯でした。いよいよアトランティス探訪の旅への出発です。

プラトンが対話集『クリティアス』の中でソロンがエジプト第26王朝の首都として栄えたナイル河デルタのサイスの町の神官から聞いた話として語っているアトランティスは、その記述の曖昧さもあって我々のロマンをかきたてています。

一夜にして海中に没してしまったと言われるこの理想国家はヘラクレスの柱の外にあると云われた為、大西洋がその跡であると長い間考えられていました。

ギリシャの考古学者マリナトス教授はエーゲ海の中央に近いキラダス諸島のテラがアトランティスではないかとの仮説を立て、'67年以降その発掘が続いています。この島の住人が海の守護神サンタ・イレーネを敬愛している為サントリーニ島と呼ばれているこの島は、300メートルの切り立った崖の頂上に純白の人家が密集しており、海底は300メートルもある為大型の船は接岸出来ず、テンドー・ボートに乗り換え更にロバの背に揺られて上陸しなくてはなりません。この島の南端のアクロテリでは目下盛んに発掘が進められていました。

この島の南方120キロのクレタ島はイギリスのエヴァンス卿によりクノッソス宮殿が発掘されましたが、紀元前15世紀頃突然その文明が消え去ってしまい、その原因が火山の爆発による地震と津波だと推定されました。丁度その頃、ストロンギュレ（円形島）と呼ばれていたこの島が大爆発の末、一夜にしてその姿を海底に没してしまい、現在の如き周縁部のみを残す三ヶ月状となっていました。

神々の王ゼウスの誕生の島として知られているクレタ島のミノス王の妻パシパエと牡牛との間に生れたミノタウロスを幽閉する為ダイダロスに命

じて作られた迷宮ラピリンスがクノッソス宮殿だと考えて、ミノス王の名を取ってミノア文明と名付けられた文明と、アクロテリの出土品との相似性とがアトランティス＝テラとの図式を更に押し進めたと考えます。事実クレタ島の『パルジエンス』と呼ばれている壁画とサントリーニ島の壁画『ボクシングをする少年』は全く同一文化の所産と考えられる程良く似ています。

更に私の興味をひいたのは、旧約聖書の詩編78のアサフのマスキールの歌です。その最後に『エジプトは彼らが去るのを喜んだ。彼らに対する恐れが彼らに臨んだからだ。主は雲を広げて覆いとし、夜は火をもって照らされた。』とあります。サントリーニの大爆発と時を同じくしてモーゼによるイスラエル人のエジプト脱出がなされたと考えられるからです。有名な紅海が二つに裂け、無事に脱出できた事も火山爆発に因る津波現象とも考えられる訳です。モーゼ達を昼となく夜となく導いてくれた大いなる炎も又、火山の噴煙であったのではないだろうか。

二重、三重に私の想像力をかきたててくれるこの島の頂に佇み、眼下はるかに臨めば、心なしか古代アトランティス人の姿がエーゲアンブルーの海面に浮び上がって来よう。目を遙か沖合に転ずれば壮大な火球が音を立てんばかりにその姿を鏡の様な地中海に沈めようとしています。後ろを振り返れば純白の家々はピンクに、更にオレンジにとその姿を変え、何かを訴える如く追って来、私は唯、至福の一時を持ち得た幸せを味わっていました。



サントリーニ島



## 歩く会 <12月例会> (懇話会と合同企画)

### 堀に影映す蔵の街、栃木散策

12月例会は13日、桐生駅、集合。JR両毛線で栃木駅迄。

朝からの暗い空模様が栃木駅を出発する頃から本格的な雪になりました。巴波川に沿って八つの蔵が立ち並ぶ塚田記念館に着く頃は雪も牡丹状。

その昔江戸迄木材を回漕したという船付場は母屋、土蔵の影をうつして、雪に浄化されて静かな美しさでした。

代官屋敷であった岡田記念館、明治の銀行跡の横山郷土館など興味深く、又あだち好古館の絵画古美術品などを見学しました。

ただ名家の一枚板の廊下に雪にぬれた靴下の跡がベタベタつくのには閉口しました。

最後に、当倶楽部副理事長の小池久雄さんの本家で昔からの味噌醸造所、小池伝兵衛さんの立ち並ぶみそ蔵を見学。田楽「あぶでん」にて昔懐しいダルマストーブにて身体を暖め、名物田楽と小池さん御夫婦の心づくしの熱燗は本当に忘れられない味でつい飲みすぎてしまいました。



栃木「あぶでん」

## 歩く会 <1月例会>

### 足利七福神めぐり

1月10日、倶楽部、9時集合。同乗にて足利市へ。好天に恵まれ女性の参加者も多く日曜のことで外の団体とも交錯して賑かな街歩きでした。

草雲美術館から徳厳寺(布袋尊)→常念寺(昆沙門天)→西宮神社(恵比寿)→長林寺(福禄寿)→長尾弁天(弁才天)→織姫神社→明石弁天(弁才天)→心通院(寿老人)→ばん阿寺(大黒天)→足利学校を経て帰路。

本年も沢山の福に恵まれてよい年でありますように。



足利七福神めぐり

## 歩く会 <2月例会>

### マンサクの花咲く石尊山、 湯殿山そして地蔵の湯へ

2月例会も9時倶楽部集合。タクシーに分乗して小俣の石尊山登り口まで、石尊山、湯殿山でマンサクの花を楽しみ、帰途、葉鹿の地蔵の湯で入浴、ゆっくり休んで帰りました。

参加者20名。



石尊山々頂

# 桐生倶楽部句会

## 〔十一月〕

木枯や卒然として友逝けり  
 凧に連れ去られしか朋逝けり  
 山の端の月も下弦に秋深し  
 とろろ火に煮詰めし大根甘かりし  
 杉山に干大根の見え隠れ  
 掛大根はや一ト日の皺を寄せ  
 秋深くかすむ白根に雪少し  
 大根を干して落日さへぎれる  
 撞いてみし鐘の余韻や秋深む

## 〔一月〕

元旦にして廻診の白衣着る  
 小さくともめでたき負けぬ松飾り  
 宅配の人半袖や寒の内  
 母の手のもちの沈みし寒の水  
 都路を行者の列や寒納め  
 祖父の部屋唯一鉢の福寿草  
 為来りの味を伝えて雑煮かな  
 べっこう飴子でありし日のだるま市  
 亡き叔母に相似し笑くば初鏡

## 〔二月〕

まんさくの一ト枝供華の忌日かな  
 紅梅の一ト枝句碑に影おとす  
 行く雲に温くもり見えて春隣  
 吹雪く尾根アイゼンで踏む感触に  
 梅白く暮れ残りおり一山家  
 猫柳瀬波の返す陽をあつめ  
 歳々に咲くを待ちみる梅古木  
 夕映に残る闇あり猫柳  
 梅薫る園の石段一息に

光久清高吉須斎本小 光山斎無久遠宮吉高 光高須本清遠斎小  
 春保田水木成賀藤田池 春田藤香田藤地成木 春木賀田森水藤藤池

### 桐生倶楽部創立70周年記念文化祭

みなさんのご参加を  
 お待ちしております。

本年の文化祭は、5月7日から9日までの3日間と決まりました。3日間、会館において、華道展、絵画展、俳句色紙展、写真展等が開かれ、社員の方々の力作が陳列されます。また、囲碁、将棋、麻雀、ゴルフ、歩く会、懇話会なども、文化

祭の前後に開催されます。

ガーデンパーティは8日(日)4時を予定しておりますが、各種の行事につきましては、あらかじめご案内を差上げますので社員やご家族の皆さんに沢山ご参加下さるようお願いいたします。

## 倶楽部だより

### ◎12月

- 理事会 (9日)
- クリスマス祭 (12日)
- 歩く会 (13日) 懇話会合同「師走の詩情溢れる 栃木市巴波河畔散策」
- 俳句会 (15日)

昭和63年

### ◎1月

- 新年互礼会 (4日)
- 理事会 (9日)
- 歩く会 (10日) 「初詣「足利七福神廻り」
- 監査会 (11日)
- 営繕委員会 (26日)
- 俳句会 (26日)
- 歩く会世話人会 (26日)
- 臨時理事会 (29日)

定時社員総会 (29日)

### ◎2月

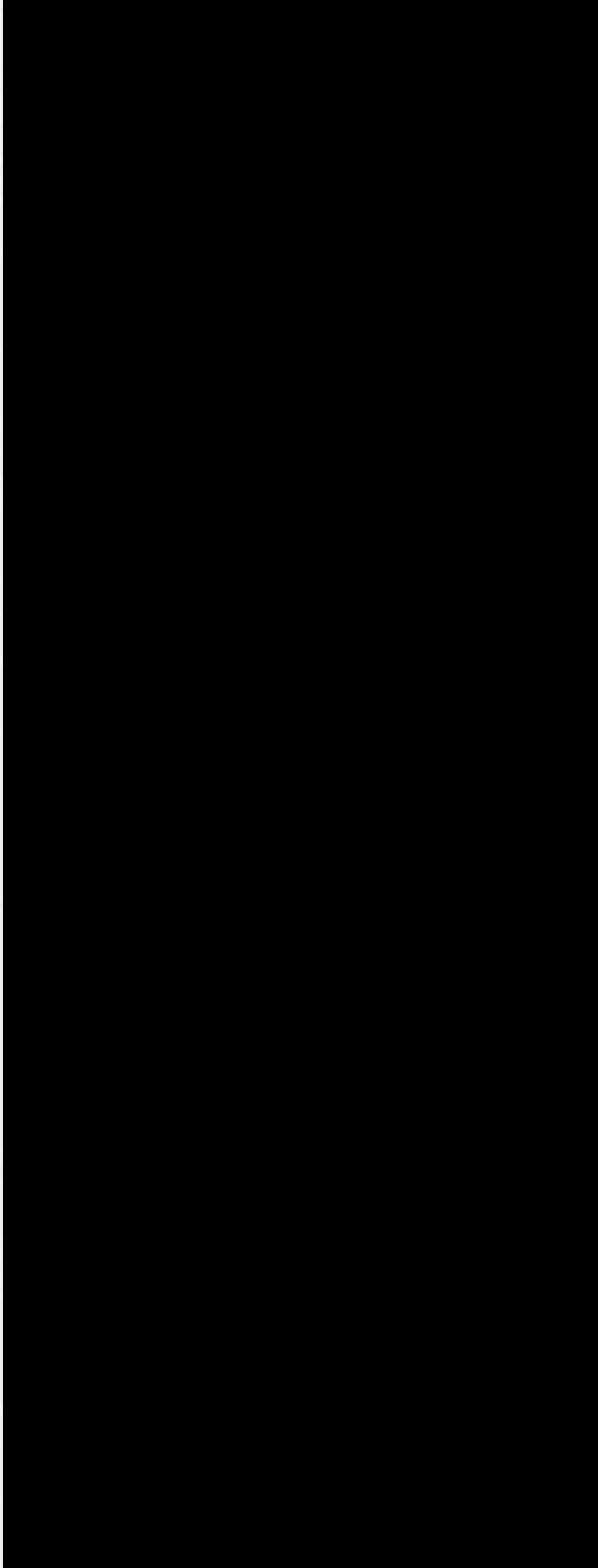
- 理事会 (9日)
- 歩く会 (14日) 「マンサクの花咲く石尊山湯殿山そして地藏の湯へ」
- 営繕委員会 (16日)
- 俳句会 (26日)
- 文化活動委員会 (27日)

### ◎3月

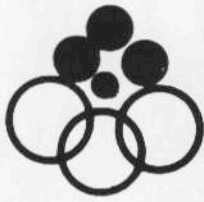
- 営繕委員会 (1日)
- 歩く会世話人会 (1日)
- 会報委員会 (2日)
- 理事会 (7日)
- 歩く会 (13日)
- 囲碁会 (21日) 春季囲碁大会
- 月次会 (23日)
- 俳句会 (26日)



|||| 新入社員紹介 ||||



社団法人 桐生倶楽部会報 第 53 号  
1988年(昭和63年)4月発行  
発行人 平野元吉  
編集責任者 小池久雄  
印刷 ツボノ印刷株式会社



# 社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人、桐生倶楽部 TEL45-2755

## 桐生のあゆみ

### 由良氏の政治とその終息

(戦国時代)

前々号に桐生氏を滅ぼしたのは由良成繁と書いたが、今号はその由良氏について述べる。

由良氏が桐生城主であったのは天正元年(1573年)から同18年までの間である。

由良氏の家系は新田氏から出ている。新田義宗(義貞の第3子)の子貞氏から横瀬氏を称し、7代後の成繁に至って由良氏と称した。

由良成繁は太田金山城主であり、資性英邁で民政の才を兼ねそなえ、攻めれば必ず取り、治めれば民皆悦服するという人物であった。それ故、北関東の上杉・北条・武田の3人の英雄の中にあつて、次第に領土を拡大し、元亀元年(1570年)には、北条氏政より上州一円の知行を許され、これに乗じて勇武の誉れの高かつた桐生祐綱亡き後の桐生城攻略の戦備をすすめて、ついに目的通りこれを成就したわけである。

天正元年に桐生城を手におさめた成繁は、翌年本城金山を嫡子国繁にゆずり桐生城へ入り、城を修築し、梅田町1丁目に現存する桐生山鳳仙寺を

建立した。また新田郡岩松村の岩松山義国院青蓮寺を下久方の地に移した。

成繁は桐生城に隠退後6年、天正6年6月29日に歿した。その墓は鳳仙寺にあり、桐生市の指定史跡となっている。

成繁のあとをついだのは国繁である。国繁は天正6年、高津戸城の里見兄弟を、翌7年には従来桐生氏に臣従していた黒川山中の2豪族、神梅城主阿久沢能登守平政弘、五蘭田城主松島式部少輔平綱弘の連合軍を降伏せしめた。

しかし、これ以後は衰運に向う。天正12年国繁は北条氏政の奸計にかかり金山城を没収された。

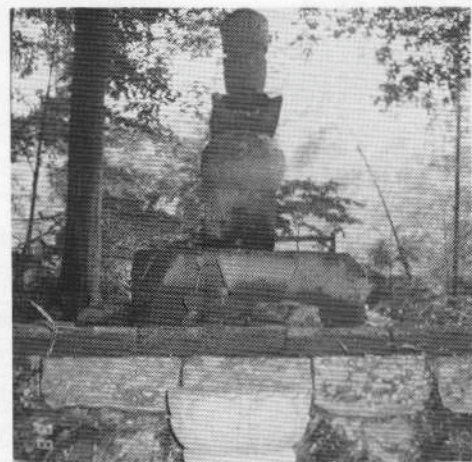
さらに秀吉の小田原征伐の時、国繁は北条氏の命によりやむなく小田原籠城軍に加わり滅亡寸前にあつたが、国繁の母妙印尼赤井氏は天下の形勢を知って、敢然として豊臣方に味方した。その為に秀吉は国繁を許し、常陸国牛久の地に五千石を給することにした。由良氏はその後、徳川家に仕えて家系を完うすることができたが、これは国繁の母妙印尼赤井氏の功があつたからである。

桐生城をめぐる桐生の戦国期は、この由良国繁の牛久移転をもって終つたわけである。

(「桐生市史」「桐生の歴史」を参考にした。)



鳳仙寺山門



桐生市指定史跡 由良成繁の墓



## 第14回 桐生倶楽部文化祭 創立70周年記念

本年の文化祭は、桐生倶楽部創立70周年を記念して例年よりも賑やかなものになった。

特に5月8日午後4時からのガーデンパーティーは100名を超える参加者があり、その席上で新入社員（同伴の社員は夫妻ともども）の紹介があり、大変なごやかな雰囲気であった。

文化祭は文化活動委員会と行事委員会の担当であり、委員長さん以下両委員会のメンバーは企画に、設営に、運営に大活躍であった。



社員の作品展



表千家飯山宗直協賛の茶席



新入社員勢揃い



賑やかなガーデンパーティー

### 文化祭協賛行事及催物一覧

ゴルフ大会	4月7日 午前9時～	於足利カントリー
麻雀大会	4月21日 午後6時～	於麻雀KM
将棋大会	4月26日 午後5時30分～	於6号室
俳句会	4月26日 午後7時～	於2号室
囲碁大会	4月29日 午前10時～	於6号室
歩く会	5月8日 午前8時～	桐生倶楽部 部員会自 家原集分會
絵画展	5月7日～5月9日 午前10時～午後5時	於広間
陶磁器展	5月7日～5月9日 午前10時～午後5時	於広間
俳句色紙展	5月7日～5月9日 午前10時～午後5時	於広間
華道展	5月7日～5月9日 午前10時～午後5時	於広間 田沼宗喜社中協賛
写真展	5月7日～5月9日 午前10時～午後5時	於1号室
歩く会記録展	5月7日～5月9日 午前10時～午後5時	於1号室
ビデオ観賞会	5月8日 午後1時～	於ロビー
お茶席	5月8日 午後1時～	於6号室 表千家飯山宗直協賛
ガーデンパーティー	5月8日 午後4時～	於庭園 各種表彰アトラクション等

### 各競技の成績表

#### ◆ゴルフ大会(4/7)

優勝 関口 全之  
準優勝 北川 洋  
一位 五十嵐 健雄  
二位 阿部 高久  
三位 樋口 武弘  
B・B 平野 武三  
メーカー 海老沼 利八

#### ◆将棋大会(4/26)

優勝 蓮沼 源一  
二位 木村 俊一  
三位 野田 友治郎  
同 松井 輝一郎  
同 朝倉 宏幸  
同 石原 丈吉

#### ◆麻雀大会(4/21)

優勝 紅林良和(註)  
準優勝 富永 幸夫  
三位 金井 利雄  
四位 石井 省三  
五位 品川 良司

#### ◆囲碁大会(4/29)

優勝 広瀬 進  
準優勝 蓮沼 源一  
一位 山根 波次  
二位 倉林 俊雄  
三位 吉成 敏郎

## ＝ 月次会報告 ＝

### 〔4月〕 桐生の道の今昔

講師 前原 勝樹先生

4月の月次会は4月19日、前原勝樹先生をお招きして、上記の主題で色々お話をお伺いいたしました。先生は歴史的にも非常に貴重なお話を例のような軽いタッチで前原準一郎さんが自家用車のはじめとしてフィアットを乗り廻した話やカネキヤタクシーなどニューモアを交えての和気藹々の月次会でした。非常に興味ある内容でしたので先生の講話メモ抜粋より下記に御紹介いたします。

#### 「桐生の道の今昔」

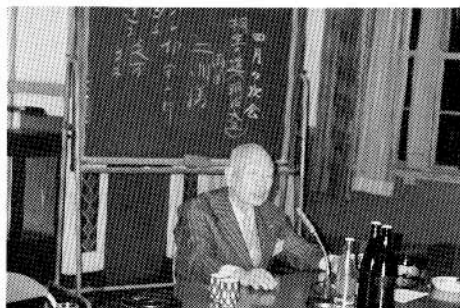
現存する「桐生の道」の中、本町通りが一番新しいのでそれ以前に古い道がいろいろあった。一番古いのはダムの橋を渡って皆沢→彦間→佐野の道でこれは桐生家が桐生に辿りついた街道である。

前桐生家切宇六郎は足利家の出で謀反のため皆沢で斬られたとあるから二つの館があったとみるべきである。後の桐生家が数代に及んで佐野から養子をしているので佐野家の分家の関係だからその往来にこの道が使われたのである。

次に重要な古い道は太田へ通じる道で桐生を支配した由良家(新田家)は「松原の渡」を渡って小友に入り菱を通過して観音橋あたりまで上り桐生城に入ったとみるべきである。バス停の境野の「太田街道」はその名残であり後年にこれは江戸街道、東京街道となった。

見落しやすい第三の道は山手線である。これは小曾根から元宿へ出て(水道橋の一つ駅寄の鉄道橋、今はなし。)聖眼寺前を下って渡良瀬川岸に至りここに「赤岩の渡し」があった。これは旧京都街道で伊勢崎を経て倉賀野から中仙道に連っている。

その意味で元宿が桐生の入口になっていた。宿だから今で云えば駅のようなもので人馬往来にサービスする機関が備っていたらいい。メディカルセンターの北に土塁の跡があったがこれが宿の役所の跡である。丸山は桐生城の出城で看視所があ



前原勝樹先生

り天下の形勢をにらんでいた。

新川は桐生領への防禦用の堀割としてつくられた。

元宿からの道は新川北岸に沿って東に向い、淨運寺の幕下を通過して(現在のコロンブス通り)本町通りの末端で交差し通称「ガケ下」に出、常木の「桐生橋」を渡って浜松町を経て足利又は太田へ通じていた。その意味で「ガケ下」は桐生の原点で大いに栄えた時代があったのである。新川の橋に「桐生橋」と命名したのは桐生から他領地に出た代表街道の故である。

本町通りは新川で行止りの商店街にすぎなかった。

新川沿いの道はしばしば洪水にやられたのでその少し北寄り(今の郵便局の下側)に新道が出来、これが淨運寺の北門脇を通る道でその故をもって新道(シンミチ)の名がある。この新道は一應本町通りに出てこれを少し下りヤマネヤ前から常木稲荷(イナリ)に入る道に移り、川村商店で折れて桐生橋を渡った。これが大正時代までの県道であった。

新宿の名は元宿に対称するもので洪水の厄をのがれて、宿場そのものが移転し新に作られたので「新宿」の名がある。即ち八幡宮も元宿から移動したものである。新宿通りは最勝寺の門前町の形で造営されたが新桐生道の新設で本堂の向きを換えて墓地を突切ってT字路となった。

新宿通りより古いのが錦町交番の下手から低い西へ向う路である。昔は盛運橋はなかったがガケ下に少し降り小林齒科のあたりから小橋を渡り、盛運橋薬局の下に出て前述の路となる。これは錦町局(元新宿局)の前から片平医院の脇へ出て信金、雷電、足銀の裏に抜けて西に進み錦桜橋下のアパートの下手に出てここで渡し(ウシロヤ)を渡って岸製作所からミツバの前に出、桜木中、中島住宅を通り田園に下り南高の坂を登って阿左美



大原へ抜けた。これは利根川の水運を利用するための道である。

新桐生道が出来てから盛運橋がクローズアップしてきた。その前はあの辺は“サイカチ原”と云って荒野であった。錦町、桜木町の名は当時東京一の繁華街にあやかるとともにつけたのである。

(末広町も同じ。)

道路のミチも人の道も同じである。古いものはそれなりの意義があり、又新しい道に改善されて通行される。

### 〔3月〕 地域の活性化と 地場産業について

講師 桐生地域地場産業振興センター  
専務理事 森 山 亨氏

講師の森山亨氏は、桐生の出身、早稲田大学法学部卒業後、大和紡績に入社、中小企業診断士、近畿ファッション化推進協議会委員、大和紡マーケティング室長等々数多くの要職を歴任。昨年乞われて、桐生地域地場産業振興センターの専務理事に就任された。以来、地場産業センターを核としての氏の活躍ぶりは誠に日覚ましいものがあり、中央実業界の第一線にある逸材を引き抜いた異例の人事が大きな成果を収めたと評価されている。3月の月次会では巾広く豊富な体験と時代を洞察する鋭い先見性に基き、桐生地域の活性化と地場産業について縦横に語っていただき、集まった社員に深い感銘を与えた。



森山亨氏

### 〔6月〕 アメリカ点描

(第17回世界ガス会議に出席して)

講師 桐生ガス株式会社

桐・倶副理事長 塚越 平人氏

塚越副理事長が、ガス会社社長としてアメリカワシントンで行われた「世界のエネルギー会議」に出席、つい先日帰桐された。

その往き帰りに寄られた北米・中米の珍しい場所での写真を見せていただきながら、色々とお話を聞かせていただいた。

ボストンの美術館(特に東洋ゾーン)、マサチューセッツ工科大学(桐生出身の岩沢教授)、ボストンマラソンの心臓破りの丘等にはじまり、ワシントンの会議でのレーガン大統領の話、さらに帰途寄られたユカタン半島の中心都市メリダでの偉大なマヤ文明の遺跡、野口英世の記念碑など貴重な珍しいお話が続いた。

マヤ文明は紀元前1000年頃すでに現代のような天文台を持っていたという。この文明を築いたアステカ帝国は、16世紀の初めスペイン人に征服され、以後300年間のスペインの支配が続き、19世紀にメキシコ国として独立をしたという。

塚越副理事長は、沢山の写真の中から希望の写真をキャビネ版にして出席者全員に1枚宛あてで届けていただき皆さん大喜びだった。当日の出席者は50名をこえ大変盛会であった



会場風景



メキシコのピラミッド(前に立つのは塚越夫人)

## 社員のページ

### 桐生倶楽部聖書研究会

#### 大川 仁

先日本町4丁目のミスズヤ書店のご主人竹内政敏氏が亡くなられた。先代の竹内寛次氏は小学校教師を辞め、味噌醬油を高い、店の片隅に内村鑑三の「聖書の研究」などを並べ、本屋を営んでいた。私の父大川英三は小俣教会で住谷天来（群馬出身、カーライルの英雄崇拝論の名訳あり）を通じ、内村鑑三を知り、竹内と大川の出会いが、桐生聖書研究会のできる発端となった。

大正4年、前記のミスズヤ書店の2階で桐生聖書研究会が初めて開かれた。メンバーは住谷天来を指導者とし、大川・竹内・森下賢三（末広町で炭屋）・小俣の石井孝三（機屋）・斎藤武二（弁護士）・青木志満六（画家）・中村栄子（後に大川英三の妻、私の母）等であった。大正7年、集会場所は、ミスズヤから森下家の階上に移り、さらにこの年12月、桐生倶楽部に移った。爾来約70年、桐生倶楽部に於て毎日曜日必ず聖書研究会が開かれていることは、日本における無教会キリスト教の特異の存在であり、当倶楽部にとってもその存在の意義は大きいと思う。

桐生倶楽部50年史の「座談会第1部」に5代理事長の長沢氏が、クリスマスをやった事が語られていて、大川が純粹に、賛美歌、聖書朗読、説話をしたとある。私も子供の時に、毎年桐生倶楽部のクリスマスに参加していた事を記憶している。戦後、桐生倶楽部青年部が設立され、クリスマス祭が大川英三の指導の下に行われたことが記録されている。

大正7年12月に集会の場所が当倶楽部に移り、大正8年に、日永初太郎、ノブ夫妻が桐生に来住した。ノブは内村鑑三の娘であり日永夫妻も、桐生聖書研究会に参加することになった。

大正10年、吉田善一郎、周東隆一、蜂須賀保等も入会し、会は益々充実をして来た。

当桐生倶楽部に於て、聖書研究会は年2回位特別講演会を開き、藤井武、矢内原忠雄、塚本虎二

畔上賢造等を講師として招き、200名位集めて、キリスト教講演会を行なったと記録されている。

又会員、会友の家族で日曜学校が行われ、森下宅で行われていたが、後に日永宅に移った。当時の生徒の中に、斎藤喜平、竹内正敏、塚越平人、中島満恵（芳夫の妻）私の兄弟等がいた。

特筆すべきは、昭和5年3月、内村鑑三が亡くなり、日永氏は内村記念館を建て、その会館で日曜学校を開催した事である。今も入口に“内村記念館”の額が現存している。記念館の一室に、内村鑑三が、娘ノブに与えた「父訓」の額も掲げてあった。戦災で数々の内村の遺品が消失したが、唯一の内村鑑三のデスマスクと、此の父訓の額等数々の史料が、桐生市の日永から、東京、三鷹の国際キリスト教大学図書館に寄贈されているのを私達は知っておくべきだと思う。同大学では、日本はもとより、世界各国から学びに来ている若者たちに、内村のデスマスクと共に内村の教えが伝えられているのである。私が昨年10月同大学の湯浅八郎記念館に於て「藍と生活」と題して公開講座を開催したのも何かの因縁かと思う。

戦後、一時、石川文寿宅に於て集會が持たれたが、昭和22年再び会場は桐生倶楽部に移され、群馬大学の吉岡春之助、書上誠之助氏等も加わり、発端時の子供達によって引き継がれ、聖書研究会は続けられている。

国会が教育委員会法の成立を巡って混乱をしていた時に、桐生市は時の東大総長矢内原忠雄氏を招いて講演会を行った。前日の夜、矢内原氏は米桐され、日永宅に於て、礼拝を持った。戦後、精神面の混乱の時に、桐生聖書研究会は、黒崎幸吉石原兵永、鈴木俊郎、政池仁、金沢常雄等の多くの内村鑑三の高弟を迎え、桐生倶楽部2階に於て講演会を行ったのである。とかくエコノミカルになっている現代の世相の中にあって、先人達の残した、眼に見えない遺産を受けついで、次の世代に送るのも、私達の仕事ではないだろうか。

父、大川英三の結婚式は、教会を使わないで、住谷天来の司式の下に、キリスト教式で当桐生倶楽部で行った。倶楽部結婚式第1号である。私の兄、大川士郎、信夫、そして私の結婚式も、当桐生倶楽部に於て、キリスト教式で、父英三の司会、母栄子のオルガン伴奏で行ったのを附記しておく。（参考、桐生市史別巻、桐生倶楽部50年史。）



## 小山前市長に春の叙勲

社員小山利雄氏（前桐生市長）が、この春、勲三等旭日中綬章を受章された。

人口15万人以下の首長で勲三等旭日中綬章は異例なことと云われるが、市長四期16年の実績に加え、ごみ処理場、斎場建設、下水道普及の促進など行政効果をあげ、他都市の模範となったことが今回の叙勲の大きな理由だという。

7月21日には、大沢市長等が発起人となって産文で盛大に祝賀会が開かれた。

桐生倶楽部としても機会をみて、恒例の銀盃をお贈りし、社員一同が祝意を表する予定である。

## 群馬県総合表彰

昭和63年度群馬県総合表彰式が5月2日、県民会館で行われた。当倶楽部社員の中から下記のお二人が受彰をされた。桐生倶楽部として社員一同心からお祝いを申し上げます。

柘植洋一氏（桐生意匠協同組合理事長）

多年繊維工業関係団体の役職にあって業界の指導育成に尽力し産業の振興に寄与された。

星野幸一氏（樹徳高校長）

多年私立学校の教育事業に携って教育の振興に寄与された。

## 歩 く 会

〈4月例会〉

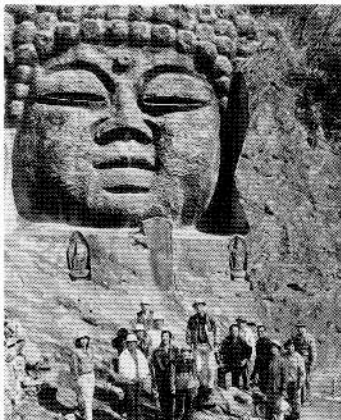
### 稲倉山登山と史跡の町小幡の桜

稲倉山は西上州下仁田町の近く1370米の山である。頂上の稲倉神社に奉られている神は、印度国王の姫君で、稲穂を秘かに口に含んできたと伝えられる。甘楽地方では古くから農耕の神として崇敬されてきた。

4月例会はマイクロバスで稲倉山登り口まで行ったが、道は残雪が多く残念ながら登山は断念。小幡町でゆっくり遊んで帰った。

小幡町は織田信長の次男信雄を始祖に7代152年間、後に松平氏に替り4代100年、明治維新まで続いた城下町、日本一の磨崖仏・織田七代の墓・大名庭園・武家屋敷・町中を流れる用水、その西側の桜並木等見るものが多い。特にこの日は武者行列を見ることもできた。ただ残念ながら桜はつぼみのままであった。

花いまだ 織田七代の城下町



日本一の磨崖仏（小幡）

〈3月例会〉

### 早春の鳴神山から金沢峠へ

3月13日、桐生倶楽部集合。分乗して梅田登山口へ出発しました。

閉ざされた長い冬ももうすぐそこに春のみえる此頃、お天気に恵まれて快適な山歩きでした。

登山口より大滝を過て鳴神山頂へ。三峰を過て金沢峠へかかる頃は冬の間の運動不足のたたりかかなりこたえました。吾妻の見えるあたりで二班に別れ、強くて歩きたい人は女吾妻から吾妻へ。もう結構というメンバーは梅田側へ下山しました。

〈5月例会〉

### 新緑の蓬萊山・幻の三滝

栃木県田沼町（旧野上村）の奥に蓬萊山がある。日本三蓬萊の一つと云われ、約1200年前、日光二荒山を開山した勝道上人によって開かれた霊場と伝えられる。

ここから大戸川（旗川）に沿って歩くと、その源流に三滝がある。数年前までは地図にもなかったが、NHKテレビで「幻の滝」と紹介され最近よく知られるようになった。この滝は三段に分れ左右に曲がっているの、全てを一度で見ることは難しい。落差は全部で50米位か。

三滝からは水室山へ、さらに十二山、根本山へ歩いて行ける。したがって旧野上村（現在は田沼町）と梅田の奥はそれ程遠くはない。

桐生からは皆沢・飛駒を過て蓬萊山まで、自家用車に分乗して1時間、あとは往復徒歩3時間、8時に出発、2時に帰桐して、4時からの文化祭ガーデンパーティーに全員出席した。

# 桐生倶楽部句会

〔三月〕

逢かなる滑城の想い春の塵  
 樂袋を持ちて起き出す春炬燵  
 春光や糸屬つけし織子達  
 鳩群れて飛び立つ社前春の塵  
 雪冠ぶる赤城そびらに春の塵  
 宿坊の春の炬燵に去年もあり  
 春塵を拭くももどかし暮仇来

〔四月〕

帯塚の供養もするや椿壽忌は  
 潮引いて吾こそあるじ潮招き  
 花の山混まざる道のなかりけり  
 篝火は夜目にも着く花映す  
 花吹雪真只中の椅子にあり  
 満ち初めて松原遠し汝干かな  
 咲き競ふ桜の下の紅椿  
 わずかなる砂かきわける汝干かな  
 菜の花や乾片手に廻り道  
 紋服の親子入り来る木の芽垣  
 逃げむとす小魚二つ忘れ潮

〔五月〕

卵の花や水面に花をこぼしつつ  
 木洩れ日は新樹の影を刻みをり  
 草笛や草の香指に微かにも  
 草笛のリズムは静寂を近づけて  
 草笛を鳴らして遠足とすれ違ふ  
 草笛や老いたる遊子小諸城  
 草笛を明日は帰京の孫と吹く

小池 斎藤 久保田 小池 斎藤 久保田 小池 斎藤 久保田  
 吉成 宮地 遠藤 光春 吉成 宮地 遠藤 光春  
 斎藤 久保田 小池 斎藤 久保田 小池 斎藤 久保田  
 斎藤 久保田 小池 斎藤 久保田 小池 斎藤 久保田

〔六月〕

五月雨や灯の洩るる明治館  
 黄泉のみち太古の静寂五月闇  
 風薫る女子学生の鼓笛隊  
 サーフインの濡れし素肌に風薫る  
 寄り添いて紫陽花彩を競ひをり  
 風薫る峠の真夜の星明り  
 櫻掬げ酒壺負い一本釣仲間

桐生倶楽部会館2階の大広間にある  
 (香山新涼)



小池 斎藤 久保田 小池 斎藤 久保田  
 吉成 宮地 遠藤 光春 吉成 宮地 遠藤 光春

## —岡田晴峰展—

去る6月13日より20日まで、南画家岡田晴峰歿後23年にあたるための遺作展が産文1号室で開催されました。

両伯は大正末期より昭和25年頃にかけて、桐生市に存住し、小室翠雲両伯の高弟として帝国美術院展覧会で特選入賞するなど、数多くの入選作があります。

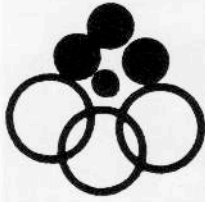
当クラブ大広間にあります「香山新涼」は伊香保八千代公園あづま家附近のもので、第14回帝国美

術院展の出品作です。昭和8年10月1日付の時事新報によりますと「亭々と聳える杉の巨木の中に早くも紅葉を付けた雑木の点綴する閑寂な気分を現はしたもので、前景の溪流のせせらぎに小鳥の唄がしんとした木立の中から聴えそうな感じのする出来栄である」とありました。(英)

### 岡田晴峰画伯略歴

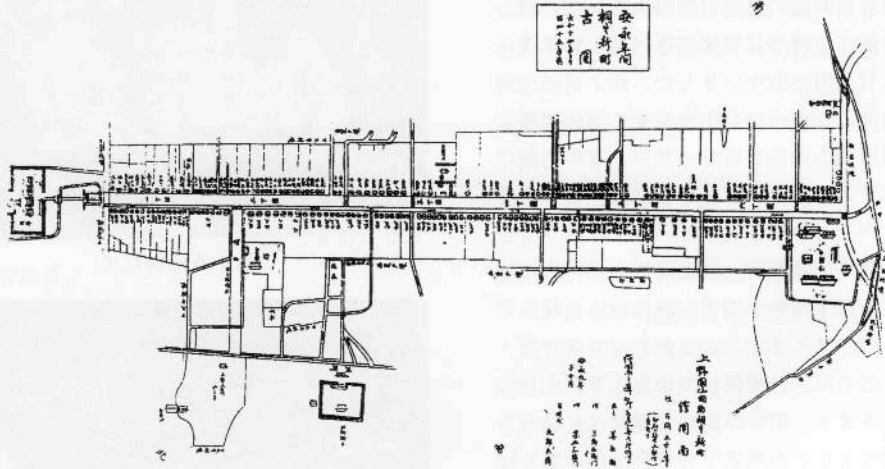
明治28年4月山田郡毛里田村に生まれる。  
 明治45年17才で小室翠雲の門下生となる。  
 大正14年鈴木ハマと結婚し桐生に在住。以後輝かしい画業を残し、昭和41年71才で没。





# 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL45-2755



▲安永年間桐生新町古図

## 桐生のあゆみ

### 桐生新町のはじまり

(安土・桃山時代)

天正18年(1590)に徳川家康は関東に入国し、江戸を経営の根拠地とした。桐生新町は、その翌年天正19年から慶長11年(1606)にわたり、徳川氏の代官大久保石見守長安の手代大野八右衛門尊吉が、旧桐生領54ヶ村の親郷触れ元(おやごうふれもと)として、荒戸原(あらとはら)といわれた下久方・荒戸両村の一部を割いて新設した農村都市である。

けだし従来桐生氏・由良氏時代の城下町であった居館(いだて)・町屋の地域は、あまりに狭小で発展性に乏しく桐生領の親郷としては不適當であるとて、あらたに天満宮の祠前の荒戸野広地に決めたものであろう。

当時の天満宮は桐生領54ヶ村の総鎮守格であったことも多分に配慮されたに違いない。

新町は天満宮を宿頭に南北13町を町人街とし、

円満寺北の丘陵を削平して陣屋をかまえ、町人街との間に1町32間の横町をつくって通路とした。

周囲の村境には高さ5尺ほどの土居を築いて城郭とし、囲郭内は中央に巾5間の道路を作り、その両側を間口7間、奥行40間前後の短冊状に地割りして屋敷とした。ここに近村からの入植者をつのって都市のかたちをととのえた。

したがって当初は1丁目から4丁目あたりまでしかなく、他村への道路は町並みを横切り東は今泉橋で今泉村に、西は小曾根橋で村松村に通じた。

その後、下壽堀(しもとろぼり)一新川までを開拓し、5丁目6丁目までとした。

浄運寺が新宿から移転したのは慶長17年、稲荷社(常木)を槐原(さいかちばら)から奉遷したのは慶長18年といわれる。

桐生新町の戸数は明暦3年(1657)に141軒、天保7年(1836)に785軒であった。支配は、慶長3年(1598)から寛文元年(1661)までの63年間は天領であった。

(「桐生市史」「桐生の歴史」を参考にした。写真は、郷土資料展示ホールの提供。)

## ＝ 月次会報告 ＝

### 〔7月〕特別例会

#### 志賀高原四十八池とグルメの旅

7月31日、前日迄の長かった梅雨空が嘘の様な快晴の朝を迎え5時半に倶楽部を出発した私達一行は一路志賀高原へ向かいました。熊ノ湯硯川到着が8時半、ここからは夏山リフトで前山湿原迄上り標高差百米をかせぎます。リフト下の斜面にはニッコウキスゲやヤナギランそれに早咲きのミヤマリンドウなどが咲き乱れています。リフトを降りて5分程で渋池到着。渋池は標高1815米に位置する周囲4百米程の小沼で、浮島が岸を離れて漂っているのが見えます。ここからはコメツガ・シラビソなどの原生針葉樹林の中を志賀山入口迄約1kmを進みます。樹々の間からは数々の鳥のさえずりが聞こえますが残念乍ら筆者は鳥の名を知りません。途中道端の小洞穴に天然記念物のヒカリゴケを見ることができました。志賀山入口にて健脚組は志賀山への登山コース、散策組は四十八池へと二手に分れます。健脚組は山頂迄を覆う針葉樹林の中を一気に前志賀山頂(標高2035米)を越え、お釜池・姫池が樹々の向うに見え隠れする道を四十八池迄約3km歩きました。一方散策組はひと足先に四十八池へ到着、冷たいビールで喉を潤して悠々の休憩です。四十八池は標高は90米に位置する湿原で、深さ30～70cmの小さな沼が実際には70余まるで段々畑の様に見えています。花の盛りを外れた為わずかにイワショウブ・ミズバショウ・ワタスケなどが見られたただけでした。比処で合流した一行は来た道を辿って石の湯ホテルへ向います。石の湯ホテルは桐生に練の前原治子さんが経営する山荘です。治子さんと旧交を温めた方も多く居られました。白葡萄酒で乾杯の後はホテル自慢のフランス料理を戴いて、本日のもう一つのタイトルであるグルメ昼食会。食後は木戸池の辺りを散策したり、お土産を買ったりしてのひと時を過しました。帰路は中之条辺りで渋滞に遭ったものの夕刻7時半には無事に桐生倶楽部へ帰着。39名の皆さんが参加して下さいまして楽しい夏の休日を過ごすことができました。

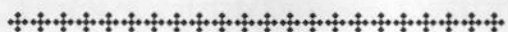
(歩く会世話人村田・記)



四十八池畔にて



志賀山・山頂附近



## 桐生の歴史と文化を考える ウォークラリー

11月3日、文化の日に「桐生の歴史と文化を考える」ウォークラリーが、山手地区周辺の山野や文化財を利用して開催された。

これは、桐生倶楽部歩く会や青年会議所などの各種団体47団体の共催によるもの。今回が第5回目で参加者は2千5百人という盛況だった。





## ＝ 月次会報告 ＝

## 〔9月〕ハーブの自然染色

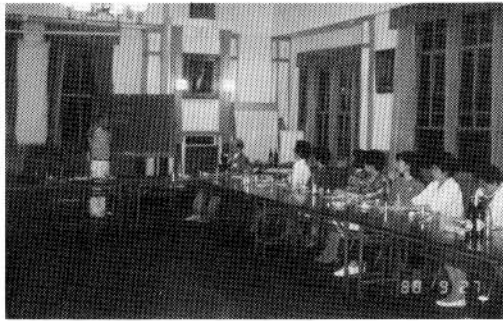
講師 竹 沢 要次郎氏

梅田4丁目に染工房「梅田乃里」ができた。この梅田乃里は、これまで地元繊維業界で長年仕事をしてきた竹沢要次郎さんと北川毅さんの2人が作られたものである。

ここでは、沢山の種類のハーブ（香草）を育成しているハーブガーデンやハーブ関連の商品の開発研究室・展示即売場、ハーブ染などを教える教室などがある。

9月例会は、この竹沢氏を講師としてお招きした。当日は、ハーブとは何か、からはじまり、植物染料の話、ハーブ染色のことなど、色々な資料を持参してご説明をいただいた。

ハーブは近年日本でも、健康に、料理に、化粧品にと沢山使われるようになり、特に女性に人気が高い。この例会にも社員の奥様方が沢山参加して下さり、倶楽部としては珍しい例会風景であった。



竹沢講師と女性の参加者



木村一蔵氏

## 〔10月〕桐生織物の沿革

講師 桐生織物産地元売協同組合

理事長 木村一蔵氏

10月の月次会は10月26日、織物業界の大先輩である木村一蔵氏をお迎えしてお話をお伺いいたしました。

氏は現在、家業の榊小野木商店の社長を引退後も織物業界はもとより各方面の要職にあり今も第一線で御活躍中です。

桐生織物について

- 1、両毛地域の一体性と特殊性
  - a、渡良瀬川流域と両毛機業地域
  - b、交通・水利
  - c、両毛鉄道の開発
- 2、白絹の発達と取引
- 3、桐生織物の勃興
- 4、桐生織物の隆盛
- 5、絹買商人の話
- 6、機業の興隆と通信運輸の発達
- 7、機業の分化と各業仲間の成立
- 8、桐生織物の更新
- 9、更新期に於ける桐生の概況
- 10、桐生織物同業組合の沿革

以上のような骨子により氏の業界56年間の蓄積を数々語られました。

氏ご自身の生い立ちから始まり、昭和22年、初めての市会議員になられた頃の政友会・民政党の問題、桐生に織物が発達した因となる本町一丁目から4丁目迄附近の優良な地下水の話、西陣の技術導入から外国との交流等々。

その昔、天領であった平民の町、商人の町であった桐生の全貌を紹介して載しました。

交通機関の発達から銀行設立の過程、仲間（組合）の成立等、話はつきず、現在の問題の消費税にまで言及されました。

話題中、なつかしい地名、会社名、人名も多く氏は、これからの若い人の活躍の場を！ ということで結ばれました。

尚、閉会の辞で平野理事長から桐生織物と花柳界の話など飛びだし和やかな中に閉会しました。

## 社員のページ

### 大間々にて

カイロプラクター 廣瀬 進

桐生にご縁を得たのは昭和5年、軍人だった父の転任によるものでした。実家が足利の母にとっては特に幸いしたようです。3年程在住したので入学は北小学校、昭和12年には再び同じ事由で桐生に移り住むことになりました。その後は本籍地も大分から当市に移して名実共に桐生市民となった次第です。以来一貫して故郷は桐生と回答して現在に至っています。

桐生中学2年修了後、陸軍幼年学校から航空士官学校を経て昭和20年7月任官、東京都下福生の第一航空整備師団（現在の米軍横田基地）で終戦、身分は学生乍ら少尉の襟章・プロペラの胸章をつけておりました。

桐生へ帰宅後は2～3職業を替えた後境野武夫社長の両毛織産（株）に奉職、会社解散と共に太陽神戸銀行（昭和25年～54年）に勤務、定年後もそれ迄に取得した資格・免許のそれぞれを使い分けて都内数社に顔を出していました。

このような経緯で昭和35年から約27年の間主に都内で生活した後、昨秋に至ってようやく帰郷が実現したわけです。

桐生もすっかり様変わりしておりましたが末弟が永住しており、旧知の方々からは温かく迎えられ、更に当クラブの一員にも加入させて載くことができました。

目下大間々の自宅にカイロプラクティックの施療所を開き、余暇は家庭菜園の真似事や囲碁（自称3段格一棋院の免状は昭和48年に得た初段）に興じている平穏な毎日です。

永年住み馴れた人には気が付かれないかも知れませんが、長い間都会に住んだ者には当地の生活環境の優れている点が身に沁みて判ります。人間関係特に人情の機微に触れる喜び、四季折々の変化に富んだ山川や草木、空を渡る風に飛び交う鳥の群など心洗われるものが数知れません。それに空気や水の清澄なこと、騒音雑音の稀少なこと、物価のことなど凡そ都会とは総て対象的と云って

よく、帰郷してほっとするとは実に斯様なことだと痛感します。今後ともふるさとを大切に在来の方々との交流を通して地元の人間になりたいものと考えております。

次にご存知かと思いますが長期に亘って療術に関係している者としてカイロプラクティックについて少し述べさせていただきます。

戦後間もなくの頃食糧運搬をしていて腰痛を招いたことがあります。偶々高名なカイロプラクター伊藤緑光師が2丁目の矢野園に疎開中でしたので受療、難病かと思ったものが一回で完治するに至りました。21才という若さも勿論手伝ったことでしょうか師の妙技に惚れ込んで早速師事（当時は入門徒弟制）したのがこの業に携る動機で、資格を得たのが昭和23年のことです。長い副業的存在だった期間、会社の専属トレーナーなども経験しましたが、現在は専業です。

カイロは手、プラクティックは技術と云う意味のギリシャ語で脊椎調整療法と訳します。発祥は米国でしてこの国には研究機関も多く広く普及されている模様です。

これは姿勢などの視診や指先の触診によって背骨のズレなどを発見し、物理的に矯正して派生した痛みや疾患を治そう（実際には自然良能作用の促進）とする民間療法で立派な医学的根拠を持っております。守備範囲は限定されますが、とくに前記の要因で苦痛に悩まされている人には格別に効果が認められるようです。

種々の面で恵まれた生活環境の内にあることを知って、平素から背骨を正しく保ち爽やかな気分ですらすことを信条としております。

### イベントウィークは 桐生倶楽部で開幕

10月16日から23日までの8日間、桐生市・活性化イベント委員会・地場産業振興センターの企画・主催の各種のイベントが続いた。

その幕明けは桐生活性化委員会のふるさとシンポジウム実行委員会（岡部信一郎実行委員長）による16日の「基調講演とオープニングパーティー」であり、桐生倶楽部の駐車場まで利用して賑やかに行われた。





から、人文科学や民族学を切口として、最後は流通という生々しい角度からも捉え、中核をなすにふさわしいものとなりました。これは、織協青年部の方々の企画により、地元繊維関係者のみならず、全国各地からの参加者を交え相当バラエティーにとんだイベントとなりました。

さらに、地元商連の有志により企画され、サンレイク草木で行われた「ミッドナイトトーク」は、全国各地の地域振興リーダーと、TPSやテキスタイルフォーラムの参加者、そして桐生広域圏の方々ととの討論という、全国でも初めてのイベントだったと思います。その名のように朝方まで熱心な話し合いがおこなわれ、集まってきた地域振興先進地のリーダー達の意欲を肌で感じる事ができました。彼らは桐生のためにやってきたのではなく、彼らのために、桐生から何かをむしり取ろうとしてやってきたのであろうと思われまふ。この姿勢もふくめ彼らのものづくりに対するどん欲さは学ぶべきものがありました。

最終日におこなわれた「まちかどトーク」では、桐生出身の3人のコスモポリタンに、特に桐生の若者に対して語って頂きました。私達スタッフよりずっと考え方が若い3人の方々の話の内容は、桐生人のすばらしさ、世界に通用する桐生等、大変興味深かったですが、間接的にしか聞けなかった人たちの話が直接聞けたことはすばらしいことでした。自分で実際に見聞きすることの大切さを痛感しました。

さて、これらは私たちにとってどの様な位置づけだったかという、新しい桐生づくりのため、まちの活性化のための一つの手法。イベントであったと思います。

この一つの手段であるふるさとシンポジウムを通じて感じたことは、まずイベントというのは、ただ実行すれば良いものではなく、明確な意味をもたせ、なにをどうしたいのか、何故するのか、行った結果がどうなるのかを把握していなければならぬということ。つぎに、誰かがしてくれるのだと思っただけで、自分達自身で問題提起して考えて、実行しなければ、あとになにも残らないということです。逆にいえば、実行というもっとも美味しい所をたべたいがために考え、苦しむということが、知識、経験となって自分にフィードバックしてくる。つまりは、まちづくり=ひとづくりとなるわけです。そして、継続は力なりと

もいうように、打ち上げ花火のように、一度だけただ実行してみても何にもなりません。前回のことを踏まえ、その発展形として行わなければ、ただの無駄になってしまうと思います。

よくまちづくりは人づくりといわれます。このことばの基本はまず自分のまちのよさを知り、すきになることが原点だと思います。桐生人は桐生人としての歴史や文化を知り伝統を大切に、オリジナルな文化を創りだすパワーが、この桐生倶楽部の建物に蓄積されているのではないのでしょうか。

## 歩く会《10月例会》

### 紅葉の平標山

10月13日、歩く会10月例会は、谷川連峰の西端に聳える平標山(たいらっぴょうさん)であった。

お知らせに「やや健脚向」と記されていたので、参加者がどの位集まるか懸念もされたが、当番幹事の勧誘の腕がよかったのか、山のネームバリューがあったのか、新しい参加者を含めて、総勢22名の盛況さであった。自家用車6台に分乗しての往復も、距離がやや遠いにも拘らず順調であった。これは車を提供し運転してくれた方々のお陰で、いつもながら感謝申し上げたい。

当日は天候に恵まれて、初冠雪と紅葉の山を、それぞれ満喫されたことと思う。山頂附近では霧と風の寒さにも逢って、秋と冬を一度に経験し、山の厳しさの一端を味わった人も多かったであろう。以下はそのコースの印象。

林道から標識に従って登山道に入ると、黄に染った唐松林の中を抜けて、次第に急坂へと続く、仙ノ倉山(せんのくらやま)まで足を伸ばす先頭集団が気がせくのか、ピッチが早く、中腹の広葉樹林帯に入る頃には、大分離れてしまった。しかし、山は始めの登りで無理をしてしまうと、後の苦労が倍加するので、長丁場は自分なりのスタミナの配分に合せて登らなければならぬのである。時間に余裕があるのだから、むしろ弱い方の人を標準にして、ゆっくり登ることが肝要であろう。折角のブナの黄葉の美しい林、一登りごとに展げ



# 桐生倶楽部句会

## 〔七月〕

若き僧うぶしを着て筆やげる  
 遠州の庭独り占め夏座敷  
 夏座敷陶の枕や妻の留守  
 地に尻を付けて大きな曲り茄子  
 川風のほしいままなる夏座敷  
 夏座敷一人素足の読書かな  
 一軒の茶店を頼り登山道  
 雷電の丘も登山と病める身は  
 風涼し澄める池塘に小漣  
 岬の風こころよき距離夏座敷

## 〔八月〕

蝶一つ石に動かず残着かな  
 黄管満つ鈴羊平に雲の峰  
 蛸の一句添えあり故郷の父  
 星薄き妻の折かごと星祭  
 風おちて軒にこもりし残着かな  
 蛸のやうやくく止みて山の宿  
 蛸や荳の夕餉の煙立つ  
 星月夜青葙城下に友偲ぶ

## 〔九月〕

虫の音の間近くなりぬ仕舞ひ風呂  
 廃屋の井戸垣ばかり晝の虫  
 乗り縫ぬいぎの口ーカル線や虫の駅  
 旅の宿夜長のあかり数え居り  
 戸隠は若ばかりなり霧の海  
 虫の音のふと止みたるに眼を覚まし  
 薄衣をたぐりて夜長五輪見る  
 妻旅の厨にちろろ来て鳴ける

小 久 吉 遠 本 清 須 小 光 須 斎 清 本 清 須 小  
 保 保 成 藤 森 田 水 賀 池 春 賀 藤 水 田 水 賀 池  
 田 田 成 藤 水 田 水 賀 池 春 賀 藤 水 田 水 賀 池

## 〔十月〕

直売の旗色極せしリンゴ村  
 金賞を下げて我が家に菊帰る  
 秋華子屋の牛乳ビンの菊二三  
 話す間も菊の手入れは急らさず  
 差しのべし手に初算の半落ち  
 霧煙る湧き道路灯をつづる  
 妻の煮る墨子の香遠く故母の額

### ※倶楽部句会

会報に毎号出  
 ているように、  
 毎月句会を開い  
 ております。  
 初心者だけの  
 集まりですから  
 気楽にどなたで  
 も参加できます。  
 入会ご希望の方  
 は事務局へ申し  
 下下さい。

久 保 田 本 宮 小 清 高 須  
 田 内 池 水 賀

てゆく素晴らしい展望を楽しみながら登るのこそ、  
 ふさわしい山歩きであると思う。

振り返り見る浅間と鹿沢の連峰が、非常に近く眺  
 められ、苗場の一角も姿をみせてくれる。大分汗  
 をかかされて平標小屋へ到着、先ずは冷い清水に  
 咽を潤す。なだらかに登る目的の平標山も仙ノ  
 倉山も、緑と黄の草原をなし、対象的に荒々しい  
 岩肌のエビス大黒ノ頭には、霧の飛来がはげしく  
 やはり高山の趣きを呈している。

先発隊の小さな姿を目で追い、笹原の木道の階  
 段道を登ってゆく。次第に左尾根の緑の針葉樹林  
 は、丈が低くなって、いつか消えてしまい、笹の  
 草原へと変わってくる。仙ノ倉への道と中腹で分け、  
 もう一登りである。

三等三角点標石を真中にして、円い山頂で記念  
 撮影、山頂は今までの日だまりから一変して、風  
 が強く冷く、雲は頭上で青空と境をつけていて、  
 新潟県側は何も見えない。さすが表日本と裏日本  
 の分水嶺で、気象の差をまのあたりする。汗で脱  
 がされたセーターを着こみ、風当りの少い日向で、  
 馴染深い日光連山や、皇海（すかい）、袈裟丸、  
 赤城などの眺望を前にして昼食。

帰路は班らの新雪を踏み、冬枯れの池塘を見なが  
 ら下る。高山植物の咲き乱れる頃に、もう一度  
 訪れてみたいとの思いにかられた人も多かったで  
 あろう。全員無事完登を果たした。（藤井龍人）



**金子匡男氏**  
**藍綬褒賞を受章**

昭和63年秋の褒章受章者が、11月1日発表となり、社員金子匡男氏がめでたく藍綬褒賞を受章されました。桐生倶楽部社員一同心から祝意を表する次第です。

金子氏は、桐生織物協同組合の理事長として広巾織物業界の振興の為に大きな貢献をされたことが認められたもの。昨年4月の桐生織物業界一本化により、現在は桐織協同組合副理事長、広巾協議会長となった。また、桐生商工会議所副会頭の要職にもあります。

**倶楽部だより**

◎ 8 月

- 理事会 (10日)
- 俳句会 (25日)
- 歩く会世話人会 (29日)

◎ 9 月

- 理事会 (7日)
- 歩く会 (7日)「壮巖な榛名神社と天狗山」
- 俳句会 (26日)
- 歩く会世話人会 (26日)
- 月次会 (27日)「ハーブの自然染色」

講師 竹沢 要次郎氏

◎ 10月

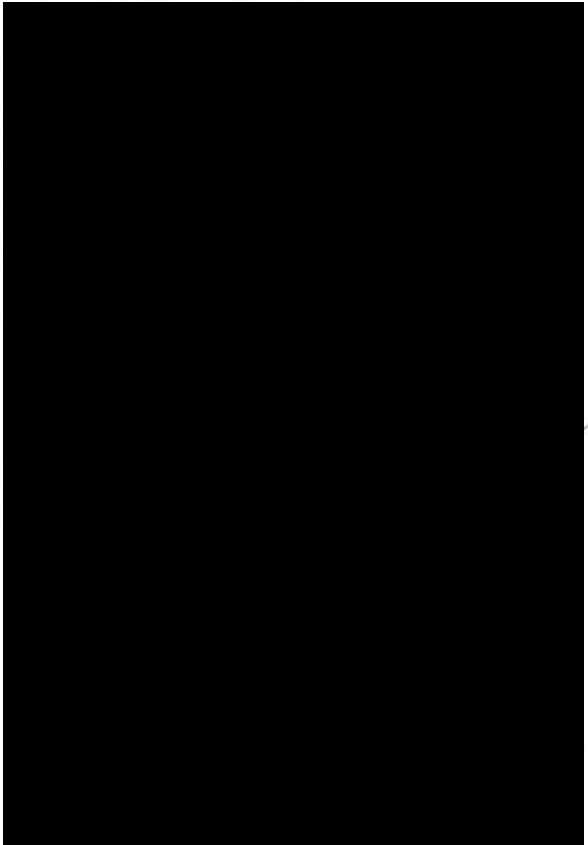
- 理事会 (7日)
- ゴルフ大会 (13日) 於赤城山カントリー
- 歩く会 (16日)「草もみじの上越平標山」
- 歩く会世話人会 (21日)
- 囲碁大会 (23日)
- 会報委員会 (24日)
- 俳句会 (25日)
- 月次会 (26日)「桐生織物の沿革」

講師 木村 一蔵氏

◎ 11月

- 理事会 (7日)
- 懇談会 (9日)
- 行事委員会 (19日)
- 月次会 (25日)「最近の中東、ヨーロッパ、アメリカの事情について」 講師 阿部 高久氏
- 俳句会 (28日)

▷ 社 入 社 員 紹 介 ◁



◆ 編 集 後 記 ◆

会館増築の工事が進んでいる。年内には完成し国際ロータリー第256地区のガバナー事務所として、約2年間桐生倶楽部が貸与することになる。

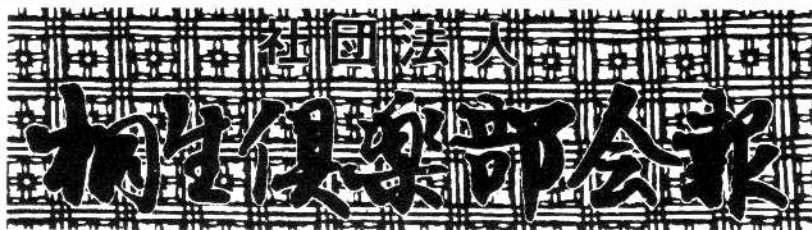
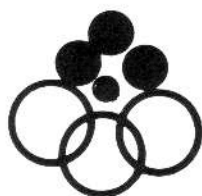
(このことは7月15日付の平野理事長名の文書で全社員に説明申上げてある)。

第256地区は群馬・新潟で、地区内に約80のロータリークラブがあり、地区ガバナーは国際大会で選挙され、一年間その受持地区にR1(国際ロータリークラブ)の方針を実施することが主任務である。1989年7月から1990年6月まで桐生の吉野一郎氏(桐生倶楽部社員でもある)が、そのガバナーをつとめる。

社団法人 桐生倶楽部会報 第55号  
 1988年(昭和63年)12月発行

発行人 平野元吉 編集責任者 小池 久雄  
 印刷 ツボノ印刷株式会社





〒376 桐生市仲町 2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL45-2755



## 名誉社員 川村佐助氏の 御逝去を悼む

社団法人 桐生倶楽部  
理事長 平野 元吉

桐生倶楽部名誉社員、元理事長川村佐助氏の突然の訃報に接し、誠に哀愁の念禁じ難く、在りし日の面影を偲び心からなる哀悼の意を表します。

氏は幼少の頃から御両親の労苦を見るに忍びず、敢然として両親の膝元を離れ、将来の大成を期して京都川村商店に入店されました。朝は早くより夜は遅くまで、一意専心商道に励み、同店の中堅となって良く精励せられました。

こうした働きは川村社長の絶大なる信頼を得ることとなり、大正12年1月、川村佐兵衛商店桐生支店長に任せられ初めて桐生に赴任して参りました。爾来苦節十有余年、年々繁栄に繁栄を重ねて、昭和11年3月現在地に於て川村株式会社を創設して取締役社長に就任されました。

それからの氏の活躍は誠に目覚ましく、糸商組合の理事長となって業界の良き指導者となり、或

は織物組合に業者を集めて原料の将来性、或は商取引の改善等、卓越せる識見を述べられ桐生産地繁栄の為に非常に尽力されました。

昭和43年2月、桐生倶楽部は役員改選となり、満場一致をもって川村佐助氏を新理事長に推挙し、前原一治前理事長の後任と決定致しました。氏は倶楽部の繁栄は社員相互の理解と親睦にあるとして、楽しい倶楽部の実現に尽力され、内部の機構改革等を行い、お蔭をもって現在のように300有余名の社員を擁する迄にいたりしました。

又、倶楽部は創立以来70年の歴史を数え、建物の破損甚だしく、取毀しか他へ移転するかの問題に対しては、断固反対し吾々の先輩が残した貴い遺産である故に厳重なる修理を施して保存すべきであると力説し、大修理を施し、お蔭をもって今日の美しい建物を残しております。

又、特筆すべきことは、氏が営業に依って得られた利益の一部を過去30年にわたり年々桐生市に、又、故郷の郡上八幡町に寄付せられた事です。

この尊い巨額の御芳志は幾百幾千の人々を救い、或は川村奨学資金となって多くの人材を育成せられた事でありましょう。

このような数々の功績は、桐生市名誉市民に推挙せられ、又、郡上八幡町では故郷が生んだ大成功者として、郡上八幡町の第1号名誉町民に推挙されました。又、国に於ても昭和43年8月には自治大臣表彰、昭和50年5月には紺綬褒賞、昭和51年5月には勲五等双光旭日章を贈られました。当倶楽部としても誠に名誉なことと存じます。

こうした川村氏の数々の御功績を称えと共に、川村氏の御意志を継いで倶楽部を守ってまいります。何卒安らかに御永眠あらんことを御祈り致します。



## 川村名誉社員と 桐生倶楽部

桐生倶楽部名誉社員川村佐助氏は、2月21日午後10時、入院先の県立前橋病院でご逝去になりました。91才のご高令でした。

川村佐助氏は、「吾唯知足（われただを知る）」を信条とし、報恩感謝の念厚く、社会のために、福祉・教育・文化・産業各方面にわたって大変な貢献をされました。そのために桐生市名誉市民、郷土の岐阜県郡上八幡町の名誉町民に推戴されたことはよく知られているところです。

ここでは桐生倶楽部に対するご功績をしのんでみたいと思います。

川村氏は、戦後の昭和23年12月に桐生倶楽部に入社され、昭和27年理事に就任されました。当時の理事長は境野武夫氏、副理事長は長沢義雄氏でした。

昭和43年1月、時の理事長前原一治氏が現職のまま急逝されました。その年は、桐生倶楽部五十周年に当るので、数々の記念事業が計画され、それらが漸く緒についたばかりという時期であったので、後任理事長の選任が大きな問題となりました。

早速開かれた緊急理事会では全理事が一致して川村氏を理事長に推しました。しかし川村氏は「私は自分を良く知っている。浅学非才、とうていその器ではないので辞退したい」と言われ、頑として受けません。その後、理事会を3回も開き、川村氏に再三再四お願いをして、ようやくご承認をいただいたという経過がありました。

しかし、第7代理事長をお引受けになると、責任感の強い川村氏のことなので、全力を傾注してその職に当り、五十周年の記念事業も式典も立派に遂行され、後任理事長としての務めを全うされました。

初めは、理事長を受けても一期だけと言われていましたが、その後の改選期でも川村氏以外の理事長は考えられないという程、全社員・理事の信任を集め、昭和55年、前原勝樹氏にバトンタッチされるまで、6期12年理事長をされました。

川村氏は、祖先を崇敬し、郷土を愛する心の非常に強い方でありました。従って桐生倶楽部についても、「郷土の先輩の残された貴重な遺産であ

るから、何としても守り通さなければならない」という信念に燃えておられました。理事長としての言動がすべてここから発しておられたので、全倶楽部社員からの尊敬と信頼を集めたのも当然でありました。

桐生倶楽部は創立以来61年を数えます。桐生倶楽部の存在は、桐生の歴史・文化の上で誇り得るものでありますし、建物も文化財として貴重なものになりました。しかし、長い間には色々な危機もあり、その度に川村名誉社員のような方が出て乗り切って下さいました。そのおかげで現在の倶楽部があるわけです。

全社員あけて川村名誉社員のご逝去を悼み、そのご功績に感謝申上げるものです。 (小池)

## 定時社員総会

桐生倶楽部の定時社員総会は、1月30日6時から会館2階広間で開催され、以下の議案について審議をした。

- 1、昭和63年度、事業報告、収支決算
- 2、平成元年度、事業計画、収支予算
- 3、役員改選

役員任期(2年)満了につき、改選の結果、次の理事15名、監事2名が選ばれ、続いて理事の互選により理事長・副理事長を決定した。

理事長 平野元吉  
副理事長 塚越平人、小池久雄  
理事(会計担当) 関口全之、矢野昭  
理事 藤江敏雄、飯山清治、金谷善介  
清水信次、野田友治郎、五十嵐健雄、  
佐藤富三、岸田英作、木島清  
岸芳正  
監事 吉野一郎、北川洋



選任された役員



平成1～2年度

## 委員会構成

社団法人 桐生倶楽部

委員会名	担当理事	委員長	副委員長	委 員
行 事	野 出 五十嵐(健) 佐藤(清) 佐藤(富)	野 田	五十嵐 (健)	福島、高橋(貞)、富水、米田、田島(英)、阿部(光)、北川(洋)、宮地(秀)、 蛭間(利)、坪野(恵)、吉原、八木橋、川口、中里、池田、片柳、山本、樋口、 森(寿)、尾沢、小堀、森口、平野(武)、坂本(能)、竹内(晴)、清水(邦)、 丹羽(淳)、宮地(山)、蓮、笠原、牛腸、平野(平)、五十嵐(淳)、河内、
文化活動	齋賀(叢)	金谷(豊)	藤江(敏)	
会 報		小 池	岸 田	丸山(貞)、書上、坪野(恵)
營 繕		清水(信)	佐藤(富)	平野(元)、木島、宮地(秀)、保倉、
総務 (特設)		塚越(平)		小池、飯山(清)
会 員 増 強 (特設)		塚越(平)	清水(信)	
企 画 (特設)		小 池	木 島	

## 文化活動委員会(趣味の部会)

	美術部	懇話会	俳句部会	麻雀部会	囲碁部会	ゴルフ部会	将棋部会	歩く会	ビデオ部会	写真部会
担当理事	岸田・岸	小池・木島	小池・清水	岸田・岸	野田・小池	五十嵐・関口	平野・野田	小池・木島	金子・塚越	岸田・塚越
部会長	保倉一郎	藤井龍人	久保田裕一	北川 洋	野田友治郎	片柳康宏	平野平四郎	木島 清	五十嵐健雄	塚越平人
副部会長	須賀武次	山鹿英介	本田孝太郎	松枝良太郎	吉成敏郎	森田良徳	野田友治郎	藤井龍人	金井利雄	書上誠之助
部 員	飯田隆雄 川島忠昭 小林 松 斉藤喜平 塩崎吾吾 田島英二 田中一男 福島昭吉 福田 章 藤井龍人 保倉一郎 丸山貞夫 丹羽武雄 岸 芳正 須賀武次 宮地秀吉	五十嵐健雄 川口幸一 曾我 皓 小池久雄 小林一郎 木島 清 齋藤喜平 島 勝二 清水信次 篠田 久 奈良彰一 福島昭吉 福田 章 藤井龍人 丸山正一 宮地山高 丹羽武雄 有阪昌治 山鹿英介	遠藤勝久 北川 絢一郎 久保田裕一 小池久雄 齋藤喜平 清水信次 塚越平人 本田孝太郎 森山 亨 吉成敏郎 宮地秀吉 広瀬 進 須賀武次 高木香二 森 寿作	石井省三 川口幸一 栗原優介 蓮 直孝 松枝良太郎 宮地由高 村田豊樹 米田壽徳 吉成敏郎 北川 洋	上野武男 遠藤勝久 岡崎 弘 岡田光弘 倉林俊雄 小池久雄 齋藤喜平 島 勝二 蓮沼源一 蓮 直孝 山上喜一 吉成敏郎 山根波次 金井利雄 広瀬 進 野田友治郎	飯田隆雄 五十嵐健雄 上野武男 大島宗作 川口幸一 岸 稔 倉林俊雄 栗原優介 牛腸 章 佐々木 郎 下山昭三 坪野恵治 森 寛一 養田 隆 吉田博次 米田壽作 丹羽武雄 吉成敏郎 田中輝晃 片柳康宏 八木橋祥介 松島 敏 片山正二 竹内晴夫	小山利雄 平野平四郎 木村俊一	江原 満 川島忠昭 岸 稔 木島 清 倉林俊雄 後藤久夫 小林 隆 齋藤喜平 清水信次 田中一男 中里基宏	飯田隆雄 五十嵐健雄 川口幸一 平野平四郎 丹羽武雄	書上誠之助 菊地 悟 岸 芳正 塚越平人 丹羽武雄 河原井源次 田中愛雄 多田 明 赤石峰一

## 平成元年度事業予算

1. 行事委員会	
新年互礼会	
文化祭	150,000
クリスマス	300,000
	200,000
	計 ¥650,000
2. 文化活動委員会	
美術(創作)(鑑賞)	30,000
写 真	10,000
懇話会	40,000
俳 句	10,000
麻 雀	20,000
囲 碁	50,000
ゴ ル フ	40,000
将 棋 会	30,000
歩 く 会	100,000
ビ デ オ	20,000
雑 費	50,000
	計 ¥400,000
3. 会報委員会	計 ¥500,000

先日のアンケートの集計と、3月20日の行事委員会、27日の文化活動委員会の協議の結果により、新しい委員会構成ができました。

趣味の部会の場合は、部員になっても、行事の案内だけをご希望の方のリストは別にありますので、その都度ご案内はさし上げます。なおこの表に間違いや、記載もれのあった場合、その他不明の点がありましたら、ご遠慮なく事務局の木村までお申出下さい。



＝ 月次会報告 ＝

(11月) 最近の中近東・ヨーロッパ  
・アメリカの事情

講師 桐生整染商事株社長  
阿部 高久氏



毎年、アメリカ・ヨーロッパ・中近東を回っている。今年は9月3日から10月16日までの約40日間で一周りして来た。

中近東はイスラムの教えの生きている国である。商談をしても一日五回の礼拝の時間になると手と顔を洗ってモスクへ行ってしまう。ハジは1ヶ月間の断食をする。

複数(4人まで)の妻を持つことが許されるが、実はこれは大変なことである。全員を物質的にも精神的にも公平に扱えるなら、という条件つきなのである。バイヤーに自宅へ招待されても、女性は絶対顔を見せない。食事をはこぶのは男性、精々、女性は隣の都屋からのぞいている程度。

犯罪に対する処刑は厳しい。盗みをするとその程度によって、公衆の面前で広場で、手か腕をバツサリやられる。従って、金を落しても必ず戻る。

ホテルで枕の下に小銭をおいてもうけとらない程だ。酒や水着姿の女性の写真などは厳禁。

中近東市場で商売でもっとも日本を厳しく追い上げているのが韓国。繊維も61年までは何とか日本が優位であったが、今は60～70%が韓国品に決められてしまった。

※以上のような興味深い話を聞かせていただいたが紙面の都合で、ごく一部だけしかご紹介できないのが残念。

新年互礼会

新年互礼会の参加者は年々増えているようで、大変嬉しいことです。



社員 大沢市長のあいさつ

桐生倶楽部クリスマス祭

例年通り、今年も12月10日(土)、恒例のクリスマス祭が行われ、参加者76名、大変にぎやかでした。



讃美歌の合唱



人気の福引



今年のサンタさんは誰?



# 社員のページ

丸山 貞夫

## 川村佐助翁頌徳先韻

齡登米寿不知年 齡米寿を登り年を知らず  
 積善營營余慶全 積善營營として余慶全し  
 開拓難聞真幸福 難聞を開拓して真に幸福なり  
 市民名譽醉芳筵 名譽の市民として芳筵に酔う

## 川村佐助翁頌歌真韻

川夫子 川夫子  
 川夫子 川夫子  
 寧偉哉 なんと偉なる哉  
 九句聖蹟是何因 九句聖蹟是れ何の因ぞ(九十才)  
 其生立当貧苦辛 其の生い立ちまさに貧にして苦辛なり  
 少小出京奉公身 少小にして出京奉公の身  
 成年番頭在風塵 成年にして番頭風塵に在り  
 於桐城自營獨立 桐城に於いて自營独立す  
 創業守成氣自純 創業守成氣自ずから純なり  
 茶桶相場變動親 茶桶相場變動に親しむ  
 物心一如自悟入 物心一如自ずから悟入す  
 最高道德眼界新 最高道德眼界新たなり  
 秋尊述曰遺教經 秋尊の遺教經に述べて曰く  
 知足人雖貧心富 足るを知る人は貧なりと雖も心富めり  
 不知足者雖富貧 足るを知らざる者は富むと雖も貧なり  
 謙素報恩献金頻 謙素報恩献金頻りなり  
 母遺訓銘肝最真 母の遺訓肝に銘じて真なり  
 從自然流如玉人 自然に従つて流れ玉の如き人なり  
 童顏喜色寿生辰 童顏喜色生辰を寿ぐ  
 仙翁瑞氣待千春 仙翁の瑞氣千春に待す

## 悼川村佐助翁庚韻

聞訃驚嘆氣不平 訃を聞いて驚嘆し氣平らかならず  
 病容急変愁生 病容急変して暗愁生ず  
 三更不睡惚声貌 三更ねむらず声貌惚ぶ  
 寒夜竜鐘双淚横 寒夜竜鐘として双淚横たわる

## (二) 支韻

何料茫然自失痴 何ぞ料らん茫然自失の痴  
 訃音如夢不堪悲 訃音夢の如く悲しみに堪えず  
 永年敬愛交遊尽 永年の敬愛交遊尽く  
 長恨茫茫憶往時 長恨茫茫として往時をおもう

## (三) 先韻

故旧交情三十年 故旧交情三十年  
 何國聞訃恨綿綿 何ぞ國らん訃を聞き恨み綿々たり  
 九句祝賀空理志 九句の祝賀空しく志を埋む  
 遠愛音容在眼前 遠愛の音容眼前に在り

## 皆既月蝕

## (二月二十一日) 支韻

小院幽香梅一枝 小院幽香梅一枝  
 月輪耿耿映吟帷 月輪耿耿として吟帷に映す  
 三更不睡坐床上 三更ねむらず床上に坐す  
 皆既陰陰固怪奇 皆既陰々としてまことに怪奇なり

平成元年一月

## 漢詩の韻について

中国語で子音のことを「声」、母音のことを「韻」といい両方を合わせて文字の発音のことを「声韻」という。漢詩とは、ごく大ざっぱに言えば一句の字数がきまっていて押韻(韻をふむ)したものである。韻の数多くの種類があり、先韻・真韻などはその一つである。先韻の詩なら、先韻に属する文字、年・善・難・蓮等々を用いて作る。

※ 丸山貞夫社員より…1月に川村佐助翁頌徳の詩二首が寄せられました。ところが翌2月、川村翁が急逝され、丸山社員は大驚駭かれ、急速追悼の漢詩をお作りになり倶楽部会報委員会にお寄せいただいたので、今号で頌徳・追悼の詩を一緒に掲載いたしました。

なお、珍しい皆既月蝕の詩も丸山社員の作です。合わせてご鑑賞下さい。



# 歩く会 (12月例会)

## 遠山記念館と蔵の街「川越」



蔵の町らしい資料館

12月の例会は、「歩く会」「懇話会」「美術部会」共同の企画となった。12月11日(日)、桐生倶楽部に7時集合、大型バスで先ず遠山記念館へ。記念館は川越の手前、埼玉県川島町にある美術館。ここを見学してから川越市へ。喜多院をはじめ、小江戸といわれた古い城下町らしい街並みを散策、天候にも恵まれ楽しい一日であった。

# 〈1月例会〉 1月15日

## 上州の古碑と馬庭念流道場開き

1989年「歩く会」の幕開けは、上信電鉄に乗って根古屋駅下車、金井沢碑を見てから、高崎自然歩道の雑木尾根を歩き、万葉歌碑や郷土ゆかりの詩人・俳人の碑が並ぶ「石碑(いしぶみ)の道」を経て、山ノ上碑から山名八幡宮へ行き初詣。そして山名駅の二つ先の馬庭駅までまた上信電鉄。

ここは有名な「馬庭念流」の道場のある所。古式通りの珍しい道場開きを見学でき、まことに盛り沢山のコースであった。



馬庭念流道場



独特の防具をつけての稽古

# 〈2月例会〉

## 春を呼ぶ花、マンサクを訪ねて

マンサクは「先ず咲く」花の意味から、こう呼ばれるようになったと言われる通り、春一番に咲く細いリボン状の黄色い樹の花。2月はこのマンサクを訪ねて菱の仙人ヶ岳へ登った。



帰路の朝日沢林道には雪が残っていた。

# 〈3月例会〉 福寿草の四阿屋山と

## 秩父観音札所詣



四阿屋山頂にて



# 桐生倶楽部句会

## (十一月)

豆柿の家並の続く陶の里  
 湯豆腐に一期一会の酒を酌む  
 明神の池鎮りて時雨さぬ  
 天神の公孫樹を染めて時雨かな  
 夕時雨次々赤し信号機  
 庭落葉掃くにちびたる竹箒

小池 本田 斎藤 吉成 清水 須賀

## (十二月)

街角の女三人着ぶくれ  
 山眠る小鳥は木々をとび伝い  
 しばらくは入日まばゆき師走かな  
 上毛の野は風ばかり山眠る  
 日めくりの頼りげなくて師走かな  
 熱瀾の冷えし夜更の打碁かな  
 親子して首まで浸る柚子湯かな  
 熱瀾や襟足匂ふ枝は無心  
 二本目は熱瀾とせん越の酒  
 坑道の鉄路もさびて山眠る

遠藤 清水 須賀 久保田 斎藤 森 小池 吉成 本田

## (二月)

年賀状だけの縁となりしかな  
 滋味溢る佳句のひと筆師の賀状  
 松焚いて昭和の御代を送りけり  
 墨痕やこれぞ破なり年賀状  
 着ぶくれの負いし背の子も着ぶくれ  
 寒の雨大帝 静かに逝き給ふ  
 捨てられし鉢に寒菊残り咲く  
 着ぶくれで立ち居のさまの老ひしこと  
 賀状来し昔の女は孫日より  
 足許をとび立つ一羽寒雀

久保田 本田 斎藤 森 高木 小池 吉成 清水

## (三月)

春寒の軒に日のさす別れかな  
 豆まきの声かすかなり町あかり  
 子は画帖父は句帳の梅見かな  
 六十路きて手に余りたる年の豆  
 青春を共にし梅も老いにけり  
 打ち揃い故母に参りぬ梅の寺  
 染売り今年も来り梅の怪  
 室咲きろ前列に置き積木市  
 梅便りいて湯の宿をとりしとか  
 春寒や大病院の灯ひとつ  
 初孫に雛送りしと妻の顔

高木 小池 斎藤 吉成 須賀 遠藤 久保田 本田 森 小池

## (川村名誉社員追悼句)

足るを知る九十路に薰る梅の花  
 音もなく梅開く朝訃報あり  
 春寒や別離の棺の蓋の音

斎藤 森 小池



新年句会 (於芭蕉)

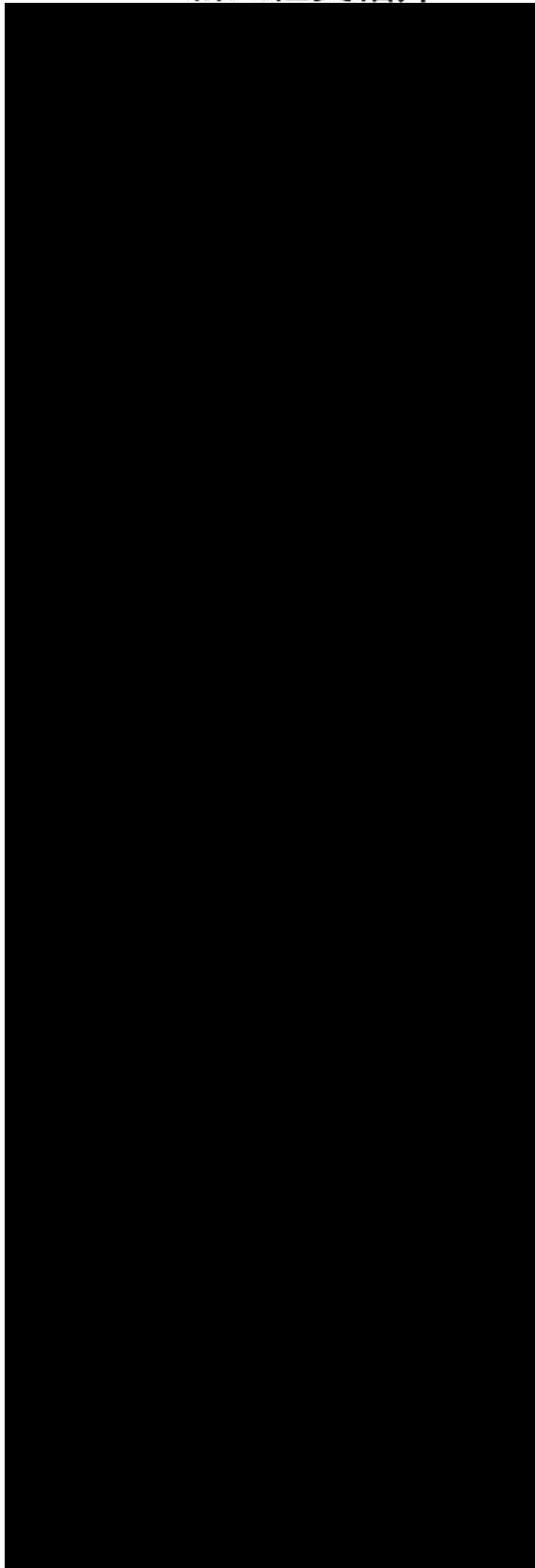
## 1989年度「歩く会」行事予定表

- 6月11日(日) みやまつツジの花盛り榛名掃部ヶ岳から、杖の神峠へ花をたずねるツアー。
- 7月30日(日) 高山植物花盛りの安達太良山と「智恵子抄」の二本松散策。
- 8月 休会
- 9月10日(日) 倶楽部月次会を兼ねる。  
下野の歴史探訪と黒羽グルメ旅行。
- 10月8日(日) 紅葉の庚申山
- 11月12日(日)

- 桐生川の源流、沢登りの根本山、(桐生川源流林は日本の森林浴の森百選の一つです)
- 12月10日(日) 懇話会・美術部会と共同企画  
美術鑑賞のバスツアー、笠間日动画廊美術館、益子参考館(浜田庄司の住居)

※以上の予定表のように、歩く会は毎月行事を実施しておりますが、社員全部にその都度通知はしておりません。もし、いままで通知が来ないが参加したいという方は、その旨事務局へお申し込みただければ、今後毎月のご案内をさし上げるようにいたします。

— 新入社員紹介 —



— 倶楽部だより —

◎12月

理事会 (8日)

クリスマス祭 (10日)

歩く会 (11日) 歩く会・懇話会・美術部合同

「遠山記念館と蔵の町川越」

俳句会 (28日)

平成元年

◎1月

新年互礼会 (4日)

理事会 (9日)

監査会 (12日)

歩く会 (15日)「上毛の古碑・城址と馬庭念流」

俳句会 (26日)

歩く会世話人会 (27日)

臨時理事会 (30日)

定時社員総会 (30日)

◎2月

理事会 (8日)

歩く会 (12日)「マンサクの咲く仙人ヶ岳へ」

歩く会世話人会 (27日)

俳句会 (28日)

◎3月

会報委員会 (3日)

理事会 (7日)

歩く会 (12日)「福寿草の四阿屋山と秩父観音礼詣」

会館増築工事完了

桐生倶楽部会館一階ロビーから廊下づたいに奥へ入った所に、新しい立派な部屋が出来上がりました。とりあえずはロータリークラブが使用しますが、来秋には桐生倶楽部社員が自由に使えるようになります。



社団法人 桐生倶楽部会報 第 56 号

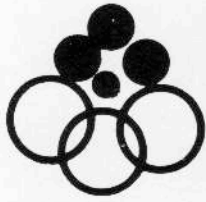
1989年 (平成元年) 4月発行

発行人 平野元吉

編集責任者 小池久雄

印刷 ツボノ印刷株式会社





〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 桐生のあゆみ

### 御吉例御旗絹の由来

(ごきちれいみはたぎぬ)

江戸期、桐生織物業が発達した一因に、桐生領54ヶ村が、御旗絹上納の土地であったことがあげられる。御吉例御旗絹の由来は一。

#### (1) 桶狭間合戦

永禄3年5月22日、三河国桶狭間の合戦において今川義元の旗下であった徳川家康が敗戦中、三州大樹寺で生害に及ぼんとした時、大久保彦左衛門が生害するよりは敵中にて討死をとすすめ、具足箱にあった絹に麒麟離土・欣求浄土(おんりえど・ごんぐじょうど)という八字を書き、これを御旗として再び戦場に出たが命を拾った。この絹が上州桐生絹であったという。

#### (2) 関ヶ原合戦

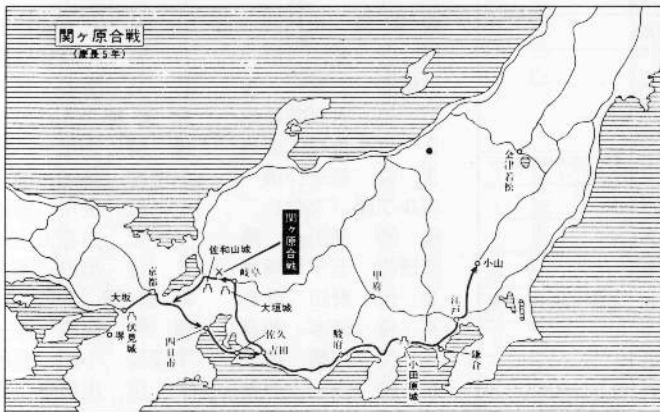
慶長5年7月24日、徳川家康は奥州会津に在国する上杉景勝を討つべく、下野小山に着陣した。その時、上方から石田三成挙兵の報を受けた。家康は三成討伐のため引き返すことになるが、戦場に

必要な御旗絹の御用を、桶狭間の吉例があるので桐生領54ヶ村に注文、桐生では昼夜織立、1機につき1疋宛、2,410疋を織出し(ということは当時桐生領には2,410台の織機があったことになる)、下久方村天満宮拝殿に一同持寄り、戦勝を祈願し、旗竿を添えて献上した。天下分け目と言われた関ヶ原の合戦に徳川家康が大勝利をおさめたのはいうまでもない。

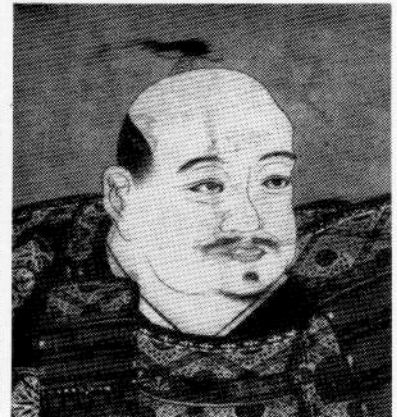
以上のように桐生絹を御旗絹(軍旗)に使うことが、家康にとって吉をもたらすことであった。そのため、以後も桐生領54ヶ村は毎年2,410疋の旗絹を租税の一部として幕府におさめることとなった。これは領民にとって負担でもあったが、助郷(労役)その他の課税に特権が与えられ、桐生織物業発展に役立った。

そればかりでなく、桐生領54ヶ村が御吉例御旗絹上納の地であることで、幕府に対し特別の配慮をさせるようになる。江戸期、桐生からの各種の嘆願書(奉行所宛)には必ず、桐生領54ヶ村は御吉例御旗絹上納の地という文言が入り、桐生領からの嘆願は特別に取り扱われたようである。

御旗絹は徳川のためだけでなく、桐生の織物業にも吉をもたらしたわけである。



関ヶ原合戦図



徳川家康



# 第15回 桐生倶楽部文化祭

今年の桐生倶楽部文化祭は、4月27日の俳句会にはじまり、5月14日のガーデンパーティまで、18日間にわたって各種行事が展開された。

特に、12日から14日までの3日間は、全館を使って、絵画・陶器・俳句色紙・華道・写真・歩く会記録等、会員の作品の展示があり、最終日はビデオ観賞会・お茶席・ガーデンパーティが開催された。

ガーデンパーティには約80名の参加者があり、席上社員の中で、昨年中に叙勲・国家褒賞を受章をされた方、勲三等旭日中綬章の小山利雄社員、藍綬褒章の金子匡男社員のお2人に平野理事長から銀盃が贈られた。

また、各競技会の入賞者の成績発表と賞品授与が行われた。



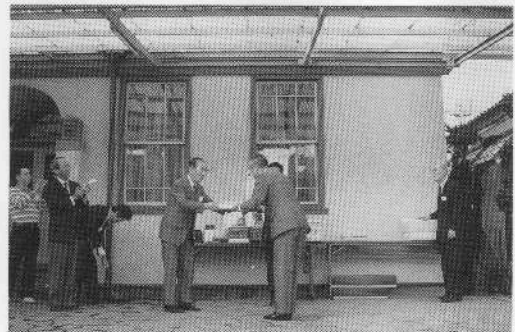
ガーデンパーティの乾盃



銀盃を贈られたお2人



社員の作品が並ぶ



賞品授与

## 文化祭協賛行事及催物一覧

俳句会	4月27日 PM 6:00~	於 芭蕉	
囲碁大会	4月29日 AM 10:00~	於 6号室	
ゴルフ大会	5月11日 AM 7:30~	於城山 カントリー	
麻雀大会	5月12日 PM 6:30~	於 朋友	
将棋大会	5月13日 PM 5:00~	於 6号室	
歩く会	5月14日 AM 9:00~	桐生倶楽部 集合	桐生自然観察の森から 高妻山ハイキング
絵画展	5月12日~5月14日 AM 10:00~PM 5:00	於 広間	
陶器展	5月12日~5月14日 AM 10:00~PM 5:00	於 広間	
俳句色紙展	5月12日~5月14日 AM 10:00~PM 5:00	於 広間	
華道展	5月12日~5月14日 AM 10:00~PM 5:00	於 広間	田沼宗喜社中協賛
写真展	5月12日~5月14日 AM 1:00~PM 5:00	於 1号室	
歩く会記録展	5月12日~5月14日 AM 1:00~PM 5:00	於 1号室	
ビデオ観賞会	5月14日 PM 1:00~PM 4:00	於 ロビー	1988年創立17周年 大川美術館開館 1988年桐生倶楽部文化祭
お茶席	5月14日 PM 1:00~PM 4:00	於 6号室	表千家飯山宗直協賛
ガーデンパーティ	5月14日 PM 4:30~	於 庭園	

## 文化祭協賛各部大会入賞者

囲碁部 (4/29)	10 位	八木橋祥介	
優勝	蓮沼 源一	B B 丹羽興四郎	
準優勝	広瀬 進	B M 金谷 善介	
1 位	吉成 敏郎	麻雀部 (5/12)	
2 位	倉林 俊雄	優勝	金子 宏
3 位	福永 儀一	準優勝	蓮沼 源一
ゴルフ部 (5/11)	1 位	笹川 勝正	
優勝	養田 隆	2 位	白石太市郎
準優勝	五十嵐健雄	3 位	出口 幸夫
3 位	野口 眞光	将棋部 (5/13)	
4 位	清水 邦彦	優勝	(蓮沼 源一)
5 位	片柳 康宏	準優勝	小山 利雄
6 位	岸 稔	3 位	出口孝二郎
7 位	川島 康雄	4 位	三田 章
8 位	倉林 俊雄	5 位	平野 元吉
9 位	米田 壽穂		

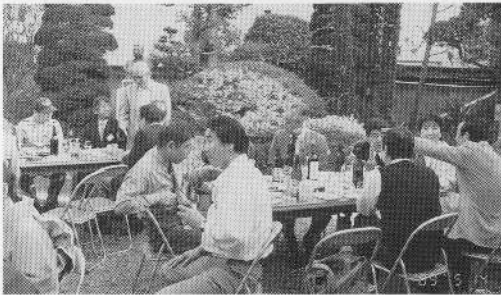




お茶席をもっていたいた飯山宗直一門



ご自分の作品の前で



ガーデンパーティ (1)



パーティの片付けも終わってほっとした行事委員の皆さん



ガーデンパーティ (2)



パーティのあとも一局

### 桐生倶楽部文化祭美術展

韻貞

芸道争妍妙入神 芸道妍を争い妙神に入る  
 芳菲漾漾賞心新 芳菲漾々として賞心新なり  
 到来尽是風流客 到来す尽く是れ風流の客  
 此処應無失意人 此処まさに失意の人無かるべし

### 桐生倶楽部庭宴

(ガーデンパーティー)

韻麻

新緑薫風庭内譚 新緑薫風庭内かまびすし  
 佳肴快飲醉韶華 佳肴快飲韶華に酔う(しようか  
 年々歳々相親愛 年々歳々相親愛す  
 双鳳残年寿色加 双鳳の残年寿色加わる(老夫婦の)  
 春の光)

### 桐生倶楽部文化祭終

韻先

行事尽終侍宴筵 行事尽く終わり宴筵に侍す  
 論功行賞喜無辺 論功行賞喜び辺無し  
 举杯來客人皆醉 杯挙げて來客人皆酔う  
 先輩遺勳豈偶然 先輩の遺勳豈偶然ならんや

平成元年五月 丸山貞夫



## ＝ 月 次 会 報 告 ＝

### 〔4月〕 ネパール、タイ 経済事情について

講師 桐生商工会議所青年部長  
（兼）オリエンタル代表社員

能 沢 孝 博 氏

4月の月次会は、最近ネパール・タイの視察をしてきた能沢孝博氏を講師にお願いしました。能沢氏は、桐生商工会議所の青年部長であり、今回の青年部として第5回目の海外研修事業、視察団の団長でもありました。

ネパールは、世界の屋根と言われるヒマラヤ登山の基地として日本にもなじみの深い王国です。空から見たヒマラヤの山々、珍しいネパールの風俗などをビデオを拝見しながら説明していただきました。

また、日本企業の投資ラッシュが続く、アジアでも最も注目されるタイの経済事情の視察談を聞かせていただきました。

\*\*\*\*\*

### 〔6月〕 ことばの障害児 について

講師 群馬県立波良瀬養護学校

校長 半 田 延 邦



半田延邦先生（校長室にて）

半田延邦先生は県下でも特殊教育のエキスパートとして知られています。特にことばの障害児の治療を研究され、桐生市教育委員会の「ことばの教室」の責任者でありました。

6月の月次会は、半田先生をお招きして、この

問題についてお話しをいただきましたが、会員家族の方々も多数参加されました。

◎私たちは「読む書く」ことには熱心ですが「聞く話す」は学校入学以前の事のように片付け、聞き方が悪いと態度に問題が、話しべたですと性格上の問題だとしてしまうことが多いようです。私たちは、人の話しを聞くことの大事さを今一度考えて見てはいかがでしょうか。聞くためには注意の集中と持続が要求されます。聞き方の手本は親や大人達です。親が良い聞き役になる努力が、子供の話し言葉を育てる力となり、聞き方、話し方の上手な子供をつくります。

◎人間が言葉をしゃべるとき、口の奥を動かし記号として（内言）信号を脳に記憶させます。知能の発達を促す上で言葉は大事な働きをします。

◎口腔や唇、舌、歯等は言葉をしゃべるときの道具ではなく、本来は呼吸をしたり食物を食べるときの道具です。それを借りて言葉をしゃべっている訳ですから、病気など生命にかかわる状況では言葉を話す余裕などありません。ですから言葉は一種のレジャー活動のひとつといえます。情緒の安定が言葉の発達に深く影響している訳です。

◎言葉のでの順序を見ると最初にバ、マ行、次にタ、カ行、そしてハ、サ、ラ行が出るのが一般的です。なぜなら、母親の乳房を吸うことで唇が発達しバ行の準備が整い離乳食を飲み込むことで口蓋が発達しカ行が発音できるという具合に、生理的発達と深くかかわっているのです。言葉の障害は、成長発達の過程で器官発育が不完全であったり、パーソナリティに問題があるとか病気をしていたなど悪い条件の場合に障害が起こる訳です。

◎言葉の発達途上で話しの内容でなく、しゃべり方に注意を向け「けち」をつけ過ぎると吃音になることがあります。言葉の問題についてお話しして来ましたが、子育ての基本は、良い言葉を育てることだといってもよいと思います。そして具体的には聴覚を充分活用し、良い言葉を数多くインプットできる環境づくりが大切だということになります。言語治療の場合でも聴能訓練が最も重要な治療技術のひとつなのです。



## 社員のページ

### 共に生きる街づくり

桐生市ボランティア協議会  
会長 宮地 由高

「共に生きる街づくり」を合言葉に、市内25のボランティアグループが中心になり設立された桐生市ボランティア協議会は、今年で11年目を迎えました。主な活動は、身障者と健常者との交流と理解を計ることを目的としたV協ハイキング、ボランティア精神の普及、啓蒙を目的とした福祉映画会、色々な福祉施設や障害者団体からの要請に応えるボランティア派遣事業、会の活動資金集めの為のバザー等々様々な活動を行なっております。そうした活動を通して沢山の感動を得る機会に恵まれますが、その内の一つをここで披露させていただきます。

確か、3年前のことでした。東村黒坂石キャンプ場にて、身障者58名、ボランティア82名総数150名参加のV協ハイキングが開催され、賑やかにゲームやおしゃべりを楽しんだ後、皆んなで昼食の準備に取りかかった時のことです。

メニューは、カレーライスとハンバーグ。カレーライスは誰にも好まれ、流動食ですのどに突っかからず障害者にも食べやすい点。ハンバーグは、ヒキ肉とパン粉をまぜ合せ、形を整えるのに手足が不自由でもさわったり、こねまわしたり食事作りに全員が参加できる点等、毎年恒例となっております。

身障者にとって食事作りの機会はそう多くはありませんので、それはそれは楽しく、身障者もボランティアも和気藹々の内に食事作りが進められます。

身障者の一人で、孝子さんという女性が居ります。彼女は幼児期、小児マヒの為、現在は車椅子生活を余儀なくされ、手足が不自由なだけでなく口を動かすことさえ大変な少女です。でも電動車椅子を上手に操って積極的に生きている明るい人です。

彼女がボランティアの介助を受けながらハンバーグをこねている時のことでした。「孝ちゃん、普段ハンバーグを作ったことがないから楽しいだろう」と声を掛けますと、彼女は不自由な手足口

を動かしながら、それぞれ全身を使ってゆっくりと答えてくれました。「普段こうしてハンバーグをこねたりする機会がないし、沢山のボランティアの人達と一緒に作って作るから楽しい。でもそれだけでなく、皆んなの為に作れるからもっと楽しい。」この言葉を聞いた時、貴女はなんと広い心をもった、なんと暖かい心をもった人なのか、それに引き替え、自己中心で、己れの欲望を満たすことに汲々とした人間のなんと多いことか。

あなたはメガネをかけていませんか(視力障害者)腰や背中や肩が痛くなったことはありませんか(身体障害者)自分だけがよければ良いと考えていませんか(精神障害者)

彼女は私達に沢山のことを教えてくれます。障害をもっている者ももっていない者も、共に生き、共に幸せになれる街これが私達の願いです。

\*\*\*\*\*

### 私と桐生倶楽部

蓮 直孝

桐生青年会議所(JC)は毎年血液の不足しがちな時期である7月に、桐生倶楽部をお借りして献血を実施している。JC関係を除く一般の方々には例年20~40人くらい参加して頂いているが、ロビーから見ていると、皆さんボランティアの気持ちから献血に来たのは勿論ですが、併せて普段出入できない桐生倶楽部に入館できるからという気持ちをもった若い人が例年いるような気がしてなりません。

私が子供の頃、桐生ロータリークラブの家族会の折、倶楽部に連れられて来て、何か不気味な圧倒されるような気分の一方で、自分がそこに出入できるということに説明のつかない満足感を覚えた。しかしその後、父の死もあり中に入る機会のないまま、中学や高校時代に前を通りかかり、なんとなく気圧される雰囲気です早に通り過ぎるのが常であった。

東京での大学時代と大阪での修業時代の7年間を都会で過ごした私は、母の病気もあり生家の奈良屋を手伝うべく昭和49年に桐生に戻った。間もなく兄の卒業と同時にJCに入会し、会員として例会場である桐生倶楽部に入館し得る資格を持ったメンバーとして(一番最初はJCアジア青年の船乗船者としてであったが、)倶楽部の門をくぐるのは、私の心を非常に昂揚させた。幼年期から少年期を通じて桐生倶楽部に一種のシンボリズム

(7頁につづく)



# 歩 く 会

## 《4月例会》

### 大峰沼と吾妻耶山

4月例会は、月夜野と新治境の吾妻耶山行。一行18名、乗用車4台に分乗して、関越道の月夜野インターから、大峰開拓地の南登山口駐車場へ。暗い杉林の遊歩道から登山は始まる。間もなく斑点の雪が現われ、雑木林に変わったその木々は、芽吹く気配さえなく、冬の眠りのまゝである。緩やかに登ること約30分、古びたバンガローの点在を見ると、もう大峰沼畔である。波一つなく茶枯れた浮き島に続く対岸の斜面は一面真白な雪である。我々一行以外は人影もなく、鳥の声さえしない静寂さ。夏には賑かなのが嘘のようである。三々五々湖畔のベンチでゆっくり休憩。

吾妻耶山へは、上牧道へ少し戻って、林のT字路を左へ登る。奥利根の山が見え出すが、山頂近くは厚い雲に蔽われて、山座同定は出来ない。広い林道に飛び出して茨の道から開放されて歩きよくなる。雪の消えたばかりの道端には露のとうが顔を出し、これが唯一の春の兆しであった。足を止めながら未だ蕾の蔭のとうを、それぞれ喜々として摘む。手には春の香がいつまでも残っている。

石の吾妻耶神社の鳥居を過ぎ、寺間から上って来る林道を併せて間もなく、切り出された材木が散乱している伐採地へ。枝が道を塞ぎ登山路が判らない。歩き易い林下を選んで、漸く細くなった登山路に出る。雪が次第に道を埋め、前に踏んだ足跡もないので、また迷いもするが、見覚えのある本道に戻れてほっとする。こゝからは一しきりの急坂である。唐松の疎林から振り返ると、浅間、榛名や西上州の展望が開ける。林に入りジグザグの道の一登りで、雪の中に建つ大きな三基の石宮のある吾妻耶山頂。谷川岳はやはり頂部を雲に隠していた。石宮の台座に腰を下ろし早めの昼食。

帰路も三角点峰へ廻る尾根は雪が深そうなので登って来た道に戻ることにする。登路では見えなかった上州武尊や日光白根などの山々が姿を現わし、一応みな満足して下山の途に着く。

(藤井 記)



大 峰 沼 畔

## 《5月例会》

### 川内の里、桐生自然観察の森から 吾妻山ハイキング

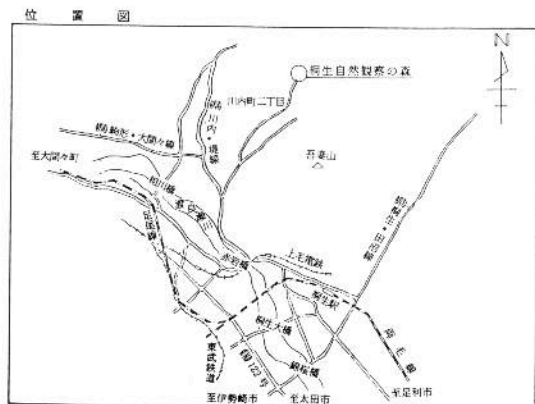
川内町2丁目に4月1日から「桐生自然観察の森」がオープンした。この森は、桐生の素晴らしい自然とのふれ合いの場であり、さまざまな植物や生物の生きている環境への理解と、生命の大切さを学んでもらう場でもある。

全国で10ヶ所、環境庁から指定をうけたうちの1ヶ所で、61年度から3年の歳月と4億の費用を要した。面積は16.24ha、施設としてはネイチャーセンター（展示ホール、レクチャールーム、談話コーナーなどがある）、自然観察路、観察舎、観察広場などがある。

総合的な動植物観察の場所、その地域の貴重な動植物を保護する場所としては県下で初めてである。5月にはカルガモの家族の姿、6月にはホタル、7月にはオオムラサキ等を見ることができた。5月の歩く会は、この観察の森を楽しんでから吾妻山に登り、山頂で中食をとり、吾妻公園にゆっくり下るハイキングを行った。



自然観察の森、ネイチャーセンターの前で





# 春の叙勲

桐生倶楽部社員3人が春の叙勲に輝きました。

## 峯岸康治氏 勲五等双光旭日章 地方自治功勞

昭和46年から16年間、市議会議員、特に56年から6年間は議長の要職にあり、桐生市のために多大の貢献をされました。

## 赤石峰一氏 勲五等瑞宝章 発明考案功勞

氏は赤石金属工業株式会社社長、昭和54年にシロッコファンで第4回発明大賞池田特別賞を受けた他、送風技術開発、送風ファンの発明では国内のみならず世界特許を数多く持っています。

## 小林茂一氏 勲五等瑞宝章 高齢者叙勲

各界で役職を長年つとめ、顕著な功績のあった満88歳以上の人をたたえるのが高齢者叙勲、小林先生は大正15年に桐生倶楽部の直ぐ近くに歯科医を開業、88歳のいまも現役で患者の治療にあたられる。これまで県歯科医師会の副会長や専務理事もつとめられました。

以上の3人の方には、来年の文化祭ガーデンパーティーの席上、桐生倶楽部より銀盃が贈られることとなります。

(5頁よりつづく)

を感じていたのは間違いない。ただその内容は非常に漠然としたものであったが。

しかしJ C入会後は、慣れと或る種の仲間意識で倶楽部は我々の例会場という感覚に陥り、今考えても気恥ずかしくくらい我者顔で使用した。

しかしJ Cで初めて理事になった頃より、J Cがあまりにも格安で倶楽部をお借りしていることを知り、なにか「すまない」という気持が強くなった。特にJ C例会時に駐車場の入口まで車で塞ぎ、倶楽部社員や他の来館者に迷惑をかけることが多々有り例会や理事会では度々苦言を呈したが今だ改善されていません。今でも大層恥ずかしく思っています。

J C卒業間際になり、これからは倶楽部に来ることも少なくなるなど思っていた矢先、先輩や友人から社員にならないかとの誘いが有り入会させて戴きました。今桐生倶楽部とは何なのだろうか。ステータスシンボルなのだろうか、それとも桐生の残さなければならぬ先人達の残した文化遺産なのだろうか。どちらも合っているようで違っているような気がします。今私は漠然としてですがこの建物を基にした人の輪こそ、桐生の文化の将に中心にならなくてはと思っています。

# 桐生倶楽部句会

## 三 月

軒深く海の匂ひの目刺買ふ  
葉こげてなお連なりし目刺かな  
一連の目刺を余す侘住居  
黄帽の列さざめきて山笑ふ  
単身の勝手は飽し目刺かな  
峠道や目刺の燻る宿ありき  
春雨に木の芽たりしあしたかな  
桑の木の芽吹きしままを引抜かる小

## 四 月

草の餅幼児の摘める草も入れ  
朝寝床吾が宇宙とも浄土とも  
草餅の指跡深し母のもの  
大振りの草餅同じ故母(はは)の里  
風光る胸に名札の新入生  
草餅に淡き夕日や父母の墓  
風光る山頂に汗を拭ひけり  
祝(はぎ)の座に母の手作り草の餅本  
草餅の歪む厚さも郷のもの  
朝寝して覚めゆく時を愉しめり  
雪消えし道辺に並ぶ露の聲  
草煮る十時の草餅職人と

## 五 月

道問へば摘みし蕨で指しにけり  
新茶なれ急須の終ひの滴まで  
山里の粗き上りの新茶かな  
茶柱の立ちしを妻に朝新茶  
街路樹の若葉はなやかく夜となりぬ  
足跡を辿りし寺に新茶かな  
便り書く窓に若葉の影ゆれて  
小雀が親を呼ぶ声柿若葉

## 六 月

桑の実を落つるにまかせ過疎の村  
書を措きて梅雨のくらくらと眼鏡拭く久保田  
オルガンの静かな調べ梅雨の葬  
梅雨寒や紐のどれたる羽織着て  
梅雨続くチヨークの薄き伝言板  
落葉松の柔き若葉や早瀬音  
小糖雨梅の実をもぐ頬かぶり

## 尾澤 弘一氏 消防防災功勞

桐生市消防団副団長

## 星野 弥一氏 衛生功勞

県浄化槽協会副会長

## 森 喜美男氏 林業功勞

日本椎茸農業協同組合連合会理事

## 山根 波次氏 商工功勞

桐生商工会議所副会頭

## 福田 章氏 土木功勞

県建築士事務所協会副会長

# 群馬県総合表彰

県政や地方自治・民生・教育・文化・産業などの各分野で、永年にわたって地道な活動をし、社会的に貢献した人々を顕彰する「県総合表彰」に、本年は7人もの桐生倶楽部社員が対象となりました。心からお祝いを申し上げます。

## 設楽 実氏 私立学校教育功勞

桐生ドレスメーカー専門学校設置者

## 久保田彰一氏 税務功勞

関信越税理士会県支部副会長

## 貴重な文化財 桐生倶楽部会館

2ヶ月ほど前の中央紙群馬版に、「大正の洋風建築復活」という見出しで、太田の「旧金山図書館」の改修工事が終了し、正面玄関前に新たにガス灯も設置され、大正時代の美しい洋風建築がよみがえったという記事が出ていた。

太田市本町にある「旧金山図書館」は、太田市の文化財指定建造物になっているものだが、桐生にも多少の縁がある。

この図書館は、明治から大正末期にかけて政治経済、教育各分野で活躍した葉住利蔵氏（大正15年没）が、私費を投じて大正11年に建設した。英国式建築を取り入れた洋風建造物で、明治大正時代の建物としては太田市内に残る唯一のものである。

葉住利蔵氏は県議から後に衆議院議員となった人で、東武線太田駅を作ったり、利根発電に関係し、東京電力の大株主でもあった。氏の二女が桐生で薬局を開いた葉住よねさんであり、現在小暮医院の奥さん芳子さんは利蔵氏の孫にあたる。

太田市では、この建物を昭和57年3月に文化財に指定したが、雨漏りもするし、壁や板張りの外装などの傷みが進んだので、昨年秋から1千万の工費をかけて改修をしたものである。

桐生倶楽部の会館は大正8年の建設、社員の皆さんが誇り得る建造物であり、市の文化財指定はうけていないが、社員のみならず広く市民が文化財として認めているものである。

太田の「旧金山図書館」の件を知り、桐生倶楽部会館の貴重さを再認識される人が多いだろうと思う。歴代の理事長、社員が大切に守って来たこの会館をこれからも一層大切にしていきたいものである。  
(小池)



復元の改修工事が終わった旧金山図書館

## ⅢⅢⅢ 新入社員紹介 ⅢⅢⅢ

## ⅢⅢⅢ 倶楽部だより ⅢⅢⅢ

### ◎ 4月

- 歩く会 (9日) 「吾妻耶山と大峰沼」
- 理事会 (10日)
- 歩く会世話人会 (14日)
- 月次会 (20日) 「ネパール・タイ経済事情について」講師 能沢 孝博氏
- 俳句会 (27日) 於 芭蕉
- 囲碁会 (29日) 文化祭協賛囲碁大会

### ◎ 5月

- 理事会 (8日)
- ゴルフ会 (11日) 文化祭協賛ゴルフ大会  
於 城山CC
- 文化祭 (12日～14日) ガーデンパーティ (14日)
- 麻雀会 (12日) 文化祭協賛麻雀大会 於 朋友
- 将棋会 (13日) 文化祭協賛将棋大会
- 歩く会 (14日) 「桐生自然観察の森から  
吾妻山ハイキング」
- 俳句会 (26日)
- 歩く会世話人会 (29日)

### ◎ 6月

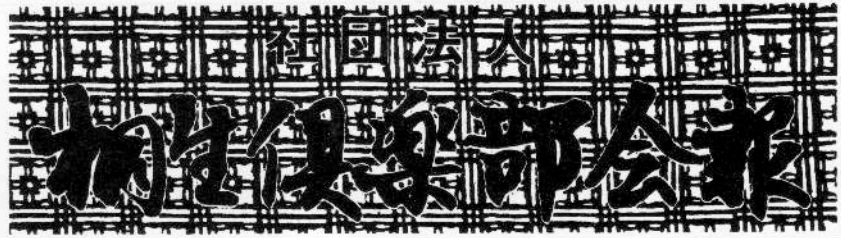
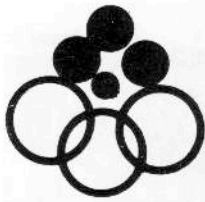
- 理事会 (15日)
- 俳句会 (22日)
- 月次会 (27日) 「ゴトバの障害児について」  
講師 半田 延邦氏

### ◎ 7月

- 会報委員会 (7日)
- 理事会 (12日)
- 歩く会世話人会 (14日)
- 月次会 (20日) 「祇園祭と屋台彫刻」  
講師 小林 一好氏
- 営繕委員会 (25日)
- 俳句会 (27日)

社団法人 桐生倶楽部会報 第 57 号  
1989年(平成元年)7月発行  
発行人 平野元吉  
編集責任者 小池久雄  
印刷 ツボノ印刷株式会社





〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 桐生のあゆみ

### 絹市(きぬいち)、紗綾市(さやいち)

#### —織物の商品としての取引—

桐生領が租税の一部として御旗絹を上納した経緯については前号に記したが、その旗絹の上納が絹の代金を納めるように変わったのは、正保(1644年)のころらしい。物納よりも金納が便利なのは当然であり、また正保の頃となつては徳川幕府もすでに3~40年余を経過し、天下は太平となり、貨幣の使用普及が急速に発達、いわば貨幣経済の時代に入ったためでもあった。

市(いち)は都市生活に欠かせないものであつて、桐生新町成立の当初は天満宮社前に開かれ、雑穀・野菜・魚介・雑貨・小間物・衣類などの日用品の売り買いが主であつた。しかし正保以後、桐生絹が金納になってからは、商品としての織物の取引が多くなり、市は絹市(元文以降は紗綾市)と呼ばれるようになり、市日も定まった日に開かれるようになる。それが六斉市(ろくさいいち)である。



紗綾市の絵馬

六斉市とは1ヶ月のうち六日開く市で、桐生の絹市は、天満宮の例祭日2月25日、9月9日にちなみ、毎月5日・9日・15日・19日・25日・29日の6日と定められた。

当初の天満宮社前の絹市は、後に3丁目母衣輪(ほろわ)神社境内に移り、ついで1丁目から6丁目までの循環制となった。循環制とは何日の市は何丁目というように、市の開かれる場所が循環することである。

時代はずっと下るが、天保のころの紗綾市の状況を書いたものが残っている。

「さて次の日は2丁目市になんありける。先紗綾市を初めとす。買人は絹台といえるを大路に置きて上にのぼり笠をかぶり立ならば、売人も又笠をかぶり、思ひ思ひにさしあへる。買人は又取て見る。げに眞白にぞ見えしは富士の雪かとあやしまる。程なく売買すみぬれば消えてゆくが如なりけり。」

この紗綾市の図を大出東臯(おおいでとうこう)が絵馬に書いたものが天満宮に残っている。大変有名なものだが、書かれたのは明治期である。

大出東臯は天保12年4月、江戸神田に生れ、3才の時父に連れられて桐生に来た。前原互瀬・石田九野に師事、花紋の術を学んだ。

明治初期洋画勃興期には、その影響も受けている。愛知県瀬戸に流寓し陶器の下絵を書いた不遇の時期もあったが、続く日本美術復興期には、再び世に迎えられ各地の展覧会に入賞した。

地元に残る作品としては、この紗綾市の図と、森山芳平製織の明治23年コロンブス博覧会出品の紋緞子織(現在東京国立博物館蔵)の下絵が有名。

東臯は明治38年、65才で没。



## = 月次会報告 =

〔九月〕

『初秋の風光と味覚を訪ねて

黒羽へバスハイク』

栃木県北、那須連山を望み自然の美しさと、清流那珂川に育まれた「黒羽」は静かなたたずまいをみせる街です。

武士の居宅と商人街を川で2つに分けて作られた城下町、古利、句碑、歴史の面影を残す倉造りの商家……。そして那珂川に架る築での鮎料理と盛沢山の企画を織り込み初秋の一日バスハイクの例会を行いました。

9月上旬とはいえ強い陽差しの中にも、どこことなく秋の気配の感じられる好天気恵まれ一行47名那須インターを降り、乃木神社を最初に参拝し那須神社から黒羽の街に入りました。

以下写真で楽しかった一日の御報告を致します。(今回、御夫妻での参加が圧倒的に多かったのも楽しさを一層盛り上げました。)



乃木神社

那須野ヶ原には那須連山から流れる溢れるような流れが多くあると土地の方の話。乃木神社境内を流れる川(農業用水)も満々たる清流に一行感嘆の声を上げる。(吾々の街の流れもかくありたい)

大雄寺  
カヤ葺き総門

回廊の木組



バスが黒羽の街に入り那珂川を渡り、先ず最初に訪ねた古利、曹洞宗永平寺派大雄寺。

黒羽城主大関氏歴代の菩提寺、杉木立の中、石段を登る。左右に点在する石仏、供養塔も苔むし、由緒ある寺のおもむき、ひとしを。石段を登り詰めた眼前にカヤ葺きの総門そして回廊が現れる。座禅堂、本堂、鐘楼、庫裡経蔵、整然と県の重要文化財に指定された8棟が格調高く並ぶ。

## 黒羽城址散策

黒羽城址公園は丘陵地にある。天正4年に大関高増が築城した黒羽城の面影を残した公園である。

遙かに那須連山を望み、眼下に那珂川が初秋の陽に柔らかく光り流れる。

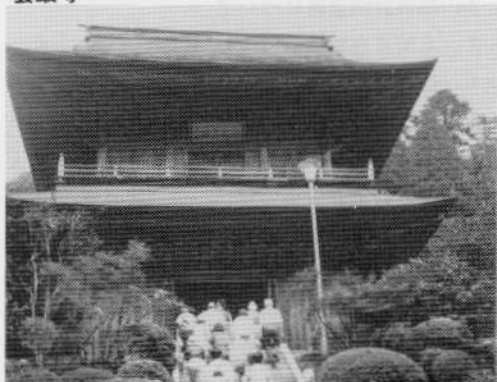
降るような蟬の声。苔むした石垣が歴史の流れをを今に伝える。



黒羽城趾散策



雲巖寺



門前に紅葉の時にはすばらしいだろうと思われ楓の大木。

谷川に架る橋を渡ると山腹に聳える山門の偉容。先程の大雄寺そしてこの雲巖寺と黒羽の名刹に皆感激。



梁にて昼食

那珂川の河原に降りる。川市いっばいの清流をわたる風も秋の気配。梁にかかる香魚に涼をもとめて鮎定食に舌鼓をうつ。(塩焼二匹にフライ一匹……もう一匹欲しかった)

黒羽の街の散策



足利銀行黒羽支店

立派な松そして倉造りの銀行。



那須國造碑(なすのくにのみやつこのひ)

日本三古碑の一つ。参観前に約40分神主より講義アリ。



那珂川の梁で昼食の後

黒羽の街の散策。倉造り商家の並ぶ街の中足利銀行黒羽支店前で記念撮影の後湯津上村に向う。笠石神社那須國造碑拝観の後、湯津上村侍塚古墳、法輪寺を訪ね那須ノヶ原一日バスハイクを無事終る。



# ＝ 月 次 会 報 告 ＝

## (7月)

### 祇園祭と屋台彫刻

講師 桐生市文化財調査委員  
小林 一好氏



7月例会は、祇園祭・桐生祭が近くなったので、小林一好先生を講師に迎え、桐生の祇園祭の歴史と、本町通りの各町会に残る屋台の彫刻についての話をしていただいた。

かつて祇園祭が桐生でも華やかであった時代、各町の祇園屋台が飾られ歌舞伎が上演されたものであった。その屋台も今ではしまいこまれたままになってしまった。ところが、本年の天王町である本町4丁目では、約30年ぶりにその屋台を組立て、芝居までやることになった。まことに嬉しいことである。

4丁目の屋台の豪華な彫刻は藪塚本町山の神住の岸亦八の製作。名人岸亦八の作品で桐生に現存するものは4丁目、5丁目、6丁目の屋台、美和神社、観音院の彫刻とのことである。他に恵比寿・大黒の小品がいくつかあって、個人の所有となっている。

六丁目	五丁目	四丁目	三丁目	二丁目	一丁目	屋台
慶応三年六月新調	安政六年六月新調	明治二年六月棟上	安政六年八月?	明治二十年十月棟上	明治十二年七月新調	製作年月
?	?	鈴木喜七	山田慶次郎	大工棟梁	金子惣次郎	金子惣次郎
岸亦八	岸亦八	岸亦八	石原常八	高松政吉	高松五助	彫刻棟梁
?	中沢雪城	山口江村	小野湖山	高林五峯	米翁	屋台観筆者

### 祇園屋台の彫刻

## (10月)

### 桐生市の都市計画について

講師 桐生市都市計画部長  
糸井徳三郎氏

60名をこえる社員が集り、大変な盛会であった。糸井部長から立派な桐生市の都市計画図が配布され、以下の項目についての説明があった。

1. 桐生市の現況について
2. 都市計画道路について
3. 北関東自動車道について
4. 都市公園について
5. 下水道事業について
6. 区画整理事業について

北関東自動車道については、つい先日藪塚と太田只上の2ヶ所のインター設置が決定したこと、広域圏で問題になっている下水処理の問題等、一通り要領よく説明をされたが、内容についてもう少しわしくというには時間が足らず、参会者からもう一度こうした機会をという希望が出た。

## 〔歩く会〕

### 《7月例会》

#### 千恵子抄で名高い安達太郎山 (あだたらやま)

7月例会は福島県の名山安達太郎山へ登る。朝4時に桐生倶楽部集合、大型バスで東北自動車道を走り、二本松インターで高速をおり、奥岳温泉で下車、桐生からは240km 4時間の行程。

奥岳からリフトも利用し、約3時間半で頂上へ。頂上で中食をとり帰路につく。心配された天気もどうやら降られずに済み、全員楽しい登山を満喫した。



安達太郎山頂



# 社員のページ

## 明日への想い出

森山 亨

都心部に事務所を構えて地方を論じ、まちづくりを指導している人達と違って、先日来桐した柳川の広松伝氏の話は一言ごとに心を打つものがある。氏とは旧知の間柄だが、あの柳川の堀を埋立てから救った人で、一度お招きしようと思っていたことがやっと実現できた。

悪臭とへ泥の溜り場と化した堀の浄化作戦は何回か試みられたが全て失敗に帰し、終に正式に埋立てが決定される。今から15年前の話だ。建設省の予算も決り工事業者の事務所が市役所内に造られた。広松氏が工事担当者として配属されたのはそんな状況下だった。しかし氏は平職員の身でありながら市長以下の関係者を説き伏せて、埋立計画を撤回させ、数年後遂にあの美しい水郷を復活させたのだった。

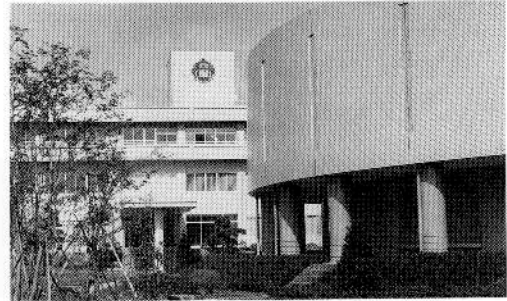
これだけの仕事をやり抜くには想像を絶する苦勞があったことは間違いないのだが、氏は自分の手柄について多くを語らない。唯「役所の決定をくつがえすことは大変ですネ」と答えただけだった。口の重い人なのだがこんなことも話してくれた。「今まで成功しなかったのは市民の協力が得られなかったからだと思いました。そこで市民に昔、堀がきれいだった頃の想い出を語ってもらいました。幼い頃堀でどんなすばらしい体験をしたかを。実は私自身の堀へのこだわりもこの原体験から生れたのです。想い出を語るうちに、堀を汚したのは自分達であり、それを昔に戻すことが今の市民の責任だと気づいたのです。成功の秘密があるとすればこれだけです。」と。

この話で気づいたことだが今の桐生の人たちは昔の栄光を語らなすぎるのではなからうか。あっても懐古趣味が多いようだ。もっと市民が昔の佳き時代の想い出を語るべきだと思う。明日への情熱を共有するために。

## 松島 巖氏 表彰

この秋の県功労者表彰を、社員の中から松島巖氏が受けられました。松島氏は関東信越税理士会県支部連合会副会長を12年もつとめられるなど、税理士業界で大きな功績をあげております。

## 桐生短期大学 創立二十五周年を迎えて



平成記念館ホール

桐丘学園は明治34年12月桐生女子裁縫専門学館として創立され、当時地方唯一の私立の上級教育機関として地方文化振興のために尽した。

この流れをくむ桐丘女子短期大学は昭和38年4月に設立され当時は被服科、食物科、生活デザイン科3学科で発足したが、地域社会のニーズに答えつつ実学実践の建学の精神を継承して今日に至り、昭和63年には創立25周年を迎えることになった。

これを契期として3ヶ年にわたる継続事業が計画された。まず名称変更としては昭和46年4月には桐丘短期大学と学名を変更して共学となったが、さらに平成元年4月には桐生短期大学として校名を変更し、さらに定員増を行なった。同時に桐丘高等学校は桐生第一高等学校と校名を変更した。この間における社会の進展は著しいものがあり、豊かな人間性の追求とハイテク時代という両極に対応せねばならない時代となった。これに対処するために学科内容を改変し、名称、専攻を新たに定めるなど思い切った変革を試みたのである。

建物も平成記念館を新設すると共に旧館も内容を一新した。記念館ホールはコミュニティホールとして地域社会と交流を計る場とし新しい大学の象徴になることを意図したものである。

昭和63年10月には記念事業の一環として、中島源太郎文部大臣を招いて教育の抱負を聞き、平成元年11月には日本女性初の元デンマーク大使高橋展子先生を迎えて国際感覚を養うなど活発な運動を展開している。



私立大学は地域の文化・学術の中心としての役割を持つとともにさらに地域社会の活性化についてもその一翼を荷なうべき時が来たように思われ覚悟を新たにす次第である。

われわれは本学25周年を迎えるに当り桐生倶楽部会員諸氏より公私にわたる御支援をいただき衷心より感謝申し上げる。

桐生短期大学の学科構成と学生募集定員

生活デザイン科 (定員60名 男・女)

インテリアデザインコース  
グラフィックデザインコース  
服飾デザインコース

生活科学科 (定員100名 男・女)

食物栄養コース  
生活情報コース  
生活経営コース

桐生学園理事長 高橋 博

常任理事 平野之吉

(桐生倶楽部理事長)

桐生短期大学長 書上誠之助



## オノサト・トシノブ展を観て

藤井 龍人

今年度の美術部の行事は、東京都練馬区立美術館で開かれている郷土の画家、オノサト・トシノブ展の観賞を主ということで参加させて貰う。10月1日、朝8時17分発のロマンスカー。切符の手配などすべて、美術部チーフの保倉君にお委せて、気軽な身一つの美術観賞行。美術館でもなければ無縁の土地である西武池袋線の中村橋駅近く、住宅街に挟まれて建つ小公園の一角、初めて訪れた練馬区立美術館である。近代的な建物の一階から始って、殆どどの展示室がオノサト・トシノブ展にあてられていた。その数133点。

私がオノサト・トシノブ氏の絵に接したのは、20何年か前のこと。桐生青年会議所の10周年記念会報の編集委員長をした折、文化の香りを濃く出したいと思い、その表紙を氏と親しかった保倉君を通じてお願いし、何回かアトリエを訪れて、心よく諒解を得た思い出からである。その頃のアトリエには、制作途中の丸と四角の絵が何枚も掛っていた。一見して織物の星紙(意匠紙)を思わせる印象が強かった。

しかし、今日の回顧展で、初期から晩年までの絵に接して、自分が知っていたのは、1960年代の限られた一時代でしかなかったことを、つくづくと感じる。初期の具象から抽象へ変化して行く過程の、1950年代後半の絵にも、織物の組織(柄)の上に円を置いた感じの、多くの絵に接して、桐生という土壌が、そこににじみ出ていると思う。生れは長野県かも知れないが、やはり、育った桐生の誇れる作家であることの印象を深くする。難しい抽象画の理論は判らないが、初めて見る超大作の迫力に圧倒され、晩年の調和のとれた色彩や、ユニークな形象に明るい楽しさもあるが、仏教の宇宙観を表わした曼荼羅にも通ずるものがあるのかも知れない。

遅い昼食を済し、午後は目黒駅から近い庭園美術館へ廻る。アール・デコの粋を尽した旧朝香宮邸を、そのまま美術館としている。今回は「江戸美術の祝祭」の表題で、江戸時代の名作が展示されていた。確かに逸品揃いだが、見終って表題に疑問が残ったばかりでなく、素晴らしい室内装飾と展示品が合わない印象も残る。広い庭園でゆっくりくつろげることは、都会の真中に居ることを忘れさせて呉れる正にオアシスである。さ程疲れもない豊かな一日であった。





俳句吟行会

国際ロータリー二五六地区年次大会の一行事として、俳句大会が行われ、桐生ロータリークラブが担当となり、九月十五日桐生に於て吟行会が行われました。当日は稲畑汀子先生(ホトトギス主宰日本伝統俳句協会々長、ロータリー俳壇選者)をお迎えし、新潟、群馬の俳友総勢二十五名が集まりました。

当日は暑い程の秋晴となり、正午桐生倶楽部集合、軽食後車に分乗して先づ鳳仙寺に向いました。坪井住職に茶菓の御馳走になってから庭を巡って句を作り、次いで梅田湖に向い湖畔の展望を楽しみ乍ら句を作りました。最後に桐生織物参考館紫を見学して四時前に吉野屋に着き句会となりました。参加者の句の互選やら、先生の特選句の発表や講評と楽しく時が過ぎ、六時より宴会となり七時半盛大裡に会を終了致しました。

会員 読経に 和してや庫裡の 法師蟬

前原梅松居

飛びまどふ 秋蝶一つ 仁王門

小池久雄

謙信も 華山歩みし 径も秋

坪井良栄

(特選) 榎の実の 香りを踏みて 寺に入る

久保田広人

講師

十六夜の 昼を遊びて 上州に

稲畑汀子

(俳句委員、久保田)



織物参考館紫にて



鳳仙寺にて

七月

黒髪の浴衣に遊ぶ風のあり  
暮仇の訪ふ頃と水を打つ  
面影を着て同窓の浴衣かな  
末の娘(こ)に眼をみはりけり初浴衣  
浴衣着て和気藹々の一家来る  
浴衣着て記念写真の留学生  
揃ひ網線(かわ)して金魚水飛沫  
走馬燈青水底の夢さそう  
水打って夜のしじまの灯を点す

八月

院長も飛入る終(つい)の盆踊  
一枚(ひとひら)の雲に宿りし今朝の秋  
秋立つやおけさ流れる越の駅  
一老の枯れた踊りも輪の中に  
秋立つや一寺の屋根の影の伸び  
音もなく木陰に消えし遠花火  
ざわめきの闇を切裂く揚花火  
手拍子も掛声もよし踊の輪  
あわれ娘(こ)よ母に抱かれよ孟蘭盆会

九月

一叢の白萩ありて暮れ残る  
童心の突き出す指に赤蜻蛉  
雲を呑み雲に呑まるる秋の月  
点と線描きてとんぼとまりけり  
眼鏡描き継煙草する夜長かな  
黄揚羽か細き萩には重たかり  
首都高の夜景鮮やか駆る夜長  
にわかなる蜻蛉の空よ夕茜

十月

朝日照る飛驒の大屋根懸栗鳴く  
赤き実を庭に散らして鳴けわし  
鮮やかに林檎皮剥く津軽弁  
秋風に木の葉惹かれて舞ひ去りぬ  
林中に影ひるかへす尉鶴(じょうびたき)  
疎ましき記事切り裂くや百舌の声

- |    |    |    |    |     |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |    |    |
|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|
| 斎藤 | 高木 | 広瀬 | 本田 | 久保田 | 小池 | 高木 | 北川 | 須賀 | 斎藤 | 森山 | 久保田 | 小池 | 本田 | 森山 | 久保田 | 小池 | 遠藤 | 吉成 | 斎藤 | 清水 | 須賀 | 本田 | 高木 | 広瀬 | 北川 | 小池 | 吉成 | 久保田 | 斎藤 | 森山 |
|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|



## 〔歩く会〕

## 《10月例会》 足尾庚申山

10月15日歩く会例会は、足尾山塊の皇海山に次ぐ第二の高峰、信仰の山、庚申山（標高1901米）であった。鉄梯子や鎖のある岩峯なので、参加者はどの位集まるか、又、全員が登頂できるかと案じながら、午前6時30分、桐生倶楽部に集合。折からの好天気誘われてか、新しい参加者も含めて16名が集まりました。早速、自家用車4台に分乗し渡良瀬溪谷を北上し、庚申溪谷に添い、銀山平を過ぎ、林道の中間点の駐車場迄約1時間。しかし、シーズン中とあって満車。やむなく2～3分戻って林道の端に駐車する。

8時、身仕度を整えて出発、紅葉の始りかけた庚申溪谷を眺めながら、天狗の投石を過ぎると一の鳥居に着く。一休みして林道より分かれて、山道に入るが、水面沢添いの明るい樹林の中を緩やかに登って行く気持のよいコース。途中、猿の伝説のある大きな鏡岩の前にて小休止する。ここからやや急な道となるが、蛙石を過ぎて程無く大きな青銅の剣のある二の鳥居に着く。ここの広場には以前立派な猿田彦神社があったとの事であるが、現在は朽ち果てた小さな祠が有るだけでした。

三年前に新築されたログハウス風の二階建の庚申山荘がここから200米先に岩壁を背にしてあります。設備の整った立派な山小屋ですが、夏のシーズンを除き無人になっています。一階の広間の大きな扉の中に猿田彦神社がまつられ奥の院となっております。最初は山荘迄と、頂上迄登る組とに分れる予定でしたが、相談の結果、全員揃って頂上へと出発。裏見の滝辺りから岩壁となり鎖や梯子を使っの急な登りとなる。木の根や鎖につかまりながら高度を上げる。岩場にて一息、頭上を見上げると深紅のもみじを通して澄んだ青空が輝いている。今迄の疲れもそよ風と共に飛んでいってしまう。御山巡りのコースと別れると岩場も終りコマツガの樹林帯となって頂上です。三角点は樹林の中で展望が有りませんが、ここから2～3分先の眺めを楽しめるピークにて昼食にする。

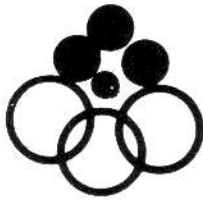
皇海山の大きな山容が赤黄緑と彩られ、又、鋸山十一峰を従え、青空の中にそびえ立つ姿に、今迄の疲れも忘れてしまう様です。全員が登頂出来た喜びをかみしめながら一步一步慎重に往路を下る。途中、庚申七滝を巡り午後3時駐車場に到着。次回の歩く会例会を楽しみに現地解散。(森口二郎記)

## ◆ 新入社員紹介 ◆

## ◆ 倶楽部だより ◆

- ◎8月
  - 理事会 (10日)
  - 俳句会 (25日) 於 美喜仁鮎
  - 歩く会世話人会 (31日)
- ◎9月
  - 理事会 (6日)
  - 月次会 (10日) 歩く会協力「初秋の黒羽、城下町と鮎漁の旅」
  - 歩く会世話人会 (27日)
  - 俳句会 (28日)
- ◎10月
  - 美術鑑賞会 (1日) 「オノサト・トシノブ展」  
練馬区立美術館
  - 理事会 (9日)
  - 歩く会 (15日) 「紅葉の足尾庚申山」
  - 月次会 (24日) 「桐生市都市計画」  
講師 糸井都市計画部長
  - 俳句会 (26日)
  - 会報委員会 (27日)
- ◎11月
  - 理事会 (9日)
  - 歩く会 (12日) 「紅葉の根本沢から根本山」
  - 月次会 (15日) 「海の旅人」  
講師 橋本正治氏
  - 行事委員会 (20日)
  - 囲碁会 (26日) 秋季囲碁大会
  - 俳句会 (28日)





# 社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 桐生のあゆみ

### 居着き者の文化

#### — 桐生織物業の発展 —

桐生出身の歴史学者羽仁五郎が「桐生は居着き者の文化だね」と言われたことがある。

居着き者とは他所から当地へ来て住みついた人である。戦後では坂口安吾、南川潤の2人の文学者が好例であるが、江戸時代からこうした人達が多かった。

桐生は城下町ではない。天領・大名領・旗本領ではあったが、ふだんはほとんど武士の居ない町、町人の町であった。そのため同じ上州の中にあっても桐生人の気風は一味違うところがある。その一つは排他性のないことである。他所から桐生へ来た人を、代々桐生に住んでいる人と差別をしない。また経済的にも大変豊かな町であったから他所から来た人が住みやすく、居着き者が多くなったわけである。

居着き者の貢献は決して文化だけではない。江戸時代の桐生織物業の発展には実に大きな役割を果たしているのである。

江戸中期までの桐生の織物は西陣と技術的に雲泥の差があった。特に機織法に大きな違いがある。桐生では古くからの坐織機（いざりばた）であったのに、西陣では高級織物を織るに適した高機（たかばた）を使っていた。その高機を教えたのが西陣の織物師弥兵衛と吉兵衛である。弥兵衛、吉兵衛の来桐（元文4年）以後数年にして桐生の織物技術は急速に進歩を遂げ、僅か6年後には西陣が桐生の進出に抗しかね、幕府に対し桐生織物が京都の入る数量の制限を願い出るようになった。

弥兵衛、吉兵衛以外にも、図案紋工の小坂半兵

衛、八丁撚糸器を発明した岩瀬吉兵衛など、居着き者で桐生織物業の発展に貢献した人は数多い。



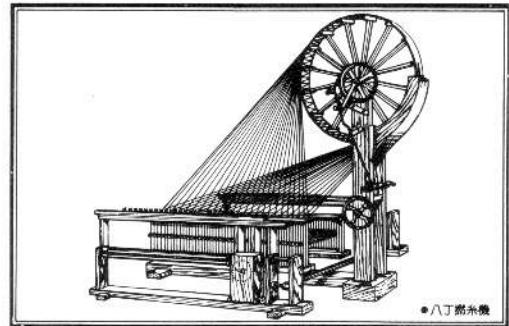
菱町黒川に残る弥兵衛の生祠

#### 弥兵衛の生祠

桐生川畔の小丘上、機神社の裏に石祠がある。石祠の礎石には以下の銘がよみとれる。

元文四年未三月京都西陣中村彌兵衛初而肇當村於高機是桐生中根元也、同年九月機神小祠建丁此所、再興文化四卯九月建焉、當村・一色村・小友村

生祠とは生存中に、本人を尊崇敬慕して神として祀るやしろ。



●八丁撚糸機

図は織物参考館 紫、の提供



# 定時社員総会

- 1. 日 時 平成2年1月29日 午後6時25分
- 2. 場 所 桐生倶楽部2階広間
- 3. 出席者 社員総数 328名中 201名  
(内委任状によるもの 176名)
- 4. 総会次第 (司会者 木島理事)
  - 午後6時25分 塚越副理事長の開会の言葉。
  - 平野理事長挨拶の後、司会者より議長選任を諮り、満場一致で平野理事長を議長とすることに決定。
  - 先ず、総会の成立を確認、議事録署名人に書上誠之助氏、丸山貞夫氏を議長より指名し、以下の通り議案の審議に入った。
  - (議案第1号) 平成元年度事業概況報告  
議長は小池副理事長より議案の説明をさせた。
  - (議案第2号) 平成元年度決算報告及会計監査報告  
決算諸事は関口会計担当理事より説明。そのあと北川監事より監査報告があった。議長は第1号第2号を一括して議場に諮り、全員異議なく原案通り承認した。
  - (議案第3号) 平成2年度事業計画及収支予算案  
議長は本年度の事業計画及それに伴う収支予算について関口理事より説明をさせ議場に諮ったところ、全員異議なく原案通り承認した。
  - (議案第4号) そ の 他  
金谷理事より倶楽部各部会の活発なる運営及社員の全員参加を要請。



朝倉彫塑館 (台東区立)

七福神めぐりの途中で谷中の朝倉彫塑館を見学した。ここは我国の近代彫塑の基礎を確立した、朝倉文夫がアトリエ、住居として自ら設計したもの。西洋建築と日本建築の要素が見事に調和しており、館全体が一つの芸術作品となっている。

## 〔歩 く 会〕

### 〈1月例会〉

## 東京谷中七福神めぐり

歩く会の平成2年度例会は東京谷中の七福神めぐりとなる。1月21日(日)、新桐生発8時17分のロマンスカーに乗車、北千住乗換で地下鉄で上野駅まで行く。この七福神めぐりだけなら約3時間で歩けるとのこと。

先ずは不忍池の弁天堂で弁財天に参拝、次は上野公園を抜けて護国院大黒天、以下長安寺寿老人天王寺毘沙門天、修性院布袋尊、青雲寺恵比寿、東覚寺福祿寿と参拝、途中朝倉彫塑館、大名時計博物館も見学、最後は田端駅解散は午後3時。参加者42名。大変幸せいっぱい例会でした。



弁天堂の前で木島部会長の説明



護国院大黒天

江戸から戦前までは正月に「大黒天お福の湯」が有名であった。これはお供えの餅をどろどろにとかし、大きな茶碗で参詣人に飲ませ、それが一年間の無病息災にご利益があったという。

初春の山はおねばを飲みに行き



## ＝ 月次会報告 ＝

【11月】

海の旅人  
「船旅のはなし」

講師 橋本正治氏



空の旅が盛んになるまでは、七ツの海の旅は船であった。

大西洋では五万トン、六万トンの豪華客船がブルーリボン賞の獲得を目指してスピードを競った。

太平洋と日本、米国の船会社がスピードを競い優秀な船を就航させた。

欧州航路も日本、英国等の欧州各国の船会社が立派な船で競い合い、旅人はシベリヤ経由でなく、印度洋、地中海を経由して欧州に向った人が多かった。

中国との交通も長崎―上海の定期航路があり、スピードのある船で旅客を運んだ。九州の学生は東京の修学旅行より快適で速い上海に出かけた。当時は客貨船で純客船は数が少かった。

この大交通機関も航空機の異常な発達で一瞬にして壊滅した。しばらく続いた航空機時代も味気なく空しい旅にウンザリしたのか船旅が見直されたいらしい。

現代の客船が建造されたのも最近のことである。戦後である。

米国、英国、ソ連、ノルウェー、伊太利ーが多く保有しているが全世界で百数隻しかない。

英国のQ・エリザベスⅡ号もかつては世界一であったが今は新鋭におされて曾っての気持はない。我国の戦後の外航船（どこの国へも行ける資格を持った船）は商船三井客船の見本市船を改造した新さくら丸とブラジルから購入した船齢二十七歳

のにつぼん丸の二隻であった。

昨年五月に商船三井が二万三千トンのふじ丸、昭和海運が六千トンのオセアニック、グレイスを就航させた。

本年三月八日に商船三井が二万二千トンの新船を進水させ、日本郵船が四万五千トンの新船を来春就航させる。

日本も漸く客船時代を迎えたのである。我国は客船ではまだ、後進国なのである。運輸省が空の旅客を五ケ年で一千万人にと発表したが約四年で本年は一千万人に到達したのである。

船客は全国自治体の主催する青年の船の客、外国の船の経験者を入れてもやっと三万人である。

船の旅は特に食事が楽しみである。日本の船は和食、洋食、中華と種類も多い。三度の食事が待ち遠しい程である。

昔の船は船室の格差が厳しく、一等のデッキには二、三等の客は入場が出来なかったが、今は運賃の差は客室の差でサロン、ラウンジ、食堂等一切の格差はなく平等である。

船の一日は、朝七時モーニングコーヒー、十二時昼食、午後三時アフタヌーンコーヒー、六時夕食、十一時夜食である。朝昼の食堂はラフなスタイルでよいが夕食はネクタイをつけなければならぬ。婦人はカクテルドレス、ロングドレス等毎晩変った姿となって男性を楽しませて呉れる。

出帆の夜と上陸の前夜には、船長主催のパーティがある。酒等も船長の贈り物でその夜は一段と盛り上がる。その他毎日いろいろな催し物がある。ダンスパーティ、ダンス教室(昼)、エアロビクス教室等々、毎日が忙し過ぎる程である。

船旅は、一度経験すると後を引き、又乗りたくなる。

それ故に再会が多くそれが船旅の楽しさを一層倍増させる。

八十二歳の暮に参加して以来四年で十一回も乗船した。

体を鍛えて九月には新しい船の処女航海に乗船したいと思っている。

## 「歩く会」今後の予定

- 6月10日(日) 迦葉山と玉原湿原
- 7月29日(日) 尾瀬至仏山
- 8月18日(土)・19日(日) 桧枝岐歌舞伎と尾瀬沼ハイク (歩く会10周年記念行事)



# 歩 く 会 十 二 月 納 会

(美術部・懇話会合同の文化探訪)

## 陶芸の里めぐり、益子・笠間

歩く会世話人代表 木 島 清

「歩く会」十二月例会は、恒例により懇話会と美術部もお誘いしての合同企画です。毎年、師走と云う独特な季節の雰囲気の中での例会。(社)桐生倶楽部「歩く会」の納会にふさわしい所を……。と世話人一同アレコレと知恵をしぼっての企画です。

今迄にも小雪のちらつく栃木巴波川河畔の散策。(昭和六十二年 師走例会)

遠山記念館と川越蔵の町博物館、蔵の街散策と喜多院(昭和六十三年)

その度に、参加する社員御家族皆様から好評で喜んで頂けましたが、今年も大好評で大変喜んで頂けました。特に「歩く会」初参加の塚越副理事長には、得意のカメラで、楽しかった一日を随所で撮影して頂き、後日タイトル、日時入りの写真を参加した方々にプレゼントして頂きました。楽しかった旅の写真に参加者一同感謝して居ります。

紙面を拝借して参加者一同、厚く御礼申し上げる次第です。有難うございました。コンゴモヨロシク。



恒例により、十二月歩く会納会は芸術、文化探訪の旅です。

「今年は陶芸の里めぐり」と云うことで、栃木県の益子、笠間をバスハイクしました。

幸い初冬の空は青く澄み、雑木林の梢は冬の陽を浴び、静かに立ちのぼる陶窯の煙も、吾々一行の旅情をもち上げるに充分な好日でした。

参加者も歩く会、年々増加して居りますが、特に今回12月例会は多数で43名となりました。

塚越副理事長夫妻、星野精助夫妻、伊田文男夫妻

佐藤富三夫妻、渡辺輝巳夫妻、山鹿英助夫妻、白石太市郎夫妻、丸山正一夫妻、野田友次郎夫妻、と御夫婦での参加、また小林松氏、金谷善介氏、田中一男氏と、お久しぶりの方々も見えられ、兎に角なごやかな雰囲気の中、桐生倶楽部社員の旅らしい楽しい一日でした。

午前六時。一行43名を乗せたバスは定刻に桐生倶楽部前を発車しました。

50号バイパスを一路南下、小山へ向います。

ようやく明けた空は明るく青く澄み、佐野近く、



南の方向遙か真白な富士山を遠望する好天に恵まれました。途中紬の里、結城でバスは小休止。下館から真岡を経て、益子に予定より約一時間早く到着しました。

先ず塚本陶園を訪ねます。陶芸の里益子で、最大規模の塚本陶園は、その歴史を偲ばせる大きい煙突、連らなる陶房の棟々が、周辺の森と調和して、なんとも云えない佇いを見せます。案内板に従って歩くと粘土作りの工房から、轆轤による造型、絵付け、焼成、と陶器の製作過程が見学出来ました。

次に益子参考館に向います。

こんもりとした森、低い丘陵を背にして、南向きの斜面に、堂々とした白壁の長屋門、その両側はきれいに刈込まれた生垣に囲まれ、芝生、植込みその中の石段を登ります。

「益子参考館」の分厚い板に墨書きされた額の架る門をくぐると、中庭がひらけ、右側に整然と三棟の大谷石造りの倉風の建物が並びます。

日本民芸運動の創始者、柳宗悦と共に日本の「民芸」の確立に尽力された浜田庄司師（人間国宝）が生前作陶に専念した居宅、工房を現在「益子参考館」として一般に公開して居る所です。

浜田庄司師が、巨匠の眼で（美意識）で蒐集した、世界の名品が陳列され、参観者が何度訪ねても感銘する美術館です。

名品の観賞に心酔して外に出る。

木立の中左手の石段を登ると茅葺きの建物が見えて来る。右は浜田庄司師の陶房、その奥に登り窯と赤絵窯が往時を偲ばせます。

左手の建物は浜田庄司師の居宅跡で、栃木の豪農の館を移築されたもので、栃の巨木を使った木組みはその造型の美しさと、相いまって感嘆の声を思わず上げてしまいます。

陶房、参考館と益子で陶芸の世界を堪能した後雑木林の丘陵の間、所々に長屋門を構えた農家の点在する、なんともどかな道を笠間に向います。

笠間稲荷の門前町、おみやげ屋、食堂が軒をつらねる道をしばらく走り、やがて忠臣蔵で有名な浅野家が赤穂に移封前の大石家の居宅跡と云う石碑を右に見て、大きい市営駐車場へ。

先ず笠間日動美術館。超近代的三階建の巨大な美術館が眼前に聳える様に建って居ります。

一週間前の12月3日(日)オープンしたばかり。

新館開館記念の特別企画展「シャガール展」と

本館に収蔵する有名なパレット絵を観賞して、再び2時に夫々バス駐車場集合を約して、昼食解散をしました。昼食笠間稲荷参詣と自由行動に笠間の街を散策しました。

定刻午後2時一人の遅刻もなくバスは出発。

春風萬里荘に向いました。

柳宗悦の民芸論と真向から芸術論で対峙した、料理人であり、その料理を盛る器の探究に情熱を傾けた陶芸家、北大路魯山人が鎌倉で生前居宅としていた家（春風萬里荘）を、魯山人没後笠間市芸術の村に移築されたもので、江戸時代の茅葺き入母屋造りという豪壮なもので、趣き深い佇いを今に伝えています。建物と庭園の調和、そして、春風萬里荘に展示されているものは、北大路魯山人の陶芸作品をはじめ、酒井抱一、川合玉堂など日本画、陶磁器、蒔絵、螺鈿を施した漆器と多彩です。その一つ一つを見ている内、時の経つのも忘れる程でした。

初冬の陽ざしが、長い影を落す頃一行は、存分に「美しいもの」を満喫した旅の帰路につきました。途中笠間市郊外、西念寺に立ち寄りました。

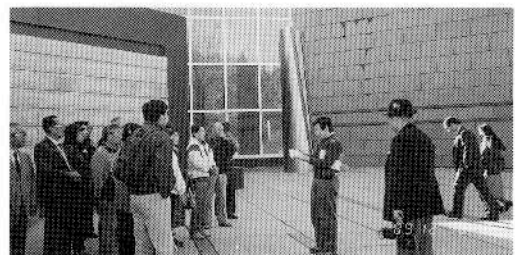
稲田山西念寺は浄土宗別格本山の格式にふさわしく、国道50号線沿い。バスを降りると杉古木の並木の参道がしばし続きます。やがて由緒ある山門をくぐり境内に入る。

親鸞上人が越後で流罪を解かれ、京に登る以前この地に庵を結び、20年間も布教に務めた所、歴史を感じます。質素な中にも壮嚴なものがたどよう本堂に参詣しました。

突然の参詣者に、和尚さんが出て来て吾々を歓迎本堂内に招じられ、それから一同正座して浄土宗の有難いお説教を約30分戴くと云う偶然の幸運にも恵まれ、楽しく心温る益子・笠間の日でした。

無事午後9時桐生倶楽部到着して平成元年の「歩く会」納会も無事終了致しました。

平成2年も素晴らしい企画が予定されて居ります。社員各位そして御家族の皆様参加をお待ちして居ります。(完)



笠間日動美術館

## 社員のページ



### 趣味の囲碁

福永 儀一

私が桐生の土地へまいりまして20年が経過し、この地の人生が一番永くなってまいりました。その間会社の性格上、直接取引の為、地区との横のつながりがあまりなかったのと又社内での同好者もなく、自分の得意とする囲碁もやる機会もなく、十幾年殆んど忘れ去って居りました。それがたしか織物組合の韓国視察旅行の折、その時の小池理事長と飛行機の中でふと囲碁の話をしましたところ桐生倶楽部で毎週土曜日午後やっているとの話を聞きました。しかし乍ら倶楽部の会員でもないで行くわけにもいかず、その後会社が法人会員として倶楽部に入会したのを機に囲碁クラブに籍をおき、色々な方と碁をやることができました。

若い折、碁を覚えたての頃はなかなか覚えられず「こんな白と黒の石を並べて何が面白いのか」と反問したことも幾度かありましたが、或る程度わかってくると段々面白くなり、それこそ夢中になった時期もありました。私の場合、どちらかといえば懲り性で、或る程度までいかないと止められない性分らしく、又かなり勝負にこだわる方だと思います。この先も囲碁とは長いつき合いになりそうです。おかげで今日、桐生倶楽部へも個人会員として入会させて頂き、楽しく囲碁を続けてゆきたいと思って居ります。

まち  
夜の桐生に  
倶楽部が  
浮かんだ!!



水越 稔幸

桐生倶楽部の建物は家が近い事もあり、子供の頃から毎日のように顔を合わせています。又、現在、青年会議所会員として、週に2～3回は倶楽部の各部屋とお付き合いをさせて頂いています。そして、各地域のJ C例会場を見ましたが、設備的にはともかく、気分的に素晴らしい歴史に包まれた桐生倶楽部に勝る所は無いと自負しています。

そんな大好きな建物が、日没と共に窓の明かりだけしか見えなくなってしまう事を以前から大変寂しく又、残念に思っております。

そこで一つの提案ですが、私達市民にとっての誇りであり、このまちの素晴らしい景観であるこの建物を、夜、ほのかに浮かび上がるようにライトアップをしてみたいかがでしょうか。目とじて下さい。そしてライトアップされた桐生倶楽部の様子を思い出して下さい。真っ暗な中に浮かび上ったそれは、再び桐生の真のシンボルとなり正に夜の桐生のランドマークと成っていくのではないのでしょうか。規模は違いますが、最近では東京タワーや東京駅がそれにより絶大なる効果を上げ、人々の憩いの場に生まれ変わったと聞きます。又、パリでは現在100ヶ所以上の所を9000台以上の投光器で主要な建物等をライトアップし、市民や観光客に大受けだそうです。余談ではありますが、東京駅全体の照明用電気代が1時間600円程とのこと。費用もその何十分の一ではないでしょうか。ぜひぜひ実現に向けての御検討をして頂きたくお願い申し上げます。

社員にさせて頂き1年程ではありますが、その間の様々な素晴らしい方々との出会い、大変有意義な講演会への参加、全ての事に心より感謝を申し上げ、ステキな桐生(まち)づくりへの、そして大好きな桐生倶楽部をより魅力あるものとして行く為の提案とさせて頂きます。



# 桐生倶楽部句会

## 【十一月】

わが業の白き恥らう花八ツ手	森山
時雨来て葉音にせかるる山路かな	斎藤
朝市の灯をともしける時雨寒	久保田
小春得て日柄も佳しと婚の使者	本田
朝焼の鱗雲切る爲一羽	須賀
牡蠣むくがたつきの途という酌婦	小池
まなびやの小春の声のよく透る	高木
きざはしに時雨かかりし山の寺	清水

## 【二月】

水仙の高きにかがむ母子かな	久保田
谷中には坂道多し福詣	小池
雑炊のぬくもり確か母の味	斎藤
雑炊や昭和を共に生きにけり	森山
野水仙花芽たしかに伸びて来し	本田
鴨(ひよ)の来て庭木の雪を散らしけり	須賀
春告げし寺眠るらし杉木立	広瀬
習ふこと老ひても多し初硯	高木

## 【十二月】

忘年句会 於芭蕉

註文の品も届かず十二月	遠藤
寄鍋の具の名を聞きつつつき合ふ	本田
茜雲大寒風に鼻白み	広瀬
殻の実を残すばかりの桔芙蓉	斎藤
新月が金星を呑む冬の空	小池
枯菊の色香あるまま焚かれけり	久保田
手をとめて冬の入日を妻と見る	須賀
おでんやの提灯しげく揺れてをり	清水

## 【三月】

春浅し猫の居場所の定まらず	斎藤
羽ばたけば水は光に浅き春	森山
日溜りを拾ひて憩ふ浅き春	広瀬
看取る身に容赦なき夜の虎落笛	久保田
初午や父の名古りし朱(あか)鳥居	本田
手に触れば瑠璃こぼれけり犬ふぐり	小池
初午や垣根に結ぶ紙幟	遠藤
下萌えを掘りし穴にてゴミ焼けり	高木
群がりて薄き光のいぬふぐり	須賀

\*\*\*\*\*

## 前原名誉社員の出版記念会

桐生名誉社員前原勝樹氏の出版記念会が、1月26日夜、国際きのこ会館で開かれた。氏は沢山の著書があるが今回は「人体名所案内」(東京はまの出版)の出版を祝い、桐生副理事長塚越平人氏

をはじめとする発起人会で企画したもので、200人以上の参加者があり盛大な会となった。

前原名誉社員のますますのご健勝を祈り、ご健筆を期待したい。

なおこれを祝って社員丸山貞夫氏が、下記の漢詞を作られました。

### 称前原勝樹翁を

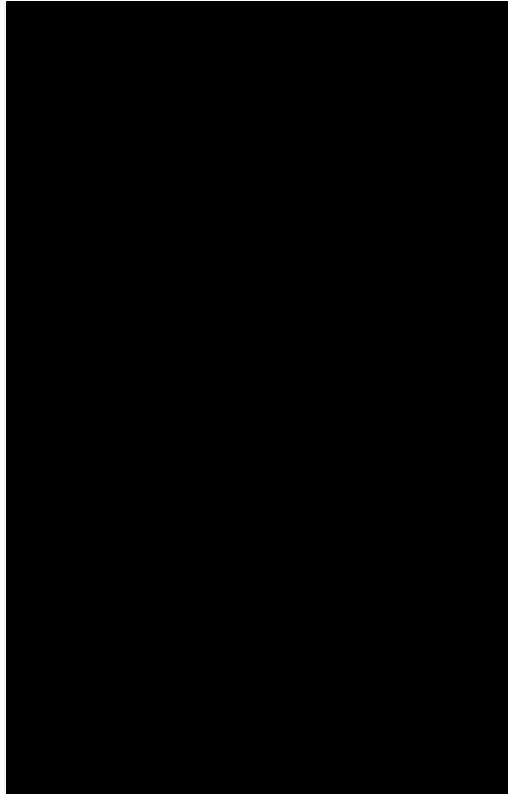
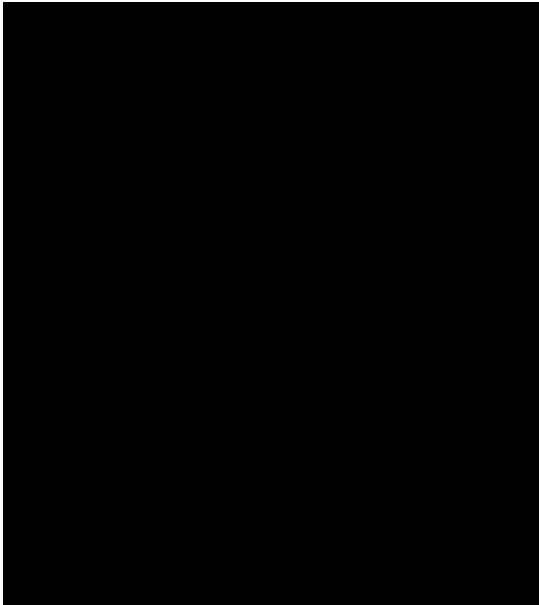
たなえ

### 祝 前原勝樹翁著

### 「人体名所案内」出版

人体機能解説文 清・清・妙味・微醺	韻文 人体の機能解説文 清・清にして妙味・微醺たり
好評・噴噴・賑書肆	好評・噴噴・賑書肆を賑わす
円転方如落語聞	円転方(まさ)に落語を聞くが如し
祝賀会於茸会館 (平成二年一月六日)	韻庚 北風凜々月痕清し 賓客都々たり祝意盈つ 名著解題生拍手 会衆漸熱酒杯傾
北風凜々月痕清 賓客都々たり祝意盈 名著解題生拍手 会衆漸熱酒杯傾	韻魚 五言古詩 桐生に国手有り 風雅の梅松居 天神(一角)を領す 常時(鱈魚)を伴う (読書をす)
昔治肺病患 今診心疾虚 專平和運動 教科文有誉 日夜案俳句 風物感有余 著作最得意 巧妙可味書	昔肺病の患を治す 今心疾の虚を診る 専ら平和運動たり ユネスコに誉れ有り 日夜俳句を案す 風物感余り有り 著作最も得意とす 巧妙味はう可き書なり

# ◆新入社員紹介◆



## ＝ 倶 楽 部 だ よ り ＝

### ◎12月

- クリスマス祭 (9日)
- 歩く会 (10日) 「益子・笠間文化探訪」美術部懇話会協力
- 理事会 (15日)
- 俳句会 (21日)

### ◎平成2年1月

- 新年互礼会 (4日)
- 理事会 (12日)
- 監査会 (16日)
- 歩く会 (21日) 「東京谷中・七福神めぐり」
- 俳句会 (25日)
- 臨時理事会 (29日)
- 定時社員総会 (29日)

### ◎2月

- 歩く会世話人会 (1日)
- 理事会 (8日)
- 歩く会 (18日) 「富田大小山と栗田美術館」
- 会報委員会 (20日)

俳句会 (22日)

歩く会世話人会 (22日)

### ◎3月

- 理事会 (7日)
- 歩く会 (11日) 「筑波山と筑波学園都市」

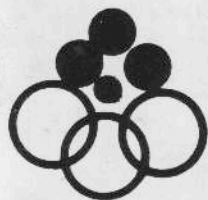
- 月次会 (22日)
- 俳句会 (23日)
- 囲碁会 (25日) 春季囲碁大会
- 文化活動委員会 (28日)

## 音楽鑑賞部会が誕生

このたび、社員の皆さんのご希望で、文化活動委員会の中の一つの部会として音楽鑑賞部会が誕生することとなりました。この部会は、桐生及び近辺の音楽会のお知らせや、ミニコンサート、レコードコンサートの開催等をやりたいと思っています。世話人は小堀隆・藤井龍人・久保田彰一・金井利雄・和田幸司の各氏。近日中に、往復ハガキで社員全員に入会希望をとります。同好の皆さまの沢山の入会をお待ちしております。 (世話人代表 小堀 隆)

社団法人 桐生倶楽部会報 第 59 号  
 1990年(平成2年)4月発行  
 発行人 平野元吉  
 編集責任者 小池久雄  
 印刷 ツボノ印刷株式会社





# 社団法人 相生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 相生倶楽部 TEL 45-2755

## 桐生のあゆみ

### 岡登用水について

(代官岡上景能)

岡上次郎兵衛景能は寛文年間(1661年~1673年)渡良瀬川の水を高津戸から引き入れ、笠懸野の開拓を行なった江戸幕府の代官である。その用水を岡登用水と呼ぶのは(岡上)がオカガミとかオカノウエと読み誤ることが多いので(岡上)を(岡登)と書きかえたのである。

景能の支配した土地は、新田郡・勢多郡・甘楽郡などにわたっていた。景能は自分の支配する村々には水がないため荒地のままの土地が多いことを知り、渡良瀬川の流水を大間々高津戸から引き入れ、笠懸村及び藪塚に至る8.7kmの用水路を開く難工事を成功させた。

ところが、貞享4年(1687年)、突然、幕府から咎めを受け切腹をして果てる。数々の善政をしき名代官として村民に慕われた景能の死には疑問が多い。死後65年の宝暦2年に笠懸大原に岡上霊社が建てられる。幕府の罪人である景能を神に祭ることができたのは、村民から景能が余程尊崇されていた証ではなからうか。

岡登用水は完成後間もなく、渡良瀬川下流の村民の反対(自分達の使う水が少なくなるのではないかという杞憂)によって、廃絶されてしまった。しかし、安政2年(1855年)、天王宿・下新田両村(現在の相生町)の惣代今泉吉右衛門、発起人取締役今泉定右衛門を中心とする有志により用水路再興の願いが出され、文久2年(1862年)に、1.9kmにおよぶ水路の再開通ができ、以後相生村民は長くその恩恵をうけることができた。

現在は改修されて暗渠となっていて、その上部は緑地公園的なものに整備されつつあるが、岡登

用水の歴史は忘れてたくないものである。なお、阿佐美沼も岡登用水によって作られた沼である。

大間々高津戸にある神明宮の境内には、昭和55年に建設された「岡登用水堀再興の碑」という立派な碑がある。



岡上霊社(大原)



岡登緑道(相生町)



## 第16回 桐生倶楽部文化祭

風薫る爽やかな5月を迎え、桐生倶楽部恒例の文化祭が、文化活動委員会・行事委員会のご格別のお骨折りで、賑やかに開催された。



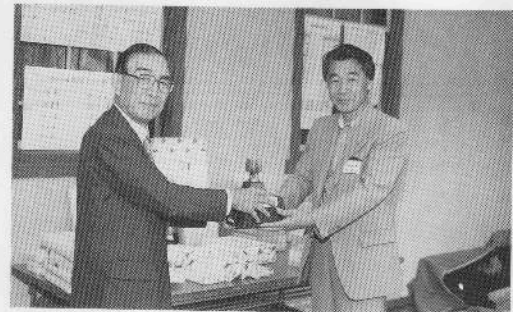
お茶席の飯山宗直一門



社員の作品群



ガーデンパーティで理事長挨拶



ゴルフでホールインワンの八木橋さんに金谷委員長から特別賞が贈られた。



大変好評だったコーラス(淑の会)

文化祭各部会入賞者

4/26 麻雀大会	5/3 囲碁大会	5/10 ゴルフ大会	5/11 将棋大会
優勝 飯山 清治	優勝 野田友治郎	優勝 米田 籌穂	優勝 出口孝二郎
準優勝 川口 幸一	準優勝 倉林 俊雄	準優勝 朝倉 泰	準優勝 平野平四郎
3位 蓮沼 源一	1位 岡田 光弘	3位 森田 良徳	1位 腰塚 治男
4位 石井 省三	2位 福永 儀一	4位 山崎 一順	2位 三田 章
5位 笹川 勝正	3位 蓮沼 源一	5位 片柳 康宏	
B・B 白石太市郎		B・B 倉林 俊雄	
B・M 栗原 優介		ホールインワン 八木橋祥介	

俳句会	4月26日	PM 7:00~	於 2号室	
麻雀大会	4月26日	PM 6:00~	於 朋友	
囲碁大会	5月3日	AM 10:00~	於 6号室	
ゴルフ大会	5月10日	AM 9:00~	於 城山カントリー	
将棋大会	5月11日	PM 4:00~	於 6号室	
歩く会	5月13日	AM 7:00~	桐生倶楽部集合	みつばつツツの咲く鳴神山
絵画展	5月11日~5月13日	AM 10:00~5:00	於 広間	
陶器展	5月11日~5月13日	AM 10:00~5:00	於 広間	
俳句色紙展	5月11日~5月13日	AM 10:00~5:00	於 広間	
華道展	5月11日~5月13日	AM 10:00~5:00	於 広間	田沼宗喜社中協賛
写真展	5月11日~5月13日	AM 10:00~5:00	於 1号室	
歩く会記録展	5月11日~5月13日	AM 10:00~5:00	於 1号室	
ビデオ観賞会	5月11日~5月13日	PM 1:00~5:00	於 ロビー	1989年桐生倶楽部文化祭・1989年桐生倶楽部新年賀会 会誌・空想山陽新聞社・シマノ・山崎屋・山崎屋・山崎屋・山崎屋
お茶席	5月13日	PM 1:00~3:00		表千家飯山宗直協賛
ガーデンパーティ	5月13日	PM 4:00~4:00	於 庭園	



＝ 月次会報告 ＝

【3月】若い世代の見たカナダ



国際ロータリー第504～505地区  
ローターアクトクラブからいただいたバーナー

当地区（群馬・新潟）のローターアクトクラブ（ロータリークラブが世話をしている青少年の団体）の海外研修でカナダへ行った若い3人の女性（広川利子さん、二渡美香さん、蛭川明美さん）をゲストに迎え、フレッシュな感覚でとらえた海外旅行談をお聞きした。

広川さんからバンクーバーの街の様子、二渡さんからはバンクーバー周辺6つのローターアクトクラブとの交流会、蛭川さんからは女性最大の楽しみであるショッピングについて語ってもらった。若い女性ながら歯切れのよい率直な話を三人三様に聞かせて頂き、集まった社員から感嘆の声しきり、桐生の例会としてはまことに異色の月次会であった。

（当番理事、金谷・飯山、参会者30名）

【4月】桐生市の福祉行政について

講師／桐生市福祉部長  
星野 誠 三氏

福祉問題は市民の大きな関心事であるが、特に急激に進む高齢化の中で老人福祉のあり方が問われている。昭和63年度の調査では、市部の65歳以上の人口比率で桐生市は安中・富岡とならんで13%台と極めて高い。それだけに老人福祉行政に重点をおかなければならない。

当市は総合的な福祉センターを作る予定であるが、並行してボランティア事業も進め、行政と民間が2人3脚で福祉を推進したいとのこと。

（当番理事、清水・関口、参会者35名）



星野社会福祉部長

【6月】オリエント急行乗車記  
(VSOE)

講師 小島 弘 一氏

6月の月次会は、前回「中近東の旅」で好評であった小島弘一氏に、「オリエント急行乗車記」と題して、再度珍しい旅行談を話していただいた。以下は小島弘一氏にお願いして書いていただいた原稿である。

.....  
駅が醸し出す活気に満ちた。しかし雑然とした喧騒を、此処ヴィクトリア駅プラットホーム8番では華やかな礼儀正しさに支配されているようであった。

11時発ヴェニス行VSOEのチェックインも制服に身を正したクルーによって手際よく完了。続々と詰めかけて来る乗客は、その服装、動作のきらびやかな事、まるで映画のシーンのようであった。定刻30分前、クリームと濃茶のツートンカラーの車体を輝やかせてブルマンカーが入線。私達の車輦は4G「ミンシア」、一車輦に18名というゆったりとした配置のテーブルには花が飾られ、ランプのピンクのシェードにその姿を浮きぼりにされていた。例によって何の前ぶれもなく定刻に出発。隣のテーブルに飛び込んで来た乗客も、サマータイムの被害者と判明。欧州は面白い事にキリスト教の影響か、何か事を起すのも宗教的な日時を採用するとみえて、我々日本人には考えられない中途な時で昨夜というよりは今朝3月25日午前1時をもって午前2時とするサマータイムが採用されたので、その事を知らない人は時として遅刻してしまうのです。

列車はマグノリアの花盛りのイングランドの田園を走る中に、お茶が運ばれた。遅れて来た夫妻は米国ルイジアナの弁護士夫妻。車内で写真をとりに合ったのはロンドンの人達、息子夫妻にバリー

迄の旅を結婚25周年に贈られたとの事。話がはずむ内に車窓に白い土が映りはじめ、シャンパンがサービスされ、スコットランドの鮭にキャビアを中心とした昼食となった。メニューは毎食事の折、印刷されたものがテーブルに乗っている。

先ほどよりの白い土がますます多く見られ、ドーバーが近くなった事を知らせてくれた。パイロンの叙事詩「チャイルドハロルドの巡礼」にもある如くアルピオニの国、即ち白い大地の国である。

約2時間半の旅もフォークストンで終了。フェリーに乗りかえてドーヴァを渡る事となり、ブルマンカーとは此処でお別れである。

通関手続きは全てV S O Eにまかせ手荷物一つで乗船した。風もなく波も立たず海は一見穏やかであったが、メキシコ湾流と北海流の合流点でもあり、乗客の大半は船酔い。やっとの思いでブローニュに到着。駅にはすでに濃紺に黄金のエンブレムを輝やかしたワゴンリーが我々を待っていた。

マホガニーに貝象嵌をほどこした車内はまるで美術品のようである。コンパクトにまとめられている洗面所にも細やかな配慮が感じられる。トイレは一車輛に一ヶ所。床から天井まで細工がこらされて用を足すのが勿体ないようで落ちつかなかった。

夜8時バリー着。此処でドイツの客が降り新たな乗客と共にコックが乗り込んで来た。夕食は2回に別かれている。我々は後の方に申し込んだ所、アメリカのロバート夫妻と一緒に食事をしたいと申し入れがあったので喜んで了承、夕食の為着替えをすませて長い通路を経て食堂車に向った。サロンカーではもう食事をすませた人や、これからの人が食前酒を楽しんでいた。

O Eのパンフレットにはサロンカー及び食堂車では着飾っても飾りすぎる事はないとある如く。ピアノを聴き、盃をあげて談笑している人達は皆きらびやかな宝石を輝やかせ、男性は申し合わせたようにタキシード姿で、昼間のスタイルを想像出来ない程の変わりようである。それにしても何処にあれだけの衣裳やアクセサリを持ち込んだのか判断に苦しむ程である。

私は栗原氏の忠告に従って和装を用意したのでそれに着替えたわけである。走行する車内でゆらめくキャンドルの炎の中で、シャンパンを楽しみ、ワインを選び、食事を存分に楽しみ、デザートシャーベットにコニャックを味わう頃には3時間を過ぎていた。とりわけ娘のサウザンアクセント

を懐かしんで会話がはずんだのも時間を忘れさせた要因であった。誘われるままサロンカーで飲んだ。人々の羨望の眼は私のハカマ姿に集り、写真を一緒にとりたい、一緒に飲もうと大勢から誘われた。日本の和装も良いものと認識を改め、大変良い気分でした。

ピアノの音が幾分小さくなったのに気付いた頃には、日の出の遅い欧州であってさえ、かすかに窓の外が白みはじめていました。乗客が一人でもいるかぎりピアノは閉らぬという如く。開いていました。皆に断って部屋に戻り、わずかな眠りについた。朝食はルームサービス、9時30分にドアがノックされて、紅茶・コーヒー・ジュースに焼き立てのパンと云ったコンチネンタルスタイルの朝食が運ばれて来た。

列車はスイスからオーストリーへ入って来た。此処は吹雪の最中で、四圍一面の銀世界となっていた。午前11時国境のザンクトアントンに到着。昼食は1時、ロバート夫妻と友人のジョージア州知事夫妻との6人。娘が体調が悪く最初の皿の半分を残した所、ウェーターが飛んで来て、何か不都合があったのかとたずねられ、二皿目を全部残したところ、コックとソムリエとウェーターの3人が来た。次の皿を残したら機関手まで来るのではないかと皆で冗談を云って大笑いしたが、フランスの料理人の職業意識と、それを支えている欧州の人々の心意気、更にO Eの営業姿勢にあらためて敬意を表した。

この列車は不定期の上、各国を通過する国際列車なので途中停車を余儀なくさせられるが、その折も各車輛の乗降口にアテンダントが降り立ち受け持ち車輛の乗客の安全に心を配り、不審な人物の接近を阻止している。面白い事には使用通貨は、英国領内は英ポンドのみ、他は現金はフランスフランで、カードの使用は欧州内のみでアメックとダイナースだけである。車輛の片隅の売店では車輛の復元に当って作られた品々が完られ、あまり買物をしない欧州人もあらそって購入、売切れが続出した。ここでもO Eの人気の程が計られます。

列車はザルツブルグから南下、ロンバルディア平原に向う。アールベルグトンネルを抜けると眼前はチロルの中心地インスブルックです。ロメオとジュリエットの故地ペローナを過ぎ列車はラグーを横切る鉄橋を渡って、ベニスのサンタルチア駅に駆けこんだ。午後6時45分、我々は英ポンド



## 社員のページ

### 世界の植物文様展 について

書上 誠之助氏

昨今「エコロジー」という言葉がよく使われている。環境生態学ということでファッションの世界でもテーマとしてとり上げられている。

ファッションカラーとしては、生成りや茶、緑のエコロジーカラーが主流である。

春夏のハーブグリーンにぬくもりや質感を加えた深く暖かい緑である。

地場産業振興センターでは笹川コレクションを初め、所蔵の染織品を系統的に分類し一般公開するために作業を進めて来たが、今回その第1回の試みとして世界の植物文様展を開催することになった。計らずもエコロジーとして世界の民族衣裳の息吹にふれることは来会者に新鮮な感動を与えるに違いない。今回は選ばれた100点以上の世界の民族衣裳などが展示される。

この企画は、カラー印刷としてまとめさらに第2巻植物文様Vol.2、第3巻人動物文様、第4巻鳥類・虫文様、第5巻何学文様とし、シリーズとして続く予定である。

産業資料として貴重なもので入手希望者はセンター事務局まで申し出られたい。

今回の展示会は以下の要領で実施される。

期間／平成2年8月1日(水)～9月30日(日)

午前10時～午後5時まで

(但し、センター休館日を除く)

場所／桐生地域地場産業振興センター

4階「資料展示ホール」

入場料／一般 200円(但し、高校生以下は無料)

主催／(財)桐生地域地場産業振興センター

後援／桐生市、協力／桐生産業デザイン振興会

※前頁にづく

をアテンダントにチップとして渡して駅に降り立った。ロバート夫妻はチブリアンホテルのスイートを予約してあるので、我々にも合流し2～3日一緒に過ごさないと盛んにすすめるが、今後の日程もあり、又、フェニーチェ劇場で予約してある今夜のオペラもあるので、残念ながら日本での

## 下山観三郎さんのこと

小池久雄氏

下山観三郎さんという、どなたでも先ずあの優しい温かなお人柄、如何にも英国紳士らしい風貌を思いうかべるに違いない。しかもご自分の信念をしっかりと持っておられて、いざとなると一步を譲らない強いところもお持ちの方であった。

私は20台でたまたま桐生倶楽部の理事になった。その時、先輩の理事に下山さんが居られ、何彼とご指導に預ったものである。

倶楽部というと直ぐ建物を云々する人達が多いが、下山さんは桐生倶楽部の本質論、特に倶楽部を作った先覚者達の基本理念についてよく話をして下さった。その精神は人間愛から出ていると言われた。そんな話をされる下山さんは青年のような純粹さを持った人と感じさせるものがあった。私の倶楽部に対する考え方には、下山さんに随分影響されたことが多く、いまでも大変有難いと思っている。

昨年、太田の葉住松堂翁回想録を拝見した。その中で下山さんが20台の時、郷土太田の為に何か役に立ちたいと、太田青年有志会という団体を結成、その尖兵として活躍したことが載っていた。こうしたお若いころの純粹さをいつまでも持ち続けた方であった。

それが、昭和29年の「ひばり英語会」の創立、いまの「桐生外語学院」の経営にもあらわれているように思う。

下山観三郎さんの一周忌が間もなくやってくる。「桐生倶楽部はもっと社会的・文化的活動にウェイトをかけなければ……」との下山さんの言葉を忘れずに理事としてつとめたいと思っている。

(平成2年7月20日)

### ■下山観三郎氏の桐生倶楽部歴

昭和21年6月 入社

〃 23年9月 齊藤長平理事長の時、秋山賢止(作家南川潤)とともに理事就任。

〃 25年10月 境野武夫理事長の時、理事として再任。以後29年9月まで理事として活躍。

再会を約し、雨のヴェースを水上タクシーでホテルに急いだ。

## 懇 談 会

### — 坂口安吾の思い出を聴く —

しばらく桐生倶楽部懇話会が開催されていなかったが、4月と7月の2回、「坂口安吾を語る会」と共催で首題の会が開かれた。

4月14日(土)7時於1号室、ゲストは松島貫一氏(金木屋主人)と秋山ツネ氏(作家南川潤夫人)。

7月9日(月)7時於1号室、ゲストは小島市造氏(画家)。

今後もこの会を続ける予定なので、社員のご参加をお願いします。

### — 坂口安吾について —

坂口安吾は、昭和27年2月29日、桐生市在住の友人南川潤を頼って、本町2丁目書上文左衛門(桐生倶楽部2代目理事長)邸へ移住し、昭和30年2月17日同邸で急逝した。行年48歳。戦後の日本文学史上で特異な地位を占める作家。太宰治、織田作之助、石川淳らとともに無頼派と呼ばれた。



(中央) 松島貫一氏、(右端) 秋山ツネ氏

**社員丸山貞夫氏から漢詞2首を  
寄せて下さいました。**

新島襄没後百年(1月23日)

韻麻

明治開成宗教家 明治開成の宗教家  
熱心教育捧生涯 教育に心を熱して生涯を捧げ  
仆同志社図創立 同志社の創立を図り仆る  
国際人先驅足誇 国際人の先駆として誇るに足る

去者日以疎 去る者は日に以て疎し

韻魚

両親逝去廿年余 両親逝去して廿年余  
不孝傷心展墓疎 不孝の傷心展墓疎し  
未不知生安知死 未だ生を知らずいづくぞ死を知らんや  
驅思故里浸閑居 故里に思いを馳せ閑居に浸る

## 八木橋 祥介君 ホールインワン記念コンペと祝賀会



八木橋祥介君は去る5月10日、桐生倶楽部文化祭協賛ゴルフコンペに参加。城山カントリークラブアウト8番で見事なホールインワンをされた。

八木橋君は、部会員として桐生倶楽部ゴルフ部の世話をされているが、同君が倶楽部ゴルフ部創設以来初のホールインワンを記録したことは大変嬉しい次第である。

7月12日には、文化活動委員長の金谷善介氏が世話人代表となり、ホールインワン記念ゴルフコンペと祝賀会が盛大に開催された。

## 歩く会 <3月例会>

### 早春の筑波山と筑波学園都市

春霞たなびく関東平野。天下の眺望と、秘められた歴史とロマン、信仰の山筑波山に登り、帰途筑波学園都市を訪ねました。楽しいバスハイクでした。





# 桐生倶楽部句会

## 【三月】

藪椿神の巨巖を化粧せり 小池 久緒  
 父の輪超えて彼岸の墓参り 本田 木楽  
 野仏の花一輪に山笑ふ 宮地 秀吉  
 春風薄墨のなか赤城消ゆ 延命 立雄  
 山笑ふ溪谷電車窓あけて 久保田 広人  
 笑ふ山眺めて賢治を語りたき 森山 亨  
 懸け渡る虹を支えて山笑ふ 齋藤 藍夔  
 野にはげむ人数ふえて山笑ふ 高木 香二  
 丹精の椿一輪客を待つ 北川 紘一郎

## 【四月】

古寺の風の流れや大柳 倉林 俊雄  
 蝶々の川越ゆる時弧を画く 本田 木楽  
 春風や流れに洗ふ藍衣 小池 久緒  
 紋白のつかず離れず草に舞ふ 久保田 広人  
 糸柳風の心と連れ舞ひて 森山 亨  
 汽車降りて蝶迎へをる無人駅 宮地 秀吉  
 袖の道見え隠れする遍路笠 延命 斗羽  
 風に乗る蝶見送れり切通し 高木 香二  
 千金の春風肌に宵の宴 北川 香坊

## 【五月】

初蝶や薄汚れたるエコロジ 齋藤 藍夔  
 岸柳風を孕みて屹立す 広瀬 小楯  
 すこやかに育つ娘の丈桐の花 本田 木楽  
 人形は仕舞はれしまま柏餅 齋藤 藍夔  
 白雲や木曾の棧桐の花 延命 斗羽  
 柏餅味噌館ありと筆太に 小池 久緒  
 薫風や車椅子行く並木道 久保田 広人  
 見るからに手作りと言ふ柏餅 高木 香二  
 歎置けば尾根遙かなり薫る風 広瀬 小楯  
 柏餅ふふめば古き時流る 森山 亨  
 藤の花崖に掛りて山を染む 倉林 俊雄

## 【六月】

鮎解禁竿振る余地もなきほどに 本田 木楽  
 無惨やな因はれて尚囃鮎 齋藤 藍夔  
 鬼平の殊に好みし鮎の飯 小池 久緒  
 短夜や産声いまだ聞こえざる 久保田 広人  
 解禁日かならずとどく鮎待たる 高木 香二  
 夕陽や漁の客待つ鮎の里 広瀬 小楯  
 鮎の影梁に光りて山の風 吉成 敏郎

## 会 歩 く 会

<4月例会>

<5月例会>

### 改修なった妙義神社参詣と石門めぐり

由緒ある妙義神社が7年の歳月と巨費を投じて壮麗に改修されました。ここを参詣の後、妙義山の石門めぐりをしました。桜の里のしだれ桜も丁度見頃でした。

### 山つつじ咲く鳴神山

5月例会は桐生文化祭協賛例会としました。故郷の名山鳴神山登山、早目に帰って汗を流してから桐生倶楽部のガーデンパーティに揃って参加しました。



妙義山の石門



つつじの花を見ながら中食

## 〈新入社員紹介〉



### — 小林松氏に黄綬褒賞 —

桐生倶楽部社員小林松氏は、平成2年春の黄綬褒賞受章者となりました。氏は55年間織物業一筋に誠実に歩み続けた人である。現在は、小林当織物株式会社社長・桐生織物協同組合理事長・桐生商工会議所副会頭等の要職についておられます。

### — 春の県総合表彰 —

桐生倶楽部関係者で上記の表彰を受けられたのは、須江儀三郎氏・岡田光弘氏（カナイ石油株代表）の2氏でした。お祝いを申し上げます。

## 倶楽部だより

### ◎4月

歩く会(8日)「改修なった妙義神社参詣と石門めぐり」  
 理事会(9日)  
 懇話会(14日)「坂口安吾の思い出を聴く」  
 行事委員会(16日)  
 月次会(19日)「桐生市の福祉行政について」講師 星野誠三福祉部長  
 歩く会世話人会(20日)  
 俳句会(26日)文化祭協賛  
 麻雀会(26日)文化祭協賛麻雀大会 於朋友

### ◎5月

囲碁会(3日)文化祭協賛囲碁大会  
 理事会(7日)  
 ゴルフ会(10日)文化祭協賛ゴルフ大会 於城山CC  
 将棋会(11日)文化祭協賛将棋大会  
 文化祭(11日～13日)13日PM4:00ガーデンパーティ  
 歩く会(13日)「山つづじの咲く鳴神山」  
 俳句会(24日)  
 歩く会世話人会(24日)

### ◎6月

理事会(12日)  
 月次会(19日)「中近東の旅」講師 小島弘一氏  
 俳句会(22日)

### ◎7月

歩く会世話人会(2日)  
 懇話会(9日)「安吾を語る夕べ」  
 会報委員会(10日)  
 理事会(11日)  
 月次会(17日)「大川美術館開館 1年を経て」  
 講師 大川栄二氏  
 俳句会(23日)  
 歩く会(29日)「百花繚乱の尾瀬至仏山」